

Baxter

製造販売元・問合せ先
バクスター株式会社
〒104-6009
東京都中央区晴海一丁目8番10号
電話番号:03-6204-3700(ダイヤルイン)

www.baxter.co.jp

ホームAPDシステム **ゆめ**
ホームAPDシステム **ゆめ** **プラス**
取扱説明書
(バージョン10.4用)

機器についてのお問い合わせは
バクスターCAPDコールセンター
(24時間通話無料)

0120-506440



注意

- * 本冊子はゆめ・ゆめ **プラス** 共用です。
- * ご使用いただく前に以下の冊子をよくお読みください。
また、これらは、いつでも取り出せる場所に大切に保管してください。
●本冊子 ●取扱説明書
- * 不適切なお取り扱いが事故につながる場合があります。
必ずこれら冊子の内容に従ってご使用ください。

高度管理医療機器
特定保守管理医療機器
一般的名称：自動腹膜灌流用装置

販売名：ホームAPDシステムゆめ 承認番号：20400BZY01279000
ホームAPDシステムゆめ コード番号：T5C4441
ホームAPDシステムゆめ **プラス** コード番号：T5C8300

BAXTER (第2184826号、第2215178号、第2260838号、第2260841号)、ダイアニール (第1879253号、第1995975号)、
エクストラニール (第4553377号)、EXTRANEAL (第4261747号、第4276914号) 及びPD Link (第4501576号) は
バクスター・インターナショナル・インクの登録商標です

ホームAPDシステム **ゆめ**
ホームAPDシステム **ゆめ** **プラス**
取扱説明書 (バージョン10.4用)
2011年改訂版

JLRHYU-PIM010

はじめに

ゆめ・ゆめ^{プラス}は、小児および成人の慢性腎不全患者さんが、腹膜透析を自動的に
行うための機器です。適応する1回の注液量範囲は60mL～3000mLです。
ゆめ・ゆめ^{プラス}は、患者さんの体調にあわせた治療の自由度と柔軟性をより持た
せるために開発されてきました。この「取扱説明書」は、このシステムをご使用い
ただくためのガイドブックです。ご使用の前に全ての説明をお読みください。

ゆめシステムでは、動作しているソフトウェアを区別するため、ソフトウェアバージョン(=以下
バージョンとする)をつけています。この取扱説明書はゆめシステムのバージョンが10.4XX
(XXは2桁の数字)のものについて適用します。バージョンを確認するには「⑪ 表示部の説明」
を参照ください。

本冊子はダイアニール-Nの手順にしたがった内容となっております。つきましては、ダイアニ
ールをご使用の患者様は以下の手順は必要ございませんので、省略してください。

●各システムごとの「治療の手順」内の「治療の開始」のページ。

手順3 ゆめのセットアップ 3～5

手順8 補液用スタンドの使用法

手順7 透析液バッグのヒーターへののせ方 1～4

なお、本冊子に出てくる「補液用スタンド」「ゆめ用クリップ」はダイアニール-Nでのみ使用す
る物品ですので、ダイアニールをご使用の患者様は必要ありません。

もし、新しい「ゆめ・ゆめ^{プラス}」を受け取った、あるいは新しいものに交換された場合
かかりつけの医療機関か「バクスターCAPDコールセンター」と連絡を取ってください。基本
的に配達された「ゆめ・ゆめ^{プラス}」には処方内容は入力されていません。ご使用者ご自身で入力
していただく必要があります。処方入力方法に関するお問い合わせは処方内容をお手元にご準備
のうえ「バクスターCAPDコールセンター」までご連絡ください。
なお、ゆめの処方の入力方法は198ページ「⑨ 処方の確認・変更方法」を、ゆめ^{プラス}の処方
の入力方法は52ページ「③-4 退院後・受診後の手順」をご参照ください。

この取扱説明書では、省略名称として下記の用語を使用しています。

- 「ホームAPDシステムゆめ」→「ゆめ」
- 「ホームAPDシステムゆめ^{プラス}」→「ゆめ^{プラス}」
- 「ゆめカード」→「カード」
- 「ゆめ」と「ゆめ^{プラス}」→「ゆめシステム」
- 「ホームAPDシステム ゆめセット」→「回路」
- 「UVフラッシュオート
クリ^んフラッシュ」 →「クリ^んフラッシュ」

この
取扱説明書での
使用用語の
解説

ゆめシステムについて

ゆめシステムでは、ご使用者それぞれに注液量や排液のスピードがちがうため、「標準モード」か「少液量モード」の選択ができます。詳細は「⑬ナースメニュー」をご覧ください。

さて、病院でのトレーニングを終え、このゆめシステムを使用することは簡単で、手順もわかりやすいことを習得されたと思います。以下に特長をまとめてみました。

- 機器の取り扱いが簡便であること：電源スイッチ、▶開始、◻停止、◊設定、▲▽ボタン
- 表示されるメッセージに従って一つ一つすすめば、確実に治療を行えること。
- バッグ接続は色別になっており、わかりやすいこと：カセットは一方方向にしか取り付けられないこと。
- 設定の変更や調整は簡単であること：表示に従い、適切なボタンを押せばできます。
- 問題発生時にはアラームが鳴り、表示部に適切な処置方法ができること：多くのアラーム状態は簡単に直すことができます。もし、対処方法がわからない場合は214ページ「⑩困ったときの対処方法」を参照していただくか、24時間通話無料のバクスターCAPDコールセンター（0120-506440）に電話してください。
- さらに、ゆめ^{プラス}では、カード（機器に装着する小さな電子カード：スマートメディア）に処方内容が記録されているので、簡単に処方設定ができること。
- また、カードには自動的に治療の結果も記録できるので、かならずしも治療の結果を毎日記録しなくてもすむようになること。

● ゆめとゆめ^{プラス}の相違点

ゆめとゆめ^{プラス}は病院ごとにどちらをどの様に使用するかを決めております。病院によっては片方のシステムしか使用していない場合があります。

ゆめとゆめ^{プラス}の類似点と相違点について、②-1、②-2、②-3のイラストをご覧ください。2つのシステムは、カードの機能を除けば、手順は同じです。両者は同じ回路と透析液バッグを使用し、同じように治療を行います。

目次

はじめに	1
ゆめシステムについて	2
ゆめとゆめ ^{プラス} の相違点	2
目次	3
この取扱説明書の読み方	5
1 安全にご使用いただくために	7
1-1 警告	7
1-2 注意	26
1-3 ゆめ ^{プラス} でカード使用時には、次のことに注意してください。	28
1-4 電池注意	29
2 各部の説明	
2-1 外観	31
2-2 操作パネル	33
2-3 バックパネル(後面)	35
2-4 ゆめカバー	37
2-5 補液用スタンド	37
2-6 ゆめ用クリップ	38
2-7 回路	39
2-8 くり〜んフラッシュ	44
3 ゆめ^{プラス} (T5C8300)	
3-1 ゆめ ^{プラス} について	48
3-2 ゆめ ^{プラス} の外観	49
3-3 ゆめカードについて	50
3-4 退院後・受診後の手順	52
3-5 日常の手順(体重等、追加情報を入力する場合)	55
治療の手順の読み方	60
4 治療の手順 手動・スパイク式用(5バッグ用セット/5バッグ用 少注射液量セット)の場合	
4-1 治療の開始	61
4-2 治療の終了	94
5 治療の手順 システムⅡ用(システムⅡ 5バッグ用セット/システムⅡ 4バッグ用 少注射液量セット)の場合	
5-1 治療の開始	103
5-2 治療の終了	136
6 治療の手順 くり〜んフラッシュ用(UVフラッシュ 5バッグ用セット/UVフラッシュ 4バッグ用 少注射液量セット)の場合	
6-1 治療の開始	145
6-2 治療の終了	179
7 最終注液前 排液の手順	
7-1 最終注液前 排液の仕組み	190
7-2 最終注液前 排液の設定方法	191
7-3 「目標除水量が出ていません」の基本操作方法	192
7-4 「目標除水量が出ていません」を回避する方法	193
8 ゆめカバー・ゆめ用クリップの使用法	
8-1 ゆめカバーの使用法	195
8-2 ゆめ用クリップ(1Lおよび1.5Lのダイアニール-N用)の使用法	197

9	処方の確認・変更方法	198
9	-1 処方の確認・変更の基本手順	199
9	-2 CCPD/IPD療法の設定	201
9	-3 タイダール療法の設定	208
10	困ったときの対処方法	214
11	表示部の説明	271
11	-1 治療開始時の表示	272
11	-2 治療中の表示 [CCPD/IPD・タイダール療法の場合]	274
11	-3 治療終了時の表示	278
11	-4 治療停止中の表示	279
11	-5 アラーム発生時の表示	281
12	調整メニュー	
12	-1 調整メニュー変更の基本手順	282
12	-2 調整メニュー変更内容	282
12	-3 調整メニューの内容	283
13	ナースメニュー	288
14	排液の採取方法	290
15	仕様	
15	-1 機器の仕様	293
15	-2 機器の使用環境条件	293
15	-3 機器の性能	293
15	-4 バッテリーバックアップ	294
15	-5 液温保護システム	294
15	-6 アラーム音が鳴らない期間	294
15	-7 音圧レベルの範囲	294
15	-8 透析液の移動を行う際の最大の圧	294
15	-9 気泡注入の保護システム	295
15	-10 過注液の保護システム	295
15	-11 排液論理について	296
15	-12 貯留移行/予定外補液の論理	299
15	-13 注液量の最大値を決める	300
15	-14 初回排液の限度を決める	301
15	-15 タイダール総除水量と、最終注液前排液の目標除水量を決める	302
15	-16 初期設定値	304
16	旅行に際して	305
17	ゆめシステムのお手入れ方法と交換について	
17	-1 本体のお手入れ方法	306
17	-2 トレイのお手入れ方法	308
17	-3 補液用スタンドのお手入れ方法	310
17	-4 ゆめカバーのお手入れ方法	311
17	-5 ゆめシステムの交換が必要なとき	312
18	点検の手順と注意 (点検記録表付き)	313
	用語解説	316

この取扱説明書の読み方

基本的に、カードの機能以外は、ゆめもゆめ^{プラス}も取り扱い方法は同じです。

下記の表に、お使いのゆめシステム、お使いの回路別に、読む章に●印をつけたので、ご参照ください。

お使いのゆめシステム		5バッグ用セット	システムⅡ 5バッグ用セット	UVフラッシュ 5バッグ用セット	
1 安全にご使用いただくために		●	●	●	
2 各部の説明	2-1 外観	●	●	●	
	2-2 操作パネル	●	●	●	
	2-3 バックパネル(後面)	●	●	●	
	2-4 ゆめカバー	●	●	●	
	2-5 補液用スタンド	●	●	●	
	2-6 ゆめ用クリップ	●	●	●	
	2-7 回路	1 5バッグ用セット(T5C4452P)	●		
		2 システムⅡ 5バッグ用セット(T5C4501)		●	
3 UVフラッシュ 5バッグ用セット(T5C4500P)				●	
4 5バッグ用 少注液量セット(T5C8304)					
5 システムⅡ 4バッグ用 少注液量セット(R5C8303)					
6 UVフラッシュ 4バッグ用 少注液量セット(T5C8306)					
2-8  フラッシュ(ATC4538)			●		
3 ゆめ ^{プラス} (T5C8300)					
4 治療の手順 手動・スパイク式用(5バッグ用セット/5バッグ用 少注液量セット)の場合	●				
5 治療の手順 システムⅡ用(システムⅡ 5バッグ用セット/システムⅡ 4バッグ用 少注液量セット)の場合		●			
6 治療の手順  フラッシュ用(UVフラッシュ 5バッグ用セット/UVフラッシュ 4バッグ用 少注液量セット)の場合			●		
7 最終注液前 排液の手順					
8 ゆめカバー・ゆめ用クリップの使用方法					
9 処方の確認・変更方法					
10 困ったときの対処方法					
11 表示部の説明					
12 調整メニュー	●	●	●		
13 ナースメニュー	●	●	●		
14 排液の採取方法					
15 仕様					
16 旅行に際して					
17 ゆめシステムのお手入れ方法と交換について					
18 点検の手順と注意					

この取扱説明書では、省略名称として下記の用語を使用しています。

- 「ホームAPDシステムゆめ」→「ゆめ」
- 「ホームAPDシステムゆめ^{プラス}」→「ゆめ^{プラス}」
- 「ゆめカード」→「カード」
- 「ゆめ」と「ゆめ^{プラス}」→「ゆめシステム」
- 「ホームAPDシステム ゆめセット」→「回路」
- 「UVフラッシュオート →「 フラッシュ」(製造販売元:株式会社 メテク)

この
取扱説明書での
使用用語の
解説

※4章～17章のイラストはゆめ^{プラス}を使用していますが、ゆめでも共通に読むことができます。
 全ての指示・表示・アラームの対処方法に関しても共通です。

●お使いのゆめシステムと回路にそって、●印のところをお読みください。

ゆめ			ゆめ ^{プラス}					
5バッグ用 少注液量セット	システムⅡ 4バッグ用 少注液量セット	UVフラッシュ 4バッグ用 少注液量セット	5バッグ用 セット	システムⅡ 5バッグ用セット	UVフラッシュ 5バッグ用セット	5バッグ用 少注液量セット	システムⅡ 4バッグ用 少注液量セット	UVフラッシュ 4バッグ用 少注液量セット
●	●	●	●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	●	●	●	●	●
			●					
				●				
					●			
●						●		
	●						●	
		●						●
		●						●
			●	●	●	●	●	●
●			●			●		
	●			●			●	
		●			●			●
●	●	●	●	●	●	●	●	●

この
取扱説明書で
使用する表記の
解説

-  **確認** 取り扱いを行ううえで知っておいていただきたい内容を示しています。
-  **参考** 取り扱いを行ううえで知っておいていただくと操作の参考になる内容を示しています。
-  **ポイント** ポイントは操作の手順を覚える手助けをします。

1 安全にご使用いただくために

ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、ご使用者や他の人々への健康被害や物的損害を未然に防止するためのものです。必ず守ってください。

また、ゆめシステムは患者様の全身状態モニターを行う機器ではありません。誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、「警告」「注意」の2つに区分しています。



警告 警告には誤った取り扱いをしたときに死亡または重症などの重大な結果に結びつく可能性のあるものを記載しています。



注意 注意には誤った取り扱いをしたときに人が健康被害を負う可能性または本機器・家屋・家具などの物的損害を与える可能性のあるものについて記載しています。

●本文中の「図記号」の意味は次のとおりです。



「必ずしてほしい行為」を表わします。



「禁止」を表わします。



電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。



気をつけていただきたい「注意喚起」内容を表わします。



必ずアース線を接続してください。



ご使用前に、「1 安全にご使用いただくために」および全ての説明をお読みください。ゆめシステムの不適切な使用は死亡または重症などの重大な結果につながります。

1-1 警告

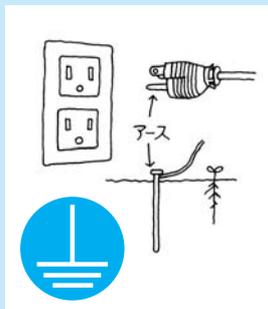
警告には誤った取り扱いをしたときに死亡または重症などの重大な結果に結びつく可能性のあるものを記載しています。

(1) 治療

【警告／治療1】

必ず付属の3ピンの電源コードを用いてアースを確実に取り付け接地してください。

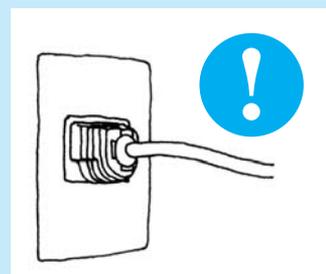
- ・アースが不完全な場合、故障や漏電のときに感電することがあります。
- ・アースが接続できない場合には、電気工事店にご相談ください。



【警告／治療2】

電源プラグはコンセントにしっかり差し込んでください。

- ・接続が不完全な場合、熱をおびたり治療が中断されてしまうことがあります。

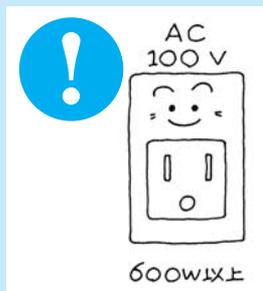


【警告／治療3】
本機器は接地して使用しなければなりません。電氣的にショートが発生した場合、接地してあることにより電流を逃がすことができるため、感電のリスクを軽減できます。本機器には接地線をつなげられる電源ケーブルを同梱しています。適切に「接地」されていることを確認したコンセントに接続して使用してください。コンセントについてはかかりつけの病院または電気店にご相談ください。

【警告／治療4】
「接地」についてご理解いただけない場合、またはゆめシステムが正しく設置されているか分からない場合、お近くの電気店にご相談ください。不適切な使用は感電の可能性があります。

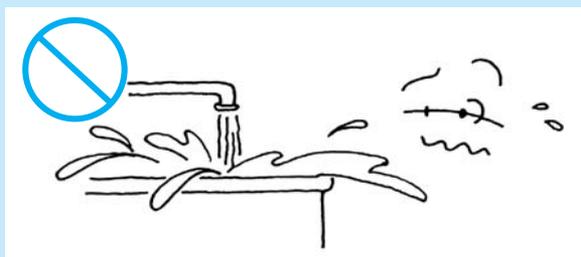
【警告／治療7】
電源は電圧100V、容量600W以上のコンセントを使用してください。

- ・100V以外600W未満では、感電・発煙・発火の原因になります。



【警告／治療9】
水のかかるような場所に置かないでください。

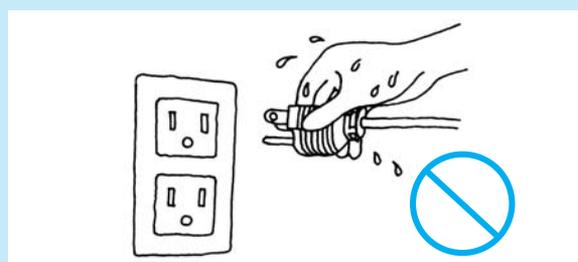
- ・感電・漏電・発火等の原因になります。



【警告／治療5】
壁のコンセントに電源コードが接続できない場合、プラグを交換したりしないでください。電気店に連絡して、適切に接地できるようにご相談ください。

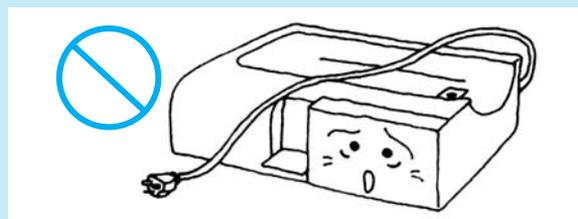
【警告／治療6】
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

- ・水は電気を通しますのでぬれていると感電するおそれがあります。



【警告／治療8】
本機器のヒーター部に電源コードがかからないようにしてください。

- ・電源コードのビニールが溶けるなど、電源コードが破損し火災・感電の原因になります。



【警告／治療10】
本機器の使用温度は15℃～36℃です。この範囲になるように環境を整えてください。

- ・機器の動作に支障をきたすおそれがあります。



1 安全にご使用いただくために

【警告／治療11】

機器に異常が発生した場合には、すみやかに機器の作動を停止し、かかりつけの病院、またはバクスターCAPDコールセンターに連絡してください。

- ・異常、故障などがあった場合には、自分で修理しようとせずバクスターにご連絡ください。



【警告／治療12】

ゆめシステムをお体の上下30cmより離して使用しないでください。

- ・お体より30cm以上高いところにゆめシステムを置くと、注液中に通常より早い流速で注液を行ったり、排液中には通常より遅い流速で排液を行ったりします。これにより、注液中の痛みや違和感につながったり、排液時間が長くなったりします。その結果、貯留時間が短くなったり、「排液量不良」アラームが増えたりします。
- ・お体より30cm以上低いところにゆめシステムを置くと、もしカテーテルが腹膜に接触しているような場合、排液時に通常より高い圧を発生することがあります。これにより、排液時の違和感や痛み、最悪は腹膜の損傷につながる場合があります。



【警告／治療13】

かかりつけの病院から指導を受けた治療内容をゆめシステムに入力して実施できることをご確認ください。もしゆめシステムで治療を実行できないとしたら、かかりつけの病院で指導を受けたように、ツインバッグで治療を行ってください。

何回も治療をうまく終わられなかったり治療の一部を飛ばした場合、貯留時間や治療時間が短くなり、尿毒症の原因となることがあります。

【警告／治療14】

治療開始前に接続したところ（透析液バッグと回路・回路と接続チューブ）がしっかり接続されていることを確認してください。

- ・ゆるんでいると感染・液もれの原因になります。



【警告／治療15】

透析液バッグは平坦な安定したところにおいてください。透析液バッグが落ちないように、透析液バッグを重ねて置いたりしないでください。透析液が落下すると、液漏れが発生することがあります。液漏れは透析液や透析液が通るところを汚染したりします。透析液や透析液が通るところを汚染すると腹膜炎になったり、思わぬ健康被害を受けたり、死に至ることもあります。

【警告／治療16】

接続や切り離しは清潔操作で行ってください。

- ・操作時の汚染は腹膜炎の原因になります。万一、接続チューブが汚染された場合には、以下のことをすみやかに行ってください。
 - ①ツイストクランプが閉まっていることを確認してください。
 - ②キャップをするか接続チューブの先端部を清潔なガーゼで保護してください。
 - ③接続チューブのチューブ部分を縛ってください。
 - ④かかりつけの病院へ連絡し指示に従ってください。
- ・使い捨ての器材が汚染された場合には、新しいものをご使用ください。



【警告／治療17】
感染を防ぐため、清潔操作で行ってください。

- ・ゆめセットと接続するとき
 - ・ゆめセットから切り離すとき
 - ・透析液バッグを接続するとき
- 透析液が通るところを汚染すると腹膜炎になったり、思わぬ健康被害を受けたり、死に至ることもあります。腹膜炎は腹膜の炎症で、通常汚染が原因で発症します。

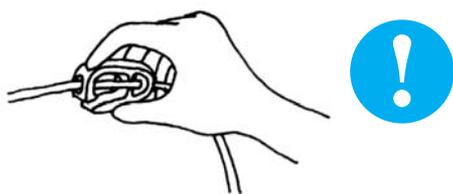
【警告／治療18】
透析液バッグや使い捨て回路を使用するときには、かかりつけの病院での指示通り、清潔な操作で行ってください。マスクをつけ、手洗いを十分にやり手は乾かす（または消毒する）ようにしてください。

【警告／治療19】
ゆめシステムのアラーム表示・警告が理解いただけない患者さんお一人でのご使用はおやめください。

- ・ゆめシステムは、ゆめシステムのアラーム表示・警告が理解いただけない患者さん（全盲患者さん等）お一人でのご使用を目的としておりません。そのような患者さんのご使用の場合、トレーニングを受けた介助者の介助が必要です。

【警告／治療20】
「バッグ接続後クランプ 開け→」では必ずコネクターラインのクランプを開けてください。

- ・クランプが開いていない場合には、コネクターラインに透析液が充填されず回路内に空気が残ります。
- ・初回排液量が少ない場合には、お腹の中に空気が入る原因になります。

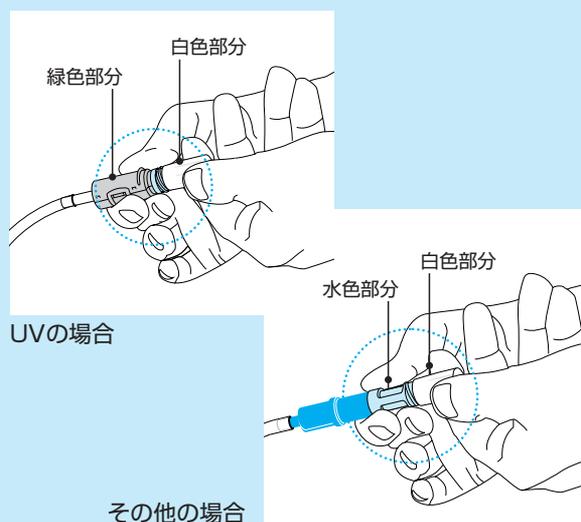


【警告／治療21】
コネクターラインに透析液が充填されていない場合には、「再プライミング」を行ってください。（「再プライミング」の方法は本冊子の222ページをご参照ください）

- ・そのままご使用になると、初回排液量が少ない場合には、お腹の中に空気が入る原因になります。

【警告／治療22】
ツイストクランプ操作時のご注意
—持つときの正しい位置—

- ・ツイストクランプを操作する際には、ツイストクランプの水色部分（UVの場合、緑色部分）と白色部分のみを保持し、それ以外の部分に触れたり、力が加わらないようにしてください。



【警告／治療23】
介助者は排液や使用済みの使い捨て器材の処理をしたりするときに、注意して取り扱ってください。注意を怠ると、感染したり健康被害を負うことがあります。

【警告／治療24】
このシステムを使って治療を実施する前に、医療従事者は腹膜透析およびこのシステムのことを十分に理解してください。不適切な使用は、患者様の健康被害や、死に至ることもあります。

1 安全にご使用いただくために



【警告／治療25】

医療従事者の指示なしで治療の設定を変更しないでください。不適切な設定で使用すると、溢水などの望ましくない兆候や、尿毒症につながる場合があります。不適切な使用は、患者様の健康被害や、死に至ることもあります。



【警告／治療26】

以下のようなことがあった場合、かかりつけの病院にご相談ください

- ・治療を完了できなかった
 - ・最終注液を飛ばした（実行しなかった）
 - ・1サイクルまたはそれ以上の排液をバイパスした
 - ・かかりつけの病院から指導を受けたことと違う状況になった
- 何回も治療をうまく終えられなかったり治療の一部を飛ばした場合、貯留時間や治療時間が短くなり、尿毒症の原因となることがあります。



【警告／治療27】

プライミング後に、コネクターライン先端近くまで透析液が来ていない場合はおなかのチューブを接続しないでください。空気が残った状態で接続すると、初回排液がない場合、空気が腹腔に入ることになります。空気が腹腔に入ると、肩の痛みやおなかの痛みなど、思わぬ健康被害につながる可能性があります。



【警告／治療28】

以下のような症状はカテーテルからの排液のさまたげとなる可能性があります。

- ・便秘
 - ・フィブリンの蓄積
 - ・カテーテル内腔の閉塞や、カテーテルの穴へのフィブリンや血栓、腸による閉塞
 - ・カテーテルのよじれや曲がり
 - ・腹腔内上部へのカテーテルの移動
- 排液がうまく出ないときには、かかりつけの病院にご相談ください。



【警告／治療30】

排液タンクを使用するときは、容器内が密封状態にならないように注意してください。

- ・排液が逆流する原因になり、腹膜炎が発生する原因になるおそれがあります。



【警告／治療31】

排液ラインが排液タンクから抜けないように注意してください。



【警告／治療29】

排液バッグ、排液タンクを使用するときは、添付の使用上の注意に従ってご使用ください。

- ・思わぬ事故につながる可能性があります。



【警告／治療32】

排液の性状を確認してから排液を捨ててください。

- ・混濁の度合、沈殿物、浮遊物、色などを確認します。
- ・異常があるときはかかりつけの病院にすみやかに連絡してください。

**【警告／治療33】**

使用後は定められた手順で操作したあと、電源を切ってください。

**【警告／治療35】**

ゆめカバーは濡れた状態、湿った状態では使用しないでください。電源コードに巻き込まれた場合、火災、感電の原因になります。

- ・電源コードをゆめシステムの差込口に接続するときに、ゆめカバーを巻き込まないようにしてください。火災、感電の原因になる可能性があります。

【警告／治療34】

機器は次回の使用に支障のないように必ず清掃し、電源コードなどは整理しておいてください。

- ・事故の原因になることがあります。



(2) 過注液

**【警告／過注液1】**

注液量が何らかの理由で多かたり（過注液）、排液量が十分でない場合、腹腔内に排液が多く残り、過注液といわれる状況になります。過注液は腹膜透析療法に固有のリスクです。過注液は症状が現れない方もいらっしゃいますが、よく見られる症状は以下の通りです。

- ・満腹感、膨張感や、過注液感
- ・お腹の痛みや不快感
- ・お腹の拡張感
- ・嘔吐感、唾液過多
- ・摂食困難
- ・PDカテーテル周りや下腹部、鼠径部および生殖器部周辺の局所的な液漏れによる腫れ
- ・PDカテーテル出口部からの液漏れ
- ・呼吸困難
- ・小児の腹部の違和感／不快感
- ・小児の啼泣
- ・突然の血圧の上昇

**【警告／過注液2】**

「病院へ連絡してください」表示と「排液量過剰」表示の画面が電源投入時に交互に出ている場合、昨日（前回）の治療で過注液があったことを示しています。

過注液が疑われるときには、**○**停止ボタンをすぐに押し、**▽**ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「**⑩**困ったときの対処方法（254ページ）」をご覧ください。

**【警告／過注液3】**

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

**【警告／過注液4】**

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

【警告／過注液5】

過注液が疑われるときには以下に従ってください。

1. **■** 停止ボタンをすぐに押し、**▼** ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は右記を参照ください。また過注液が疑われる場合「**⑩** 困った時の対処方法 (269 ページ)」を参照してください。
2. 腹腔から完全に排液し終わったら、かかりつけの病院にご連絡をお願いします。
3. その際に、過注液についてだけではなく、どのような苦情や症状が認められたかについてもご相談願います。
4. この手順を行うにあたってサポートが必要な場合、24時間通話無料のバクスターCAPDコールセンター(0120-506440)までご連絡願います。
5. もし過注液の症状が疑われ、しかもかかりつけの病院やバクスターCAPDコールセンターに連絡がつかない場合、119番に連絡して救急車を依頼するか、緊急対応ができる近くの病院に連絡してください。



強制排液の手順

表示

現在の注液のサイクルが表示されています

注液中:3/5

1. **■** を押す

停止:注液中

2. **▼** を押す

注液量:○○○mL

3. **▼** を押す

総除水量:○○○mL

4. **▼** を押す

バイパス

5. **▼** を押す

処方の確認／変更◇

6. **▼** を押す

調整メニュー変更◇

7. **▼** を押す

強制排液◇

8. **◆** を押す

強制排液量:○○○mL

排液量を表示します。ゆめシステムが排液を感知しなくなると強制排液が終了します。

停止:注液中

9. **➡** で注液に戻ります

注液中:3/5

10. もし注液途中で止まっていたら、再度「強制排液」を行ってください。



【警告／過注液6】

過注液はこの章に記載されているひとつまたは複数の原因で発生することがあります。



【警告／過注液7】

初回排液中や排液中に「排液量不良」をバイパスするとお腹に透析液を残したまま注液となることがあるので、過注液となることがあります。体の位置を変えたり立ち上がったたりして排液ができるように工夫してください。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、**■** 停止ボタンをすぐに押し、**▼** ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「**⑩** 困ったときの対処方法 (254 ページ)」をご覧ください。ご自分で異常を訴えることができない方(意識のない方、乳幼児や小児)に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

**【警告／過注液8】**

注液量が1000mL未満の患者様は一般的に排液のスピードが遅い傾向にあります。これらの患者様は一般的に体重が20kgより少ないです。「排液量不良」アラームや「注意：除水不良」アラームを出さずに排液量を極力多くするため、少液量モードを使用することをお勧めします。少液量モードでは少注液量セットのご使用をお勧めします。

「排液の限度」や「除水不良の限度」を調整してこれらのアラームの発生を抑えることができます。しかし「除水不良の限度」を不用意に50%より上げたり、また「排液の限度」も不用意に85%（初期値）より下げないでください。過注液の可能性を高めてしまいます。

排液中に、腹腔内に液が残っているにもかかわらずこれらアラームをバイパスすると、過注液となることがあります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、 停止ボタンをすぐに押し、 ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「 困ったときの対処方法（254ページ）」をご覧ください。ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

**【警告／過注液9】**

「初回排液の限度」を不用意に下げたり「設定なし」にすると過注液となることがあります。その場合、排液が不十分な状態で1サイクル目の注液に移ってしまいます。

- ・ 前回の治療で、通常の最終注液量より多くの液をお腹に残した場合
- ・ 強制排液をしなかった場合
- ・ 完全に排液が終わる前に流速不良状態になった場合

もし、「初回排液の限度」の設定が低すぎる場合、一時的に設定値をあげたり、強制排液を行って初回の排液を完全に終わらせることができます。

**【警告／過注液10】**

「排液の限度」を不用意に下げると排液の終了が早まるため、過注液となることがあります。

**【警告／過注液11】**

一回あたりの注液量（注液量、昼間注液量、夜間注液量、最終注液量）を患者様の体格にふさわしくない値に不用意に高く設定すると、過注液となることがあります。

**【警告／過注液12】**

「 15-13 注液量の最大値を決める」の表にあるように、注液量、夜間注液量、最終注液量、昼間注液量は患者様の体重を基準に割り出されるある一定の値を超えることはできません。もしこの注液量を超える場合、かかりつけの病院と連絡を取り注液量を減らすようお願いしてください。この一定の値を超えて注液量を設定してしまうと、過注液となることがあります。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、 停止ボタンをすぐに押し、 ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「 困ったときの対処方法（254ページ）」をご覧ください。ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

1 安全にご使用いただくために



【警告／過注液13】

総除水量の設定が低すぎると、治療中にお腹の中に除水量がたまってきて、過注液となることがあります。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、**■**停止ボタンをすぐに押し、**▼**ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。ご自分で異常を訴えることができない方 (意識のない方、乳幼児や小児) に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。



【警告／過注液14】

目標除水量の設定が低すぎると、最終サイクルの排液が完全に終了せず、お腹の中に除水量分の透析液がたまってしまいます。その次の注液にそのまま移行すると、過注液となることがあります。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、**■**停止ボタンをすぐに押し、**▼**ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。ご自分で異常を訴えることができない方 (意識のない方、乳幼児や小児) に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。



【警告／過注液15】

「最終注液前 排液」の設定を「ナシ」にしたり、また「目標除水量」を不用意に低く設定すると、最終サイクルの排液が不十分な状態となり、過注液となることがあります。



【警告／過注液16】

貯留中に**■**停止ボタンを押してから**▶**開始ボタンを押すと、ゆめシステムは透析液の移動を止めるのでノイズが減ります。ところが、それにより液量の測定精度が下がって、特にサイクル数が多くなりがちなタイダル療法を行っている患者様においてお腹の中の液がだんだん増えることにより、過注液となることがあります。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、**■**停止ボタンをすぐに押し、**▼**ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。ご自分で異常を訴えることができない方 (意識のない方、乳幼児や小児) に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。



【警告／過注液17】

プライミング中に停電が発生し電源が復帰した後に、全てのクランプを閉じないで開始ボタンを押し治療を開始すると、過注液となることがあります。これは、「回路セット後→」の画面において、透析液バッグ同士や、患者様の接続チューブとの液の流れが制御できず、自由に透析液が流れてしまうためです。

**【警告／過注液18】**

アラームやシステムエラー発生時に、全てのクランプを閉めずにドアを開けることにより過注液となることがあります。これは、透析液バッグ同士や、患者様の接続チューブとの液の流れが制御できず、自由に透析液が流れてしまうためです。

**【警告／過注液19】**

停電から復帰した後で、ゆめセットがゆめシステム内にある場合、全てのクランプを閉じてから▶開始ボタンを押して治療を開始してください。これにより、「回路セット後→」の画面において、透析液バッグ同士や、患者様の接続チューブとの液の流れが制御できず、自由に透析液が流れてしまうことを防ぐことができます。制御が行われていない場合、落差による液の流れで過注液となることがあります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、■停止ボタンをすぐに押し、▼ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「⑩困ったときの対処方法(254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方(意識のない方、乳幼児や小児)に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

**【警告／過注液20】**

「コネクターライン接続後→」と「コネクターライン確認」が交互に出た後から、お腹のチューブをつないでください。この画面が出る前にお腹のチューブをつないでしまうと、お腹に空気が入ってしまうことがあります。空気がお腹に入ると、肩の痛みやおなかの痛みなど、思わぬ健康被害につながる可能性があります。また、もしお腹の中に透析液が残っている状態で空気が入ってしまうと、過注液となることがあります。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、■停止ボタンをすぐに押し、▼ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「⑩困ったときの対処方法(254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方(意識のない方、乳幼児や小児)に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

**【警告／過注液21】**

治療終了後、「クランプを閉じた後→」が表示されているときに、全てのクランプを閉じる前に▶開始ボタンを押すと、過注液となることがあります。これは、透析液バッグ同士や、患者様の接続チューブとの液の流れが制御できず、自由に透析液が流れてしまうためです。

**【警告／過注液22】**

治療終了後、全てのクランプを閉じる前にドアを開けると、過注液となることがあります。これは、透析液バッグ同士や、患者様の接続チューブとの液の流れが制御できず、自由に透析液が流れてしまうためです。

**【警告／過注液23】**

排液時(初回排液中、昼間排液中、(夜間)排液中)にバイパスをすると過注液となることがあります。これは、腹腔内に透析液が残った状態で、全量注液される可能性があるためです。

**【警告／過注液24】**

「排液は終了していません」や「目標除水量が出ていません」、「排液量不良」をバイパスをすると過注液となることがあります。これは、腹腔内に透析液が残った状態で、全量注液される可能性があるためです。

1 安全にご使用いただくために



【警告／過注液25】

「注意：除水不良」をバイパスすると過注液となることがあります。これは、腹腔内に透析液が残った状態で、注液されるためです。



【警告／過注液26】

注液中に行う強制排液をバイパスしたり停止したりすると過注液となることがあります。これは、上記のうちいずれかの理由により、腹腔内に透析液が残った状態で、全量注液される可能性があるためです。



【警告／過注液27】

「目標除水量が出ていません」をバイパスするとお腹に透析液を残したまま注液となるので、過注液となることがあります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。過注液が疑われるときには、**●**停止ボタンをすぐに押し、**▼**ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「**10** 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。ご自分で異常を訴えることができない方(意識のない方、乳幼児や小児)に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。



【警告／過注液28】

カテーテルからうまく排液が出てこないと過注液となることがあります。以下のような症状はカテーテルからの排液のさまたげとなることがあります。

- ・便秘
- ・フィブリンの蓄積
- ・カテーテル内腔の閉塞や、カテーテルの穴へのフィブリンや血栓、腸による閉塞
- ・カテーテルのよじれや曲がり
- ・腹腔内上部へのカテーテルの移動

排液がうまく出ないときには、かかりつけの病院にご相談ください。



【警告／過注液29】

最終サイクルの除水量がいつも多い場合、治療中に除水量がお腹にたまりやすいのかもしれない。

- ・CCPD／IPD療法の場合、排液の限度%が低すぎるのかもしれない
- ・タイダル療法の場合、総除水量の設定が低すぎるのかもしれない

どちらの場合でも過注液の可能性がります。これらの場合に加えて、濃度の高い透析液を使用するような場合、さらに過注液の可能性を高めます。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。過注液が疑われるときには、**●**停止ボタンをすぐに押し、**▼**ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「**10** 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。ご自分で異常を訴えることができない方(意識のない方、乳幼児や小児)に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スパイク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くりくんフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

ゆめカバール・ゆめ
クリップの使用
方法

処方の確認
・変更方法

(3) 必要物品（一般）



【警告／必要物品（一般）1】

本機器には、バクスター以外の製品およびバクスターが推奨していない付属品は使用しないでください。安全で十分な機能を発揮できなくなります。



【警告／必要物品（一般）2】

主治医が処方したとおりの治療ができるように以下のことをご確認ください。

- ・適切に必要物品を注文する
- ・予備を用意する
- ・ツインバッグを用意する

もしゆめシステムの治療を開始できない状態や終了させられない状況、または必要物品が不足した場合、かかりつけの病院で指導を受けたようにツインバッグで交換を行ってください。何回も治療をうまく終えられなかったり治療の一部を飛ばした場合、貯留時間や治療時間が短くなり、尿毒症の原因となることがあります。

(4) 必要物品（透析液）



【警告／必要物品（透析液）1】

治療中にダイアニール-Nの隔壁を開通していないことに気づいたら、すぐに病院またはバクスターCAPDコールセンターに連絡してください。（ダイアニール-Nをご使用の方のみ）



【警告／必要物品（透析液）2】

透析液に薬剤を添加するのは医師の指導があったときだけにしてください。適切に行わないと汚染の恐れがあります。また間違った量の薬剤を添加すると、患者様の症状を悪化させることがあります。

【警告／必要物品（透析液）3】

透析液バッグの以下の点について準備中および治療中ご確認願います。

- ・透析液が無色～微黄色の透明である
- ・使用期限内である
- ・先生の処方どおりの薬剤である
- ・キャップと薬液注入部が正しく付いている
- ・透析液の糖濃度が正しい
- ・液漏れがない
- ・透析液の容量が正しい

もし何か問題があったら、その透析液バッグは廃棄して新しい透析液バッグを使用してください。間違った透析液を使うと、不十分な透析になったり、問題がある透析液バッグを使った場合汚染された液が注入されたりします。汚染された液が注液されると腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。透析液バッグに何か問題があった場合にはバクスターCAPDコールセンターか、かかりつけの病院までご連絡願います。



1 安全にご使用いただくために



【警告／必要物品（透析液）4】

ヒーターに乗せる透析液バッグ以外の透析液バッグがダイアニールNの場合、バクスター指定の補液用スタンドに置いてください。また補液用スタンドは不安定な場所に置かないでください。不安定な場所に置いたり、バッグを重ねて置いたりすると、落下する危険性があります。透析液バッグが落下すると、接続部が外れたり、液漏れが発生します。透析液や透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。



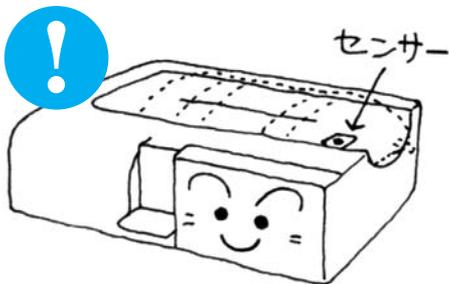
【警告／必要物品（透析液）5】

透析液の成分にアレルギーがある場合、使用しないでください。アレルギー反応を起こさないために、透析液の添付文書を良くお読みください。

【警告／必要物品（透析液）6】

ヒーターに乗せる透析液バッグは正しくヒーターに置いてください。

- ・ヒーターに乗せる透析液バッグは温度センサーを確実に覆うように乗せてください。
- ・透析液バッグのチューブはチューブガイドにしっかりと下まではめてください。
- ・小さな透析液バッグを乗せるときはさらに注意してください。
- ・透析液バッグを正しく乗せないと、熱すぎたり、冷たすぎたりする透析液が注液されてしまいます。



【警告／必要物品（透析液）7】

ヒーターに乗せる透析液バッグの大きさは、一回あたりの注液量に加えて最低500mLの補液量が入る十分な大きさにしてください。あまり小さいバッグを使用した場合、設計値より多い液量が入ることとなり、加温に時間がかかったり、破裂する恐れがあります。

【警告／必要物品（透析液）8】

透析液をゆめセットおよびゆめシステムで使用する場合：

- ・ゆめセットのチューブは正しく接続してください。

ヒーターライン（赤クランプ）に接続された透析液バッグがヒーターに乗っていない場合、室温の透析液が注液されます。一般的に室温は体温より低いため、よく眠ってしまったり意識のない患者様が長時間治療を続けると、低体温症となることがあります。

- ・正しい透析液をお使いください。

透析液の種類や糖濃度が違うと、必要な量の透析ができない場合があります。そのような場合、治療に必要な除水量が得られなかったり、逆に多くなったりします。タイダル療法を行っている場合、実際の腹腔内の除水量が、処方した総除水量とあまりにも違うと、腹腔内の液量が増えたり減ったりします。

- ・処方された総注液量をまかなえるだけの十分な透析液バッグを接続してください。

何回も治療をうまく終えられなかったり治療の一部を飛ばした場合、貯留時間や治療時間が短くなり、尿毒症の原因となることがあります。



確認



**【警告／必要物品（透析液）9】**

治療中に、空になった透析液バッグを新しい透析液バッグに交換したり、切り離れた透析液バッグをつないだりしないでください。透析液や透析液の流路を汚染する可能性があります。透析液や透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。

**【警告／必要物品（透析液）10】**

透析液の保管、準備および使用については、透析液の添付文書をご参照ください。正しく扱わないと不十分な透析になったり、健康被害を負ったりする恐れがあります。

**【警告／必要物品（透析液）11】**

治療中に透析液バッグが外れた場合、「治療強制終了の手順」（本冊子227ページ）に従って使用していた回路および透析液バッグを廃棄してください。その後かかりつけの病院にご相談ください。

**【警告／必要物品（透析液）12】**

治療終了後、使用済みのゆめセットや透析液バッグは廃棄してください。もし再利用すると透析液や透析液の流路を汚染する可能性があります。透析液や透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。

(5) 必要物品（使い捨て器材）**【警告／必要物品（使い捨て器材）1】**

使い捨ての器材で一度開封した製品は、再滅菌して使用しないでください。

- ・製品の劣化の原因になります。
- ・思わぬ重大な事故につながる場合があります。

**【警告／必要物品（使い捨て器材）2】**

回路のキャップが外れている場合は使用しないでください。キャップが外れていたり、しっかり付いていないと、透析液や透析液の流路が汚染される可能性があり、腹膜炎となったり、健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。

**【警告／必要物品（使い捨て器材）3】**

治療を実施するのに正しいゆめセットをお使いください。間違ったゆめセットを使用すると不十分な治療となることがあります。

**【警告／必要物品（使い捨て器材）4】**

ゆめセットを機器に装着する前に、カセットやチューブに損傷がないことを確認してください。損傷があるカセットを使用すると透析液の流路が汚染されます。透析液や透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。

- ・カセットのやわらかい表面に傷や穴など明らかな損傷がないか確認してください
- ・ゆめセットのチューブ先端についているキャップが損傷などなく、正しく付いていることを確認してください。

もし損傷などがあれば、新しいゆめセットを使用してください。ゆめセットのチューブには素材の柔らかさゆえのちょっとした凹みがあります。ちょっとした凹みは外観上のもので製品の機能に影響を与えるものではありません。

1 安全にご使用いただくために



【警告／必要物品（使い捨て器材）5】

ゆめセットおよび、ゆめシステムのドア内部のカセットに接する面にはアルコールや過酸化水素水およびアルコールを含んだ消毒剤を使用しないでください。ゆめセットにそれら溶液を使用するとひび割れの原因となります。ひび割れができたカセットを使用すると透析液や透析液の流路を汚染する可能性があります。透析液や透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。



【警告／必要物品（使い捨て器材）6】

使い捨ての器材は再使用をしないでください。器材の再使用は汚染の可能性があります、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。



【警告／必要物品（使い捨て器材）7】

治療開始前に全ての器材の接続部分が正しくつながっていることを確認してください。使用していないゆめセットのバッグラインのクランプは閉めてあることを確認してください。透析液や透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。

(6) 一般



【警告／一般1】

トレイを持ってゆめシステム本体を持ち上げないでください。トレイが外れてゆめシステム本体が落下し、けがをする恐れがあります。



【警告／一般4】

トレイをゆめシステム本体に取り付ける際には、手をはさまないようにご注意ください。



【警告／一般2】

トレイを外したときに取り付け金具に手をついたり、顔をぶつけないようにご注意ください。けがをする恐れがあります。



【警告／一般5】

トレイを分解しないでください。けがをする恐れがあります。



【警告／一般3】

ゆめ用トレイとゆめ^{プラス}用トレイは形状が異なります。取り付けられているトレイ以外のトレイは使用しないでください。外れてけがをする恐れがあります。



【警告／一般6】

トレイはゆめシステム以外に使用しないでください。



【警告／一般7】

補液用スタンドの角や縁に目や身体をぶつけないようにご注意ください。けがをする恐れがあります。（ダイアニール-Nをご使用の方のみ）

**【警告／一般8】**

身体の不自由な方や乳幼児の近くで使用する場合は、補液用スタンドの上での転倒などの事故にご注意ください。けがをする恐れがあります。(ダイアニール-Nをご使用の方のみ)

**【警告／一般9】**

ダイアニール-Nの補液用スタンドは本来の目的以外には使用しないでください。(ダイアニール-Nをご使用の方のみ)

**【警告／一般10】**

ゆめカバーは清潔に保ってください。細菌が繁殖している状態で使用すると、感染の原因になります。

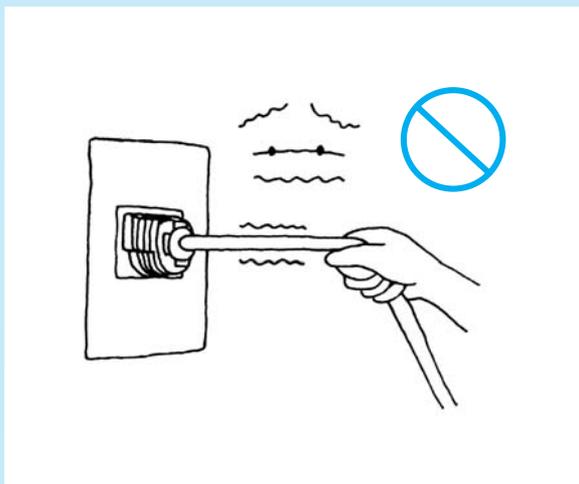
**【警告／一般11】**

ゆめカバーはゆめシステムのカバー以外の目的に使用しないでください。

【警告／一般12】

電源プラグを抜くときは、コードを持って抜かないでください。必ずプラグを持って抜いてください。

- ・コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

**【警告／一般13】**

本機器のヒーター部に重い物を置いたり、上に乗ったりしないでください。

- ・倒れたり、壊れたりしてけがの原因になることがあります。

**【警告／一般14】**

排液タンクには天然ゴムを含んだ部品を一部使用しています。

- ・天然ゴムアレルギーのある方はショックを起こすおそれがあります。ご注意ください。

**【警告／一般15】**

治療中や治療後に排液タンクが転倒しないように注意してください。

**【警告／一般16】**

排液ラインの先端と排液タンク内の排液との間には、空気の間隙を作ってください。隙間を作ることにより、間違えて操作した場合に排液が逆流することを防ぎます。一度排液タンクに出た排液は汚染されていると考えられ、操作間違いによって発生する逆流により透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。

**【警告／一般17】**

ペットや動物が透析液バッグや器材をかむと、透析液や透析液の流路が汚染されます。透析液や透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。このようなことをさけるため、ペットや動物がいる部屋では治療を行わないでください。

1 安全にご使用いただくために

【警告／一般18】

治療を開始する前に、ゆめシステムの表示が正しく出ることを確認してください。もし表示部が正しく動作していないと、誤った数字を表示することが考えられます。そのような場合、十分な治療が行えず、患者様が健康被害を負ったり、死亡したりする恐れがあります。

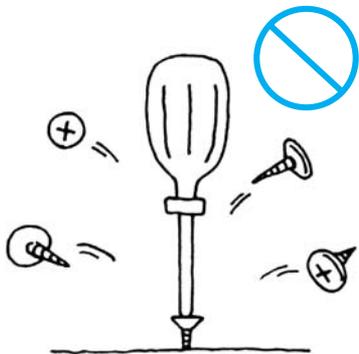


【警告／一般19】

治療を開始する前に、ゆめシステムのアラーム音が正しく出ることを確認してください。アラーム音が正しく動作していないと、アラーム発生を知ることができません。そのような場合、十分な治療が行えず、患者様が健康被害を負ったり、死亡したりする恐れがあります。

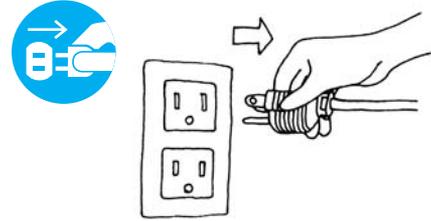
【警告／一般20】

本体を開けたりしないでください。内部の電気回路を触ると感電する恐れがあります。



【警告／一般21】

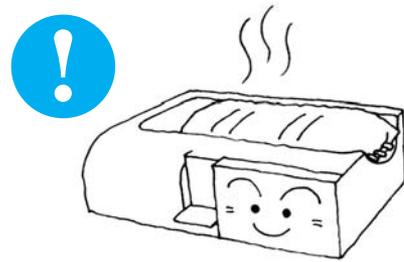
機器を掃除する前に電源コードを壁のコンセントから抜いてください。感電する恐れがあります。



【警告／一般22】

透析液バッグの加温は、必ず本機器のヒーターで行ってください。

- ・本機器のヒーター以外のもの（電子レンジ、ストーブ、電気毛布など）で加温を行いますと、過度に加温された透析液がお腹に注液される場合があります。



【警告／一般23】

バクスターが指定した製品以外を本製品に接続しないでください。バクスターでは、バクスターが指定していない他社の製品をバクスターの製品とともに使用した場合安全な使用はお約束できません。

【警告／一般24】

他の電気機器と重ねて、または近くで本機器を使用しないでください。本機器を誤動作させることがあります。もし近くで電気機器を使用しなければならぬときには、動作状況をよくみながらお使いください。

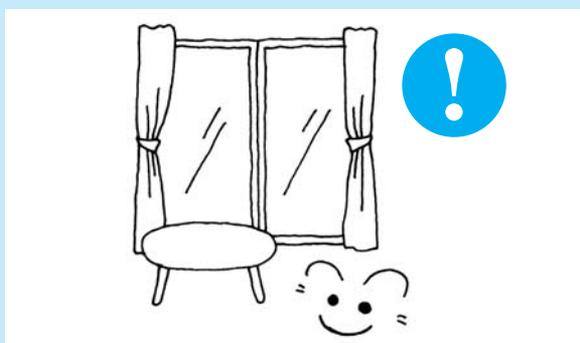
【警告／一般25】

揮発性の物質の近くでの使用はしないでください。爆発の危険があり、患者様やその他の方の健康被害や死亡につながる恐れがあります。



【警告／一般27】

本機器を室外で使用しないでください。屋外で使用すると、患者様や周りの方へショックを与えたり、機器に損傷が加わったりすることにより、ご使用者や周りの方の健康被害につながったり、死亡に至ることがあります。



【警告／一般29】

個人向け通信機器、たとえば双方向モバイルラジオや携帯電話を本機器のそばで電源を入れたり、使用したりしないでください。これらの機器を本機器のそばで使用すると誤動作する恐れがあります。そのような機器を使用しなければならない場合は動作状況をよくみながらお使いください。

【警告／一般26】

下記のような環境で本機器を使用しないでください。

- ・殺虫剤、エアゾール
- ・可燃性麻醉剤
- ・一酸化二窒素
- ・酸素が充満した環境（酸素テントなど）

このような環境で使用すると爆発や火事の危険性があります。



【警告／一般28】
電位治療器（家庭用、医療機関用）との併用はおやめください。

- ・使い捨て器材および透析液バッグに損傷を与え、腹腔内に空気の混入を発生させることがあります。これらの状況ではバクスターは機器の正しい動作を保障することができません。空気が腹腔に入ると、肩の痛みやおなかの痛み、腹膜炎など、思わぬ健康被害につながる可能性があります。

1 安全にご使用いただくために

【警告／一般30】

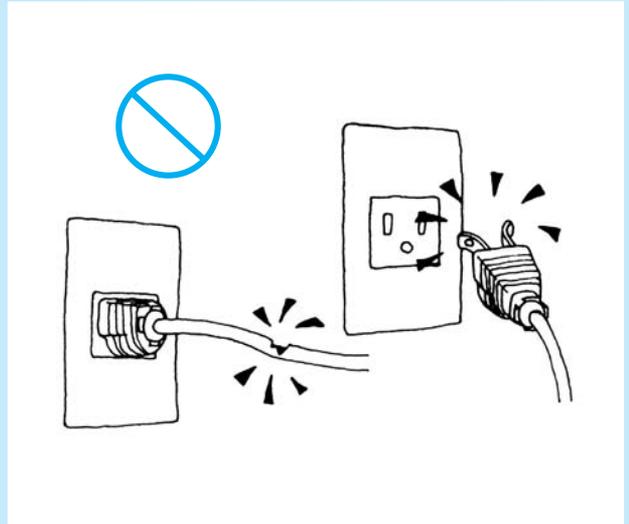
下記のような状況では本機器を使用しないでください

- ・コードやプラグに損傷がある
- ・正しく動作していない
- ・落下したまたは損傷している
- ・水中に落下した

コードやプラグが損傷していたら、バクスター指定のコードに変えてください。ご自分で治したりしないでください。

これらの状況ではバクスターは機器の正しい動作を保障することができません。

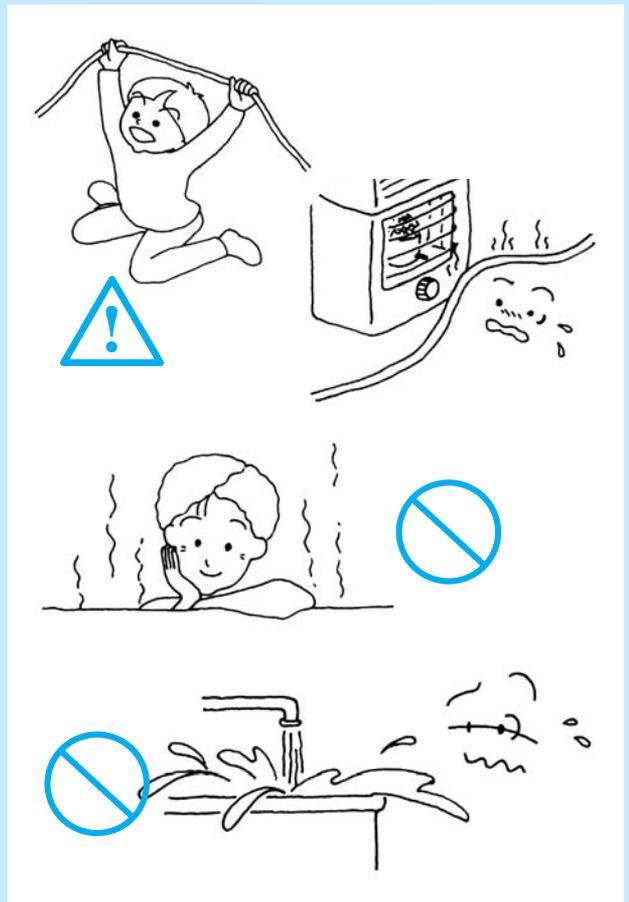
バクスターCAPDコールセンターに電話してください。



【警告／一般31】

火事や感電死または健康被害などを防ぐため、以下を守ってください。

- ・本機器を体の不自由な方や乳幼児の近くや、またはそれらの方に使用する場合、注意して使用してください。
- ・本機器はこの取扱説明書に記載のとおりで使用してください。
- ・バクスターが推奨していない付属品、製品、物品を使用しないでください。
- ・電源コードを熱器具に近づけないでください。
- ・入浴しながら、または水を使用しながら本機器を使用しないでください。
- ・水のかかるような場所で使ったり、置いたり、保管したりしないでください。
- ・水や他の液体に浸したり落としたりしないでください。
- ・本機器が水に落ちてしまったら触らないでください。すぐに電源コードを抜いてバクスターCAPDコールセンターに電話してください。



1 -2 注意

注意には本機器に損傷を与える可能性のあるものについて記載しています。

【注意1】

機器に悪影響の生じるおそれのある場所に設置しないでください。

- ・温度・湿度、ほこり、塩分、イオウ分などを含んだ空気が機器に悪影響を及ぼします。



【注意4】

年1回の定期点検を行ってください。点検時期についてはバクスターよりご案内いたします。

- ・異常・故障などを未然に防ぎます。



【注意6】

灰色のメンブレン ガasketには、機器と回路の密着性を高めるために小さな穴が開いていますが、性能上問題はありません。



【注意7】

お使いのゆめシステムはバクスターの固定資産です。不適切にお使いいただくと、費用の負担が発生する場合があります。



【注意2】

移動させるときは、振動、衝撃などに注意して運んでください。

- ・故障の原因になることがあります。

【注意3】

清掃を行うときには、シンナー、ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。

- ・機器の表面やプラスチックが変質したり塗装はげることがあります。



【注意5】

使用していない期間がありましたら、使用前に機器が正常に作動することを必ず確認してください。

- ・異常・故障などが見つかった場合には、当社にご連絡ください。



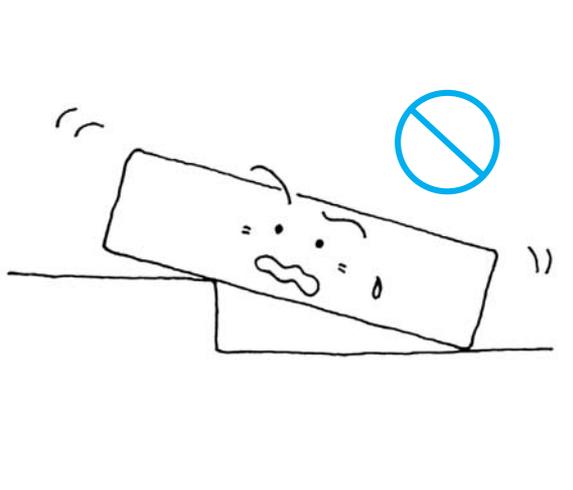
【注意8】

本機器に水滴がついたら直ちにふき取ってください。これにより、水分が内部に入ることを防ぎ不具合を防止します。さらに菌による汚染や不潔な状態も防ぐことができます。

1 安全にご使用いただくために

【注意9】

本機器と透析液バッグが落ちないように、不安定な場所や、振動の激しい場所には設置しないでください。落下により本機器を損傷したり、怪我につながる場合があります。



【注意11】

ご自分で修理しないでください。火事、やけど、感電死や健康被害や死につながる恐れがあります。修理が必要なときは、バクスターCAPDコールセンターまでお電話ください。



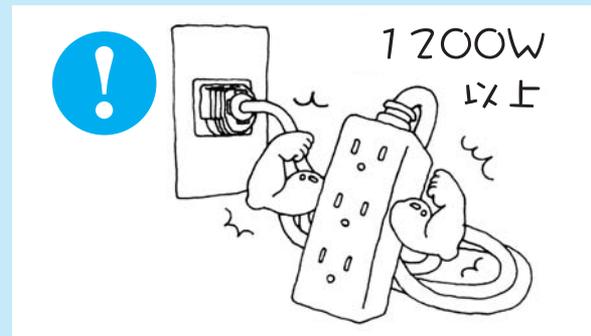
【注意12】

薬品を含んだ消毒剤やエアゾールスプレーなどを使用しないでください。本機器に使用しているプラスチックや表面に損傷が加わることがあります。本機器の外部は中性石鹼と水をつけたきれいな布で拭いてください。使い捨ての機材を使用しているので、使用するたびに機器を殺菌する必要はありません。

【注意10】

電源の延長コードを使用する場合、延長コードの電流容量などに注意してください。

- ・耐環境性の高い、屋外使用の1200W以上のものをお使いください。
 - ・延長コードは2本以上つないで 사용하지しないでください。
 - ・延長コードの長さは3.5m未満のものにしてください。
 - ・ゆめシステムの電源コードの接地ピンが接続できるものにしてください
- これらを守らないと、コードが加熱したり、火事の危険性があります。



【注意13】

製品の廃棄は以下を守ってください。

- ・機器の返品、修理、リサイクルについてはバクスターCAPDコールセンターまでお電話ください。
 - ・返品や廃棄するときにはバクスターCAPDコールセンターに電話してください。
 - ・使い捨ての機材の廃棄は地方自治体の決まりに従ってください。詳細については地方自治体の廃棄の係りにご連絡をお願いします。
- これらに従わない場合、地下水の汚染につながったり、罰金につながったりします。

① -3 ゆめ^{プラス}でカード使用時には、次のことに注意してください。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スパイク式用治療の手順
システムII用治療の手順
くりくんフラッシュ用最終注液前
排液の手順ゆめカバ！ゆめ
クリップの使用
方法処方の確認
・変更方法

【カード使用時の注意1】

必ずカードに記録されている処方内容がご自身の治療内容であることを、かかりつけの病院からカードを受け取られたとき（受診後、退院後など）には確認してください。

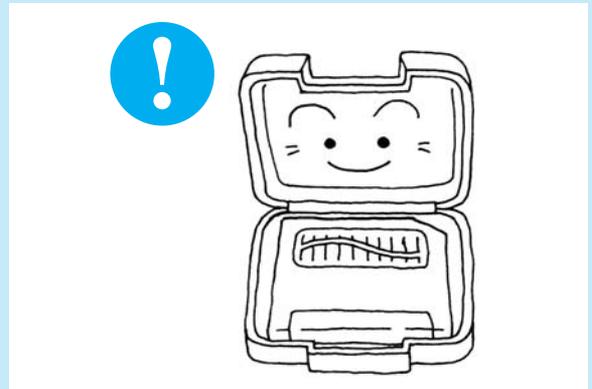
- ・誤ってご自身以外の処方内容で治療を行った場合には、透析量が過不足になる恐れがあります。
- ・誤った処方で行うことで治療結果の判断が困難になる恐れがあります。



【カード使用時の注意2】

カードが折れ曲がらないように持ち運び時には、専用ケースに入れておいてください。

- ・そのまま持ち運ぶとカードが破損する原因となります。



【カード使用時の注意3】

ゆめカードの処方内容が受け付けられなかった場合、「処方の設定終了」のかわりに「処方は無効」の表示が出ます。ゆめ^{プラス}バージョン10.4には、過注液の発生を未然に防ぐような機能が新たに加えられ、今まで許可されていた処方の設定値でも受け付けられなくなることがあります。このような場合、かかりつけの病院に連絡を取り、手で処方設定を入力し治療結果がゆめカードに記載されるようにしてください。

【カード使用時の注意4】

カードを出し入れするときには、本体の電源を切ってください。

- ・カードの情報が読み取れなくなるおそれがあります。



【カード使用時の注意5】

カードを本体に差し込むときには、無理な力を与えないでください。

- ・カードが破損する原因になります。



【カード使用時の注意6】

一度「処方の変更内容を確認◇」の手順が終了したあとで手入力での処方内容を変更すると、カードに記録された処方では治療は行えませんのでご注意ください。

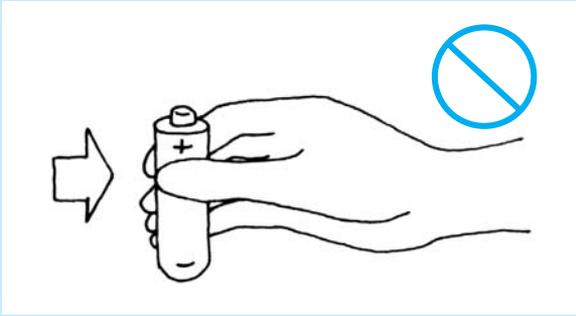
- ・万が一を考えて処方内容は別の紙に書き留めておくことをお勧めいたします。

1-4 電池注意

【電池注意1】

電池は、絶対に分解したり、焼却したりしないでください。

- ・ショートや破裂、液もれなどを起こし、けがややけどの原因になることがあります。



【電池注意3】

内蔵の電池を不用意に交換すると破裂の危険があります。

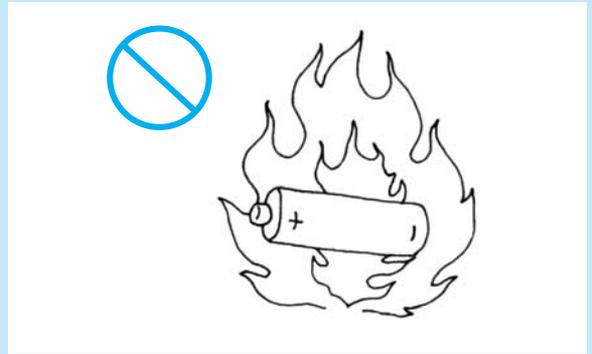


【電池注意4】

電池の交換が必要な場合、バクスターCAPDコールセンターまでお電話ください。

【電池注意2】

内蔵するバッテリーは鉛蓄電池とリチウム電池を使用しています。鉛蓄電池は使用中に自動的に動作確認と充電がなされています。これらのバッテリーは定期点検は不要です。ご自分で交換は行わないでください。



【電池注意5】

鉛蓄電池を内蔵しています。廃棄が必要な場合、バクスターCAPDコールセンターまでお電話ください。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スバイク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くりくんフラッシュ用

最終注射液前
排液の手順

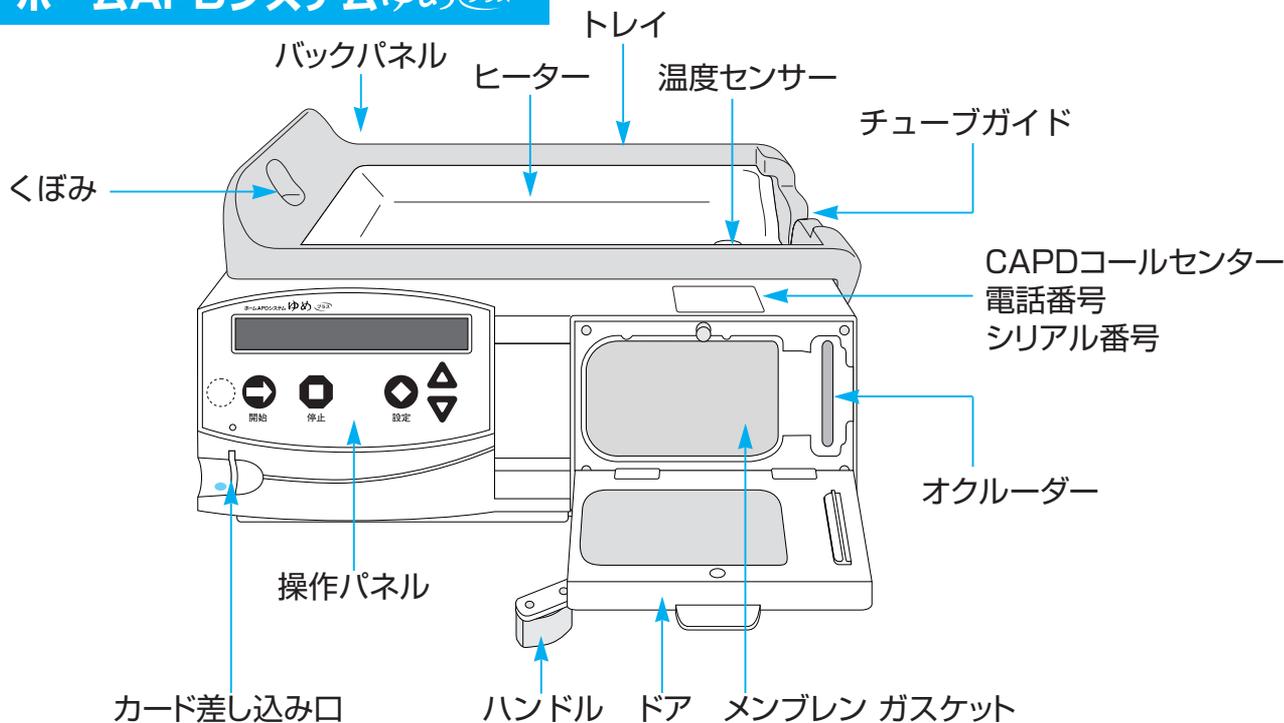
ゆめカバ！・ゆめ
クリップの使用方法

処方の確認
・変更方法

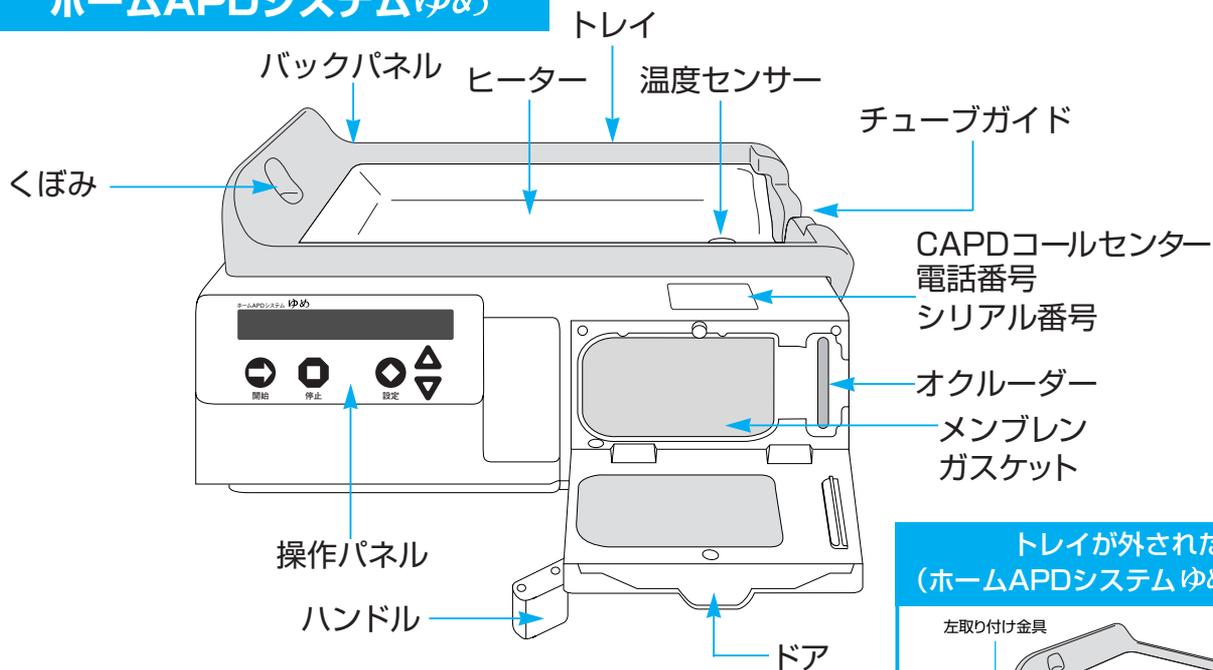
2 各部の説明

2-1 外観

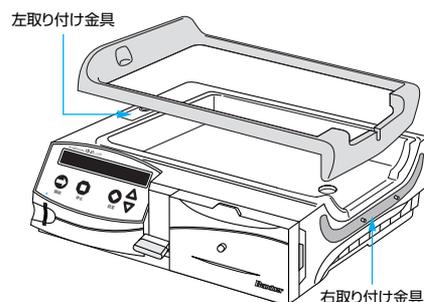
ホームAPDシステムゆめ プラス



ホームAPDシステムゆめ



トレイが外された状態 (ホームAPDシステムゆめ プラス の場合)



警告

ゆめ用トレイとゆめ プラス 用トレイは形状が異なります。取り付けられているトレイ以外のトレイは使用しないでください。外れてけがをするおそれがあります。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スパイク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くりくんフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

ゆめカバー・ゆめ
クリップの使用
方法

処方の確認
・変更方法

トレイ	<ul style="list-style-type: none"> ●ダイアニール-Nをゆめシステムの上で使用するときには必要です。 ●外形の大きいダイアニール-N内の透析液をヒーター上に集めます。
チューブガイド	<ul style="list-style-type: none"> ●透析液バッグのチューブを固定します。
ヒーター	<ul style="list-style-type: none"> ●透析液を加熱します。 ●ヒーターラインを接続した透析液バッグを置くところです。 ●上部右寄りに、温度センサーがあります。
操作パネル	<ul style="list-style-type: none"> ●表示部と操作ボタンがあります。 ●機器の操作を行う部分です。
ドアおよびハンドル	<ul style="list-style-type: none"> ●回路をセットする部分です。 ●ハンドルを上げればドアは開き、下げれば閉まります。 ●ドアは手前に開きます。 ●治療中は開きません。
カード差し込み口	<ul style="list-style-type: none"> ●カードを出し入れするところです。(ゆめプラスのみ)
オクルーダー	<ul style="list-style-type: none"> ●安全機構です。 ●万一の異常のときにカセットのチューブ部分を閉塞させる部分です。
メンブレン ガasket	<ul style="list-style-type: none"> ●カセットを密着させて、陰陽圧をかけるための膜です。
バックパネル	<ul style="list-style-type: none"> ●電源コードをつなぐ差し込み口があります。 ●電源スイッチがあります。
CAPDコールセンター電話番号	<ul style="list-style-type: none"> ●機器についての操作方法およびトラブルが発生した場合の連絡先です。
シリアル番号	<ul style="list-style-type: none"> ●機器に付いている個有の番号です。



注意

ドアは治療中は開きません。無理に開けるとシステムエラーが発生します。ドアを開くためには、治療を終了しなければなりませんので、このときは「治療強制終了」を行ってください。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スライク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くりくんフラッシュ用

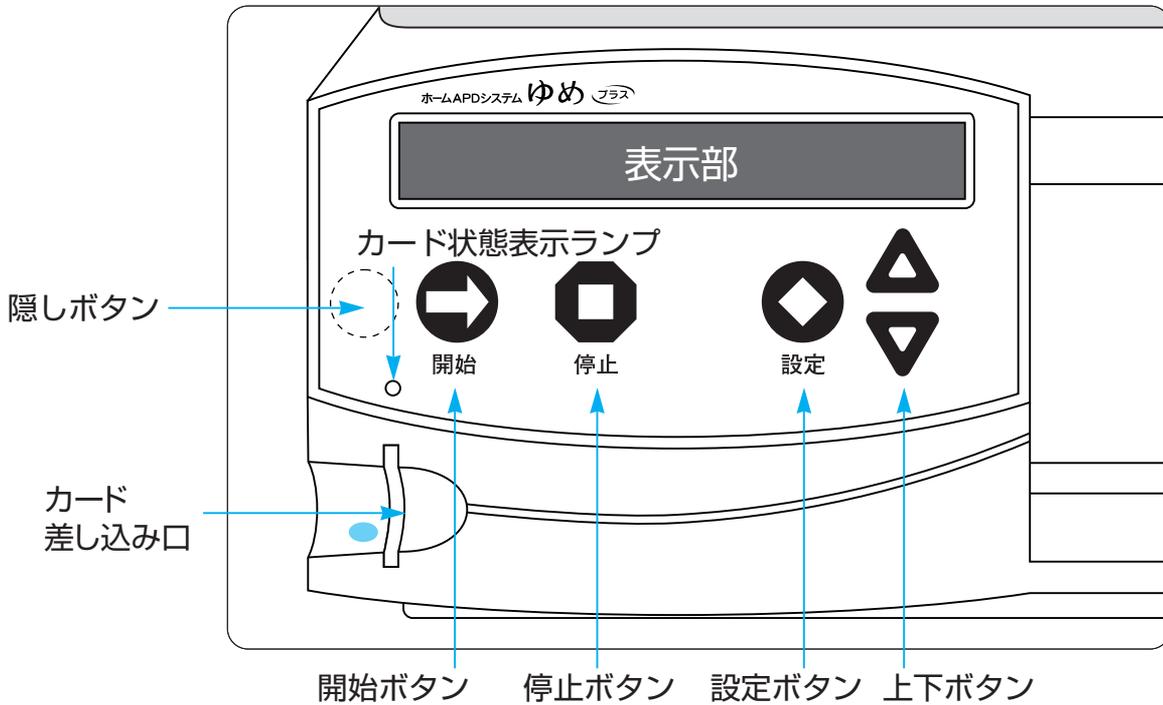
最終注射液前
排液の手順

ゆめカバールゆめ
クリップの使用方法

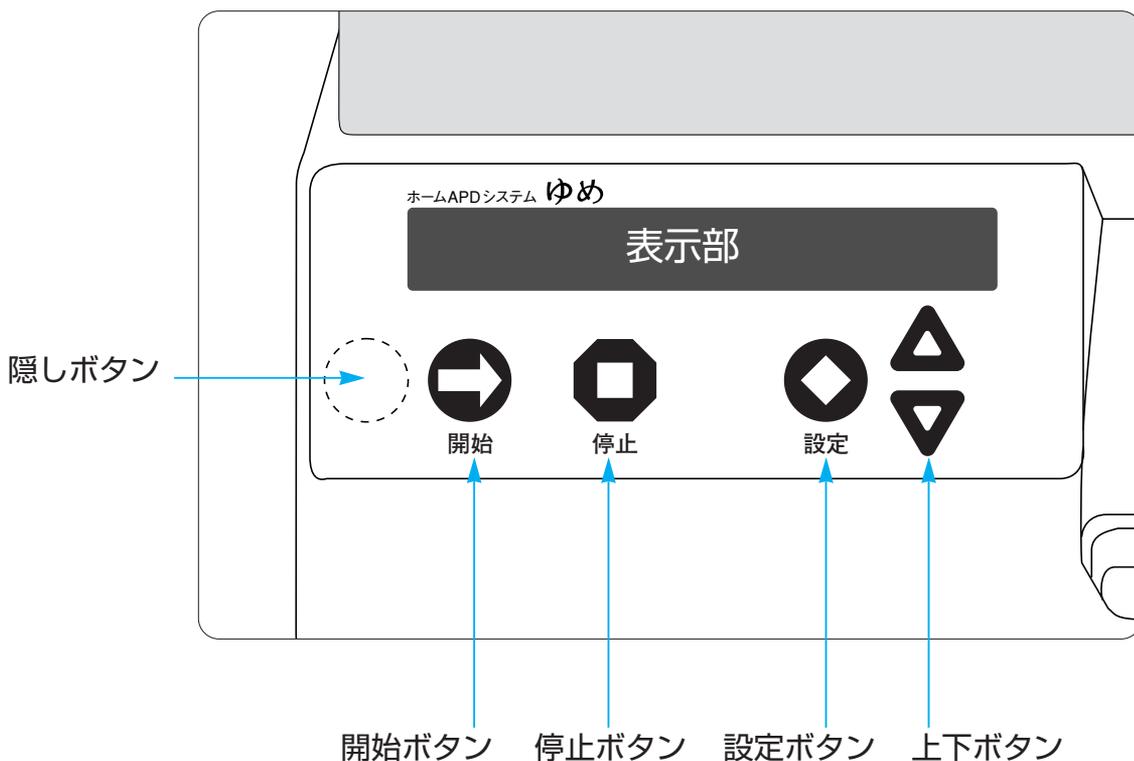
処方の確認
・変更方法

2-2 操作パネル

ホームAPDシステムゆめ^{プラス}



ホームAPDシステムゆめ



表示部

- メッセージや処方を表示します。

操作ボタン

暗い部屋では各ボタンが光ります。



開始

- 緑色のボタンです。
- 次の手順に進むときに使用します。
-  停止ボタンを押して治療を一時停止したあと、治療を再開するときに使用します。



停止

- 赤色のボタンです。
- 治療を一時停止するときやアラームを止めるときに使用します。
- 処方設定メニューや調整メニュー、ナースメニューなどを終了するときに使用します。



設定

- 青色のボタンです。
-   で選択した数値や内容の確定を行うときに使用します。
- 処方設定メニューや調整メニュー、ナースメニューなどに入るときに使用します。



- 上下ボタンです。
- 処方の設定を変えるときや様々な表示を見るときに使用します。

隠しボタン

- 患者さんは通常お使いいただくことはありません。
- ナースメニューを設定するとき、ナースメニューの内容を確認するときに使用します。
- サービスメニューはゆめシステムの点検をするときに使用します。

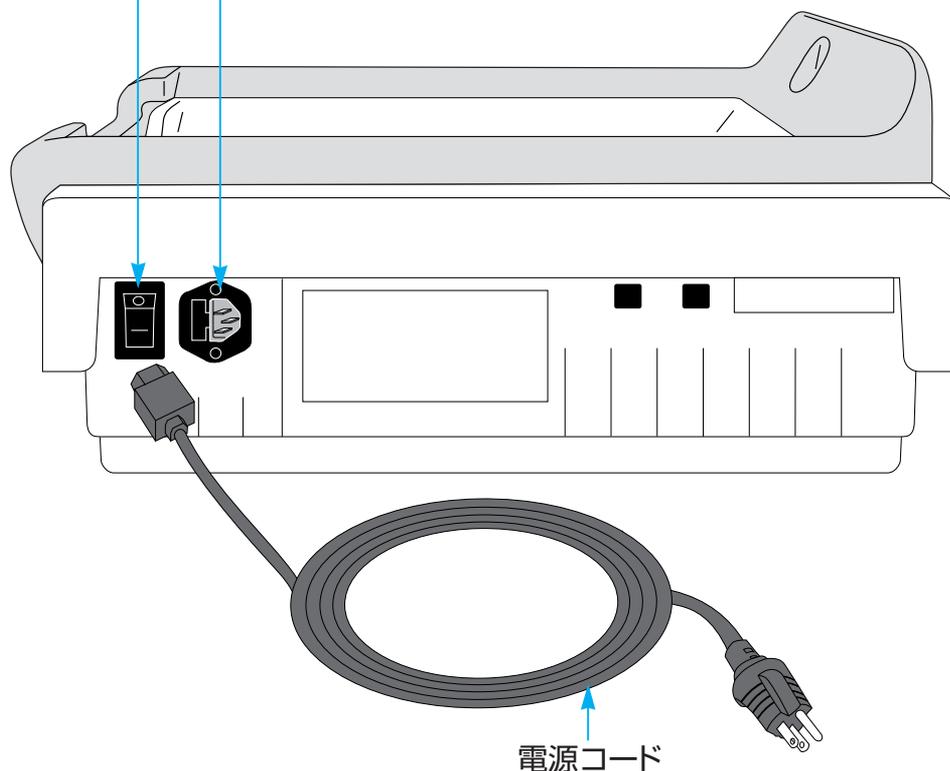
カード状態表示ランプ
(ゆめプラスのみ)

- カードおよびカード読み取り器(カードリーダー)の状態を教えます。
- 緑色 正常な状態です。
カードがきちんと挿入されており、インターフェース(コンピュータとカードリーダーの接合部分)が正しく働いているときに点灯
- 黄色 なんらかの問題が発生しています。
カードかカード読み取り器(カードリーダー)の機能に異常があるときに点灯

2-3 バックパネル（後面）

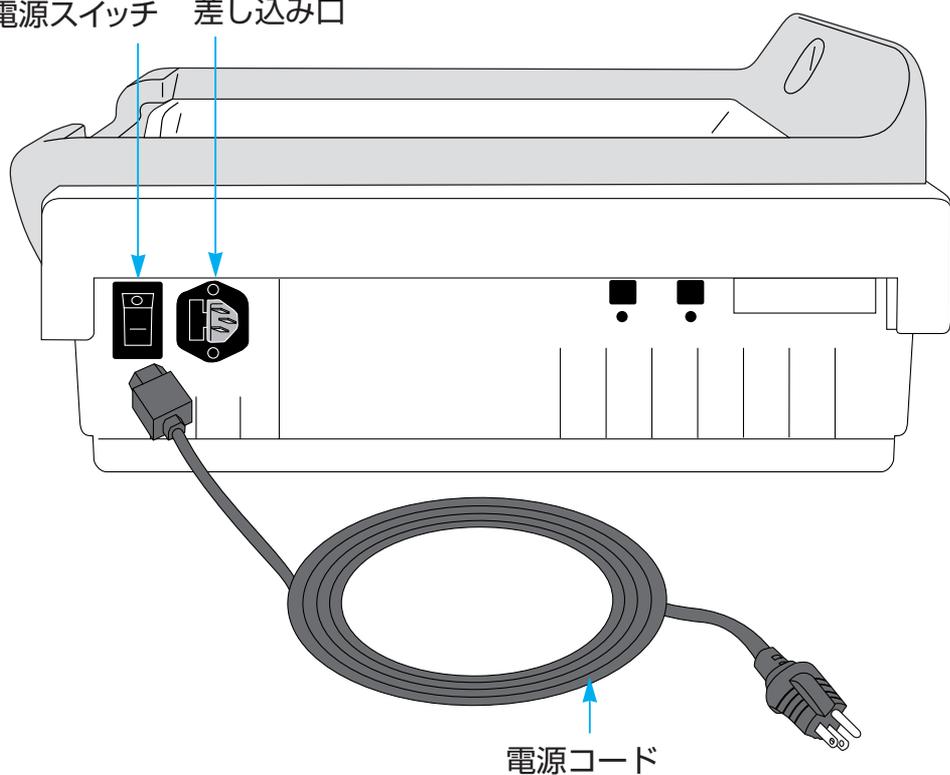
ホームAPDシステムゆめ^{プラス}

電源スイッチ 差し込み口



ホームAPDシステムゆめ

電源スイッチ 差し込み口



電源コード	●取り外し式のアース付きコードです。
差し込み口	●電源コードをつなぐ部分です。
電源スイッチ	● “I” でオン(入り)、“O” でオフ(切り)になります。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スバイク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くりくんフラッシュ用

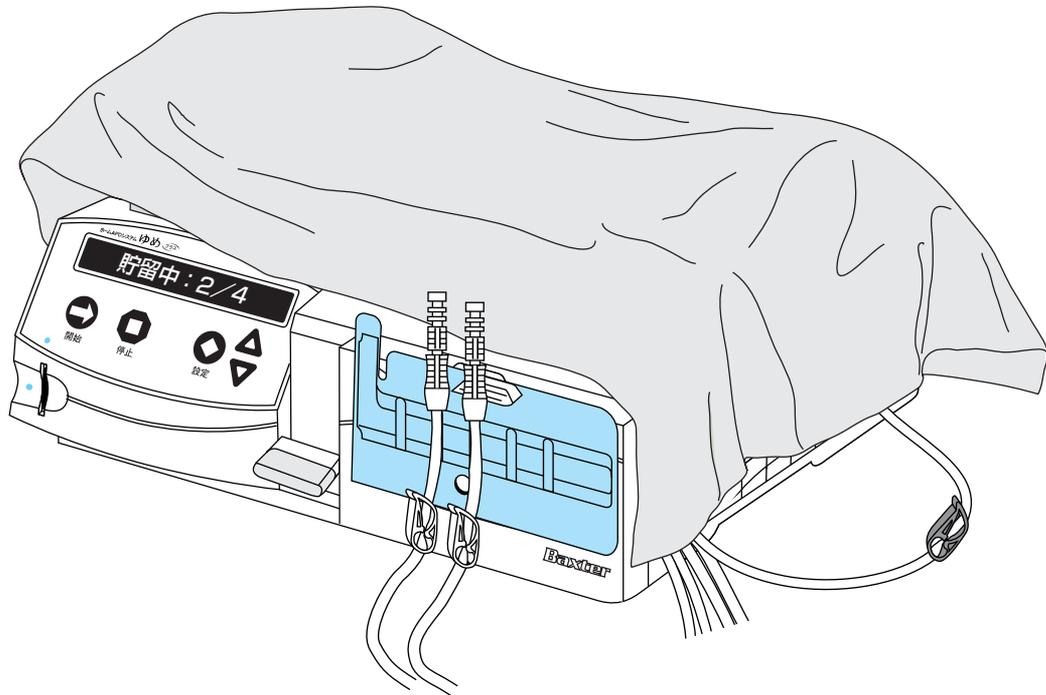
最終注射液前
排液の手順

ゆめカバ！ゆめ
クリップの使用方法

処方の確認
・変更方法

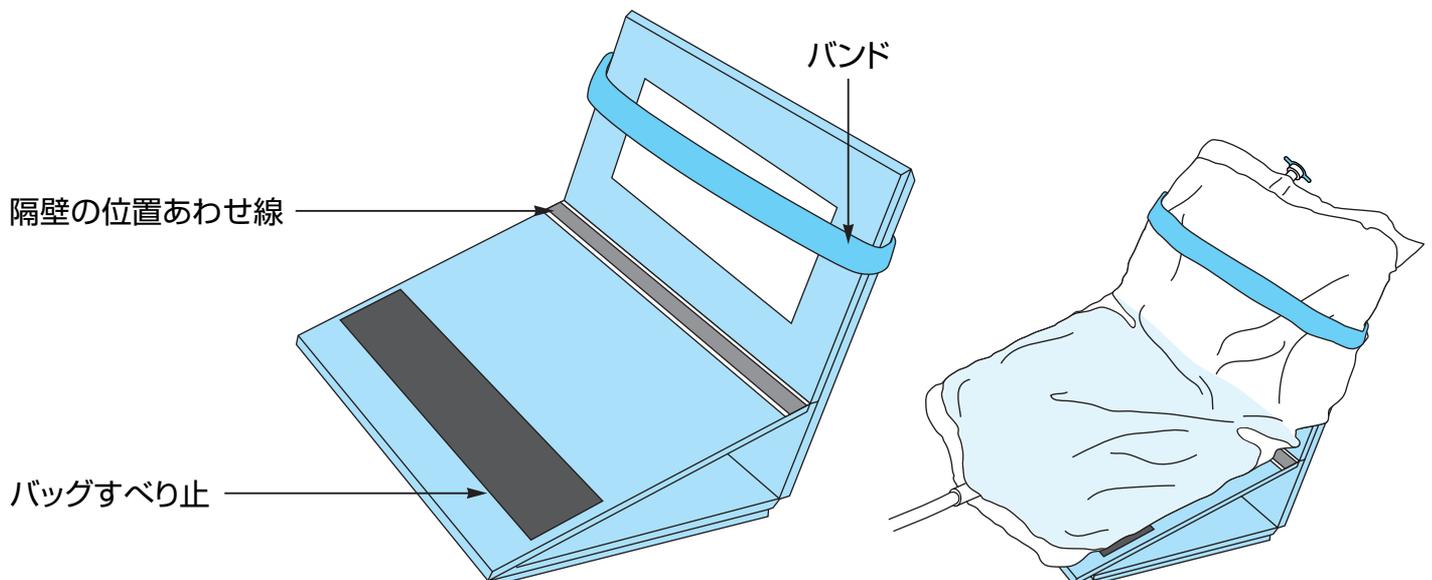
2-4 ゆめカバー

冬季に室温が使用環境条件（15℃）を下回る場合、このカバーでヒーターバッグをおおえば「加温中」アラーム発生頻度を下げることができます。
また、ゆめシステムを治療に使用していない時に目かくしカバーとして使用できます。



2-5 補液用スタンド

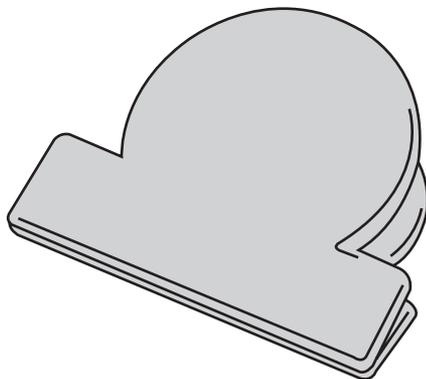
隔壁を開通したダイアニール-Nを補液バッグとして使用する時に使います。補液用スタンドには、5Lバッグなら1個、2.5L以下のバッグなら2個乗せることができます。



②-6 ゆめ用クリップ(黄色; 1Lおよび1.5Lのダイアニール-N用)

1Lおよび1.5Lのダイアニール-Nでは、一度開通させた隔壁が閉じる場合があります、液の流れが悪くなる場合があります。このクリップを隔壁部分に使用することにより、2室の液の流れを確保することができます。

※2L以上のバッグではバッグが大きいためゆめ用クリップを使用する必要はありません。



安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
自動・スバイク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くりくんフラッシュ用

最終注射液前
排液の手順

ゆめカバー・ゆめ
クリップの使用方法

処方の確認
・変更方法

2-7 回路

回路は透析液が通る無菌の経路です。

5バッグ用セット (手動・スパイク式用)

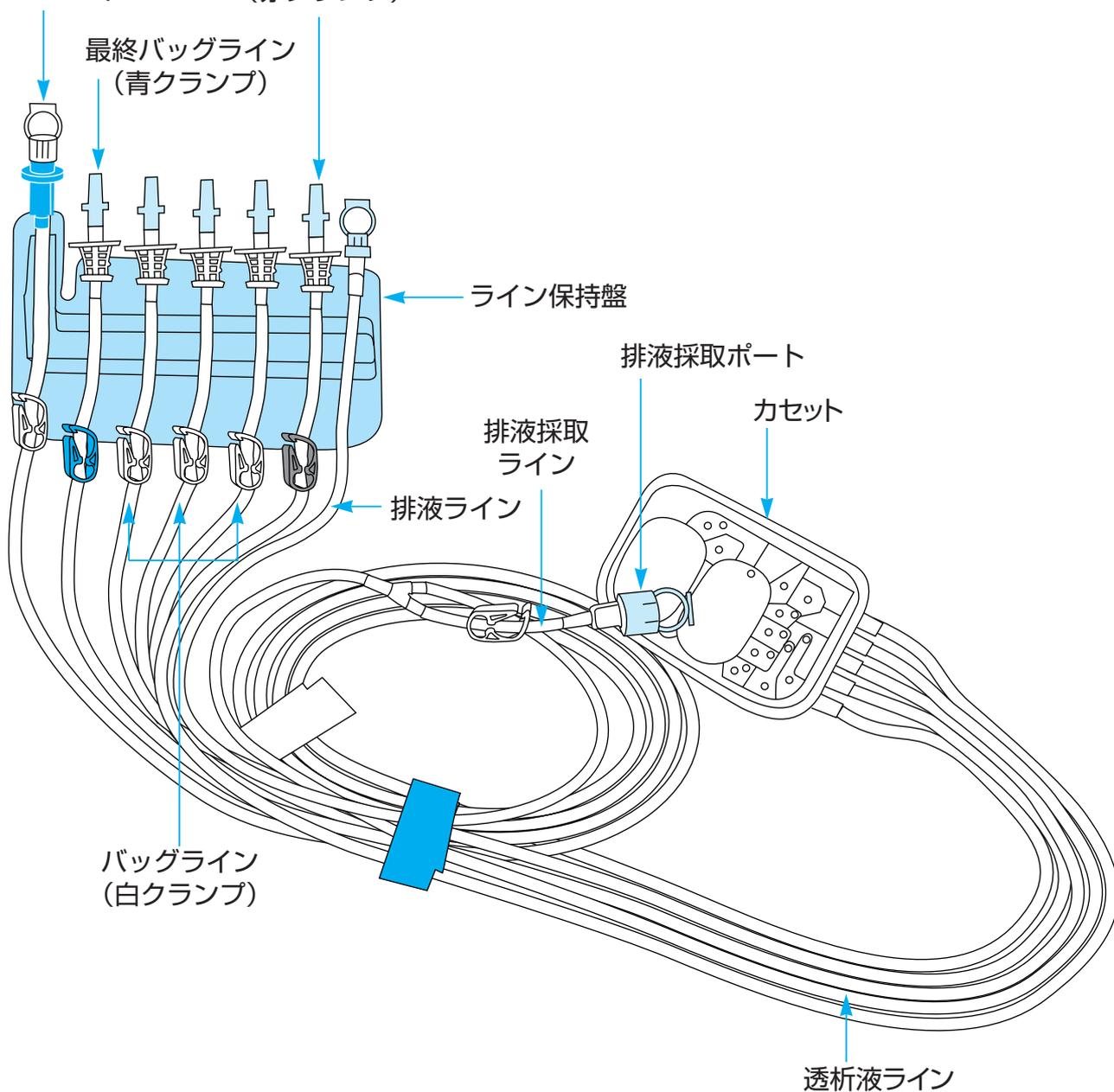
(T5C4452P)

外観

コネクターライン
(白クランプ)

ヒーターライン
(赤クランプ)

最終バッグライン
(青クランプ)



ライン保持盤

排液採取ポート

カセット

排液採取
ライン

排液ライン

バッグライン
(白クランプ)

透析液ライン

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スパイク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くりくんフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

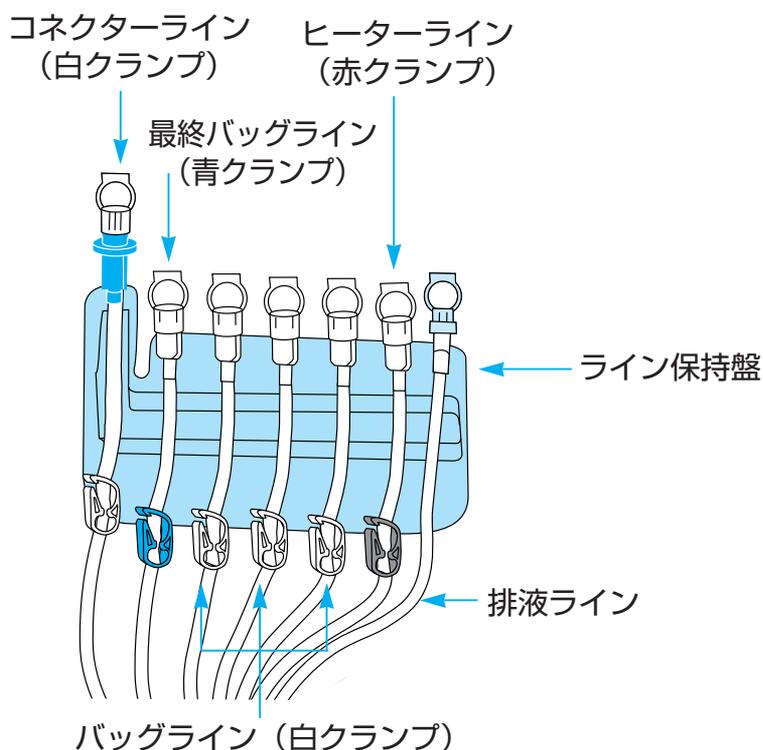
ゆめカバー・ゆめ
クリップの使用
方法

処方の確認
・変更方法

システムII 5バッグ用セット (システムII用)

(T5C4501)

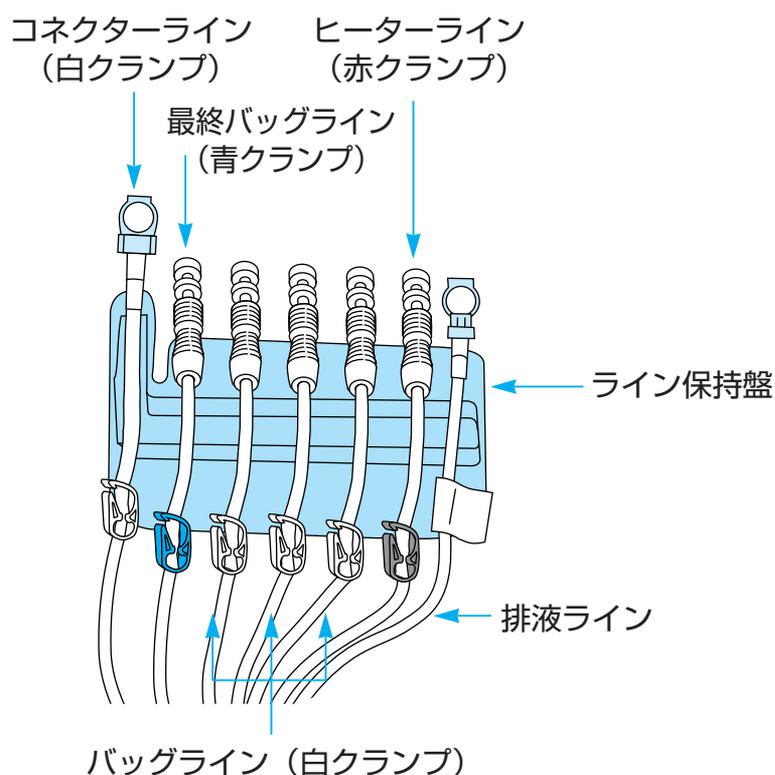
外観



UVフラッシュ 5バッグ用セット (くり～んフラッシュ用)

(T5C4500P)

外観

安全にご使用
いただくために

各部の説明

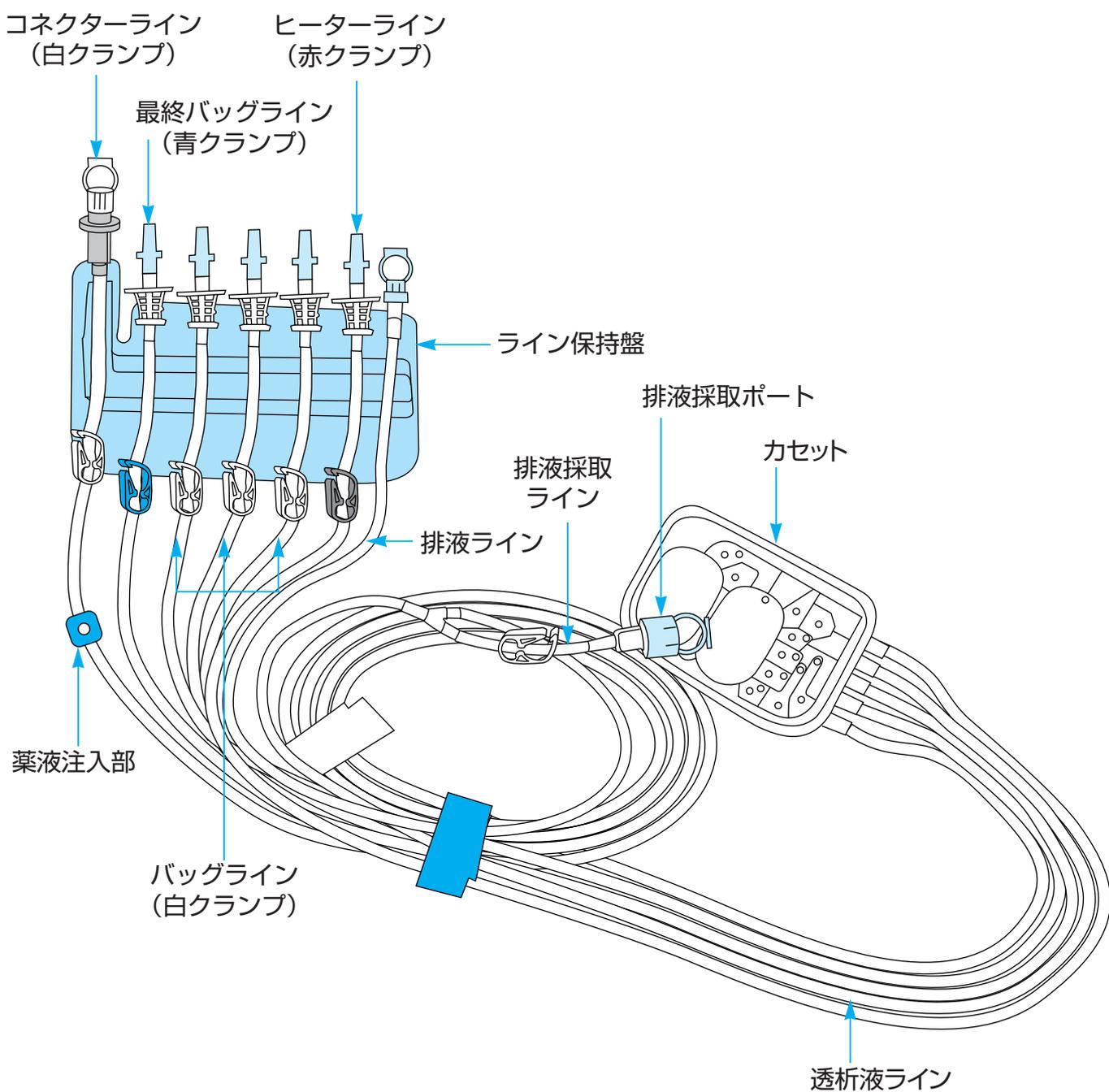
ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スパイク式用治療の手順
システムII用治療の手順
くり～んフラッシュ用最終注射液前
排液の手順ゆめカバ！ゆめ
クリップの使用方法処方の確認
・変更方法

5バッグ用 少注液量セット (手動・スパイク式用)

(T5C8304)

外観



安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
自動・スパイク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くり〜んフラッシュ用

最終注射液前
排液の手順

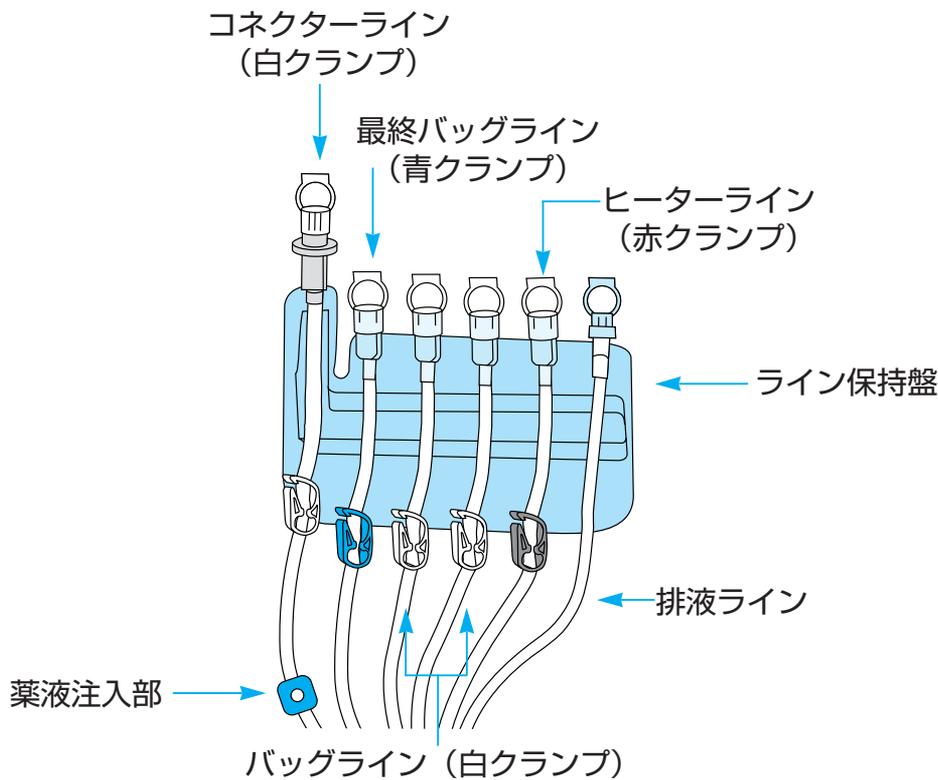
ゆめカバ！ゆめ
クリップの使用方法

処方の確認
変更方法

システムII 4バッグ用 少注液量セット (システムII用)

(R5C8303)

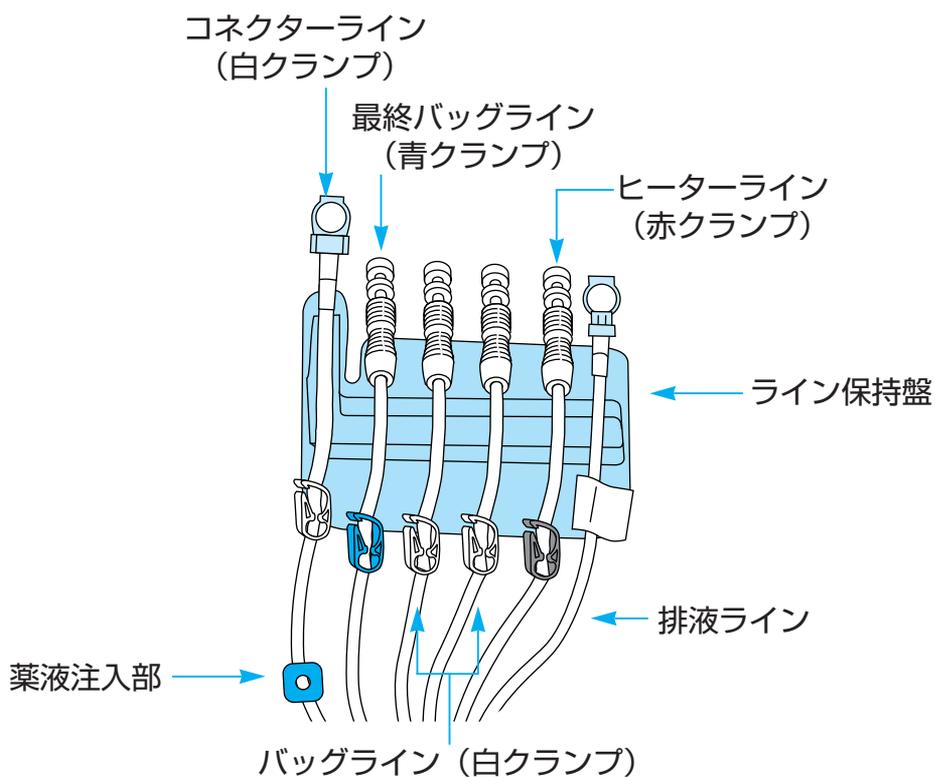
外観



UVフラッシュ 4バッグ用 少注液量セット (くり〜んフラッシュ用)

(T5C8306)

外観

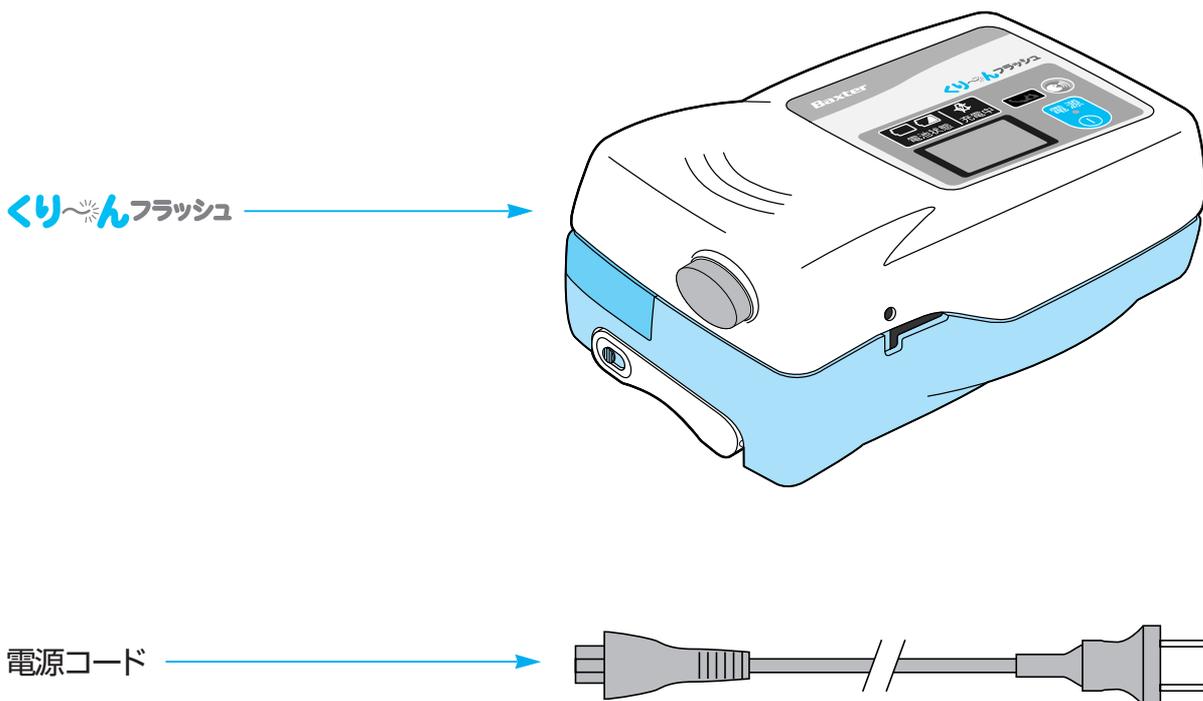


透析液ライン	<ul style="list-style-type: none"> ●透析液バッグ、接続チューブおよび排液タンク（排液バッグ）をつなぎます。
カセット	<ul style="list-style-type: none"> ●液の流れを制御するためのバルブがあります。 ●ドア内側にはめ込まれます。
ライン保持盤	<ul style="list-style-type: none"> ●透析液ラインが使用する順に並べられています。 ●透析液ラインの先端が床に付かないようにしてあります。 ●準備するときに、ドアの表面に取り付けます。
排液採取ポート	<ul style="list-style-type: none"> ●無菌的に排液を採取するときに、排液採取用セットを接続します。
薬液注入部	<ul style="list-style-type: none"> ●薬液を注入する時に使います。（少注液量セットのみ）
排液ライン	<ul style="list-style-type: none"> ●排液バッグまたは排液タンクに接続します。 ●一番右端にあり、クランプは付いていません。 ●排液サンプルポートが付いています。 排液サンプルラインには白いクランプが付いています。
ヒーターライン	<ul style="list-style-type: none"> ●ヒーターに乗せる透析液バッグと接続するラインです。 ●赤いクランプが付いています。
バッグライン	<ul style="list-style-type: none"> ●補液用の透析液バッグを接続します。 ●3本ラインがあります。（システムII 4バッグ用 少注液量セットは2本） ●白いクランプが付いています。
最終バッグライン	<ul style="list-style-type: none"> ●最終注液の透析液濃度・種類を変更する場合に、濃度・種類の違う透析液バッグを接続します。 ●最終注液の透析液濃度・種類を変更しない場合には、バッグラインとして補液用の透析液バッグを接続することができます。 ●青いクランプが付いています。
コネクターライン	<ul style="list-style-type: none"> ●患者様の接続チューブと接続します。 ●ライン保持盤の左端にあり、白いクランプが付いています。

2-8 くり～んフラッシュ

くり～んフラッシュは、CAPD/APD治療における透析液交換のとき、紫外線の照射による殺菌作用で接続部を殺菌し、自動的に接続部の切り離しと接続が行えるシステムです。詳細はUVフラッシュ オートくり～んフラッシュ 取扱説明書を参照してください。

外観



くり～んフラッシュ

- 紫外線照射器です。
- 透析液バッグ交換時に接続部を紫外線により殺菌したうえで自動的に接続します。

電源コード

- くり～んフラッシュ と家庭用電源コンセント(AC100V)を接続します。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
自動・スバイク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くり～んフラッシュ用

最終注射液前
排液の手順

ゆめカバー・ゆめ
クリップの使用
方法

処方の確認
・変更方法

2 各部の説明

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スパイク式用

治療の手順
システムII用

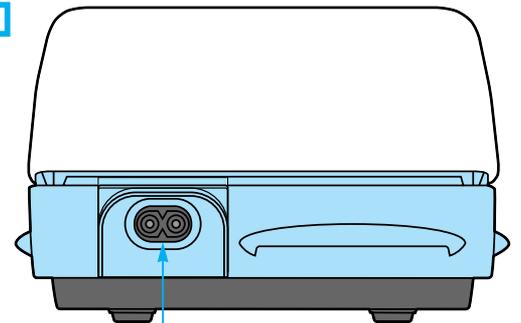
治療の手順
くり～んフラッシュ用

最終注射液前
排液の手順

ゆめカバー・ゆめ
クリップの使用方法

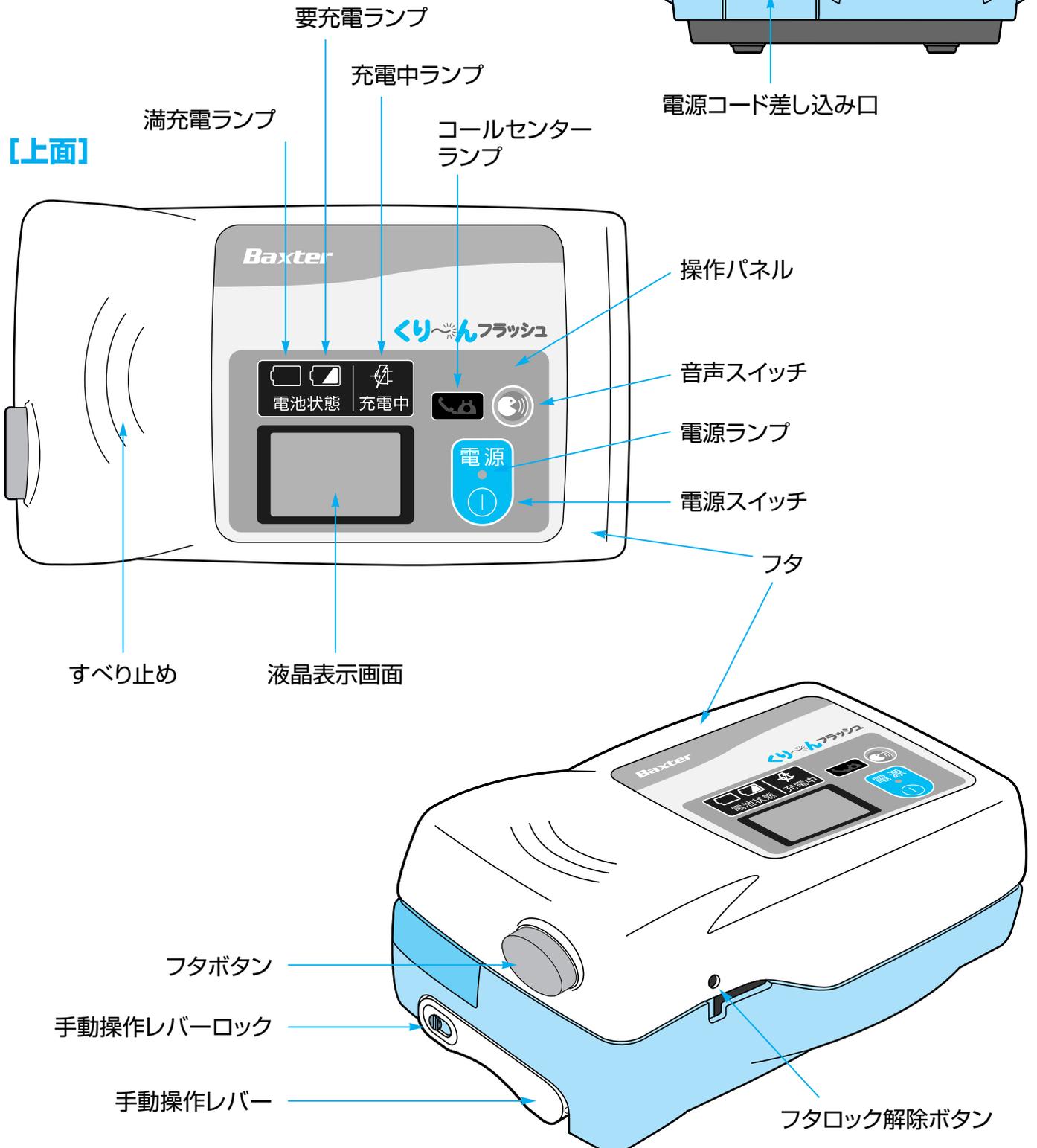
処方の確認
・変更方法

【右側面】



電源コード差し込み口

【上面】



満充電ランプ	電池が満充電のとき緑色に点灯します。
要充電ランプ	電池の残量が減ってきたとき赤色に点灯します。
充電中ランプ	本機器をコンセントに接続すると黄色に点灯します。同時に充電を行います。
コールセンターランプ	異常発生時に点灯します。
音声スイッチ	音声を繰り返すことができます。また押し続けることにより、音量の調節やコールセンター機能に切り替えられます（バクスターCAPDコールセンターの指示に従ってください）
液晶表示画面	作動中のメッセージやエラー番号を表示します。
電源スイッチ	約1秒間押すと電源が入ります。
電源ランプ	電源が入るとランプ（緑色）が点灯します。
電源コード差し込み口	電源コードのソケットを差し込みます。
フタ	接続、切り離し時に開閉します。
フタボタン	フタをロックします。押すとロックは解除されます。
手動操作レバーロック	手動操作レバーのロックを開閉します。通常は使用しません。
手動操作レバー	手動で操作する場合に使用します。通常は使用しません。
フタロック解除ボタン	フタのロックを解除します。通常は使用しません。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スバイク式用治療の手順
システムII用治療の手順
くりんフラッシュ用最終注液前
排液の手順ゆめカバ！ゆめ
クリップの使用方法処方の確認
・変更方法

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スパイク式用

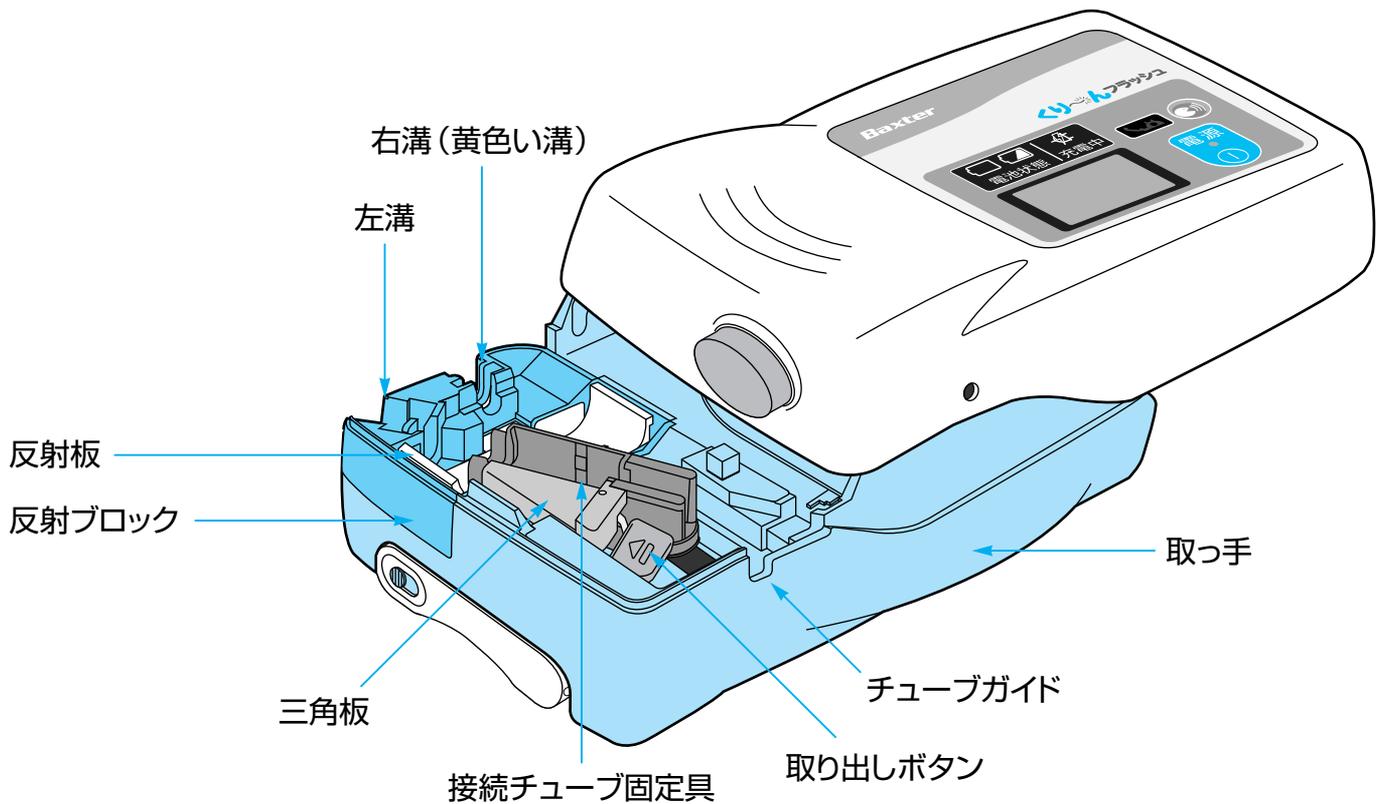
治療の手順
システムII用

治療の手順
くりへんフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

ゆめカバールーム
クリップの使用方法

処方の確認
変更方法



みぎみぞ 右溝 (黄色い溝)	接続しようとする器材を装着します。
ひだりみぞ 左溝	切り離そうとする器材を装着します。
反射板	紫外線を効率的に反射します。反射板はフタの中にもついています。
反射ブロック	反射板などの洗浄のとき、機器本体から外せます。
接続チューブ固定具	接続チューブのツイストクランプ部を装着し、固定します。
取り出しボタン	接続チューブ固定具から器材を取り外すときに押します。
三角板	接続チューブの装着を補助します。
チューブガイド	接続チューブのチューブ部分を置きます。
取っ手	機器本体が持ちやすいように突起が出ています。

3 ゆめプラス

3-1 ゆめプラスについて

ゆめプラスは、コンピューター化された記録機能を搭載することで、家庭での腹膜透析をさらに簡単に行えるようにしました。

ゆめプラスの本機器の取り扱い説明時に、かかりつけの医療機関からカード（機器に装着する小さな電子カード：スマートメディア）を渡されます。カードには、処方の内容が記憶されています。ご使用になる機器にカードを差し込み、電源を入れると処方の内容を簡単に本機器に写し取ることができます。

本機器は、治療終了時にすべての注液、貯留、排液などの治療結果をカードに記憶します。もし記録ノートに写し忘れた場合でも心配はいりません。カードには約2ヵ月分以上の治療結果を記録することができます。

この機能により、処方入力の煩わしさから解放されるとともに、より多くの情報をかかりつけの病院に提供することができるようになります。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
自動・スバイク式用治療の手順
システムII用治療の手順
くりくんフラッシュ用最終注液前
排液の手順ゆめカバ！・ゆめ
クリップの使用方法処方の確認
・変更方法

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スパイク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くりくんフラッシュ用

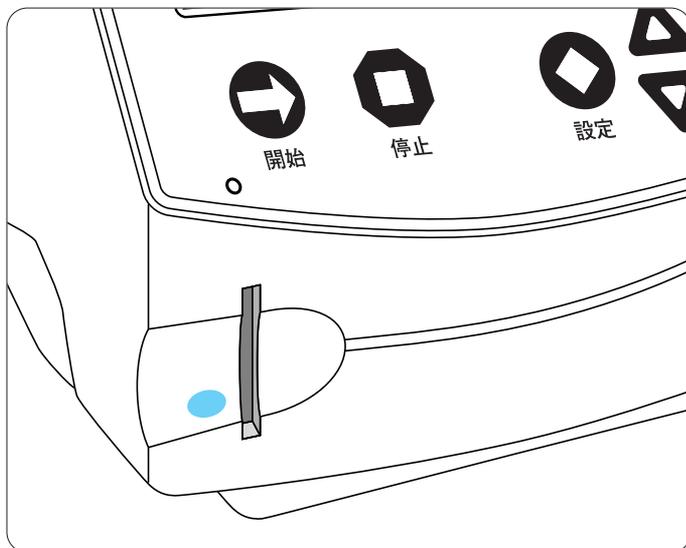
最終注液前
排液の手順

ゆめカバー・ゆめ
クリップの使用
方法

処方の確認
・変更方法

3-2 ゆめプラスの外観

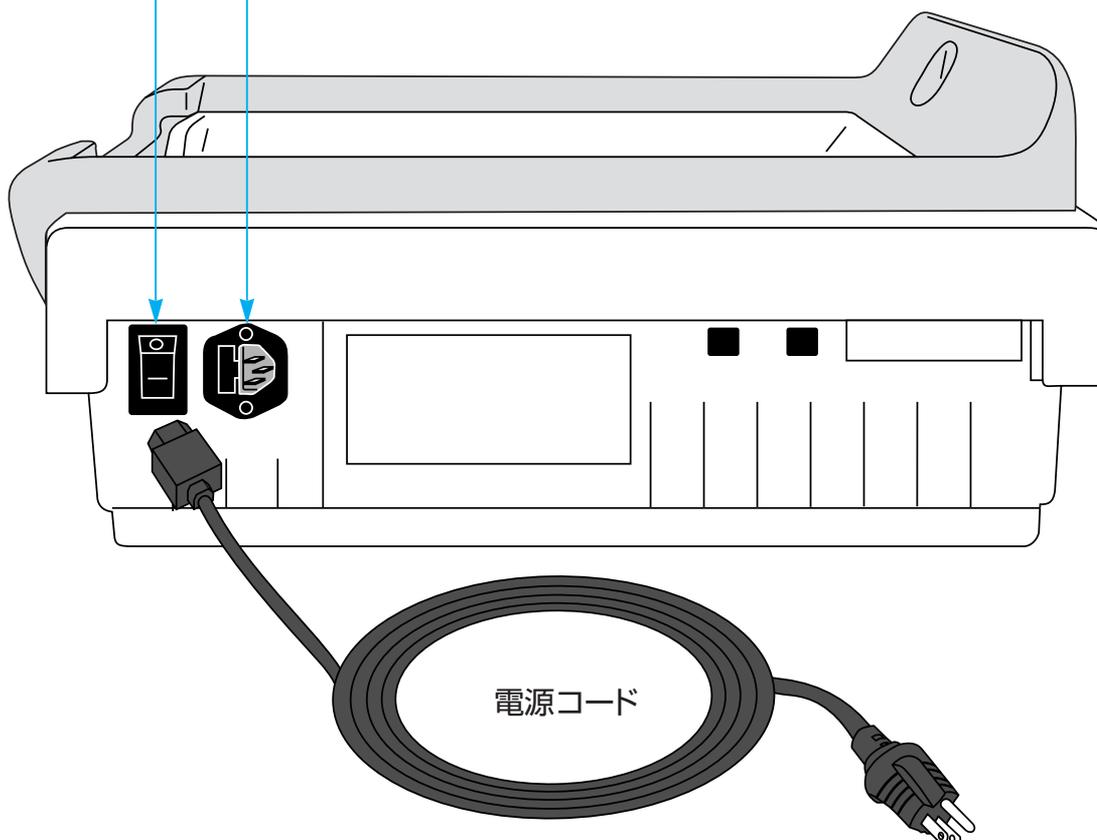
【カード差し込み口】



【バックパネル（後面）】

電源スイッチ

差し込み口



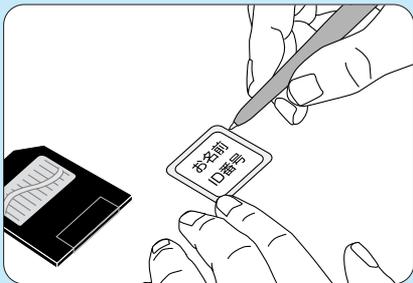
3-3 ゆめカードについて

【カードの使用方法】

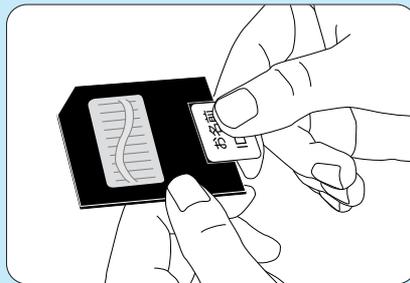
カードにはご自身の処方内容が入力されています。かかりつけの病院で、ご自身のカードを渡されます。ご家庭に戻り、電源を切ったゆめプラスにカードを差し込んでください。簡単な手順で処方内容の移すことができます。さらにカードには治療の結果を記録することができますので、外来受診日までそのまま入れておき、外来受診日にカードを取り出し病院に持参してください。

カードの取り扱いについて —かかりつけの医療機関スタッフの方へ—

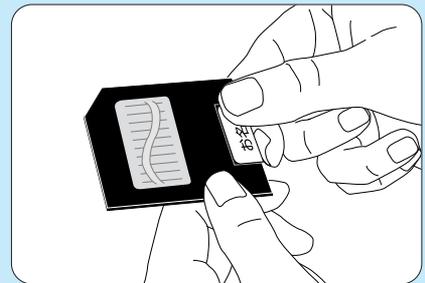
カードに処方を書き込んだあとには、忘れずに同梱されている専用シールに患者様のお名前とID番号（PD リンクデータ管理システムで設定）をご記入のうえ、カードに貼り付けて、お渡してください。



専用シールにお名前とID番号を記入する



指定の位置にシールを貼る

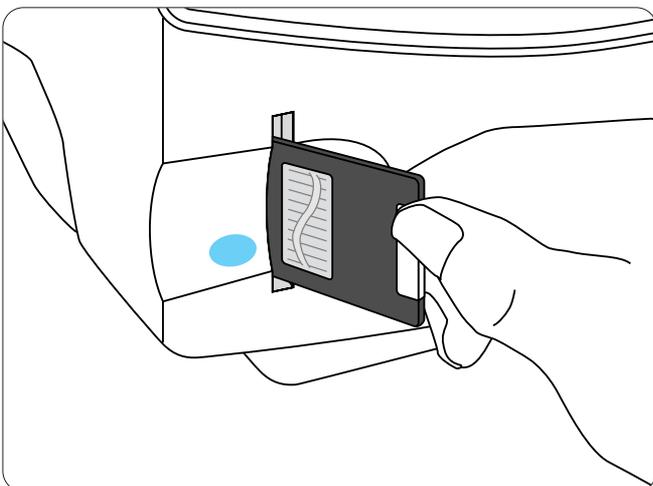


【カードの取り扱い】

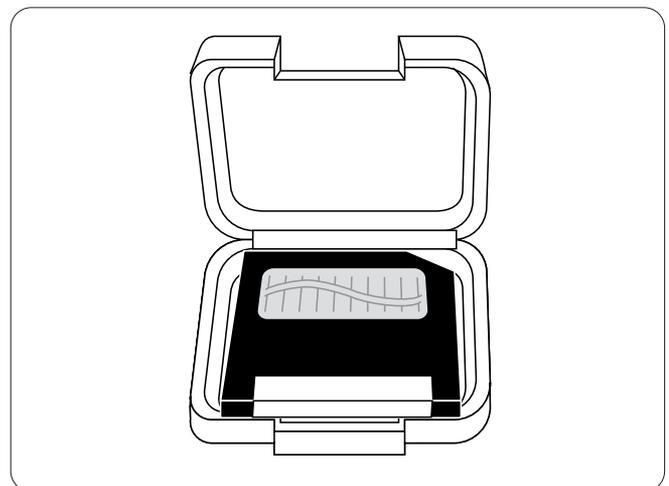
カードは取り扱いがしやすいように小さく、耐久性に富んでいますので、持ち運びにも便利です。外来受診日までゆめプラスの中にそのまま入れておきます。

なお機器の定期点検時や故障などによる交換時は、カードを忘れずに本体より抜いて新しい機器に入れ直してください。

カードは電源を切り、カード状態表示ランプが消灯していることを確認してから抜き差ししてください。



カードの挿入は金色の面が左を向くようにして入れます。



カードは専用のケースに収納します。

【カードの携帯方法】

カードを取り出すときには、機器本体の電源スイッチを切ります。
差し込み口よりカードをそっといねいに取り出し、専用ケースに収納します。輸送途中で折れ曲がらないよう注意してください。



取り扱いに関する注意

注意

- * カードを出し入れするときには、本体の電源を切って5秒以上たってからカード状態表示ランプが消灯していることを確認してからにしてください。
- * カードを差し込むときには、無理な力を与えないでください。
- * カードは折り曲げないようにしてください。
- * カードを携帯するときには、専用ケースに入れておいてください。
- * ゆめプラスの定期点検時や故障などによる交換時は、カードを忘れずに本体より抜いて新しいゆめプラスに入れ直してください。
- * なるべくカードの金色部分には素手で触らないようにしてください。
- * カードは磁石に近づけないでください。

【ゆめプラスを交換する場合】

機器本体を交換する場合には、古い機器より必ず「カード」を抜き新しい機器に「カード」を差し込み電源を入れます。(本冊子の50ページをご参照ください)

「カード内容を確認 ◇」と表示されたら「カード内容を確認 ◇」の手順(本冊子の52ページをご参照ください。)に従って確認を行ってください。確認が終了しましたら、新しい処方の内容が機器に写し取られ、カードに記録されている処方内容で治療を行うことができます。



注意

ゆめカードの処方内容が受け付けられなかった場合、「処方の設定終了」のかわりに「処方は無効」の表示が出ます。ゆめプラスバージョン10.4には、過注液の発生を未然に防ぐような機能が新たに加えられ、今まで許可されていた処方の設定値でも受け付けられなくなることがあります(*)。このような場合、かかりつけの病院に連絡を取り、手で処方設定を入力し治療結果がゆめカードに記載されるようにしてください。

(*) 今まで許可されていたが、バージョン10.4で受け付けできなくなった設定値

- タイダル療法で「総除水量：0mL」
(バージョン10.4での最小値は10mLとなっています)
- タイダル療法で「タイダル量：5～35%」
(バージョン10.4での最小値は40%となっています)
- 新たに入力する「患者体重」から算出される注液量を超える注液量
(表15-3をご参照ください)

3-4 退院後・受診後の手順

「カード内容を確認◇」の手順

かかりつけの病院からカードを受け取られたとき（受診後、退院後など）には、必ずカードに書かれている内容が、ご自身の治療内容であることを確認してください。

これらの確認は以下のときに行います。

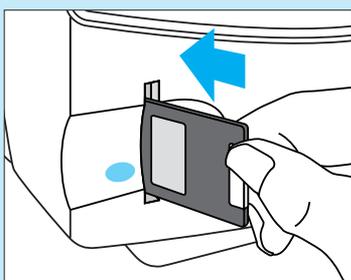
1. 初めてカードを受け取ったとき
2. 新しいゆめプラスにカードを入れたとき

確認方法

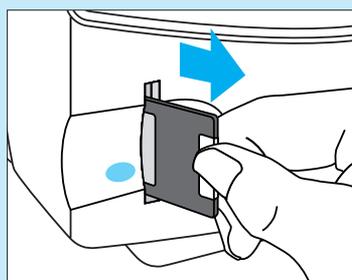
- 手順 1** 機器の電源が入っていないことを確認し、カードを差し込みます。
- 手順 2** 機器の電源を入れます。
- 手順 3** 「カード内容を確認 ◇」が表示されたら ◆ 設定ボタンを押します。
- 手順 4** 氏名が表示されます。◆ 設定ボタンを押します。
- 手順 5** ID番号が表示されます。◆ 設定ボタンを押します。
- 手順 6** 「処方の変更内容を確認 ◇」が表示されます。

ポイント カードの出し入れ方法

カードを入れる



カードを取り出す



注意

カードを出し入れするときには、機器の電源を切ってください。

カードの情報が読み取れなくなるおそれがあります。

カードを本体に差し込むときには、無理な力を与えないでください。カードが破損する原因になります。



確認

患者様の氏名・ID番号が違っている場合には、◆ 停止ボタンを押し、操作を中断してください。「カードの使用中止」の表示が出ます。このときにアラームが鳴り「設定確認▽後 治療開始→」の画面に戻ります。「カードの使用中止」の表示が出たときには、そのまま約5秒後に「設定確認▽後 治療開始→」の表示になります。この場合カードに記されている処方内容での治療を行うことはできず、また結果の記録もできません。かかりつけの病院にカードの内容が誤っていることを連絡し、指示に従って処方を入力してください。

【「処方の変更内容を確認 ◇」の手順】

カードの内容に変更があった場合には、「処方の変更内容を確認 ◇」の表示が出ます。
この表示は、設定内容が変更されている場合にだけ表示されます。変更内容が正しければ  設定ボタンを押してください。（下記例参照ください）



表示された内容に誤りがあった場合には、 停止ボタンを押すと「カードの処方使用中 止」が表示されます。その場合にはかかりつけの病院にカードの内容が誤っていることを連絡し、指示に従って処方を入力してください。

CCPD/IPD療法の表示内容例を示しました。
タイダール療法・ハイブリッド療法・ハイブリッドタイダール療法の確認方法も同様に行えます。

例：CCPD/IPDの処方確認例

ボタン操作	表示	備考
ゆめプラスの電源を入れます		
 を押す		かかりつけの病院で入力された氏名が漢字・仮名・ローマ字のいずれかで表示されます。
 を押す		
 を押す		ここでは確認を行うだけで処方を変更することはできません。
 を押す		
 を押す		
 を押す		
 を押す		



注液量は「 -13 注液量の最大値を決める」で表されたドライウェイトごとの最大注液量を超えることはできません。注液量をこの表の値を超えて入力しなくてはならない場合、かかりつけの病院にお問い合わせください。

ボタン操作	表示	備考
◆を押す	最終注液量：○○○○ ml	
◆を押す	最終注液濃度変更：ナシ	最終注液量が0mLの場合、このメッセージは表示されません。
◆を押す	排液の限度：○○ %	
◆を押す	モード：○○	
◆を押す	除水不良の限度：○○%	ここから2つのステップは、「標準モード」時には表示されません。「少液量モード」時に表示されます。
◆を押す	除水量の上限：○○○○ ml	
◆を押す	しばらくおまちください	自動的に表示が変わります。
	サイクル数：○	
	貯留時間：○○時間○○分	
	処方の設定終了	

アラームが鳴り 自動的に表示	標準モードで作動します	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体重・血圧などの追加情報がない場合、動作するモード（標準／少液量）が表示されます。 2. 体重・血圧などの追加情報がある場合、「体重○○.○kg」の表示になります。入力方法の詳細については次ページを参照してください。 3. すべての設定値が受け付けられ、ゆめプラスに移ると、動作するモード表示の後「設定確認▽後 治療開始→」表示となり、治療の準備ができたことを示します。治療の手順は④～⑥を参照してください。
	設定確認▽後 治療開始→	



注意

一度「**処方の変更内容を確認 ◆**」の手順が終了したあとで、手で処方内容を変更すると、変更された内容がゆめカードの「変更処方」ファイルに記録されます。もともと記録されていた「処方」は変更されず、そのままゆめカードに残ります。



確認

次回受診時までカードは機器の中に入れておいてください。



確認

ゆめカードの処方内容が受け付けられなかった場合、「**処方の設定終了**」のかわりに「**処方は無効**」の表示が出ます。ゆめプラス バージョン10.4には、過注液の発生を未然に防ぐような機能が新たに加えられ、今まで許可されていた処方の設定値でも受け付けられなくなることがあります。このような場合、かかりつけの病院に連絡を取り、手で処方設定を入力し治療結果がゆめカードに記載されるようにしてください。

3-5 日常の手順（体重等、追加情報を入力する場合）

ゆめプラスは、追加情報（体重・血圧・手動交換）を入力することができます。
かかりつけの病院の指導により、日々の体重・血圧・手動交換の内容を機器に入力します。
入力は、**◆** 設定ボタンと **▲ ▼** ボタンを使用していきます。

追加情報入力の基本手順

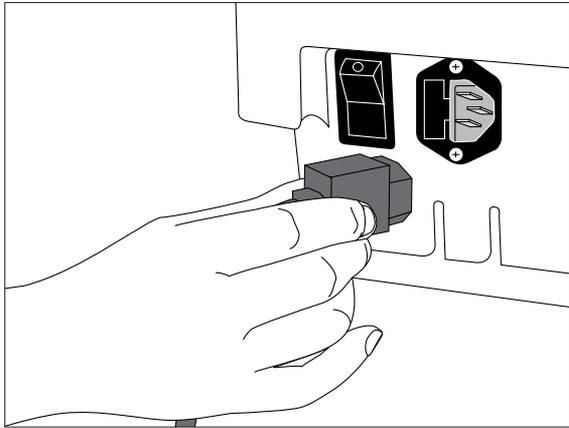
- 手順 1** 入力が必要な表示が出たら **◆** 設定ボタンを押します。数値が点滅します。
*表示には、前日の値が入力されていることもあります。
追加情報を入力しない場合には、「**体重:○○.○KG**」の表示で **■** 停止ボタンを押し「**設定確認▼後 治療開始→**」の表示にさせて治療を開始します。
- 手順 2** **▲ ▼** ボタンを使用して、点滅している数値を変更します。
- 手順 3** 数値を入力し終わったら **◆** 設定ボタンを押します。
数値の点滅が点灯に変わり、数値が記録されます。
- 手順 4** **▼** ボタンを押し次の表示に移ります。（**▼** ボタンを押しても次の表示に移らなければ追加情報の入力は終了です。）
- 手順 5** すべての入力が終わったら **■** 停止ボタンを押します。モード表示（標準／少液量）の後、「**設定確認▼後 治療開始→**」の表示になります。

入力した数値は、その日のゆめプラスでの治療結果とともにカードに記憶されます。
入力した数値を変更したい場合には、治療を開始する前に電源を切り、再度入れ直します。

【ゆめプラスの治療開始】

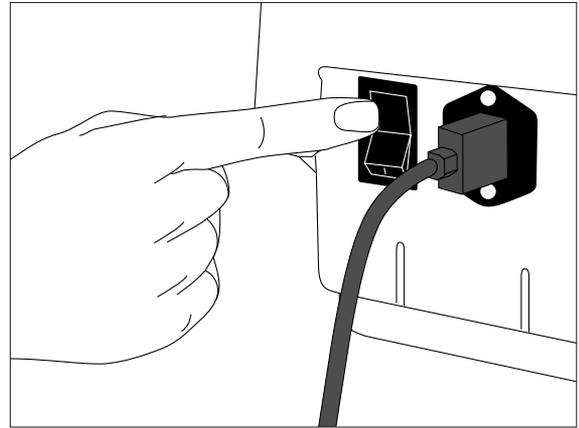
手順1 電源を入れる

1. 電源コードをつなげる



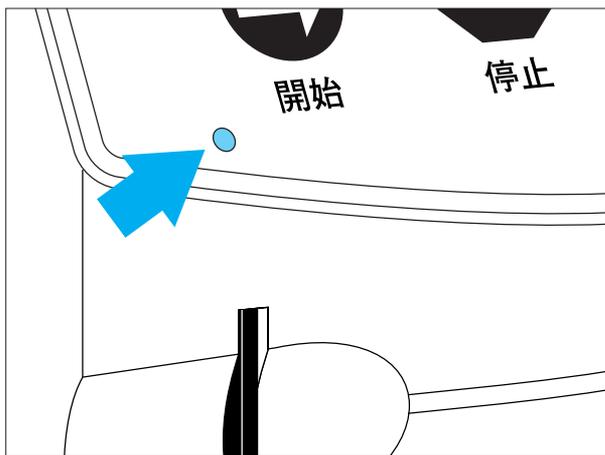
- 電源コードを本体裏面の差し込み口に、もう一方をコンセントに差し込みます。

2. 電源を入れる

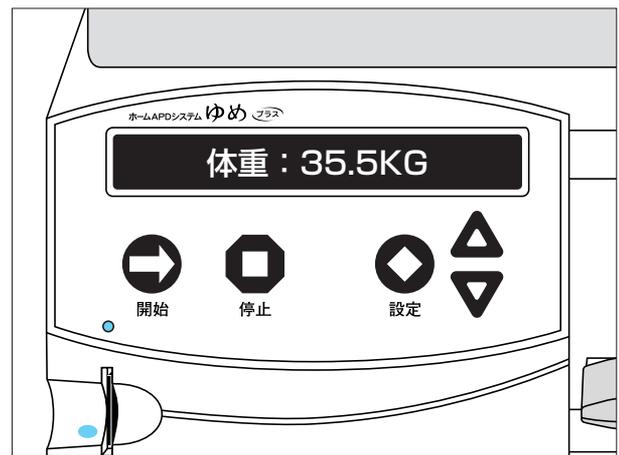


- 電源スイッチは機器の裏にあります。“I”で電源が入り、自己診断を開始します。

3. 表示部の確認



- 状態表示ランプが緑色に点灯していることを確認します。



- かかりつけの病院により入力指示のある項目が表示されます。



追加情報の入力がない場合には「設定確認▽後 治療開始→」の表示になりますので「回路の準備」に進みます。本冊子の「治療の開始」にお進みください。



この「体重：○○.○KG」表示で入力する体重と、処方入力の「患者体重：○○キログラム」表示で入力する体重には関連性はありません。ゆめプラスの場合、合計で2回体重の入力が必要な場合があります。

手順2 追加情報の入力

1. 追加情報の入力



2. 停止ボタンを押す



- ◆ 設定ボタンと ▲ ▼ ボタンで数値を入力します。下記ポイントを参照してください。
- 停止ボタンを押します。モード表示の後、「設定確認▼後 治療開始→」と表示されます。

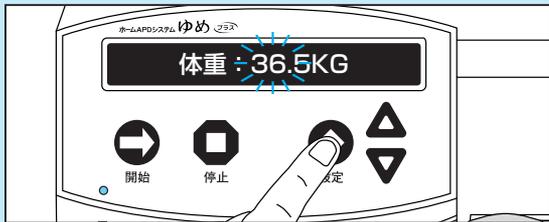
ポイント▶ 追加情報の入力方法 他の追加情報も入力の方法は同じです。



① ◆ 設定ボタンを押すと表示の一部が点滅します。



② ▲ ▼ ボタンで数値の変更を行います。



③ ◆ 設定ボタンを押して入力数値を確定します。点滅が止まり小数点以下が点滅します。



④ ②と同じ様に値を変更し ◆ 設定ボタンを押します。入力が終了したら ▼ ボタンを押すと次の表示になります。



- ▼ ボタンを押しても次の表示に移らなければ追加情報の入力は終わりです。
- 停止ボタンを押してください。

注意

[ゆめプラスで使用される追加の情報の表示]

表示	意味
体重： ○○.○KG	測定した、体重の値を入力します。単位は0.1キログラムです。
血圧： ○○○/○○○	測定した、血圧の値を入力します。単位はmmHg（水銀柱）です。
夜間透析液濃度 1： ○.○○	ヒーターバッグに使用する透析液の濃度を入力します。設定できる濃度は1.5%、2.5%、4.25%に数値が設定されています。
夜間透析液濃度 2： ○.○○	補液バッグに使用する透析液の濃度が、ヒーターバッグに使用する透析液の濃度と違う場合に入力します。
最終注液濃度： ○.○○	「最終注液濃度変更：アリ」と設定した場合に、使用する透析液の濃度を入力します。

昼間交換に関する項目

表示	意味
昼間交換回数： ○	ツインバッグ、Yセットなどで行うバッグ交換の回数を入力します。ツインバッグ、Yセットなどでバッグ交換を行わない場合には「0」のままにします。1～5の数値を入力することができます。これは1回目～5回目の交換回数を示しています。
交換時間○：午前 ○○：○○	ツインバッグ、Yセットなどで交換をした時間を入力します。
昼間○排水量： ○ ml	昼間の交換で得られた排水量を入力します。この値は、測定した排水量をmL単位で入力します。
昼間○注液量： ○ ml	昼間の交換で注液をした透析液の量を入力します。
昼間○透析液濃度： ○.○○	昼間の交換で使用した透析液の濃度の値を入力します。

【ゆめプラス に入力できる追加情報の一覧】

かかりつけの病院で設定されたカードには、以下の項目の中からどの項目を表示・入力するのかが設定されています。本機器では、ご施設で設定された項目だけが表示されます。

ボタン操作	表示
	体重： ○○.○KG
▼を押す	血圧： ○○○/○○○
▼を押す	夜間透析液濃度 1： ○.○○
▼を押す	夜間透析液濃度 2： ○.○○
▼を押す	最終注液濃度： ○.○○

昼間交換に関する項目

ボタン操作	表示
▼を押す	昼間交換回数： ○
▼を押す	交換時間 ○：午前 ○○:○○
▼を押す	昼間○排液量： ○ ml
▼を押す	昼間○注液量： ○ ml
▼を押す	昼間○透析液濃度： ○.○○
● 停止ボタンを押す	設定確認▼後 治療開始→

昼間交換に関する項目は「昼間交換回数」の数値により、「交換時間○：午前 ○○:○○」から「昼間○透析液濃度： ○.○○」までの項目が繰り返し表示されます。それぞれの交換ごとに値を入力してください。値の入力方法につきましては、57ページを参照してください。

治療の手順の 読み方

ここからは、回路の種類別に治療の手順をご説明いたします。
下記に示したように、ご使用の回路のページを読んでください。

※イラストはゆめ^{プラ}を使用していますが、ゆめでも共通に読むことができます。
全ての指示・表示・アラームと困ったときの対処方法に関しても共通です。

手動・スパイク式用

- 5バッグ用セット (T5C4452P)
- 5バッグ用 少注射液量セット (T5C8304)

P61~P102

システムⅡ用

- システムⅡ 5バッグ用セット (T5C4501)
- システムⅡ 4バッグ用 少注射液量セット (R5C8303)

P103~P144

くり〜んフラッシュ用

- UVフラッシュ 5バッグ用セット (T5C4500P)
- UVフラッシュ 4バッグ用 少注射液量セット (T5C8306)

P145~P189

4 治療の手順 手動・スパイク式用 [5バッグ用セット / 5バッグ用 少注液量セット] の場合

4-1 治療の開始

手順1 治療開始の準備

バッグ交換に適した環境作り

- 適切な場所の確保
 - ・清潔で十分な大きさのテーブルを準備してください。
 - ・交換場所全体が明るく照明がゆきわたっていること。
 - ・アースが接続できるコンセントがあること。くわしくは7ページを参照ください。
- 環境の整備
 - ・清掃のゆきとどいた部屋を使用します。
 - ・子供やペット(犬・ネコ・小鳥など)のいない部屋を使用します。
 - ・窓やドアは風などを防ぐために必ず閉めます。
 - ・冷暖房器具の風が交換場所に直接当たらないようにします。
 - ・機器類は、明るく清潔で、平らな所に置いてください。また、原則として機器がご使用者と同じ高さになるように設置してください。排液不良の出やすい方はゆめシステムを体より低くしてください。
 - ・透析液バッグ接続のためのテーブルを用意してください。
 - ・治療中、透析液バッグが落ちたりしないように注意してください。



警告

本機器は接地して使用しなければなりません。電氣的にショートが発生した場合、接地してあることにより電流を逃がすことができるため、感電のリスクを軽減できます。本機器には接地線をつなげられる電源ケーブルを同梱しています。適切に「接地」されていることを確認したコンセントに接続して使用してください。コンセントについてはかかりつけの病院または電気店にご相談ください。



警告

「接地」についてご理解いただけない場合、またはゆめシステムが正しく設置されているか分からない場合、お近くの電気店にご相談ください。不適切な使用は感電の可能性あります。



警告

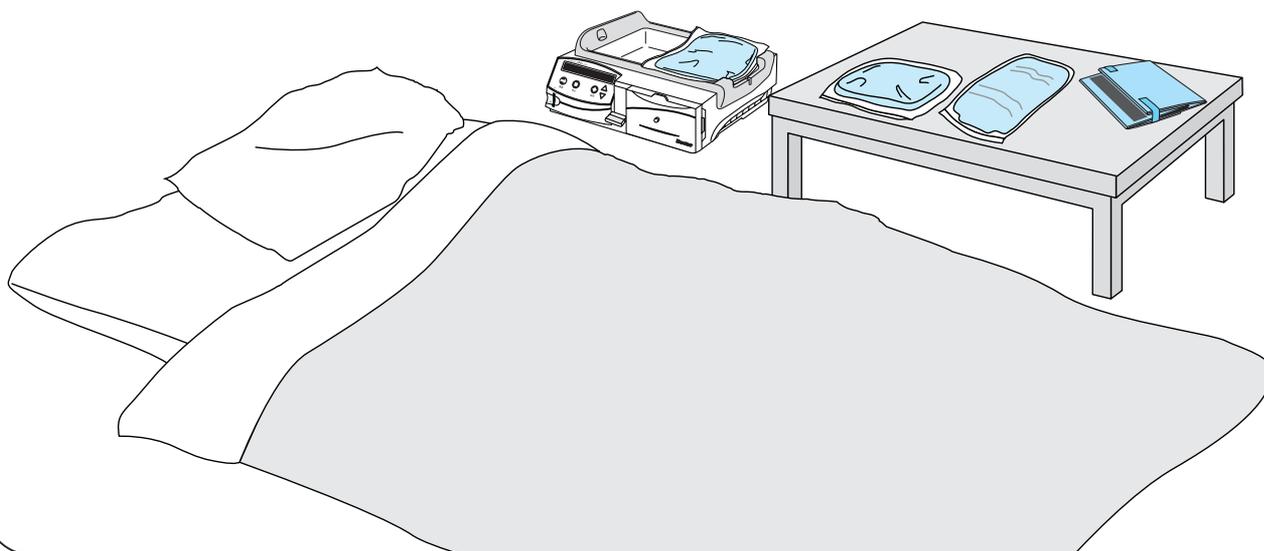
壁のコンセントに電源コードが接続できない場合、プラグを交換したりしないでください。電気店に連絡して、適切に接地できるようにご相談ください。



警告

透析液バッグは平坦な安定したところにおいてください。透析液バッグが落ちないように、透析液バッグを重ねて置いたりしないでください。透析液が落下すると、液漏れが発生することがあります。液漏れは透析液や透析液が通るところを汚染したりします。透析液や透析液が通るところを汚染すると腹膜炎になったり、思わぬ健康被害を受けたり、死に至ることもあります。

機器類を設置する



警告

ペットや動物が透析液バッグや器材をかむと、透析液や透析液の流路が汚染されます。透析液や透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。このようなことをさけるため、ペットや動物がいる部屋では治療を行わないでください。



警告

透析液バッグや使い捨て回路を使用するときには、かかりつけの病院での指示通り、清潔操作で行ってください。マスクをつけ、手洗いを十分に行い手は乾かす（または消毒する）ようにしてください。



注意

機器の使用温度は15℃～36℃です。この範囲になるように環境を整えてください。また、透析液・回路も同様に同じ範囲内で使用してください。



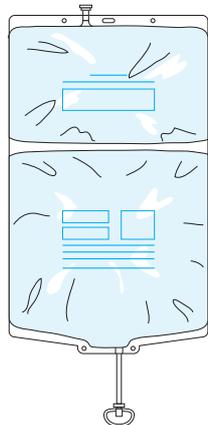
確認

冬期はプライミング中のアラーム発生をさけるためバッグ加温器で温めた透析液バッグと回路をお使いください。

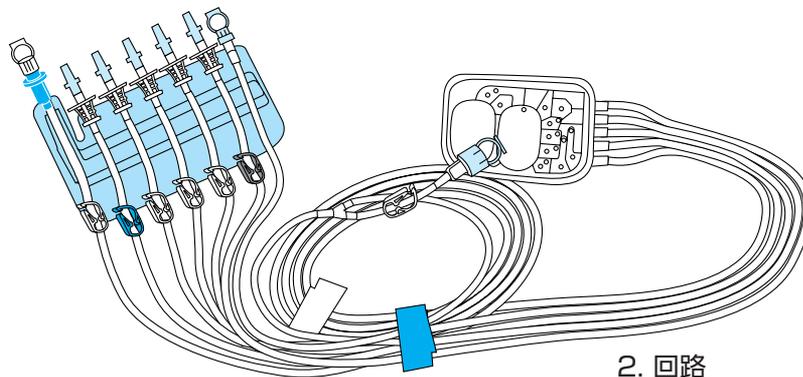
または治療30～60分前に機器の電源スイッチを入れ、ヒーター上に透析液バッグを乗せて温めておき、さらに回路はヒーターバッグの上に乗せておくことをおすすめします。他の透析液バッグも加温器で温めてお使いください。

手順2 物品の準備

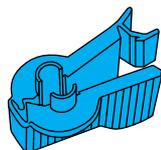
治療に必要な物品を用意する



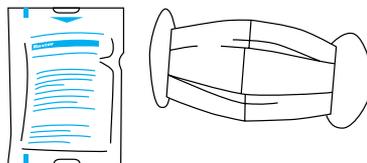
1. 透析液バッグ



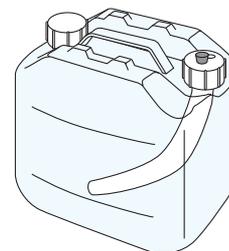
2. 回路



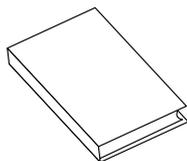
3. CAPD
ストッパー
(ノーズ付)



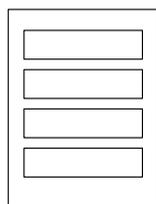
4. ミニキャップキット



5. 排液タンク



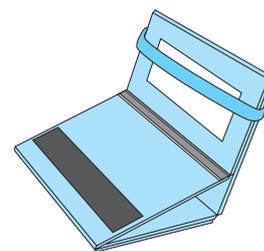
6. APD記録ノート



7. 排液確認用下敷



8. カード
(ゆめプラスのみ)



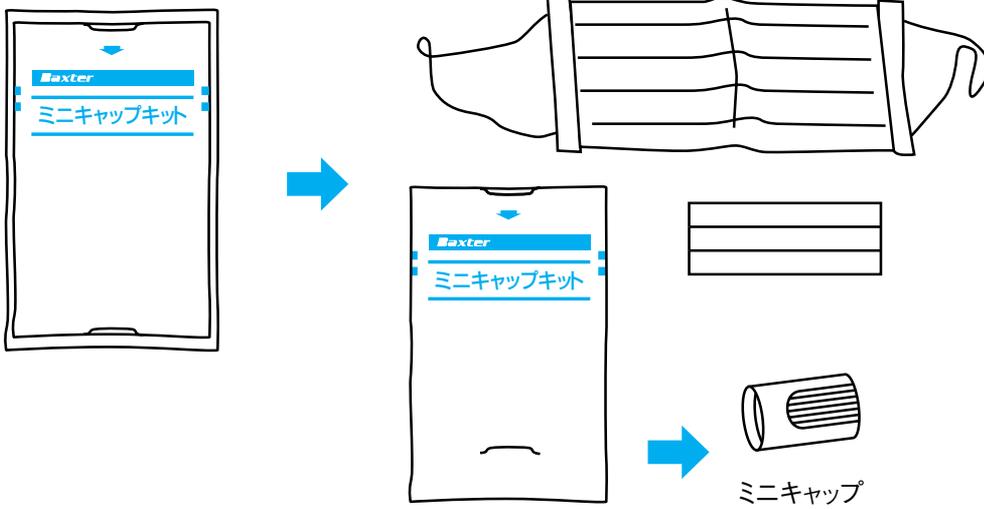
9. 補液用スタンド

治療に必要な物品を用意します。

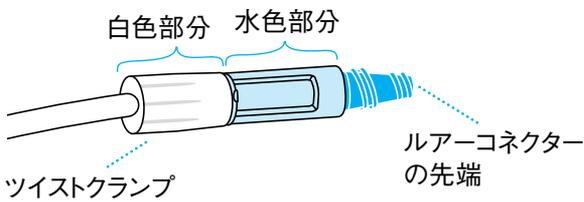
1. 透析液バッグ
2. 回路
3. CAPDストッパー (ノーズ付)
4. ミニキャップキット
5. 排液タンク
6. APD記録ノート
7. 排液確認用下敷
8. カード (ゆめプラスのみ)
9. 補液用スタンド

必要な物品および各部の名称

ミニキャップキット



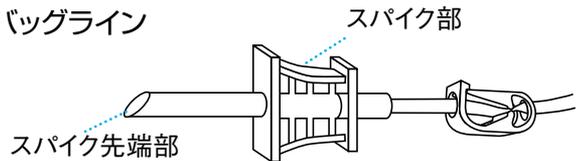
ミニキャップ接続チューブ



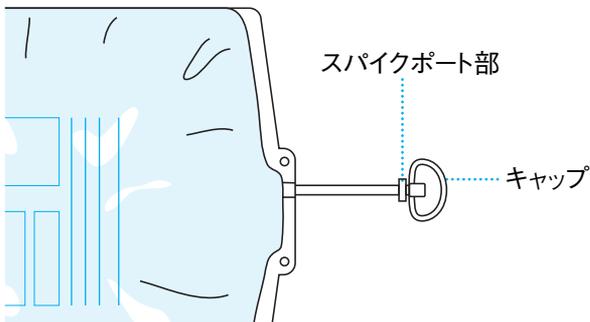
コネクターライン



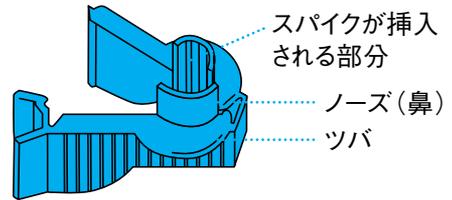
バッグライン



透析液



CAPDストッパー (ノーズ付) (以下ストッパーと略す)



確認 ストッパーは開いたまま保管してください。破損の原因になります。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スパイク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くりくろんフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

ゆめカバールーム
クリップの使用方法

処方の確認
変更方法

手順3 ゆめシステムのセットアップ

1. 透析液バッグの確認



- 表示を確認する。
- 異常がないか確認する。

2. 外袋の開封



- 外袋を開封し、透析液バッグを取り出します。

ダイアニールをご使用の方は
「6.ヒーターに透析液バッグを乗せる」に進んでください。



注意

外袋内に水滴がみられることがあります。必ず透析液バッグを押して液もれのないことを確認してください。



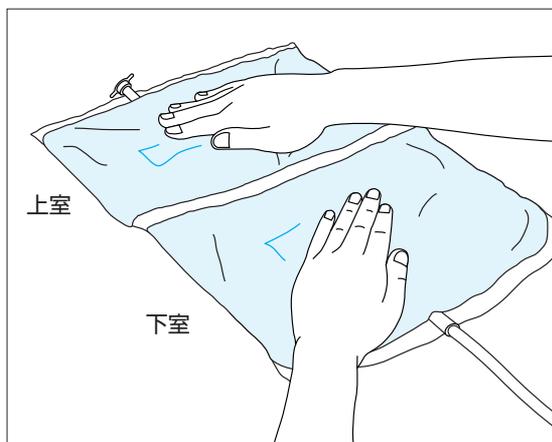
警告

透析液バッグの以下の点についてご確認願います。

- 透析液が無色～微黄色の透明である
- 先生の処方どおりの薬剤である
- 透析液の糖濃度が正しい
- 透析液の容量が正しい
- 使用期限内である
- キャップと薬液注入部が正しく付いている
- 液漏れがない

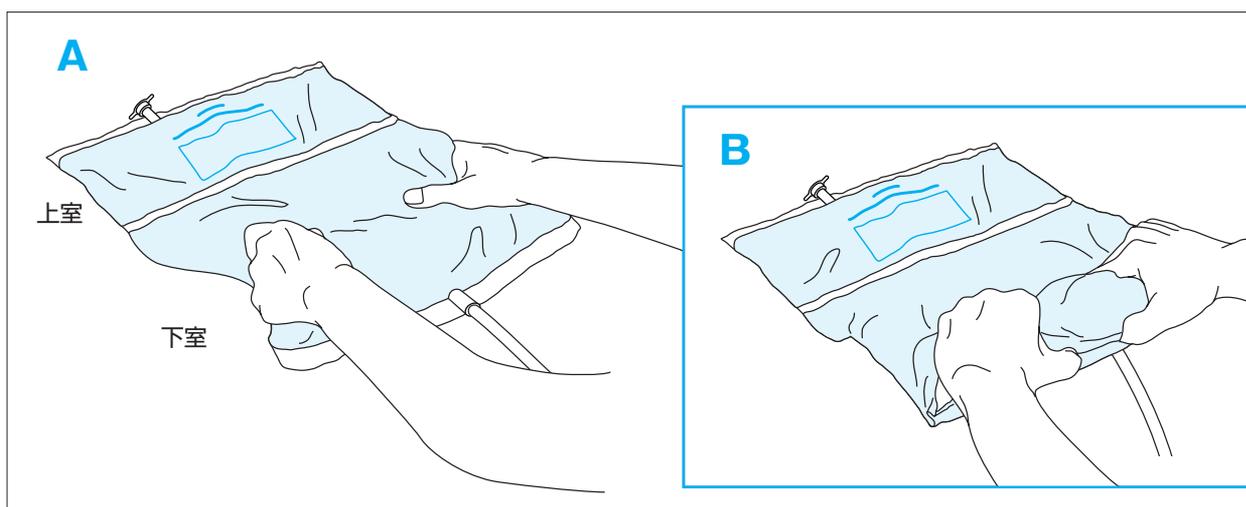
もし何か問題があったら、その透析液バッグは廃棄して新しい透析液バッグを使用してください。間違った透析液を使うと、不十分な透析になったり、問題がある透析液バッグを使った場合汚染された液が注入されたりします。汚染された液が注入されると腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。透析液バッグに何か問題があった場合にはバクスターCAPDコールセンターか、かかりつけの病院までご連絡願います。

3. 隔壁の確認



- 二つ折りになっている透析液バッグを広げ、表示面を上にして机の上に置きます。
- 透析液バッグの上室・下室に左右の手を置き、交互に軽く押して隔壁が開通されていないかを確認します。

4. 隔壁の開通



- 透析液バッグ下室の中央を左右の手で握り、両脇から強く絞り込みます (A)。これにより隔壁が開通します。

※左記の方法で隔壁が開通できない場合、透析液バッグ下室の手前を握り、上室に向かって巻き込むように強く押します (B)。これにより隔壁が開通します。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
自動・スバイク式用

治療の手順
システムII用

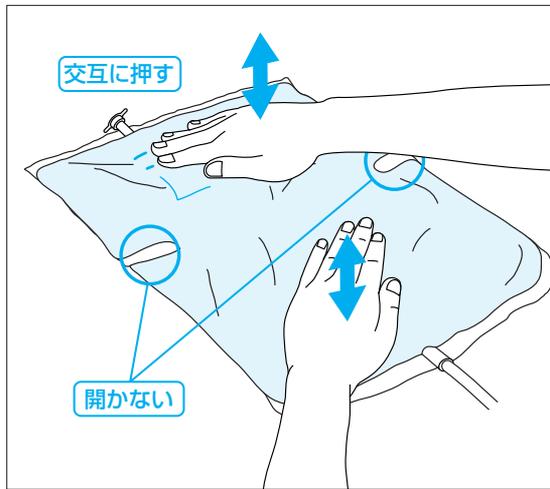
治療の手順
くりくんフラッシュ用

最終注射液前
排液の手順

ゆめカバー・ゆめ
クリップの使用
方法

処方の確認
・変更方法

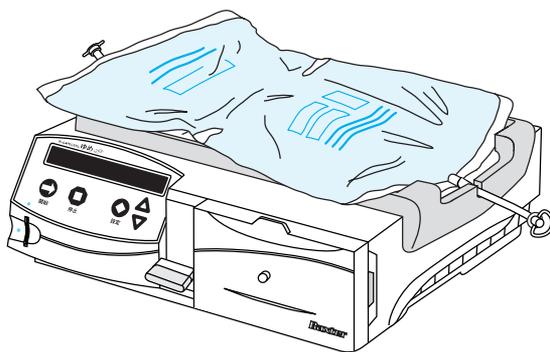
5. 透析液の混合



使用する全てのダイアニール-Nを1～5の手順で確認と隔壁開通をします。

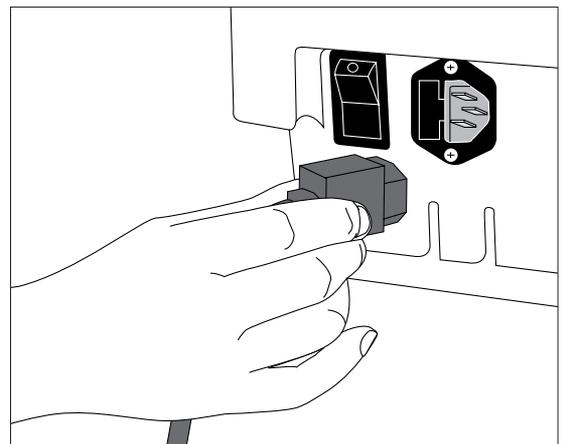
- 透析液バッグの上室・下室に左右の手を置き、4～5回交互に押して2液を十分に混合します。
(隔壁の両端は開かない部分があります)
- 両手で透析液バッグを押して液もれのないことを確認します。

6. ヒーターに透析液バッグを乗せる



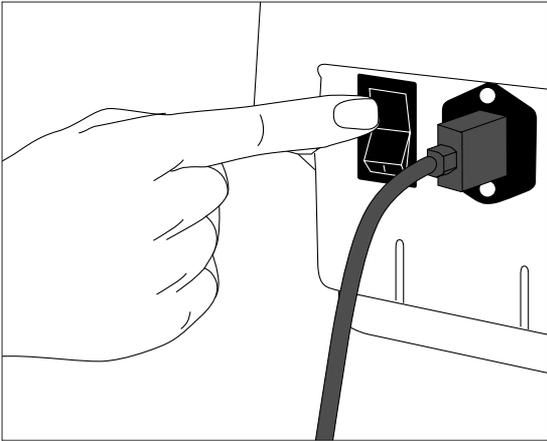
- 透析液バッグは、ヒーター上の温度センサーを確実に覆うように乗せてください。表示面を上にして乗せてください。

7. 電源コードをつなげる



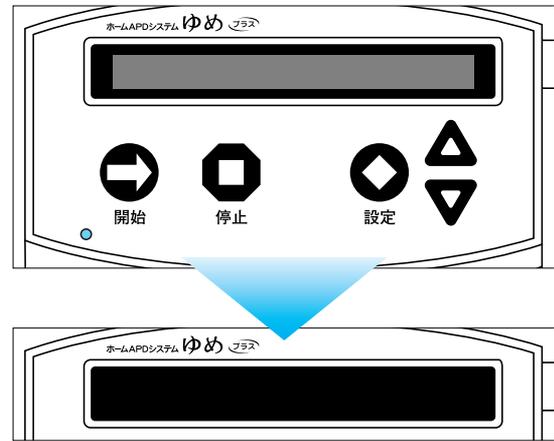
- 電源コードを本体裏面の差し込み口に、もう一方をコンセントに差し込みます。

8. 電源を入れる



- 電源スイッチは機器の裏にあります。“1”で電源が入り、自己診断を開始します。

9. ブザー音と表示確認



- 電源を入れたらブザー音が鳴ることを確認してください。
- 表示の全ピクセルが明るくなった後、全て消えることを確認してください。
(ここでのピクセルとは、表示部で光っている1つずつの点を意味し、文字や数字を構成しているものです)



注意

もし動作がおかしい場合、バクスターCAPDコールセンターまでお電話ください。



警告

「病院へ連絡してください」表示と「排液量過剰」表示の画面が電源投入時に交互に出ている場合、昨日（前回）の治療で過注液があったことを示しています。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

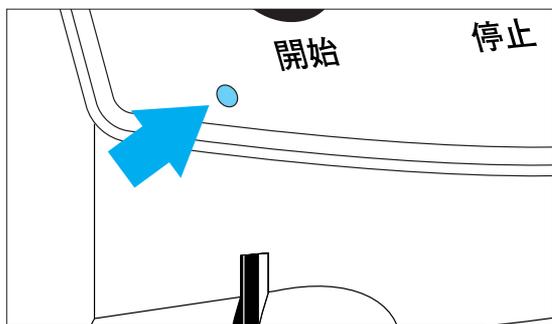
「10 困った時の対処方法（269ページ）」を参照してください。

過注液が疑われるときには、 停止ボタンをすぐに押し、 ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困った時の対処方法（254ページ）」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

ゆめ^{プラス}をお使いの方のみの手順です。(9~10)

9. 表示部の確認 (ゆめ^{プラス}の場合)



- 状態表示ランプが緑色に点灯していることを確認します。

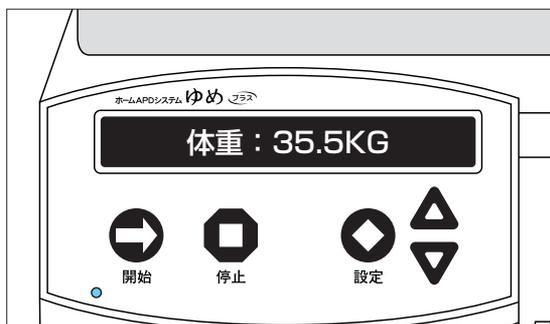


ゆめ^{プラス}では、カードが入っていることを確認します。



この「体重：〇〇.〇KG」表示で入力する体重と、処方入力の「患者体重：〇〇キログラム」表示で入力する体重には関連性はありません。ゆめ^{プラス}の場合、合計で2回体重の入力が必要な場合があります。

10. 追加情報の入力 (ゆめ^{プラス} : オプション)



- かかりつけの病院により入力指示のある項目が表示されます。手順の詳細は本冊子55ページの「3-5 日常の手順」を参照してください。

11. モード表示と「設定確認▽後 治療開始→」表示



- 「設定確認▽後 治療開始→」が表示される前に、動作するモードが表示されます。(標準モードまたは少液量モード (小児モード))

- ゆめシステムの内部チェックが終わると、「設定確認▽後 治療開始→」と表示されます。

12. 処方の確認



- ▼ ボタンを押すと「処方の確認／変更◇」と表示されます。◆ 設定ボタンを押します。
▼ ボタンを押して処方の確認を行います。
- □ 停止ボタンを押します。サイクル数、貯留時間などが自動的に表示されたあと、「設定確認▽後 治療開始→」の表示に戻ります。

ポイント▶ 処方の変更方法

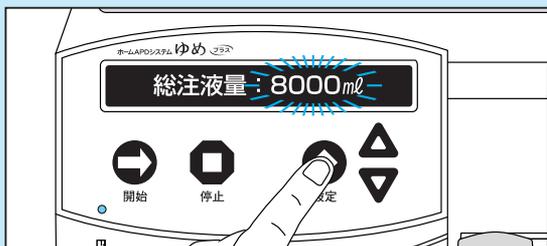
他の処方内容も入力の方法は同じです。



- ① ◆ 設定ボタンを押すと表示の一部が点滅します。



- ② ▲ ▼ ボタンで数値の変更を行います。



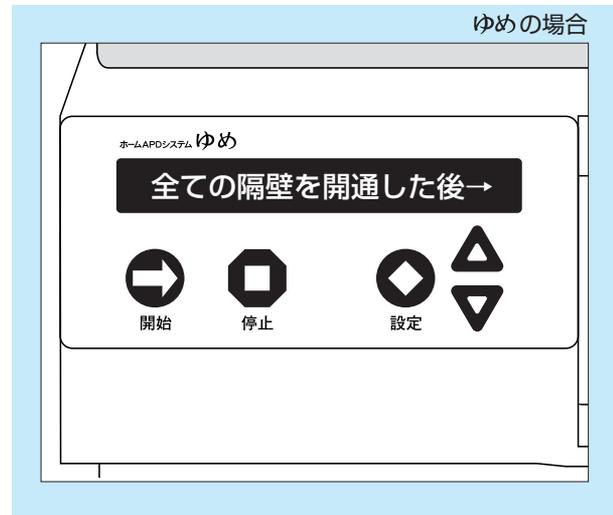
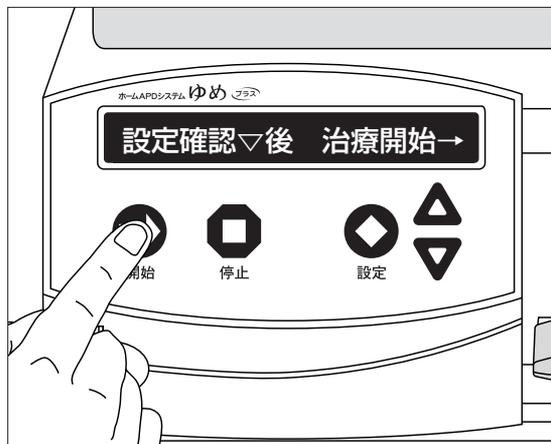
- ③ ◆ 設定ボタンを押して入力数値を確定します。



- ④ 入力終了したら □ 停止ボタンを押すと最初の表示に戻ります。

手順4 隔壁開通の確認

1. 開始ボタンを押す



- ➡ 開始ボタンを押します。
- ゆめの場合、「全ての隔壁を開通した後→」と表示されます。
- ゆめ プラス の場合、「回路セット後→」と表示されます。
- 全ての透析液バッグの隔壁が開通してあることを確認します。

ポイント 「標準モード」で注液量が1000mL以下の場合、「少液量モードは無効」と表示され少液量モード（小児モード）での動作でないことをお知らせします。➡ 開始ボタンを押して、次に進めてください。

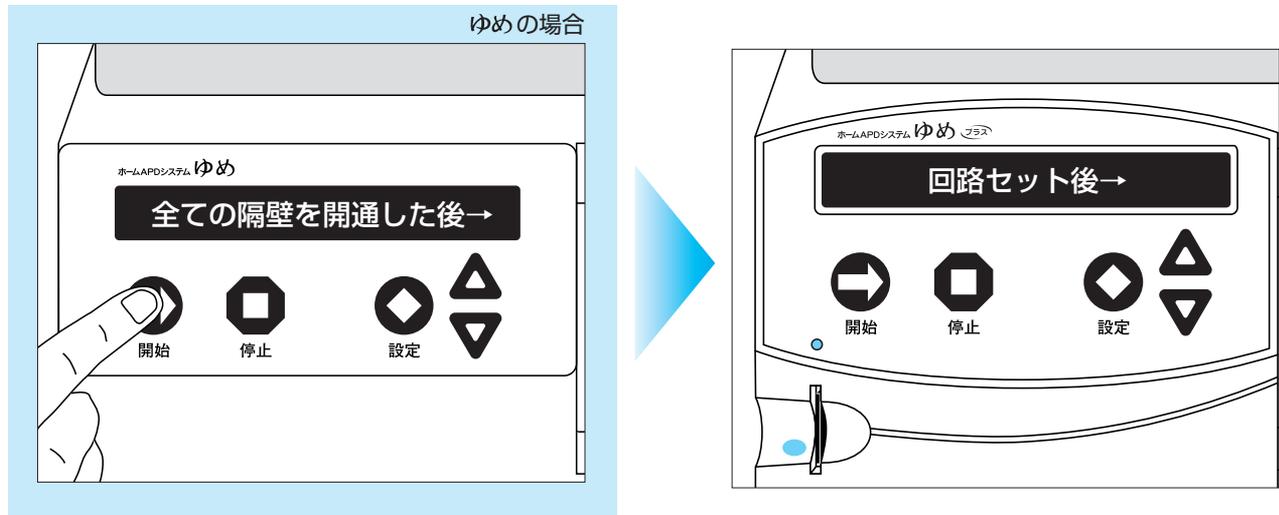
ダイアニールをご使用の方は「手順5.回路の準備」に進んでください。

ポイント 隔壁開通の確認（ゆめの場合）

「全ての隔壁を開通した後→」の表示では
① 全ての隔壁が開通してあることを確認する。
までを行います。

手順5 回路の準備

1. 開始ボタンを押す



- ➡ 開始ボタンを押します。
「回路セット後→」と表示されます。

ポイント 回路の用意

「回路セット後→」の表示では、

- ①回路の用意
- ②ゆめシステムに回路を装着
- ③排液ラインの装着

までを行います。

排液採取ポートのクランプを閉めるのを忘れがちです。数を数えながらクランプを閉めるようにしてください。



警告

もし回路のキャップが外れている場合は使用しないでください。キャップが外れていたり、しっかり付いていないと、透析液や透析液の流路が汚染される可能性があり、腹膜炎となったり、健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。



警告

ゆめセットを機器に装着する前に、カセットやチューブに損傷がないことを確認してください。損傷があるカセットを使用すると透析液の流路が汚染されます。透析液や透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。

- カセットのやわらかい表面に傷や穴など明らかな損傷がないか確認してください

- ゆめセットのチューブ先端についているキャップが損傷などなく、正しく付いていることを確認してください。

もし損傷などがあれば、新しいゆめセットを使用してください。

ゆめセットのチューブには素材の柔らかさゆえのちょっとした凹みがあります。ちょっとした凹みは外観上のもので製品の機能に影響を与えるものではありません。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スバイク式用

治療の手順
システムII用

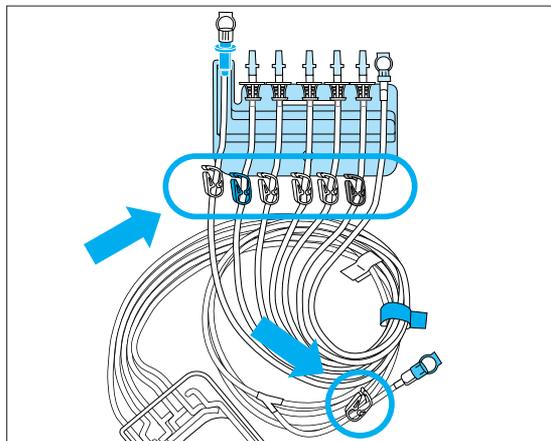
治療の手順
くりくんフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

ゆめカバー・ゆめ
クリップの使用方法

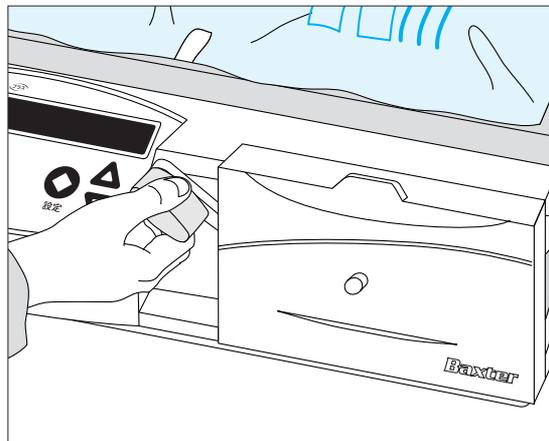
処方の確認
・変更方法

2. 回路の用意



- 回路を袋から取り出し、すべてのクランプを閉めます。
クランプの数は、5バッグ用セットでは7カ所です。

3. ドアを開ける



- ハンドルを上げてドアを開けます。



確認

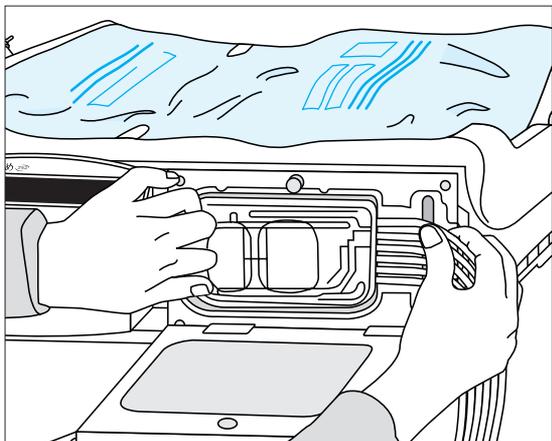
メンブレン ガasketには、機器とカセットの密着性を高めるために小さな穴が開いています。性能上問題はありません。



警告

- 開始ボタンを押して治療を開始する前に、回路がゆめシステムに装着されている場合は、必ず全てのクランプを閉めてください。
- クランプを閉めておけば、「回路セット後→」の表示で液の流れが発生しません。制御できない液が流れる場合、過注液となる可能性があります。
- 過注液は腹部の不快感をもたらしたり、時には思わぬ重大な事故につながるおそれがあります。
- ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児など）に使用している場合は、特にご注意ください。
- 使用中に過注液が疑われるときには、「強制排液」を行ってください。（本冊子254ページを参照してください）

4. カセットを装着



- 回路のラインを束ねている青色の紙テープをはがします。
- 回路のカセットを所定の場所にしっかりとめ込みます。



「コネクターライン接続後→」と「コネクターライン確認」が交互に出て

警告から、お腹のチューブをつないでください。この画面が出る前にお腹のチューブをつないでしまうと、お腹に空気が入ってしまうことがあります。空気がお腹に入ると、肩の痛みやおなかの痛みなど、思わぬ傷害につながる可能性があります。

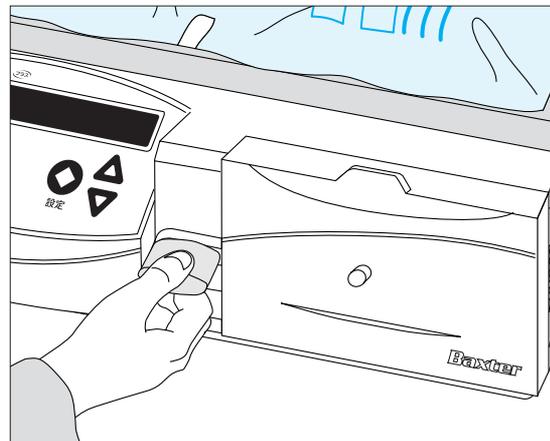
また、もしお腹の中に透析液が残っている状態で空気が入ってしまうと、過注液の可能性がります。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、●停止ボタンをすぐに押し、▼ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「⑩ 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

5. ドアを閉める



- ドアを閉めてハンドルを下げます。

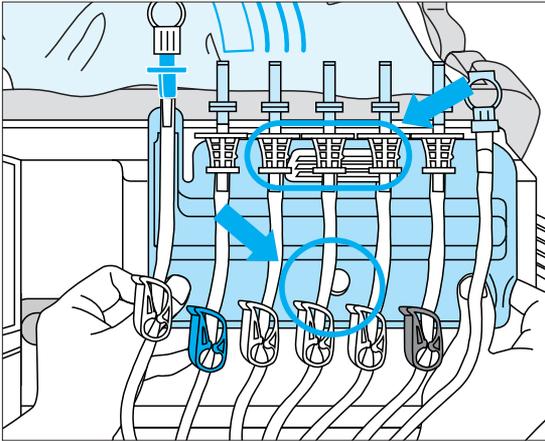
ポイント ▶ ドアを閉める

「回路セット後 →」の表示のときにドアを開けたり、閉めたりを繰り返しますと安全機構が働き、オクルーダーが隆起しドアが閉めにくくなります。

ドアが閉めにくいときには、●停止ボタンを押し、そのあと▶開始ボタンを押します。

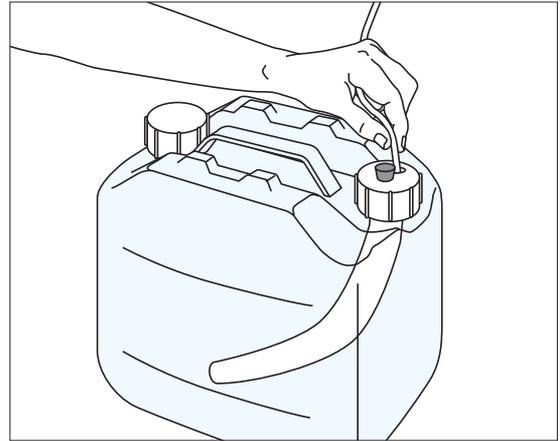
オクルーダーは元の状態に戻ります。オクルーダーが隆起していないことを確認してからカセットを入れ、ドアを閉めてください。

6. ライン保持盤を取り付ける



- ライン保持盤をドア上部、さらにドア中央部のフックに引っかけてから上の方向に引っ張り、安定させます。

7. 排液ラインのセット



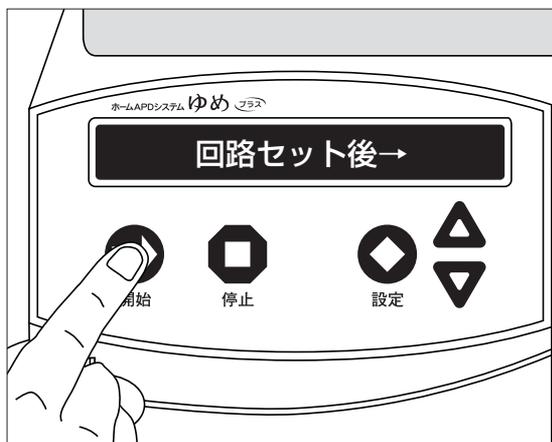
- 右端の排液ラインをライン保持盤から取りキャップを外します。
- 排液タンクへセットします。
- キャップをとりつけます。



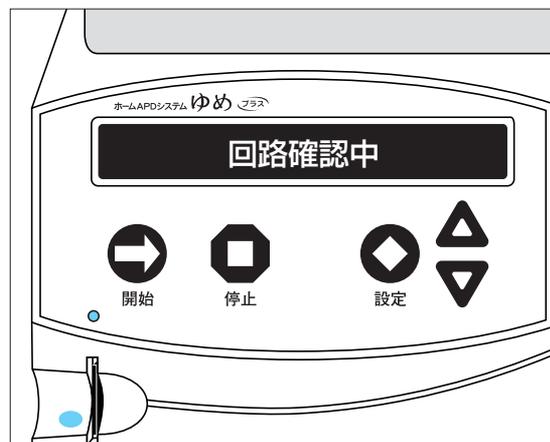
警告

排液ラインの先端と排液タンク内の排液との間には、空気の間隙を作ってください。隙間を作ることにより、間違っ操作した場合に排液が逆流することを防ぎます。一度排液タンクに出た排液は汚染されていると考えられ、操作間違いによって発生する逆流により透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。

8. 開始ボタンを押す



- ➡ 開始ボタンを押します。



- 「回路確認中」と表示されます。(約2分間)

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スパイク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くりくんフラッシュ用

最終注射液前
排液の手順

ゆめカバ！ゆめ
クリップの使用方法

処方の確認
・変更方法

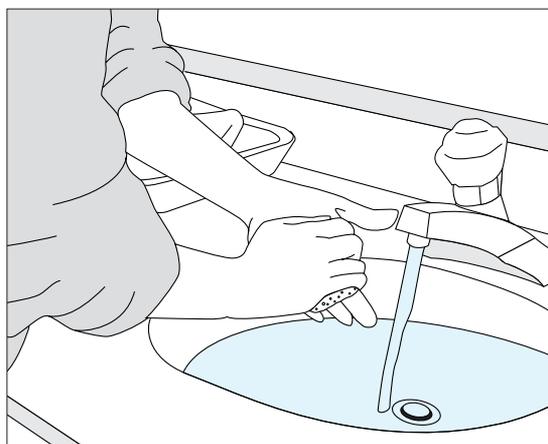
手順6 透析液バッグの接続

1. バッグの接続



- 「バッグ接続後クランプ開け→」と「クランプを開けてください」が交互に表示されます。

2. マスク着用と手洗い



- 接続操作の前に、マスクを着用し、手洗いを確実にします。

ポイント 「バッグ接続後クランプ開け→」と「クランプを開けてください」表示

「バッグ接続後クランプ 開け→」と「クランプを開けてください」の表示では、

- ① 使用するすべての透析液バッグとバッグラインの接続
 - ② 透析液を接続したラインのクランプを開ける
 - ③ コネクターラインのクランプを開ける
 - ④ 排液バッグのクランプを開ける（排液バッグ使用時）
- のところまでを行います。



警告

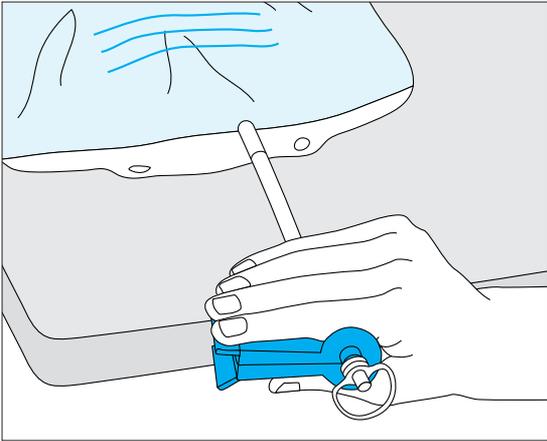
清潔操作にて接続を行ってください。マスクを着用し手洗いを確実に行ってください。

透析液にヘパリンなどの薬液を注入する場合は、透析液バッグと回路を接続する前に行います。

ポイント マスクの着用・手洗い

このあとの操作より清潔操作が必要です。これから清潔操作を行うという意識を常に持つようにしてください。

3. ストッパーを装着

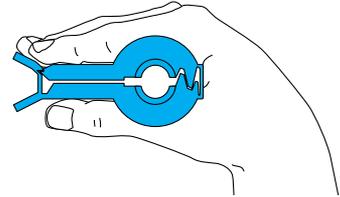


- ヒーターバッグ用の透析液バッグを清潔で平らな場所に置きます。
- 透析液バッグのポート部にストッパーを装着します。

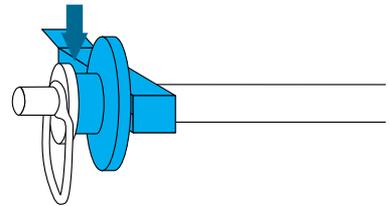


確認

- 手の甲を上にしてストッパーを持ちます。

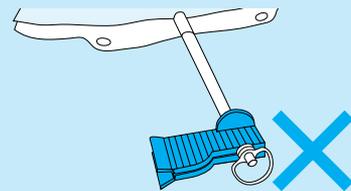


- 透析液バッグのツバとストッパーの先端が接触するようにストッパーを装着してください。スパイク操作がやりやすくなります。



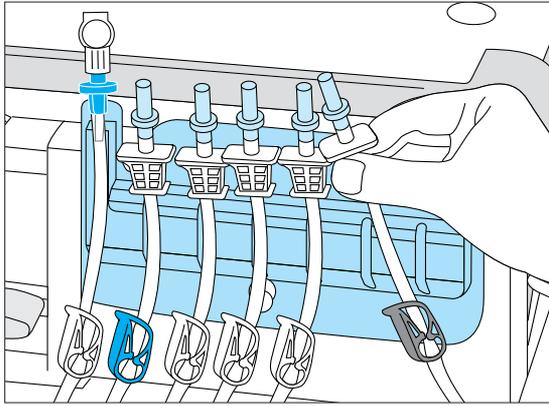
注意

ストッパーを逆に装着するとスパイク操作はできません。
ストッパーは正しい向きに装着してください。



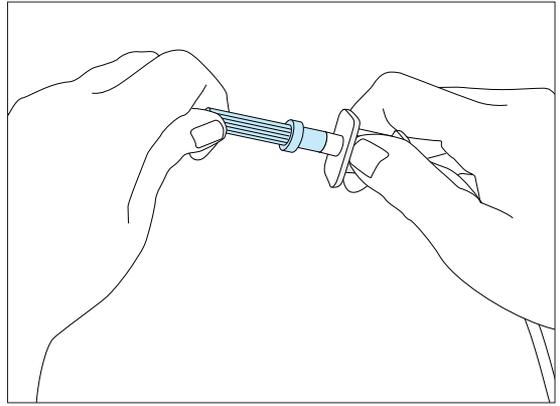
4～7までは連続した手技です。

4. ヒーターラインを ライン保持盤から取り外す



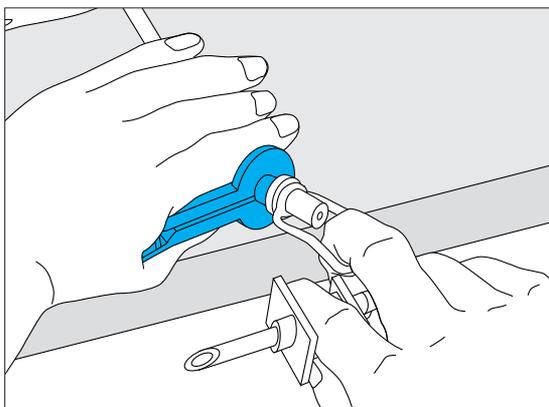
- 赤いクランプの付いたヒーターラインをライン保持盤から取り外します。

5. ヒーターラインのキャップを外す



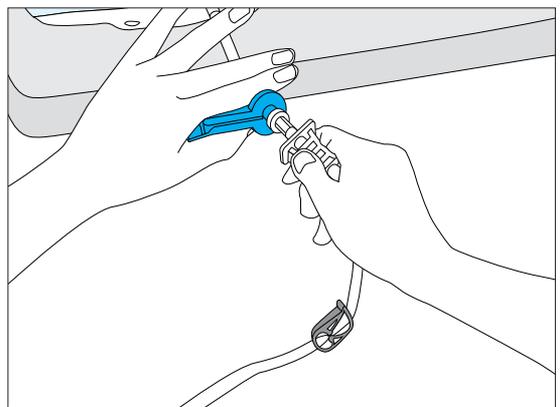
- ヒーターラインのスパイク部を持ち、キャップをひねりながらゆっくり取り外します。

6. 白色キャップを外す



- 左手でストッパーを持ちます。
- ヒーターラインのスパイク部を保持し、白色キャップを外します。

7. 透析液バッグの接続

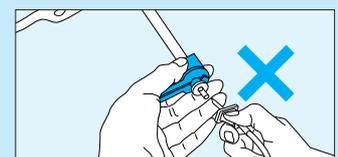
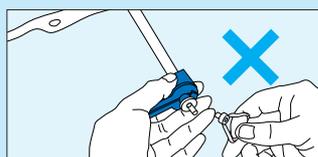


- ヒーターラインのスパイク部を左右にひねりながら透析液バッグに確実に接続します。



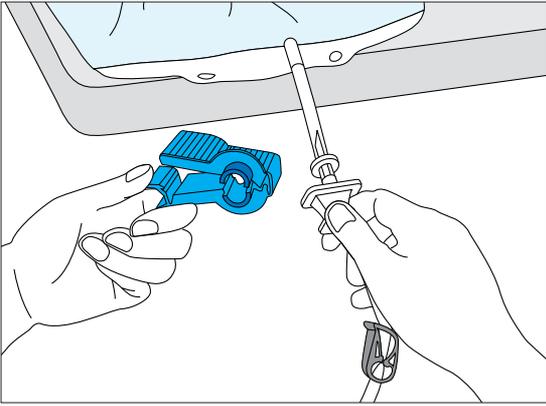
注意

1. 手指がスパイク挿入部に触れないように接続の清潔操作を確実に覚え、注意して操作を行うようにしてください。



2. 透析液バッグのスパイク挿入部およびラインのスパイク先端部が、手や机などに触れないように注意してください。腹膜炎の原因になるおそれがあります。汚染された場合には新しいものと交換してください。

8. ストッパーを外す



- 透析液バッグからストッパーを外します。

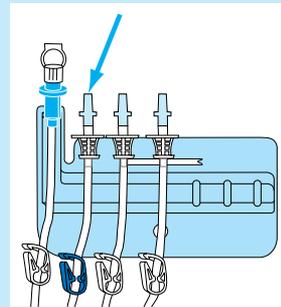


確認

すべてのバッグにつき、3~8の手順を繰り返します。



最終注液濃度を変更する場合（特にエクストラニールを使用する場合）、青いクランプの付いたラインに濃度の違う透析液バッグを接続します。



安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スバイク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くりくんフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

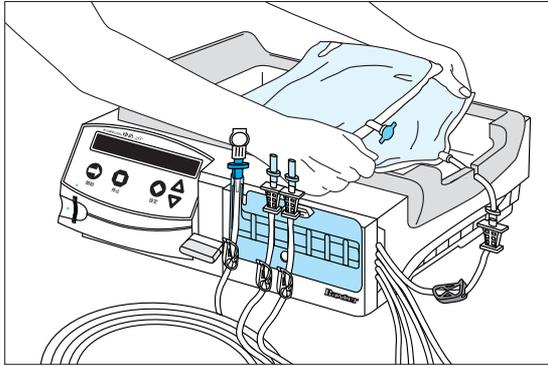
ゆめカバ！ゆめ
クリップの使用方法

処方の確認
・変更方法

手順7 透析液バッグのヒーターへの乗せ方

ダイアニールをご使用の方は「5.チューブをチューブガイドに入れる」に進んでください。

1. 透析液バッグのセット



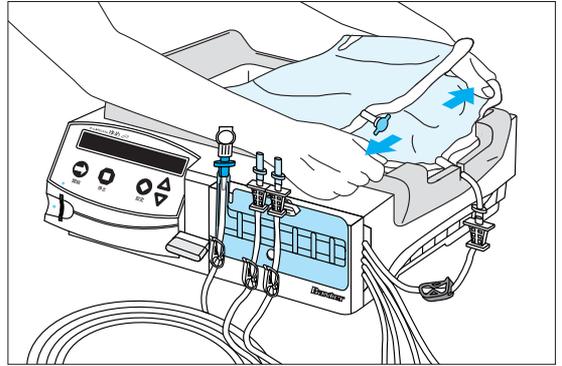
- 赤いクランプのついた透析液バッグの表示面を内側にして二つ折りにしてください。
- チューブが右側になるようにしてヒーターの上に置き、右端まで透析液バッグをずらしてください。



チューブを引っ張らないでください。

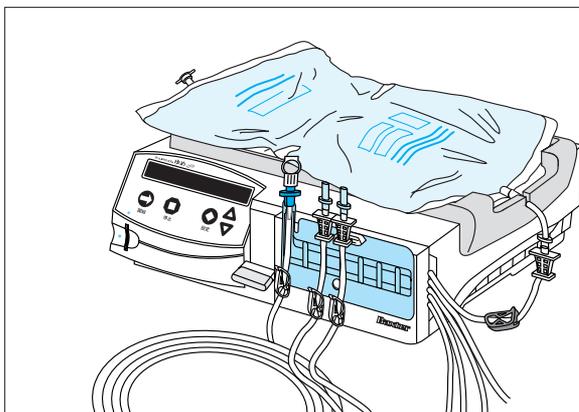
注意

2. 透析液バッグ位置の確認

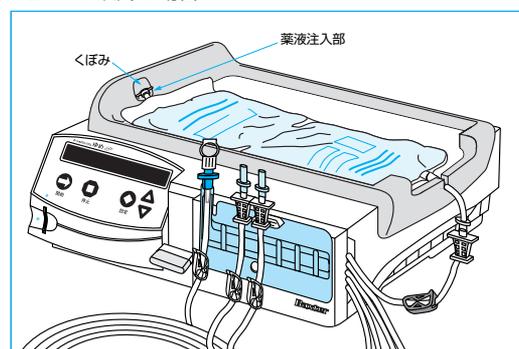


- 透析液バッグのチューブ側の両端を持ち、外側に引っ張り透析液バッグの端をトレイの端にそろえてください。

3. 透析液バッグを広げる



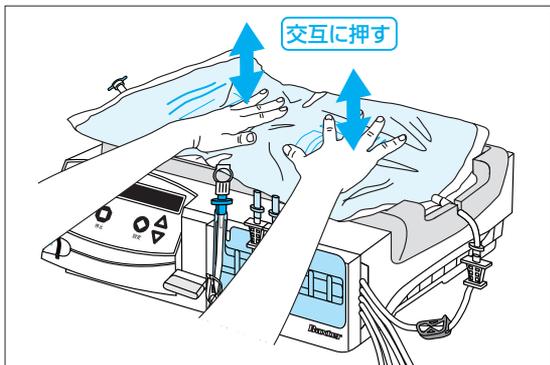
5Lバッグ以外の場合



- 二つ折りにしていた透析液バッグをトレイ全体に広げてください。

- 5Lバッグ以外の場合は透析液バッグをトレイ全体に広げ薬液注入部をくぼみに合わせてください。

4. ヒーターパネルになじませる



- 透析液バッグの上室・下室を交互に4～5回押し、隔壁が開通していることを再確認し、透析液バッグをヒーターになじませてください。



警告

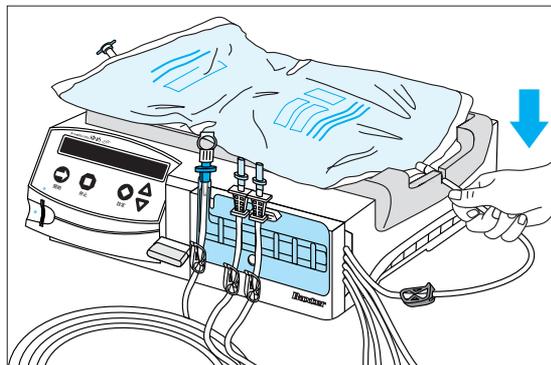
透析液バッグはヒーター上の温度センサーを覆うように正しく置いてください。特に小さいサイズの透析液バッグを乗せるときには注意してください。ただし、透析液バッグを乗せていないと、温度が低すぎる、または高すぎる透析液が注液される可能性があります。



警告

透析液バッグの加温は、必ず本機器のヒーターで行ってください。本機器のヒーター以外のもの（電子レンジ、ストーブ、電気毛布など）で加温を行いますと、過度に加温された透析液がお腹に注液される場合があります。

5. チューブをチューブガイドに入れる



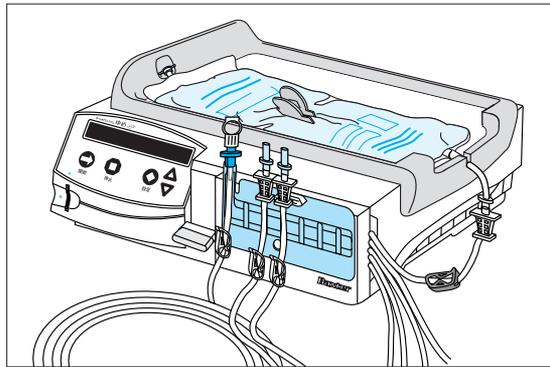
- 透析液バッグのチューブをチューブガイドにしっかりと下まではめ込んでください。



注意

チューブは無理に引っ張らないでください。

○ ゆめ用クリップを付ける
(1L、1.5Lバッグの場合)



- 1L、1.5Lバッグを使用しているときは、隔壁部分にゆめ用クリップを取り付けます。バッグの上面のみ1枚をつまんでください。

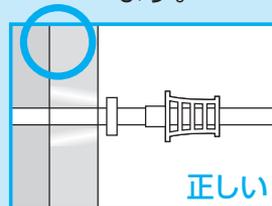


2L以上のバッグではゆめ用クリップを使用する必要はありません。

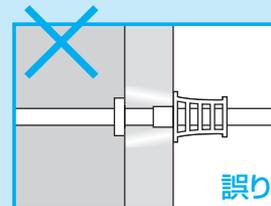


注意

5バッグ用セットおよび5バッグ用少注射液セットの場合、ダイアニールをヒーターに乗せる時、チューブガイドにスパイク部分を入れないでください。抜ける可能性があります。



正しい

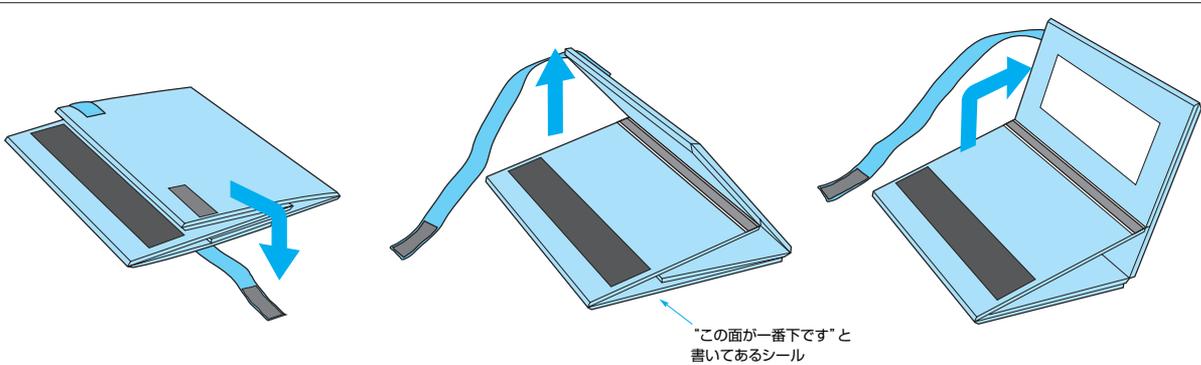


誤り

手順8 補液用スタンドの使用方法

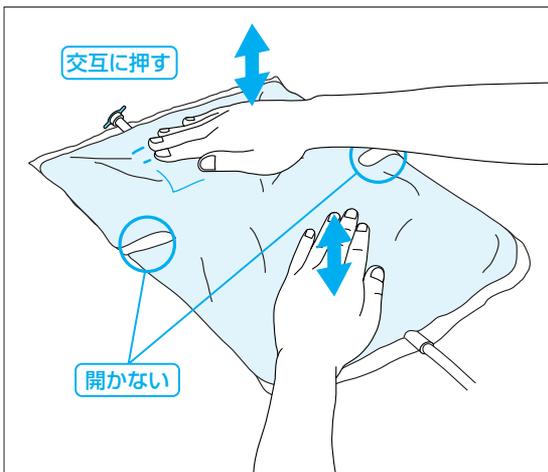
ダイアニールをご使用の方は「手順9.回路のプライミング」に進んでください。

1. スタンドの組み立て



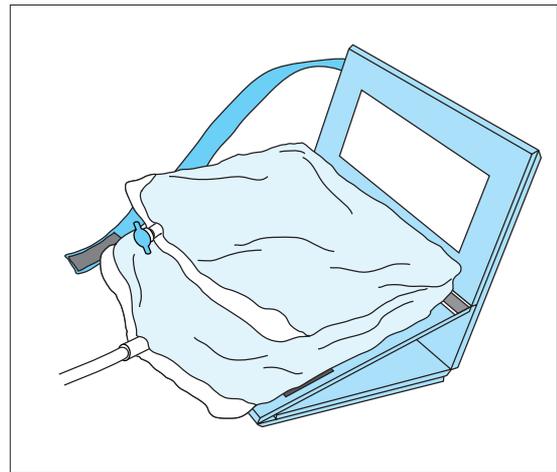
- 1 バンドの片方を外します。
- 2 “この面が一番下です”と書いてあるシールのある面を下にして、スタンドを開きます。
- 3 止まるまでしっかり開きます。

2. 隔壁開通の確認



- 透析液バッグの上室・下室に左右の手を置き、交互に軽く押して隔壁が開通されていることを確認します。(隔壁の両端は開かない部分があります)

3. 透析液バッグのセット



- 透析液バッグのチューブ側の両端を持ち、外側に引っ張り透析液バッグの端をトレイの端にそろえてください。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
自動・スパイク式用

治療の手順
システムII用

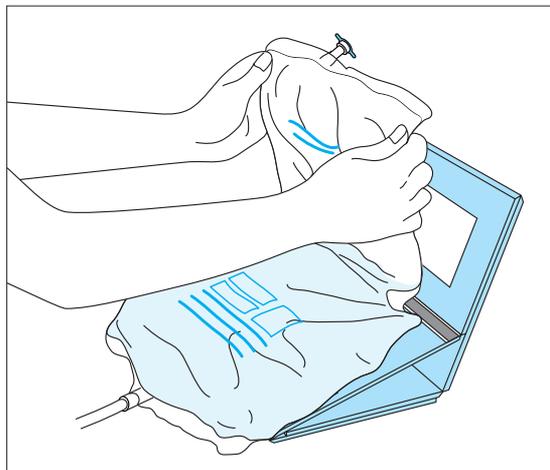
治療の手順
くりくんフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

ゆめカバールーム
クリップの使用方法

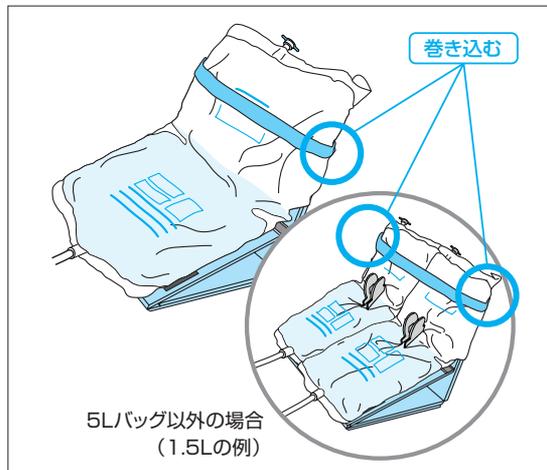
処方の確認
変更方法

4. 透析液バッグを立てかける



- 透析液バッグを開き、上室に透析液が残らないように数秒上室を立ててからスタンドに立てかけます。

5. バンドで止める



5Lバッグ以外の場合
(1.5Lの例)

- 上室が倒れないよう、バンドでしっかりとめます。
このとき、バンドでバッグの端を巻き込んでとめてください。
※バンドでしっかり固定しないと、液が残り少なくなった時にずり落ちてしまいます。

1L、1.5Lバッグの場合、ゆめ用クリップを取り付けます。バッグの上面のみ1枚をつまんでください。



参考

隔壁を開通していないダイアニール-Nは、補液用スタンド上で立たないので、隔壁の開通がなされたかわかるようになっています。



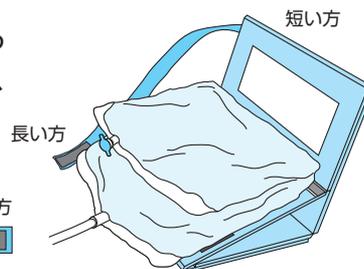
参考

2.5Lバッグ以下のバッグは、補液用スタンドの上に2個乗せて使用できます。



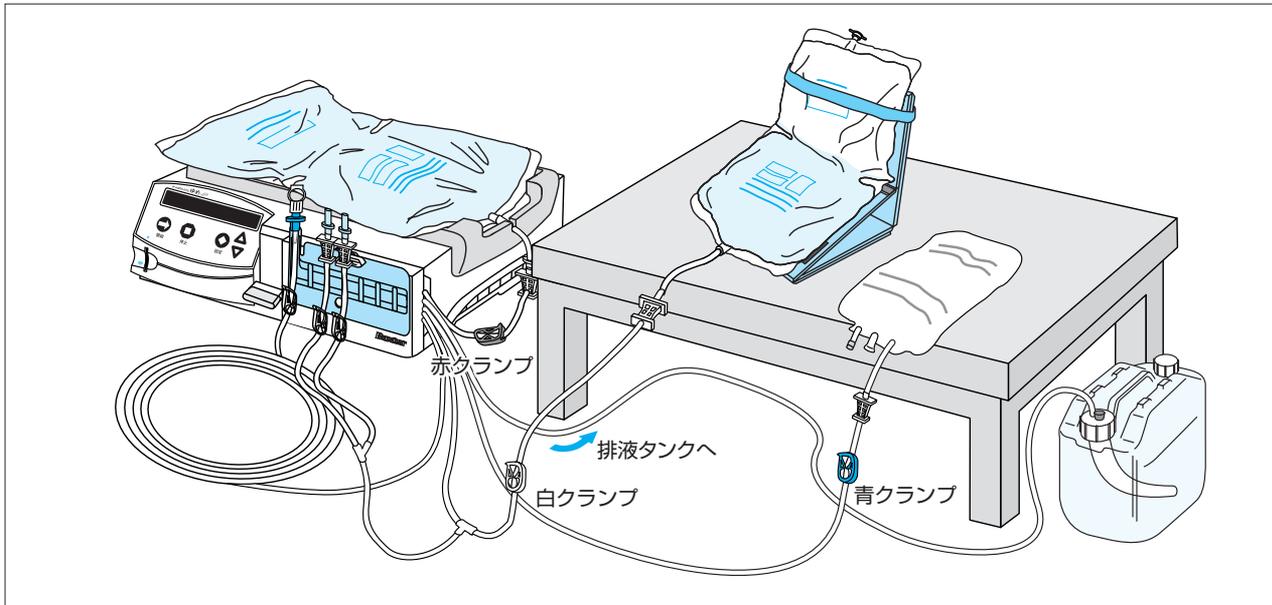
参考

バンドのマジックテープは片方が長く、片方が短くなっています。短い方を固定し、長い方を外すようにすると、しっかりとめることができます。



手順9 回路のプライミング

1. 接続部の確認



ポイント 接続部の確認 ここでゆめシステムの接続の全体像を理解します。下記のことを確認します。

- 赤いクランプの付いたラインが、ヒーターの上の透析液バッグに接続されている。
- ダイアニール-Nの隔壁が全て開通している。
- ヒーターの上の透析液バッグは、ヒーターになじんでいる。
- ヒーターバッグのチューブが、チューブガイドにしっかり入っている。
- 赤クランプ以外のダイアニール-Nが補液用スタンドに確実に乗っている。
- 最終注液濃度を変更する場合、青いクランプの付いたラインが、濃度・種類の違う透析液バッグに接続されている。最終濃度変更のない場合は赤以外どの色のクランプを使用しても大丈夫です。
- 排液ラインのキャップが外されていて、排液タンクにしっかり固定されている。
- 回路の各ラインが折れ曲がらないようにセットされている。
- 排液タンクは倒れないように注意して置いてある。
- 1L、1.5Lダイアニール-Nを使用している場合、隔壁にゆめ用クリップが付いている。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スバイク式用治療の手順
システムII用治療の手順
くりくんフラッシュ用最終注液前
排液の手順ゆめカバール・ゆめ
クリップの使用方法処方の確認
・変更方法



警告

最終注液に濃度や種類の違う透析液（エクストラニールなど）を使うときには、青いクランプの付いたラインにつないでください。青いクランプの付いたラインに間違った種類の透析液をつないでしまうと、除水量が多くなったり少なくなったりして、除水や排液関連のトラブルになる可能性があります。



警告

もし間違った透析液を使用したり、最終バッグラインに間違った透析液をつなげていることを発見したら、かかりつけの病院にご連絡ください。



警告

●透析液バッグをつないだ後、コネクターラインのクランプを開け忘れたままにしておくと、コネクターラインに空気が入ったままとなり、1サイクル目の注液でお腹に空気が入る可能性があります。空気がお腹に入ると、肩の痛みやおなかの痛みなど、思わぬ健康被害につながる可能性があります。

「コネクターライン接続後→」と「コネクターライン確認」が交互に出ていて、コネクターラインのクランプがまだ閉じたままであることを発見したら、すぐには接続チューブをつなぐずに、クランプを開けて「再プライミング」を行ってください。再プライミングは222ページを参照願います。

●もし、接続チューブがつながっている状態でクランプが閉じていたことに気づいたら、お腹に液があるか確認してください。

(a) お腹に液がある場合

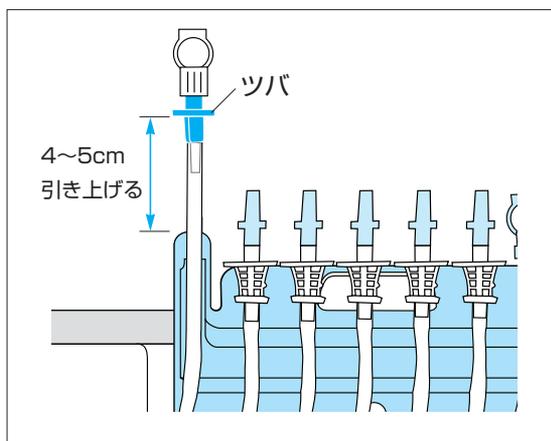
強制排液をしてから治療を開始してください。強制排液の手順は254ページを参照願います。

(b) お腹に液がない場合

新しいゆめセットと透析液バッグで始めからやり直してください。

2.プライミング前の注意（5Lバッグ使用時の注意）

5Lバッグをヒーターにのせて使う場合、コネクターラインのツバ（下図参照）をライン保持盤の上部から約4～5cm上まで引き上げてください。2.5L以下のバッグの場合はその必要はありません。

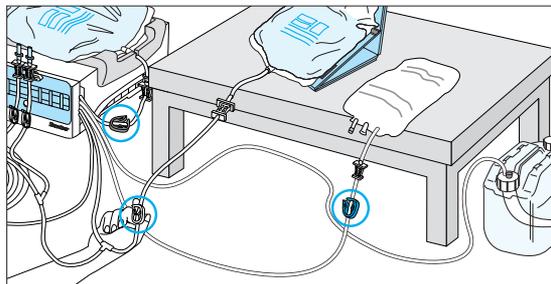


注意

プライミング開始時、回路をゆめシステムにセットするときに、プライミングが確実に行われるように以下のことに注意してください。コネクターラインから液があふれ菌混入の原因となります。

- ①5Lバッグをヒーターにのせて使う場合、コネクターラインのツバ（上図参照）をライン保持盤の上部より4～5cmくらい高い位置に引き上げてください。2.5L以下のバッグの場合はその必要はありません。
- ②プライミング中はヒーターの上には透析液バッグを1つだけ置くようにしてください。
- ③プライミング中はヒーター上の透析液バッグに圧力の加わるような行為は行わないでください。
- ④液があふれた場合は、新しいものに交換し、始めからやり直してください。

3. クランプを開ける



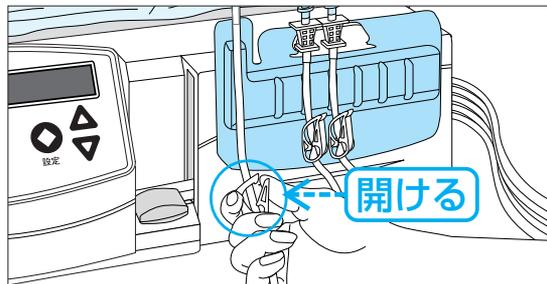
- 透析液バッグを接続したラインのクランプを開けます。
- 透析液バッグをつないでいないラインのクランプは開けないこと。



注意

コネクターラインのクランプが閉まっているとコネクターラインに液が充填されません。再プライミングを行ってください。

4. コネクターラインのクランプを開ける



- コネクターラインがライン保持盤の所定の場所にセットされラインの先端がヒーター上の透析液バッグより高い位置にあることを確かめます。
- コネクターラインのクランプを開けます。



参考

プライミングとは回路内に透析液を満たすことです。また、プライミング中に回路の気密性の確認も行っています。

5. 隔壁を確認する



ゆめの場合

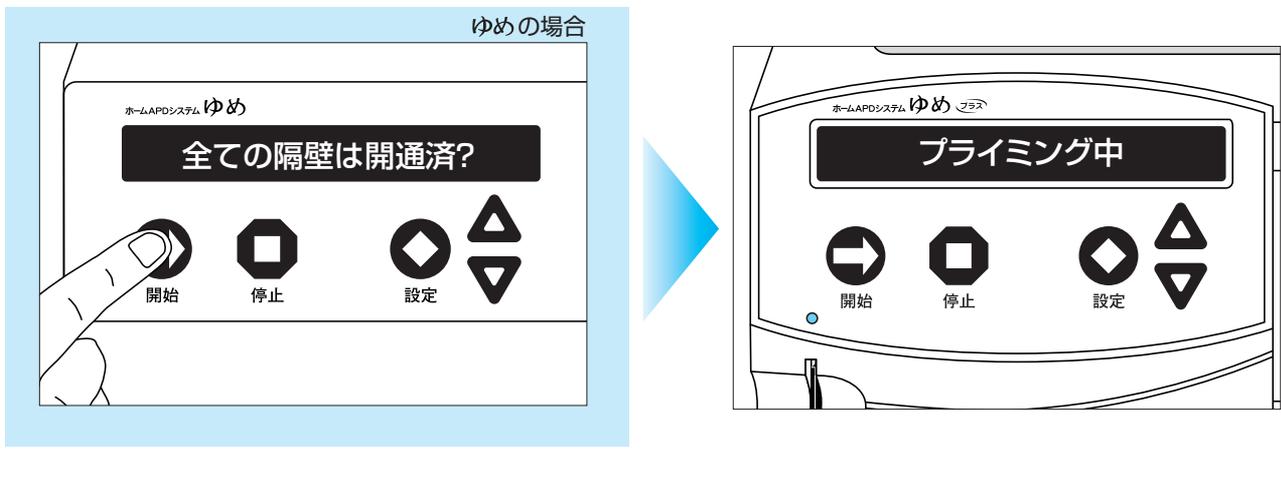


- → 開始ボタンを押します。

ダイアニールをご使用の方は「6.プライミングを開始する」に進んでください。

- ゆめの場合、「全ての隔壁は開通済?」と表示されます。
- ゆめプラスの場合、「プライミング中」と表示されます。
- 全ての隔壁が開通してあるか、もう一度確認します。

6. プライミングを開始する



- ➡ 開始ボタンを押します。
- 「**プライミング中**」と表示され、プライミングが自動的に始まります。約8分後、「**コネクターライン接続後➡**」と「**コネクターライン確認**」が交互に表示されます。



確認

「**コネクターライン接続後➡**」と「**コネクターライン確認**」表示が出るまで接続チューブとゆめセットをつながないこと。



プライミング中に停電等で電源が遮断された場合

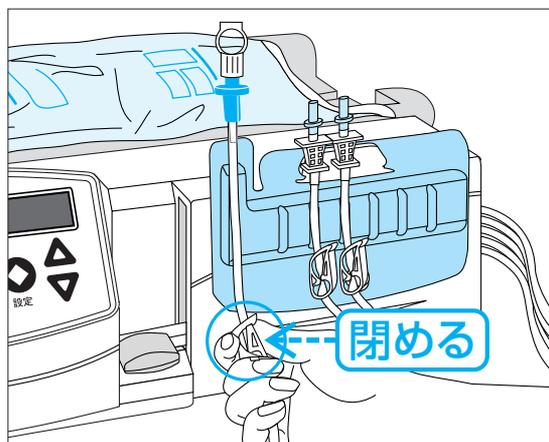
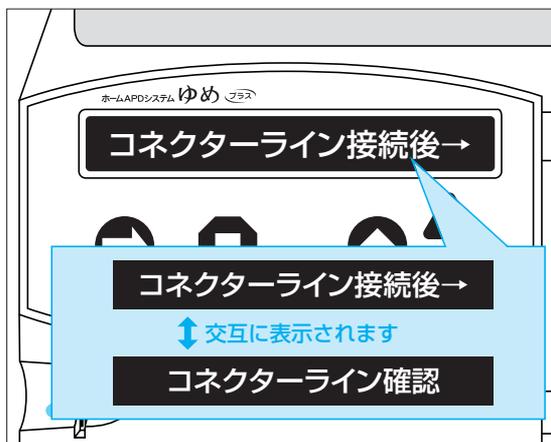
警告 停電から復帰した後で、ゆめセットがゆめシステム内にある場合、全てのクランプを閉じてから ➡ 開始ボタンを押して再開してください。これにより、「回路セット後➡」の画面において、透析液バッグ同士や、患者様の接続チューブとの液の流れが制御できなくて、自由に透析液が流れてしまうことを防ぐことができます。制御が行われていない場合、落差による液の流れで過注液となる可能性があります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。過注液が疑われるときには、 ❶ 停止ボタンをすぐに押し、 ❷ ▼ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「**10 困ったときの対処方法 (254ページ)**」をご覧ください。ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

プライミング中の電源遮断後に治療を再開する場合

- ① 全てのクランプを閉める
- ② ➡ 開始ボタンを押す
- ③ 「**回路セット後➡**」の表示が出たら、再度 ➡ 開始ボタンを押す
- ④ 「**バッグ接続後クランプ 開け➡**」の表示が出たら、つながっているバッグのクランプを開ける
- ⑤ コネクターラインのクランプを開け、 ➡ 開始ボタンを押す

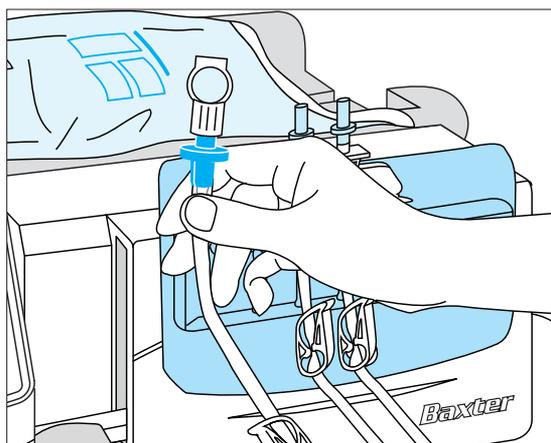
手順10 コネクターラインの接続

1. コネクターラインのクランプを閉める



- 「コネクターライン接続後→」と「コネクターライン確認」が交互に表示されます。
- コネクターラインが透析液で満たされていることを確認します。
- コネクターラインの白いクランプを閉めます。

2. コネクターラインをライン保持盤から取り外す



- コネクターラインをライン保持盤から外します。



コネクターラインを接続する前に、コネクターラインが透析液で充填されているか確認してください。

プライミング後に、コネクターライン先端近くまで透析液が来ていない場合はおなかのチューブを接続しないでください。空気が残った状態で接続すると、初回排液がない場合、空気が腹腔に入ることになります。空気が腹腔に入ると、肩の痛みやおなかの痛みなど、思わぬ健康被害につながる可能性があります。

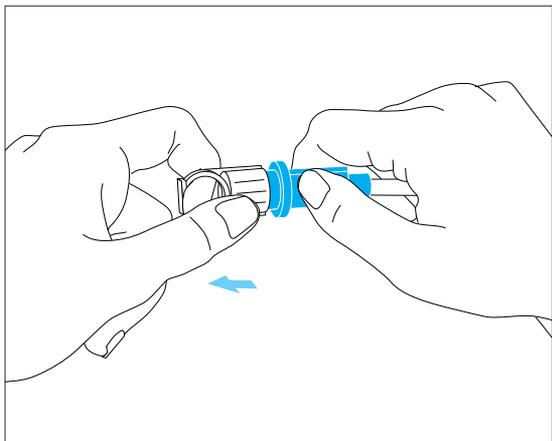
正しくプライミングされたか確認するためには…

- コネクターラインの白いクランプがあいていること
- コネクターラインの先端がライン保持盤に正しく取り付けられていること

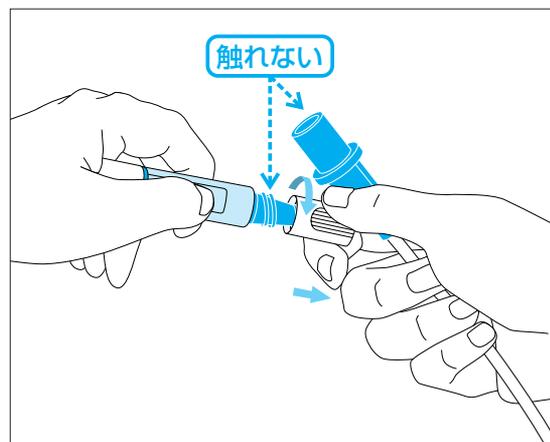
コネクターラインを接続する前に

- ① コネクターラインの先端近くまで透析液が充填されていることを確認します。
- ② もし、コネクターラインの先端近くまで透析液が充填されていない場合、再プライミングを行ってください。再プライミングの手順は本冊子222ページを参照してください。

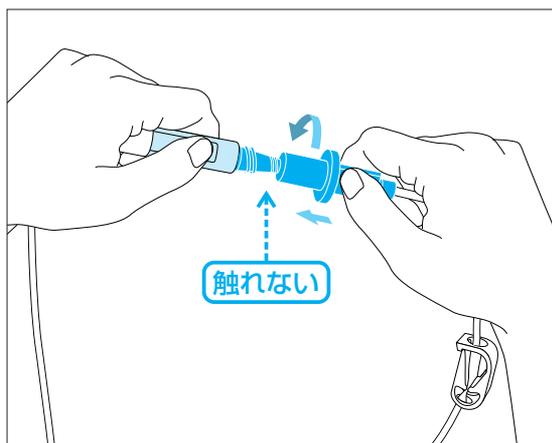
3～5までは連続した手技です。

3. コネクターラインの
キャップを外す

- コネクターラインを持ち、指をキャップの輪にかけ、引っ張り外します。

4. 接続チューブの
ミニキャップを外す

- コネクターラインを持ったまま、接続チューブを持ちます。
- ミニキャップを持ち回転させながら外します。

5. コネクターラインと
接続チューブの接続

- コネクターラインと接続チューブを回転させながらしっかり接続します。



警告

キャップなどを外したコネクターラインの先端や接続チューブの先端に手や物などが触れないように注意してください。腹膜炎の原因になるおそれがあります。接続チューブが汚染された場合には、以下のことをすみやかに行ってください。

- ① ツイストクランプが閉まっていることを確認してください。
- ② キャップをしてください。
- ③ 接続チューブのチューブ部分を縛ってください。
- ④ かかりつけの病院へ連絡し指示に従ってください。

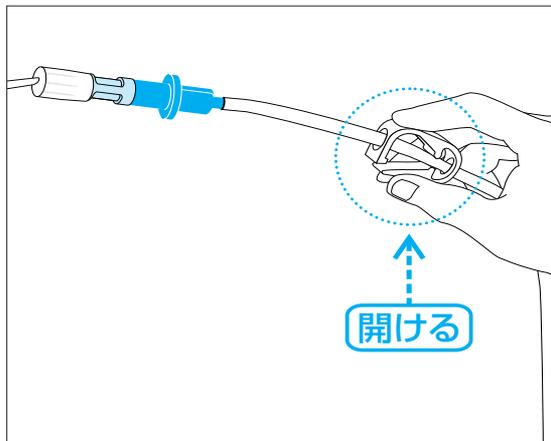
コネクターラインが汚染された場合には、新しいものと交換してください。



警告

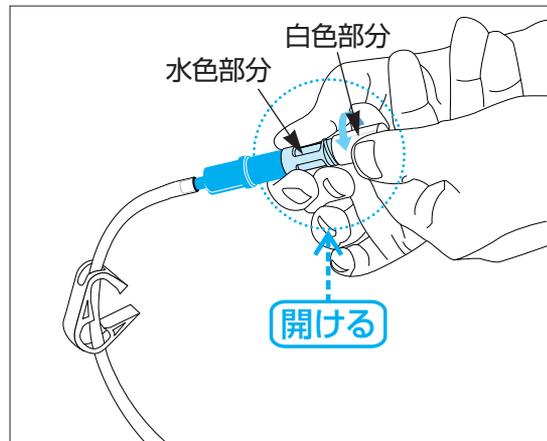
清潔操作にて接続を行ってください。マスクを着用し、手洗いを確実に行ってください。

6. コネクターラインの クランプを開ける



- コネクターラインの白いクランプを開けます。

7. 接続チューブの クランプを開ける



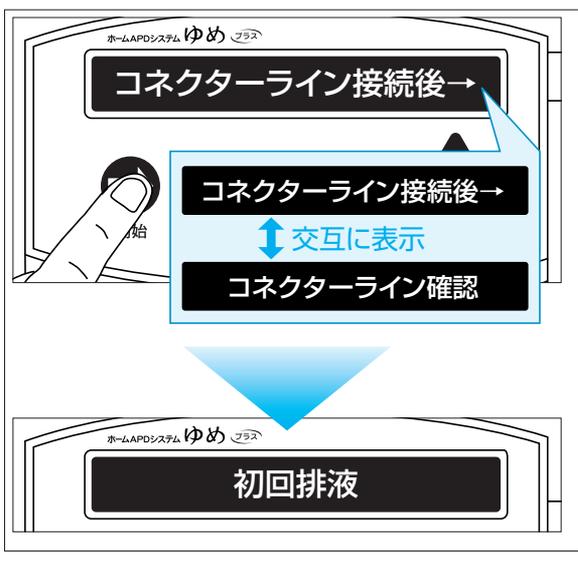
- 接続チューブのツイストクランプを図のように持ち、ツイストクランプをひねって開けます。



注意

ツイストクランプを操作する際には、必ずツイストクランプの水色部分を片手で保持し、もう片方の手で白色部分を回すようにして下さい。

8. 開始ボタンを押す



-  開始ボタンを押します。
「初回排液」と表示され、治療が開始します。



注意

● 「初回排液の限度」がなし、または少ない場合、「初回排液限度」の表示が出ます。設定が正しいときは、 開始ボタンを押して治療を開始します。設定が正しくないときは、本冊子245ページを参照してください。

4 -2 治療の終了

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

手動・スパイク式用 治療の手順

システムII用 治療の手順

くりくんフラッシュ用 治療の手順

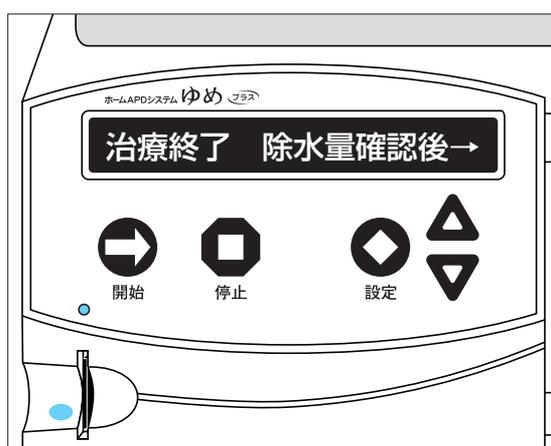
最終注液前
排液の手順

ゆめカバール・ゆめ
クリップの使用
方法

処方の確認
・変更方法

手順1 結果の確認

1. 表示を確認



- 終了時、「治療終了 除水量確認後→」と表示されます。



警告

清潔操作にて切り離しを行ってください。マスクを着用してください。

2. 初回排液量の確認



- ▼ ボタンを押し、初回排液量を確認します。



警告

もし治療が完了できなかつたり、最終注液を行わなかつたり、かかりつけの病院の指示通り治療ができなかつた場合は、その旨かかりつけの病院にお知らせください。何回か治療を行わなかつたり、完了できなかつたりすると、貯留時間や治療時間が短くなり、尿毒症になることがあります。

ポイント 治療終了時の確認事項

原則として除水量の確認は治療終了時「治療終了 除水量確認後→」の表示のときに行います。

治療終了時には、以下を確認しAPD記録ノートに記入します。

- 初回排液量
- 総除水量
各サイクルごとの除水量（各サイクルの除水量を確認することで除水の傾向

を見ることが可能です。）

- 平均貯留時間
各サイクルの貯留時間（各サイクルの貯留時間を確認することで治療内容を知ることが可能です。）
- 貯留時間の短縮・延長（貯留時間が予定よりある程度長かつたり、短かつたりした場合のみ表示されます。）

3. 除水量の確認



- ▼ ボタンを押し、総除水量を確認します。
- 各サイクルの除水量の確認は、◆ 設定ボタンを押して行います。
- 各サイクルごとの除水量を確認したあとは、■ 停止ボタンを押します。

4. 平均貯留時間の確認



- ▼ ボタンを押し、実際の平均貯留時間を確認します。
- 各サイクルの貯留時間の確認は、◆ 設定ボタンを押して行います。
- 各サイクルごとの貯留時間を確認したあとは、■ 停止ボタンを押します。



確認

治療終了時の「総除水量」が少なかったりマイナスだったりした場合、最終サイクルの排水量が不十分でお腹にたくさんの液が残っている可能性があります。「最終注液前 排水」が「アリ」であり、「目標除水量」の設定値が期待される除水量の70%くらいであることを確認ください。期待される除水量の70%を出すのにお困りの場合、「15 -15 タイダール総除水量と、最終注液前排水の目標除水量を決める」をご参照ください。また、最終注液前排水については7章をご参照ください。

ポイント 各サイクルの除水量、各サイクルの貯留時間の確認方法

除水量

▼ 総除水量

◆ 2サイクル除水量：○○○ml

▼ 1サイクル除水量：○○○ml

○ 「治療終了 除水量確認後→」

貯留時間

▼ 平均貯留時間

◆ 2サイクル貯留時間：○：○○

▼ 1サイクル貯留時間：○：○○

○ 「治療終了 除水量確認後→」

各サイクルごとの除水量、貯留時間を確認したあとは、○ 停止ボタンを押してください。

「治療終了 除水量確認後→」と表示されます。再度、始めから ▼ ボタンを押して次の表示に進んでください。

※確認の手順は覚えやすい順序で行ってください。



警告

最終サイクルの除水量がいつも多い場合、治療中に除水量がお腹にたまりやすいのかもしれませんが。

●CCPD/IPD療法の場合、排液の限度%が低すぎるかもしれません

●タイダル療法の場合、総除水量の設定が低すぎるのかもしれませんが

どちらの場合でも過注液の可能性があります。これらの場合に加えて、濃度の高い透析液を使用するような場合、さらに過注液の可能性を高めます

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、○ 停止ボタンをすぐに押し、▼ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法（254ページ）」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。



警告

「病院へ連絡してください」／「排液量過剰 ABC」表示は治療中に過注液が発生した記録があったことを示しています。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

「病院へ連絡してください」／「排液量過剰 ABC」に関する詳細は「10 困ったときの対処方法（268ページ）」をご参照ください。

過注液が疑われるときには、○ 停止ボタンをすぐに押し、▼ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法（254ページ）」をご覧ください。

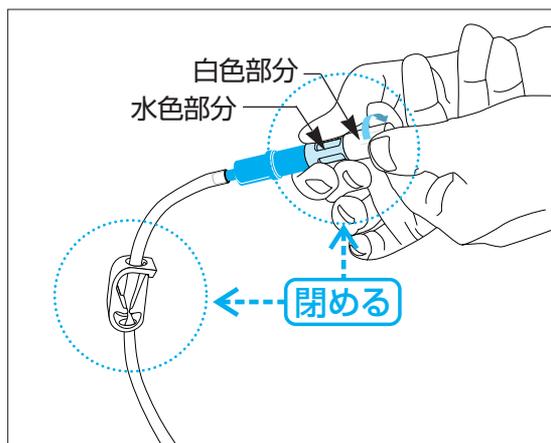
ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

5. 貯留時間短縮・延長の確認



- ▼ ボタンを押し、貯留時間短縮または貯留時間延長の確認をします。
この表示は貯留時間が予定よりある程度長かったり短かったりした場合表示されます。それ以外は表示されません。

7. コネクターラインと接続チューブのクランプを閉める



- 接続チューブのツイストクランプを図のように持ち回転して閉めます。
- 回路のクランプをすべて閉めます。排液バッグを使用している方は排液バッグのクランプも閉めます。
- 接続チューブを切り離す前に → 開始ボタンをもう一度押さないでください

6. 開始ボタンを押す



- 開始ボタンを押します。
- 「クランプを閉じた後→」と表示されます。



注意

ツイストクランプを操作する際には、必ずツイストクランプの水色部分を片手で保持し、もう片方の手で白色部分を回すようにして下さい。



全てのクランプを閉める前に、 → 開始ボタンを押さないでください。

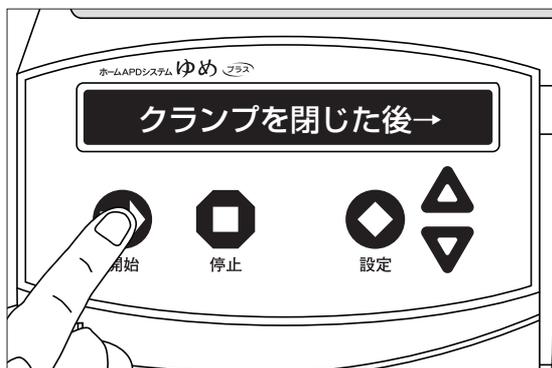
警告 これにより、「コネクターラインと回路外した後→」 / 「クランプを閉じた後→」表示の時に、透析液バッグ同士や、患者様の接続チューブとの液の流れが制御できなくて、自由に透析液が流れてしまうことを防ぐことができます。制御が行われていない場合、落差による液の流れで過注液となる可能性があります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、■ 停止ボタンをすぐに押し、▼ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方(意識のない方、乳幼児や小児)に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

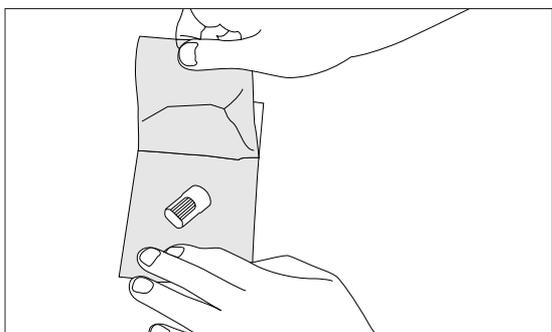
手順2 コネクターラインの切り離し

1. 開始ボタンを押す



- 開始ボタンを押します。
「コネクターラインと回路外した後→」と「クランプを閉じた後→」が交互に表示されます。

2. 新しいミニキャップを用意する



- 新しいミニキャップの使用期限と包装の破れを確認します。
- 表示面を上にして開封します。
このとき、ミニキャップが転がらないように注意してください。



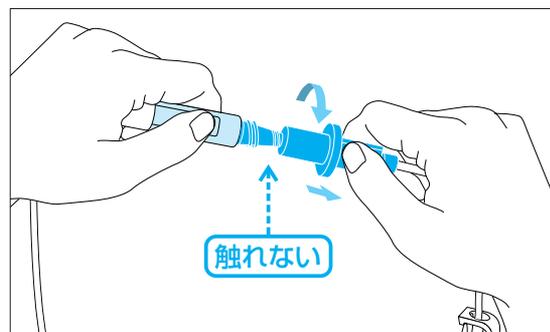
注意

接続チューブの先端が手や机などに絶対触れないように注意してください。

腹膜炎の原因になるおそれがあります。万一接続チューブが汚染された場合には、以下のことをすみやかに行ってください。

- ① ツイストクランプが閉まっていることを確認してください。
- ② キャップをしてください。
- ③ 接続チューブのチューブ部分を縛ってください。
- ④ かかりつけの病院へ連絡し指示に従ってください。

3. コネクターラインを切り離す



- 左手に接続チューブを持ち、右手でコネクターラインを持ちます。
コネクターラインを回転させながら外します。



警告

感染を防ぐため、病院で指導を受けたように清潔操作で行ってください。マスクをし、手洗いをし、乾燥（または消毒）してください。



注意

ミニキャップの破損やミニキャップの内側が汚染されたなどの場合には必ず新しいものを使用してください。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
自動・スバイク式用

治療の手順
システムII用

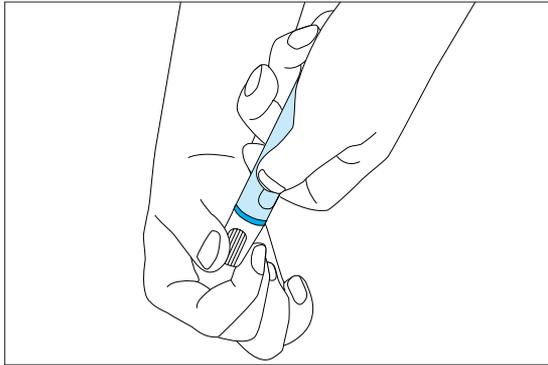
治療の手順
くりくんフラッシュ用

最終注射液前
排液の手順

ゆめカバー・ゆめ
クリップの使用
方法

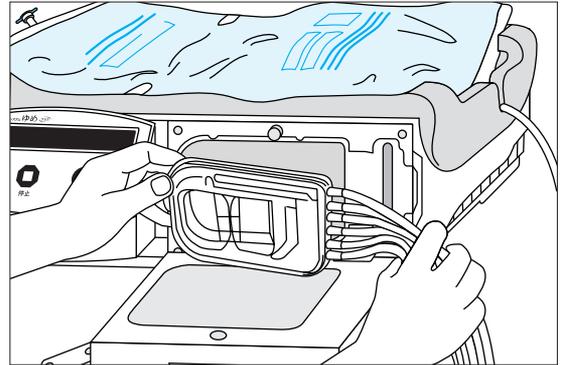
処方の確認
・変更方法

4. ミニキャップの装着



- 新しいミニキャップを接続チューブに回転させながら取り付けます。このときゆっくり閉めていき、強い抵抗感を感じたところで止めます。

5. カセットを取り出す



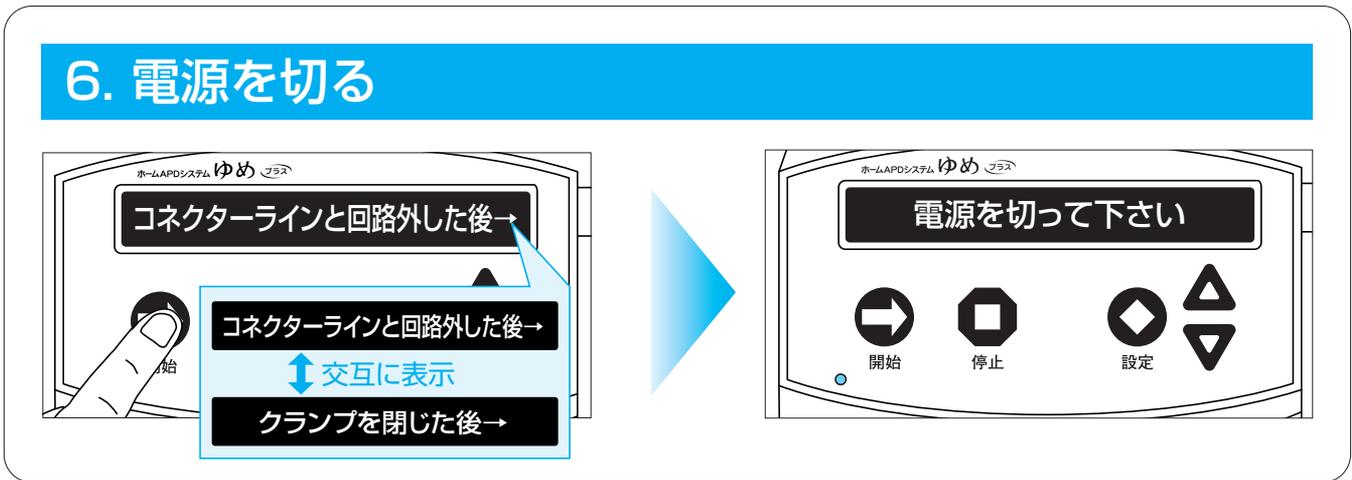
- ハンドルを上げてドアを開け、カセットを取り出します。



警告

すべてのクランプを閉じて切り離す前に、 開始ボタンを押さないでください。透析液バッグ同士や、患者様の接続チューブとの液の流れが制御できず過注液となったり、感染の危険性があります。

6. 電源を切る



- ドアを閉めます。
➡ 開始ボタンを押します。
- 「電源を切って下さい」と表示されます。
確認して電源を切ります。



警告

治療終了後、使用済みのゆめセットや透析液バッグは廃棄してください。もし再利用すると透析液や透析液の流路を汚染する可能性があります。透析液や透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。



警告

全てのクランプを閉じる前にドアを開けないでください。全てのクランプを閉じておくことにより、透析液バッグ同士や、患者様の接続チューブとの液の流れが制御できず、自由に透析液が流れてしまうことを防ぐことができます。液の流れの制御が行われていない場合、落差による液の流れで過注液となる可能性があります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、■ 停止ボタンをすぐに押し、▼ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。



注意

排液タンクは毎回きれいに洗い、乾燥させて使用してください。



注意

排液の性状（混濁の度合、沈殿物、浮遊物、色など）を確認してから排液を捨てます。異常があるときはすみやかにかかりつけの病院に連絡し、指示に従ってください。

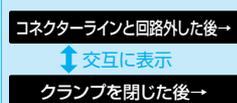


確認

「コネクターラインと回路外した後→」の表示でドアが開かなくなりカセットが取り外せなくなった場合の対応について

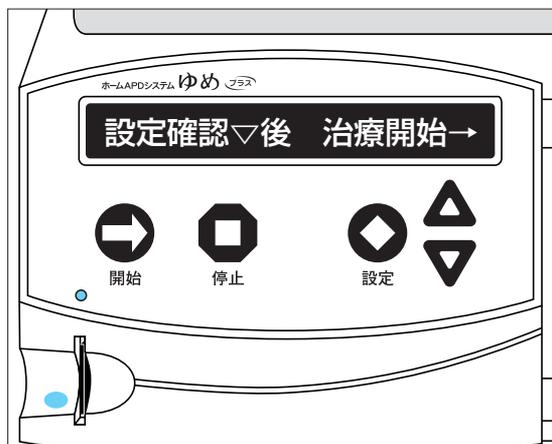
- 手順① コネクターラインと接続チューブが切り離されていることを確認します。
- 手順② 図1の表示で、■ 停止ボタンを押します。
- 手順③ ➡ 開始ボタンを押します。
- 手順④ オクルーダーが開き、カセットが取り外しやすくなります。

図1



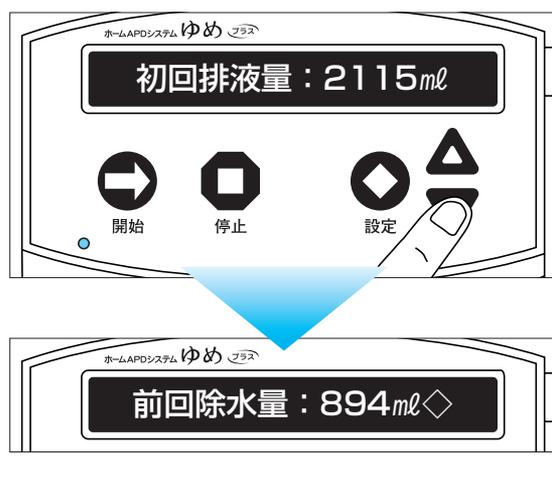
手順3 治療終了時に除水量の確認ができなかった場合

1. 電源を入れる



- 電源を入れます。
自己診断後「設定確認▽後 治療開始→」と表示されます。
「体重：○○.○KG」などの追加情報の表示となった場合、**■** 停止ボタンを押し「設定確認▽後 治療開始→」の表示にします。

3. 前回除水量の確認



- **▽** ボタンを押し、前回除水量を確認します。

2. 初回排液量の確認

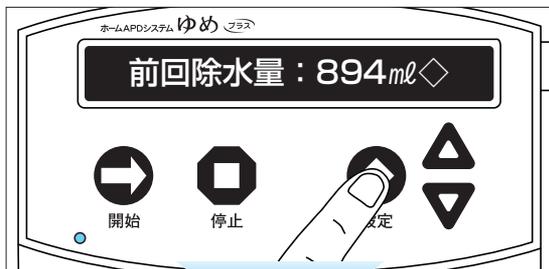


- **▽** ボタンを3回押します。
「初回排液量」と表示されます。
- 初回排液量の確認をします。

確認 原則として除水量の確認は治療終了時「治療終了 除水量確認後→」の画面のときに行ってください。前回の治療結果は、あらたな治療が始まるまで記憶されています。

確認 上記1で **▽** ボタンを押せば、「処方の確認/変更◇」、「調整メニュー変更◇」のあと「初回排液量：○○○○ml」と表示されます。行き過ぎてしまった場合は **▲** ボタンを押すと前の表示に戻ります。治療終了後に除水量を確認した場合、「総除水量：○○○○ml」は「前回除水量：○○○○ml」と表示されます。

4. 各サイクルの除水量確認



- ◆ 設定ボタンを押します。
各サイクルの除水量表示が**新しいサイクルの除水量から表示**されます。
- ▽ ボタンを押します。
▽ ボタンを押して行くことで、各サイクルの除水量を確認します。

5. 最初の表示に戻す



- 停止ボタンを押します。
「設定確認▽後 治療開始→」の表示に戻ります。



確認

各サイクルの表示から、「平均貯留時間：○：○○」、「アラームリスト」などを確認したいときには、□ 停止ボタンを押し「設定確認▽後 治療開始→」の表示に戻し▽ ボタンを押してください。

5 治療の手順 システムII用 [システムII 5バッグ用セット /システムII 4バッグ用 少注液量セット] の場合

5-1 治療の開始

手順1 治療開始の準備

バッグ交換に適した環境作り

- 適切な場所の確保
 - ・清潔で十分な大きさのテーブルを準備してください。
 - ・交換場所全体が明るく照明がゆきわたっていること。
 - ・アースが接続できるコンセントがあること。くわしくは7ページを参照してください。
- 環境の整備
 - ・清掃のゆきとどいた部屋を使用します。
 - ・子供やペット(犬・ネコ・小鳥など)のいない部屋を使用します。
 - ・窓やドアは風などを防ぐために必ず閉めます。
 - ・冷暖房器具の風が交換場所に直接当たらないようにします。
 - ・機器類は、明るく清潔で、平らな所に置いてください。また、原則として機器がご使用者と同じ高さになるように設置してください。排液不良の出やすい方はゆめシステムを体より低くしてください。
 - ・透析液バッグ接続のためのテーブルを用意してください。
 - ・治療中、透析液バッグが落ちたりしないように注意してください。



警告

本機器は接地して使用しなければなりません。電氣的にショートが発生した場合、接地してあることにより電流を逃がすことができるため、感電のリスクを軽減できます。本機器には接地線をつなげられる電源ケーブルを同梱しています。適切に「接地」されていることを確認したコンセントに接続して使用してください。コンセントについてはかかりつけの病院または電気店にご相談ください。



警告

「接地」についてご理解いただけない場合、またはゆめシステムが正しく設置されているか分からない場合、お近くの電気店にご相談ください。不適切な使用は感電の可能性あります。



警告

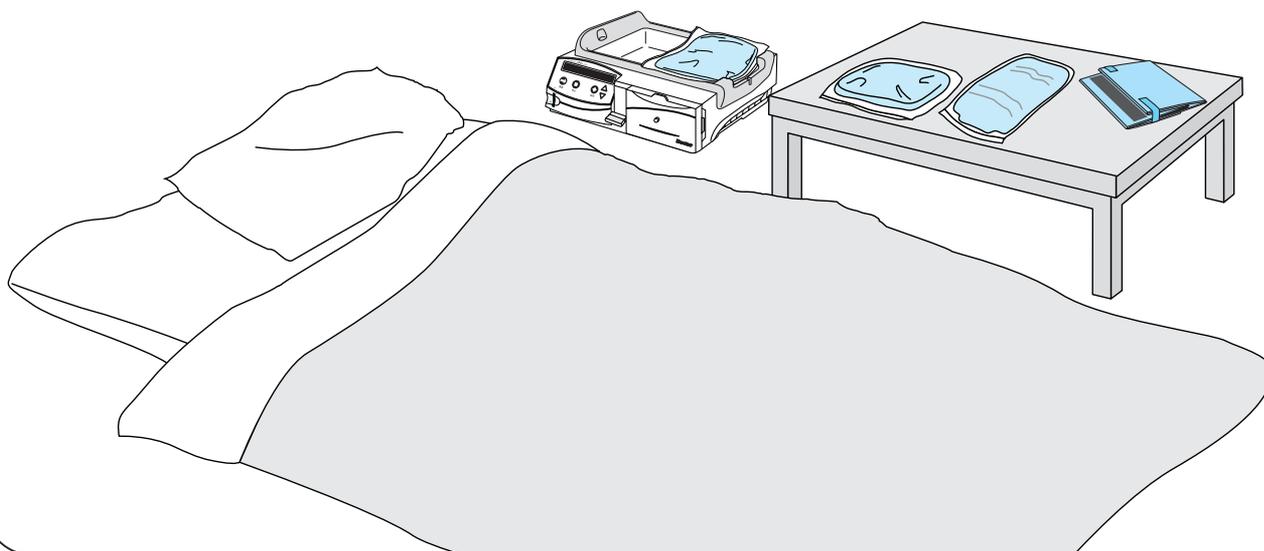
壁のコンセントに電源コードが接続できない場合、プラグを交換したりしないでください。電気店に連絡して、適切に接地できるようにご相談ください。



警告

透析液バッグは平坦な安定したところにおいてください。透析液バッグが落ちないように、透析液バッグを重ねて置いたりしないでください。透析液が落下すると、液漏れが発生することがあります。液漏れは透析液や透析液が通るところを汚染したりします。透析液や透析液が通るところを汚染すると腹膜炎になったり、思わぬ健康被害を受けたり、死に至ることもあります。

機器類を設置する



警告

ペットや動物が透析液バッグや器材をかむと、透析液や透析液の流路が汚染されます。透析液や透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。このようなことをさけるため、ペットや動物がいる部屋では治療を行わないでください。



警告

透析液バッグや使い捨て回路を使用するときには、かかりつけの病院での指示通り、清潔操作で行ってください。マスクをつけ、手洗いを十分に行い手は乾かす（または消毒する）ようにしてください。



注意

機器の使用温度は15℃～36℃です。この範囲になるように環境を整えてください。また、透析液・回路も同様に同じ範囲内で使用してください。



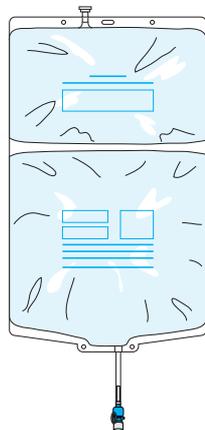
確認

冬期はプライミング中のアラーム発生をさけるためバッグ加温器で温めた透析液バッグと回路をお使いください。

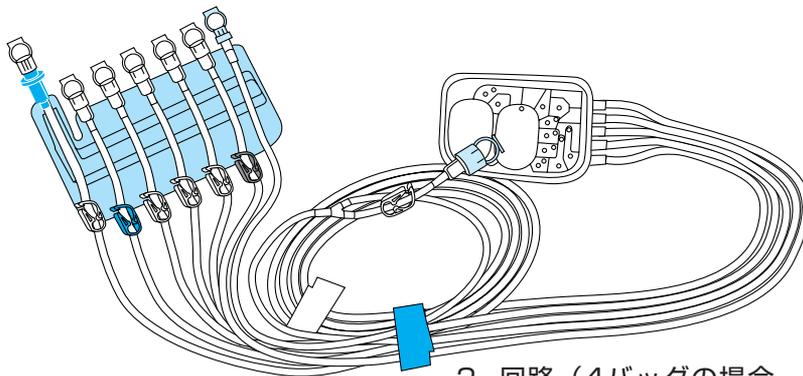
または治療30～60分前に機器の電源スイッチを入れ、ヒーター上に透析液バッグを乗せて温めておき、さらに回路はヒーターバッグの上に乗せておくことをおすすめします。他の透析液バッグも加温器で温めてお使いください。

手順2 物品の準備

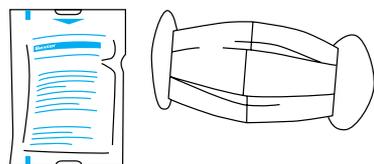
治療に必要な物品を用意する



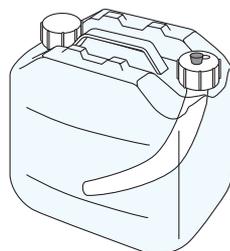
1. 透析液バッグ



2. 回路 (4バッグの場合、白のクランプがついたバッグラインは2本です)



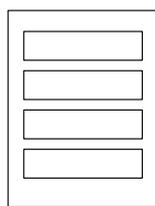
3. ミニキャップキット



4. 排液タンク



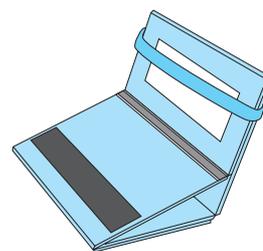
5. APD記録ノート



6. 排液確認用下敷



7. カード
(ゆめプラスのみ)



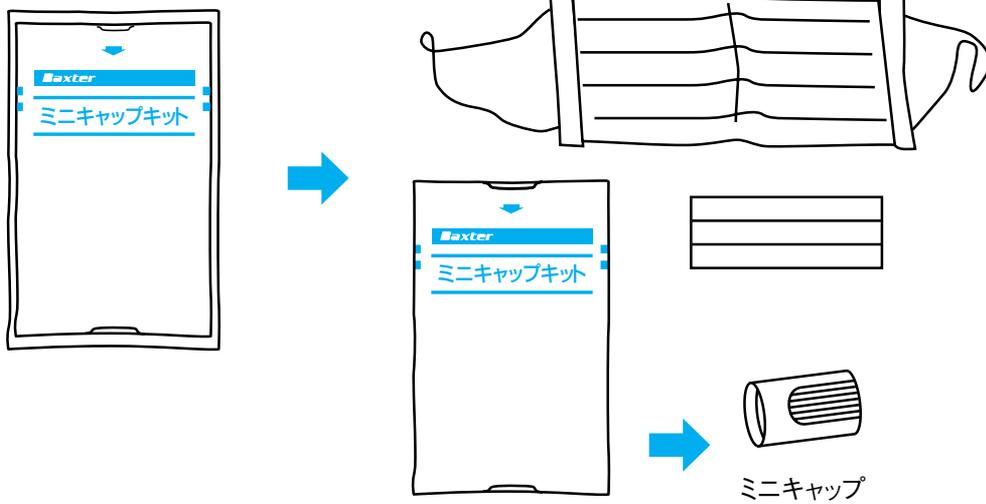
8. 補液用スタンド

治療に必要な物品を用意します。

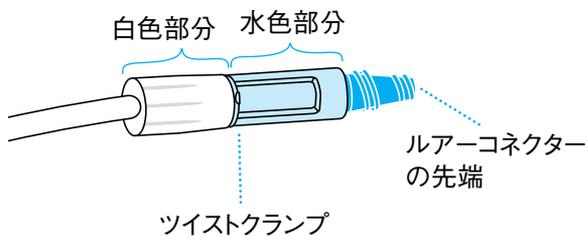
1. 透析液バッグ
2. 回路
3. ミニキャップキット
4. 排液タンク
5. APD記録ノート
6. 排液確認用下敷
7. カード (ゆめプラスのみ)
8. 補液用スタンド

必要な物品および各部の名称

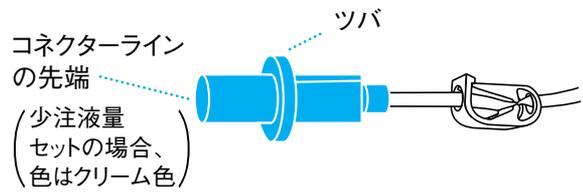
ミニキャップキット



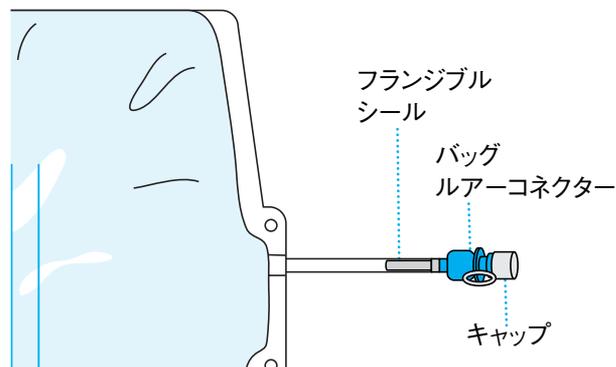
ミニキャップ接続チューブ



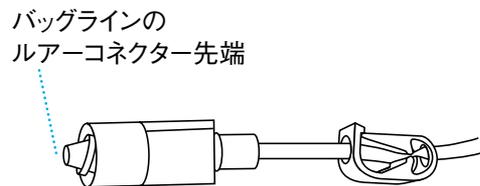
コネクターライン



透析液



バッグライン



安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
自動・スライク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くりくんフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

ゆめカバ！ゆめ
クリップの使用
方法

処方の確認
・変更方法

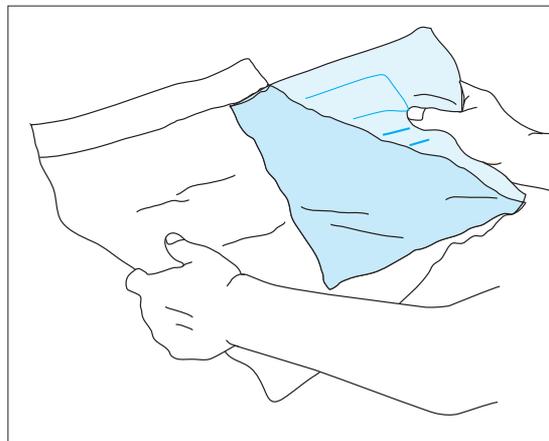
手順3 ゆめシステムのセットアップ

1. 透析液バッグの確認



- 表示を確認する。
- 異常がないか確認する。

2. 外袋の開封



- 外袋を開封し、透析液バッグを取り出します。

ダイアニールをご使用の方は
「6.ヒーターに透析液バッグを乗せる」に進んでください。



注意

外袋内に水滴がみられることがあります。必ず透析液バッグを押し
て液もれのないことを確認してく
ださい。



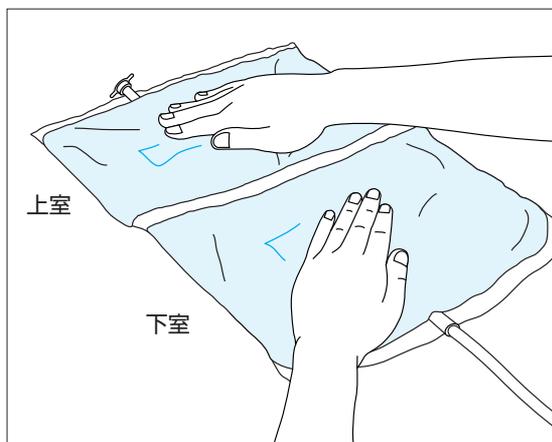
警告

透析液バッグの以下の点についてご確認願います。

- 透析液が無色～微黄色の透明である
- 先生の処方どおりの薬剤である
- 透析液の糖濃度が正しい
- 透析液の容量が正しい
- 使用期限内である
- キャップと薬液注入部が正しく付いている
- 液漏れがない

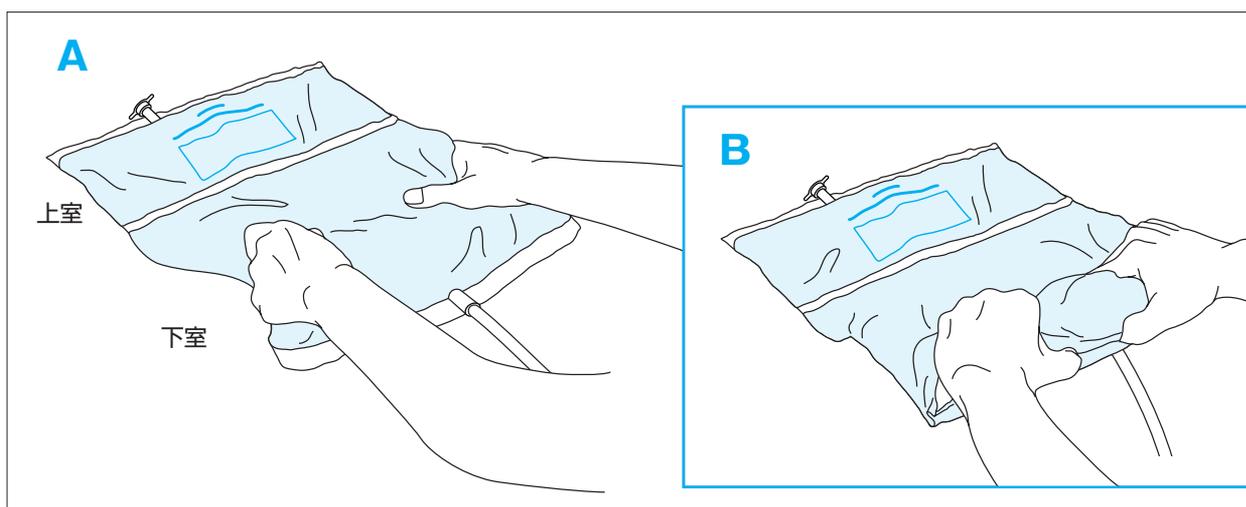
もし何か問題があったら、その透析液バッグは廃棄して新しい透析液バッグを使用してください。間違った透析液を使うと、不十分な透析になったり、問題がある透析液バッグを使った場合汚染された液が注入されたりします。汚染された液が注入されると腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。透析液バッグに何か問題があった場合にはバクスターCAPDコールセンターか、かかりつけの病院までご連絡願います。

3. 隔壁の確認



- 二つ折りになっている透析液バッグを広げ、表示面を上にして机の上に置きます。
- 透析液バッグの上室・下室に左右の手を置き、交互に軽く押して隔壁が開通されていないかを確認します。

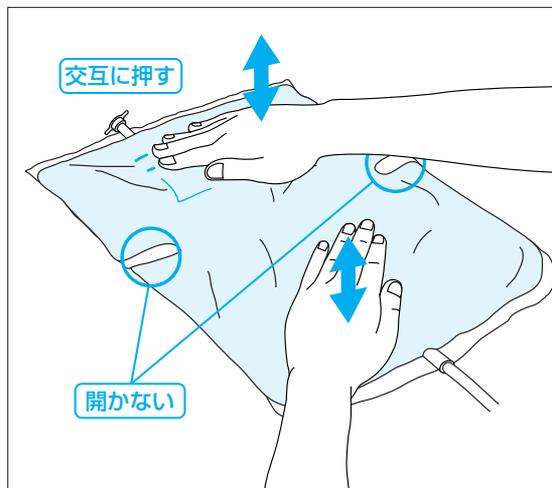
4. 隔壁の開通



- 透析液バッグ下室の中央を左右の手で握り、両脇から強く絞り込みます (A)。これにより隔壁が開通します。

※左記の方法で隔壁が開通できない場合、透析液バッグ下室の手前を握り、上室に向かって巻き込むように強く押します (B)。これにより隔壁が開通します。

5. 透析液の混合



- 透析液バッグの上室・下室に左右の手を置き、4～5回交互に押し、2液を十分に混合します。
(隔壁の両端は開かない部分があります)
- 両手で透析液バッグを押して液もれのないことを確認します。

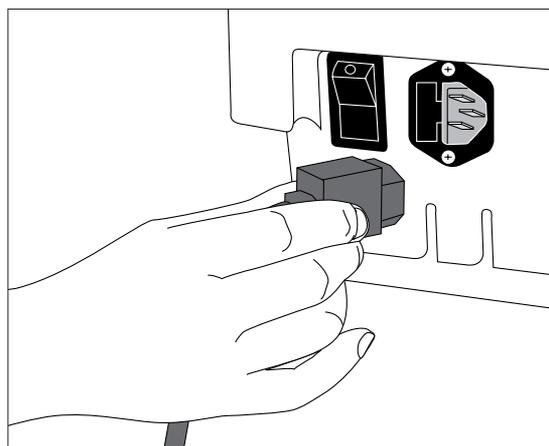
使用する全てのダイアニール-Nを1～5の手順で確認と隔壁開通をします。

6. ヒーターに透析液バッグを乗せる



- 透析液バッグは、ヒーター上の温度センサーを確実に覆うように乗せてください。表示面を上にして乗せてください。

7. 電源コードをつなげる



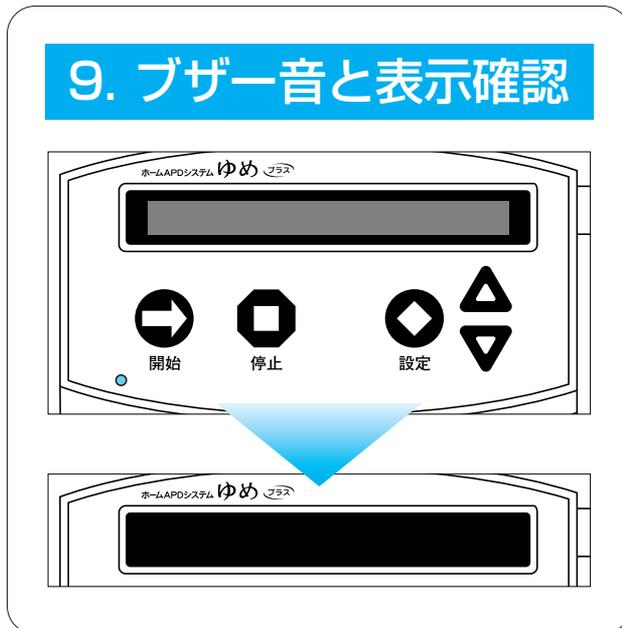
- 電源コードを本体裏面の差し込み口に、もう一方をコンセントに差し込みます。

8. 電源を入れる



- 電源スイッチは機器の裏にあります。“1”で電源が入り、自己診断を開始します。

9. ブザー音と表示確認



- 電源を入れたらブザー音が鳴ることを確認してください。
- 表示の全ピクセルが明るくなった後、全て消えることを確認してください。
(ここでのピクセルとは、表示部で光っている1つずつの点を意味し、文字や数字を構成しているものです)



注意

もし動作がおかしい場合、バクスターCAPDコールセンターまでお電話ください。



警告

「病院へ連絡してください」表示と「排液量過剰」表示の画面が電源投入時に交互に出ている場合、昨日（前回）の治療で過注液があったことを示しています。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

「10 困った時の対処方法（269ページ）」を参照してください。

過注液が疑われるときには、 停止ボタンをすぐに押し、 ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困った時の対処方法（254ページ）」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スライク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くりくんフラッシュ用

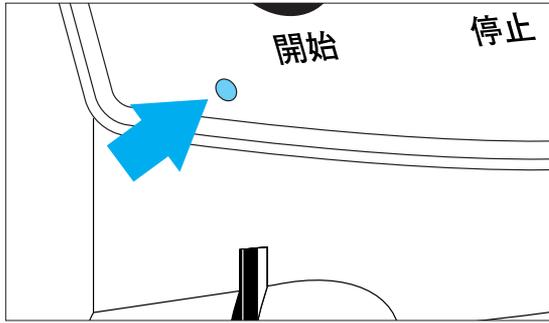
最終注液前
排液の手順

ゆめカバー・ゆめ
クリップの使用
方法

処方の確認
・変更方法

ゆめ^{プラス}をお使いの方のみの手順です。(9~10)

9. 表示部の確認 (ゆめ^{プラス}の場合)



- 状態表示ランプが緑色に点灯していることを確認します。

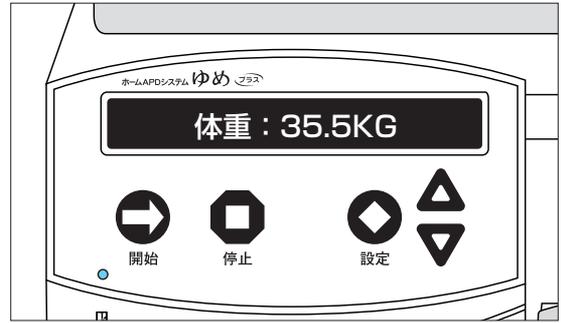


ゆめ^{プラス}では、カードが入っていることを確認します。



この「体重：〇〇.〇KG」表示で入力する体重と、処方入力の「患者体重：〇〇キログラム」表示で入力する体重には関連性はありません。ゆめ^{プラス}の場合、合計で2回体重の入力が必要な場合があります。

10. 追加情報の入力 (ゆめ^{プラス} : オプション)



- かかりつけの病院により入力指示のある項目が表示されます。手順の詳細は本冊子55ページの「3-5 日常の手順」を参照してください。

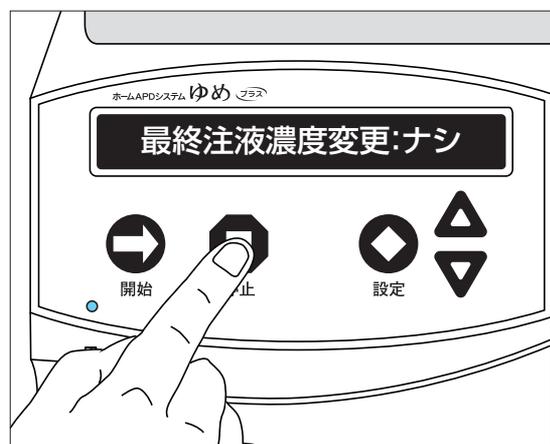
11. モード表示と「設定確認▽後 治療開始→」表示



- 「設定確認▽後 治療開始→」が表示される前に、動作するモードが表示されます。(標準モードまたは少流量モード(小児モード))

- ゆめシステムの内部チェックが終わると、「設定確認▽後 治療開始→」と表示されます。

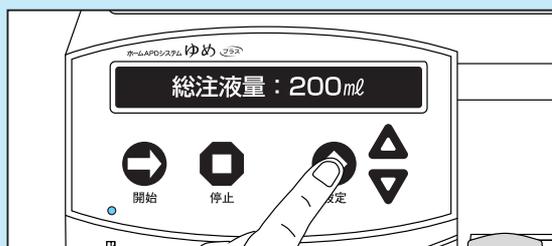
12. 処方の確認



- ▼ ボタンを押すと「処方の確認／変更◇」と表示されます。◆ 設定ボタンを押します。
▼ ボタンを押して処方の確認を行います。
- □ 停止ボタンを押します。サイクル数、貯留時間などが自動的に表示されたあと、「設定確認▽後 治療開始→」の表示に戻ります。

ポイント ▶ 処方の変更方法

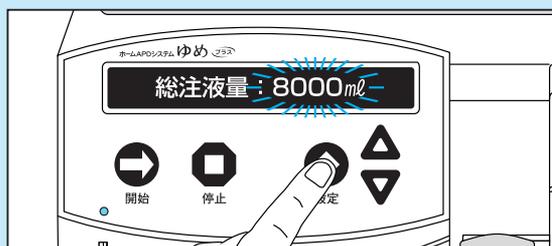
他の処方内容も入力の方法は同じです。



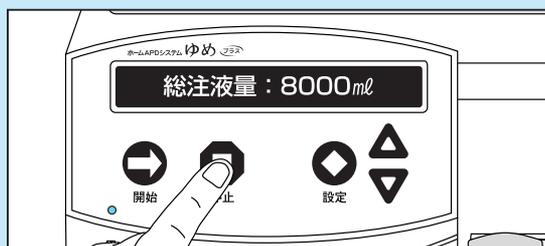
- ① ◆ 設定ボタンを押すと表示の一部が点滅します。



- ② ▲ ▼ ボタンで数値の変更を行います。



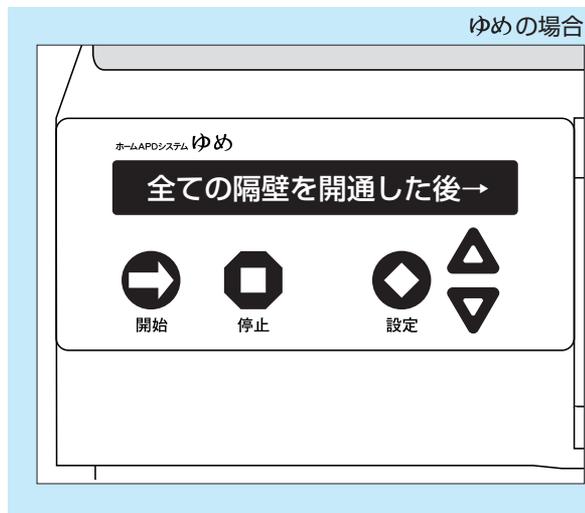
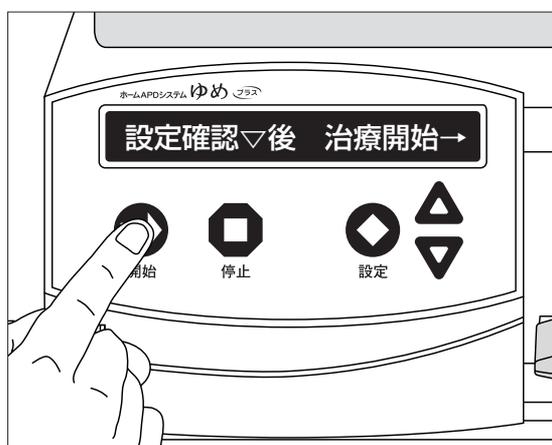
- ③ ◆ 設定ボタンを押して入力数値を確定します。



- ④ 入力終了したら □ 停止ボタンを押すと最初の表示に戻ります。

手順4 隔壁開通の確認

1. 開始ボタンを押す



- ➡ 開始ボタンを押します。
- ゆめの場合、「全ての隔壁を開通した後→」と表示されます。
- ゆめ^{プラナ}の場合、「回路セット後→」と表示されます。
- 全ての透析液バッグの隔壁が開通してあることを確認します。

ポイント 「標準モード」で注液量が1000mL以下の場合、「少注液モードは無効」と表示され少注液モード（小児モード）での動作でないことをお知らせします。➡ 開始ボタンを押して、次に進めてください。

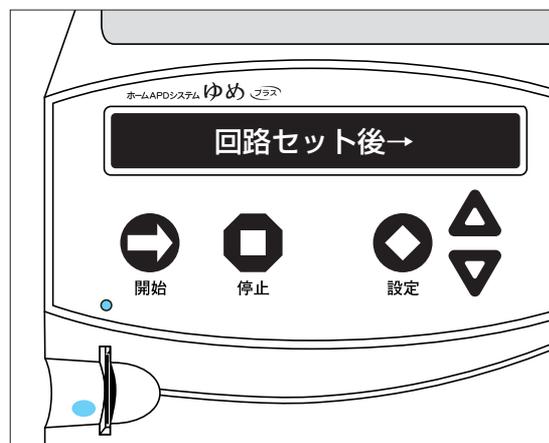
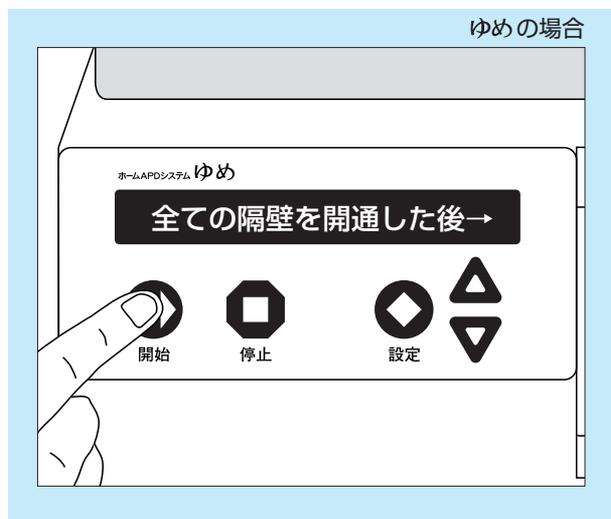
ダイアニールをご使用の方は「手順5.回路の準備」に進んでください。

ポイント 隔壁開通の確認 (ゆめの場合)

「全ての隔壁を開通した後→」の表示では
① 全ての隔壁が開通してあることを確認する。
までを行います。

手順5 回路の準備

1. 開始ボタンを押す



- ➡ 開始ボタンを押します。
「回路セット後→」と表示されます。

ポイント 回路の用意

「回路セット後→」の表示では、

- ①回路の用意
- ②ゆめシステムに回路を装着
- ③排液ラインの装着

までを行います。

排液採取ポートのクランプを閉めるのを忘れがちです。数を数えながらクランプを閉めるようにしてください。



警告

もし回路のキャップが外れている場合は使用しないでください。キャップが外れていたり、しっかり付いていないと、透析液や透析液の流路が汚染される可能性があり、腹膜炎となったり、健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。



警告

ゆめセットを機器に装着する前に、カセットやチューブに損傷がないことを確認してください。損傷があるカセットを使用すると透析液の流路が汚染されます。透析液や透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。

- カセットのやわらかい表面に傷や穴など明らかな損傷がないか確認してください

- ゆめセットのチューブ先端についているキャップが損傷などなく、正しく付いていることを確認してください。

もし損傷などがあれば、新しいゆめセットを使用してください。

ゆめセットのチューブには素材の柔らかさゆえのちょっとした凹みがあります。ちょっとした凹みは外観上のもので製品の機能に影響を与えるものではありません。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スライク式用

治療の手順
システムII用

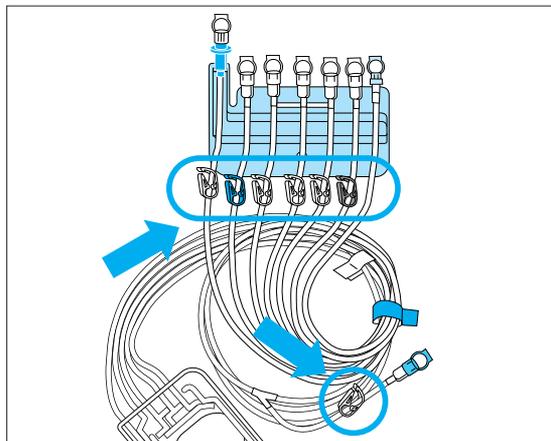
治療の手順
くりくんフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

ゆめカバー・ゆめ
クリップの使用
方法

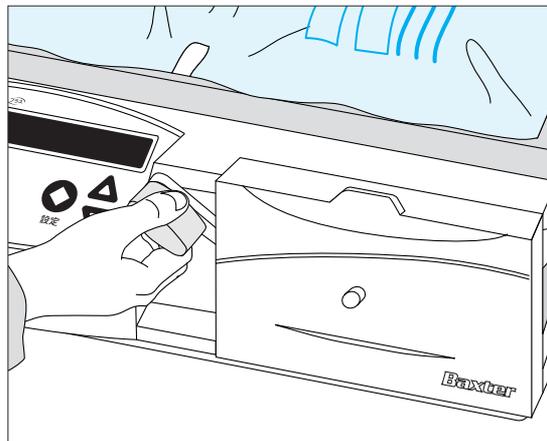
処方の確認
・変更方法

2. 回路の用意



- 回路を袋から取り出し、すべてのクランプを閉めます。
クランプの数は、5バッグ用セットでは7カ所です。(4バッグ用セットでは6カ所です)

3. ドアを開ける



- ハンドルを上げてドアを開けます。



確認

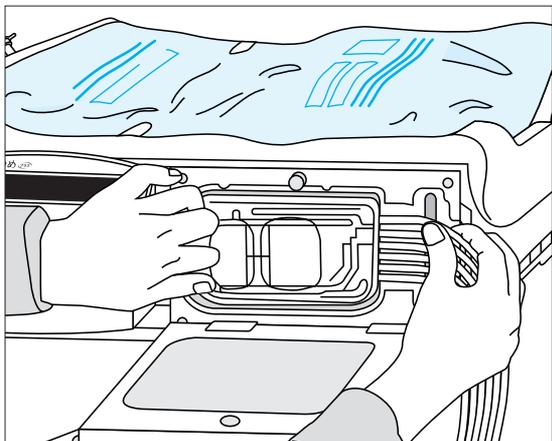
メンブレン ガasketには、機器とカセットの密着性を高めるために小さな穴が開いています。性能上問題はありません。



警告

- 開始ボタンを押して治療を開始する前に、回路がゆめシステムに装着されている場合は、必ず全てのクランプを閉めてください。
- クランプを閉めておけば、「回路セット後→」の表示で液の流れが発生しません。制御できない液が流れる場合、過注液となる可能性があります。
- 過注液は腹部の不快感をもたらしたり、時には思わぬ重大な事故につながるおそれがあります。
- ご自分で異常を訴えることができない方(意識のない方、乳幼児など)に使用している場合は、特にご注意ください。
- 使用中に過注液が疑われるときには、「強制排液」を行ってください。(本冊子254ページを参照してください)

4. カセットを装着



- 回路のラインを束ねている**青色の紙テープ**をはがします。
- 回路のカセットを所定の場所にしっかりとめ込みます。



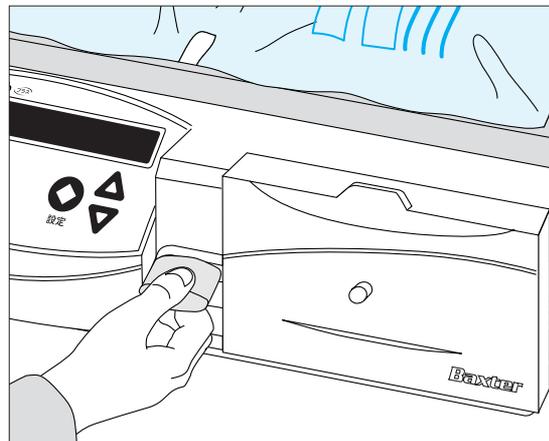
「コネクターライン接続後→」と「コネクターライン確認」が交互に出て警告から、お腹のチューブをつないでください。この画面が出る前にお腹のチューブをつないでしまうと、お腹に空気が入ってしまうことがあります。空気がお腹に入ると、肩の痛みやおなかの痛みなど、思わぬ健康被害につながる可能性があります。また、もしお腹の中に透析液が残っている状態で空気が入ってしまうと、過注液の可能性があります。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、●停止ボタンをすぐに押し、▼ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「⑩ 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

5. ドアを閉める



- ドアを閉めてハンドルを下げます。

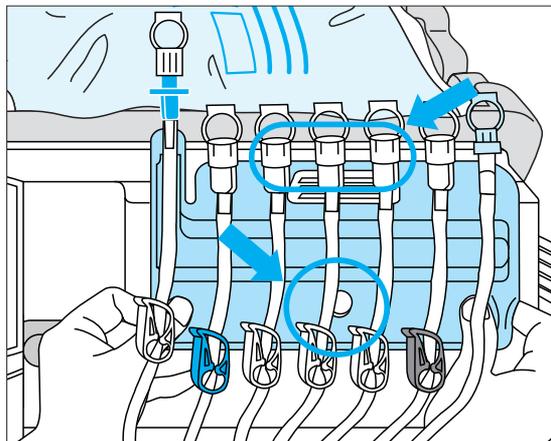
ポイント ▶ ドアを閉める

「回路セット後 →」の表示のときにドアを開けたり、閉めたりを繰り返しますと安全機構が働き、オクルーダーが隆起しドアが閉めにくくなります。

ドアが閉めにくいときには、●停止ボタンを押し、そのあと▶開始ボタンを押します。

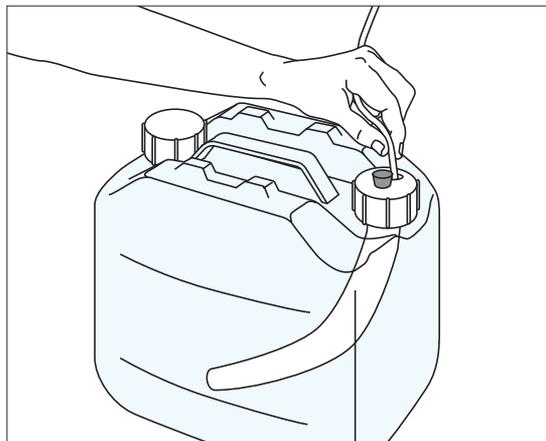
オクルーダーは元の状態に戻ります。オクルーダーが隆起していないことを確認してからカセットを入れ、ドアを閉めてください。

6. ライン保持盤を取り付ける



- ライン保持盤をドア上部、さらにドア中央部のフックに引っかけてから上の方向に引っ張り、安定させます。

7. 排液ラインのセット



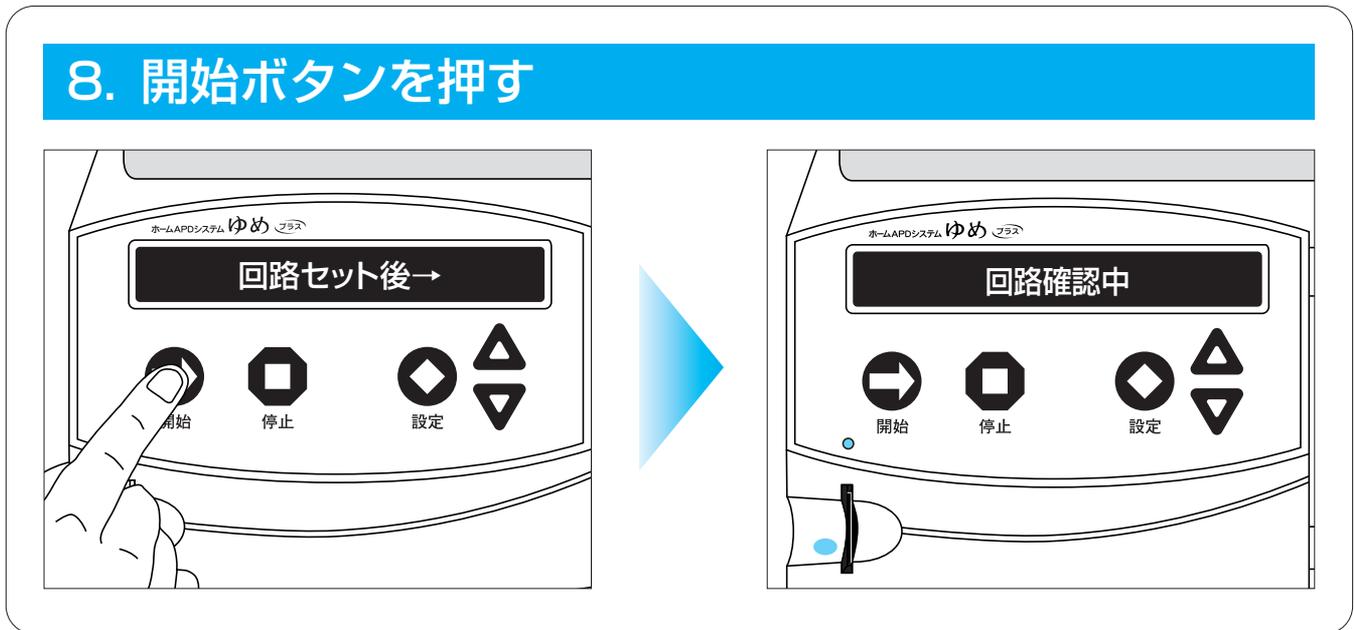
- 右端の排液ラインをライン保持盤から取りキャップを外します。
- 排液タンクへセットします。
- キャップをとりつけます。



警告

排液ラインの先端と排液タンク内の排液との間には、空気の間隙を作ってください。隙間をすることにより、間違えて操作した場合に排液が逆流することを防ぎます。一度排液タンクに出た排液は汚染されていると考えられ、操作間違いによって発生する逆流により透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。

8. 開始ボタンを押す



- 開始ボタンを押します。

- 「回路確認中」と表示されます。(約2分間)

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スパイク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くりくんフラッシュ用

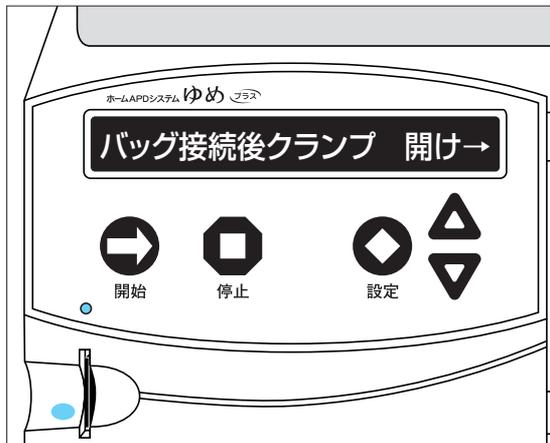
最終注射液前
排液の手順

ゆめカバ！ゆめ
クリップの使用方法

処方の確認
・変更方法

手順6 透析液バッグの接続

1. バッグの接続



- 「バッグ接続後クランプ開け→」と「クランプを開けてください」が交互に表示されます。

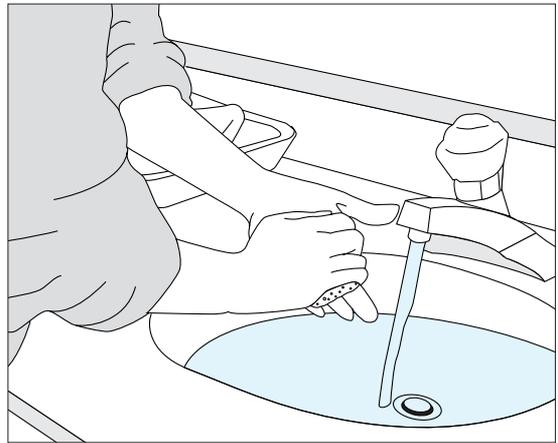
ポイント 「バッグ接続後クランプ開け→」と「クランプを開けてください」表示

「バッグ接続後クランプ 開け→」と「クランプを開けてください」の表示では、

- ① 使用するすべての透析液バッグとバッグラインの接続
- ② 透析液を接続したラインのクランプを開ける
- ③ コネクターラインのクランプを開ける
- ④ 排液バッグのクランプを開ける（排液バッグ使用時）

のところまでを行います。

2. マスク着用と手洗い



- 接続操作の前に、マスクを着用し、手洗いを確実にします。



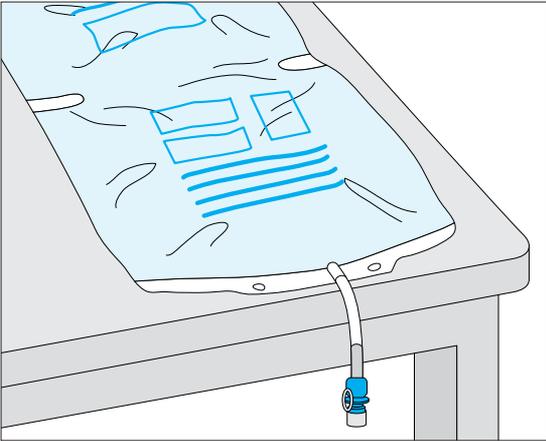
清潔操作にて接続を行ってください。マスクを着用し、手洗いを確実に行ってください。

透析液にヘパリンなどの薬液を注入する場合は、透析液バッグと回路を接続する前に行います。

ポイント マスクの着用・手洗い

このあとの操作より清潔操作が必要です。これから清潔操作を行うという意識を常に持つようにしてください。

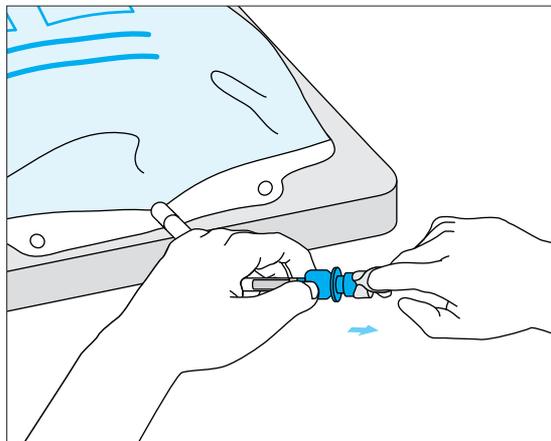
3. 回路と透析液バッグの準備



- ヒーターバッグ用の透析液バッグを清潔で平らな場所に置きます。

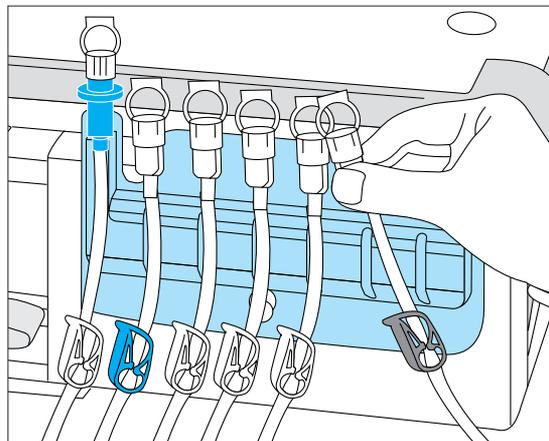
4～7までは連続した手技です。

4. キャップを外す



- 透析液バッグのキャップを外し、バッグルーアーコネクターの先端が不潔にならないように置きます。

5. ヒーターラインを ライン保持盤から取り外す



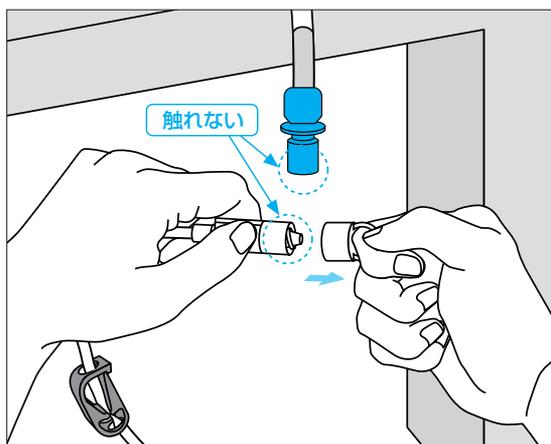
- 赤いクランプの付いたヒーターラインをライン保持盤から取り外します。



警告

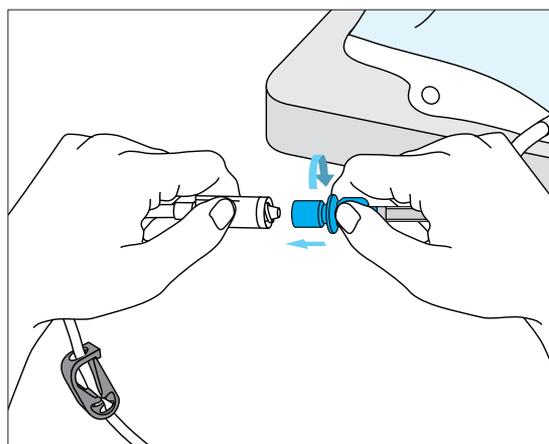
ルーアーコネクターに手や机などが絶対に触れないように注意してください。腹膜炎の原因になるおそれがあります。汚染された場合には新しいものと交換してください。

6. 回路のキャップを外す



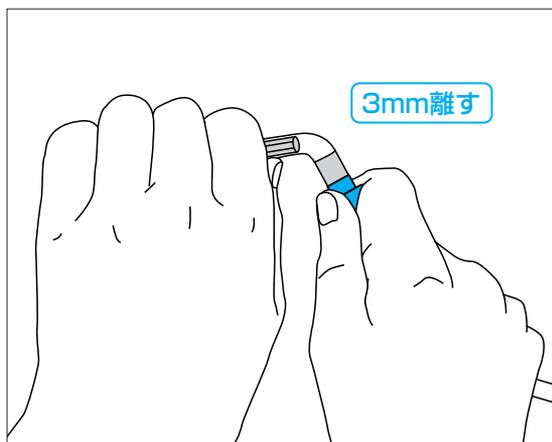
- 回路のルーアーコネクターを持ち、回路のキャップの輪をつかみ取り外します。
- キャップを捨てます。

7. 透析液バッグの接続



- 透析液バッグのルーアーコネクターを持ちます。
- 回転させながら回路に接続します。

8. フランジブルシールを折る



- 透析液バッグのフランジブルシールを90度に折り曲げます。
- 反対側に180度曲げてフランジブルシールを完全に切り離します。



注意

フランジブルシールは3mm以上離れていることを確認してください。



約3mm以上離す



警告

透析液バッグのコンネクター部や回路のコンネクター部に手や物が触れないようにご注意ください。腹膜炎の原因になるおそれがあります。汚染された場合には新しいものと交換してください。

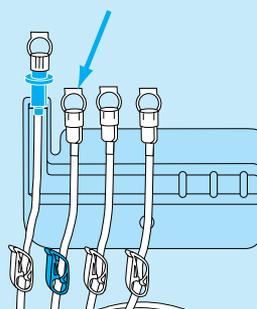


確認

すべてのバッグにつき、3～8の手順を繰り返します。



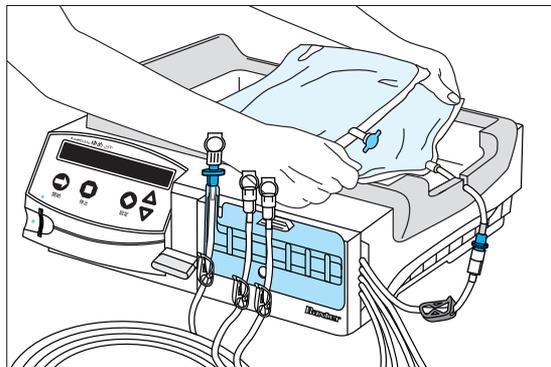
最終注液濃度を変更する場合（特にエクストラニールを使用する場合）、青いクランプの付いたラインに最終注液する透析液バッグを接続します。



手順7 透析液バッグのヒーターへの乗せ方

ダイアニールをご使用の方は「5.チューブをチューブガイドに入れる」に進んでください。

1. 透析液バッグのセット



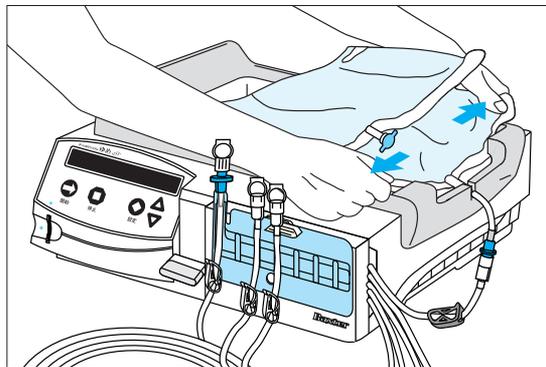
- 赤いクランプのついた透析液バッグの表示面を内側にして二つ折りにしてください。
- チューブが右側になるようにしてヒーターの上に置き、右端まで透析液バッグをずらしてください。



チューブを引っ張らないでください。

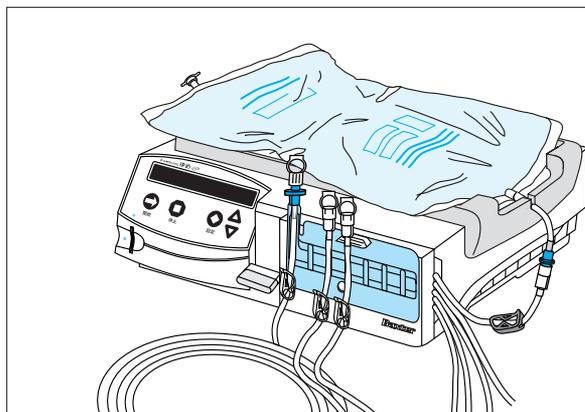
注意

2. 透析液バッグ位置の確認

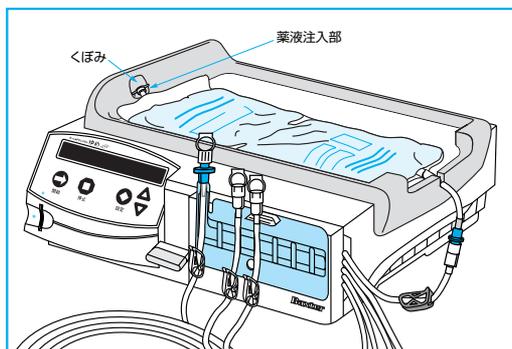


- 透析液バッグのチューブ側の両端を持ち、外側に引っ張り透析液バッグの端をトレイの端にそろえてください。

3. 透析液バッグを広げる



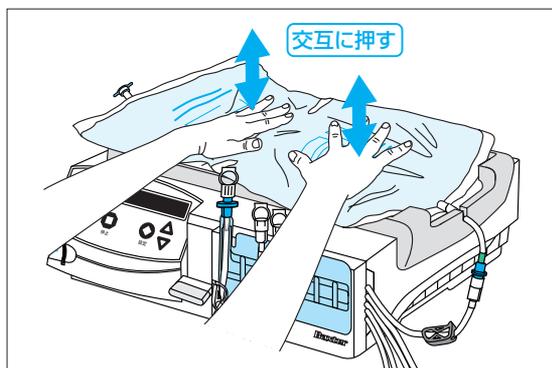
5Lバッグ以外の場合



- 二つ折りにしていた透析液バッグをトレイ全体に広げてください。

- 5Lバッグ以外の場合は透析液バッグをトレイ全体に広げ薬液注入部をくぼみに合わせてください。

4. ヒーターパネルになじませる



- 透析液バッグの上室・下室を交互に4～5回押し、隔壁が開通していることを再確認し、透析液バッグをヒーターになじませてください。



警告

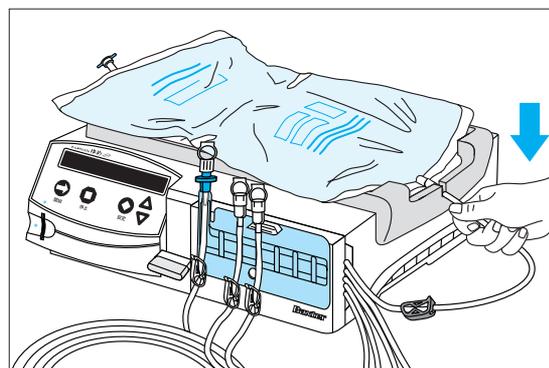
透析液バッグはヒーター上の温度センサーを覆うように正しく置いてください。特に小さいサイズの透析液バッグを乗せるときには注意してください。ただし、透析液バッグを乗せていないと、温度が低すぎる、または高すぎる透析液が注液される可能性があります。



警告

透析液バッグの加温は、必ず本機器のヒーターで行ってください。本機器のヒーター以外のもの（電子レンジ、ストーブ、電気毛布など）で加温を行いますと、過度に加温された透析液がお腹に注液される場合があります。

5. チューブをチューブガイドに入れる



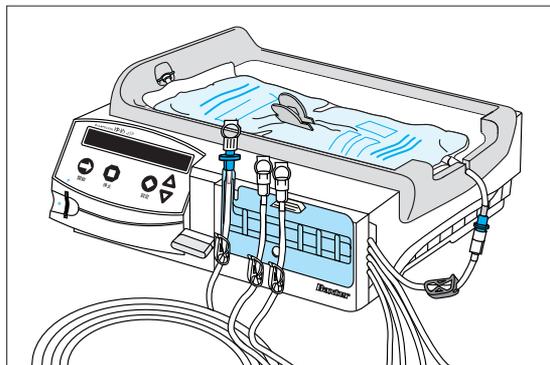
- 透析液バッグのチューブをチューブガイドにしっかりと下まではめ込んでください。



注意

チューブは無理に引っ張らないでください。

○ ゆめ用クリップを付ける
(1L、1.5Lバッグの場合)



- 1L、1.5Lバッグを使用しているときは、隔壁部分にゆめ用クリップを取り付けます。バッグの上面のみ1枚をつまんでください。



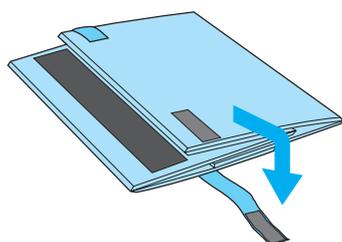
参考

2L以上のバッグではゆめ用クリップを使用する必要はありません。

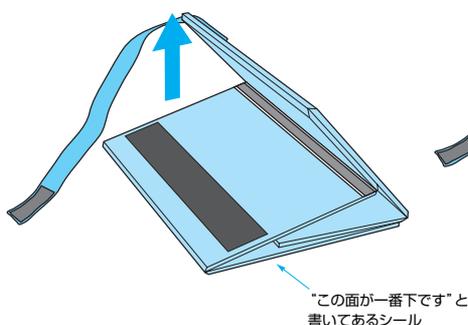
手順8 補液用スタンドの使用方法

ダイアニールをご使用の方は「手順9.回路のプライミング」に進んでください。

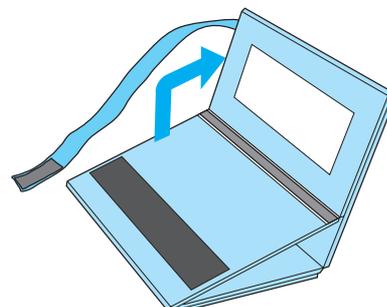
1. スタンドの組み立て



1 バンドの片方を外します。

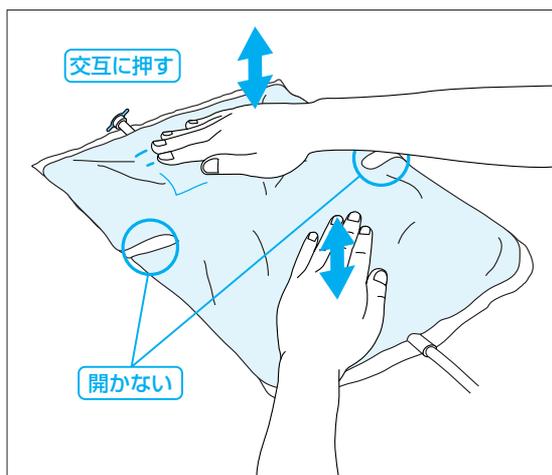


2 “この面が一番下です”と書いてあるシールのある面を下にして、スタンドを開きます。



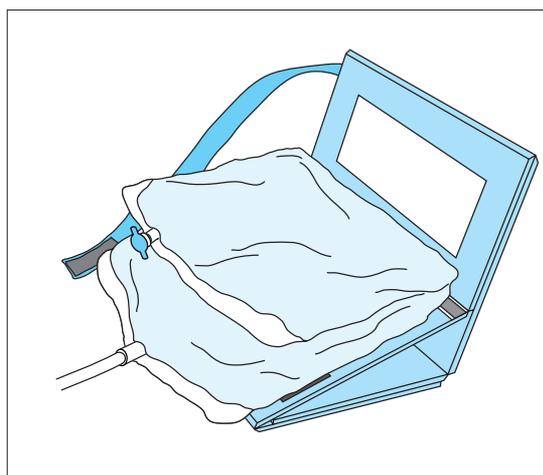
3 止まるまでしっかり開きます。

2. 隔壁開通の確認



- 透析液バッグの上室・下室に左右の手を置き、交互に軽く押して隔壁が開通されていることを確認します。(隔壁の両端は開かない部分があります)

3. 透析液バッグのセット



- 透析液バッグのチューブ側の両端を持ち、外側に引っ張り透析液バッグの端をトレイの端にそろえてください。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スパイク式用

治療の手順
システムII用

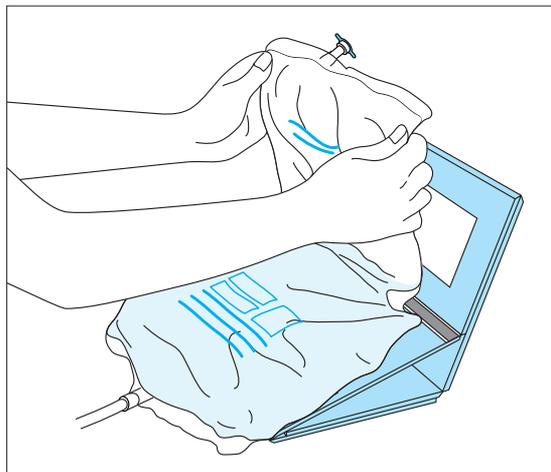
治療の手順
くりくんフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

ゆめカバールーム
クリップの使用方法

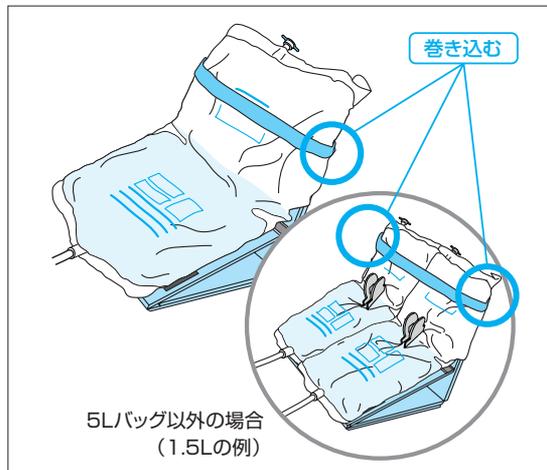
処方の確認
変更方法

4. 透析液バッグを立てかける



- 透析液バッグを開き、上室に透析液が残らないように数秒上室を立ててからスタンドに立てかけます。

5. バンドで止める



5Lバッグ以外の場合
(1.5Lの例)

- 上室が倒れないよう、バンドでしっかりとめます。
このとき、バンドでバッグの端を巻き込んでとめてください。
※バンドでしっかり固定しないと、液が残り少なくなった時にずり落ちてしまいます。

1L、1.5Lバッグの場合、ゆめ用クリップを取り付けます。バッグの上面のみ1枚をつまんでください。



参考

隔壁を開通していないダイアニール-Nは、補液用スタンド上で立たないので、隔壁の開通がなされたかわかるようになっています。



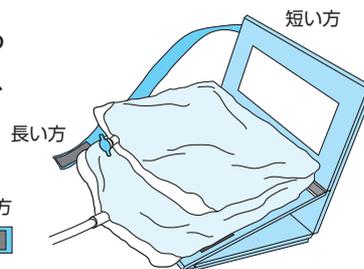
参考

2.5Lバッグ以下のバッグは、補液用スタンドの上に2個乗せて使用できます。



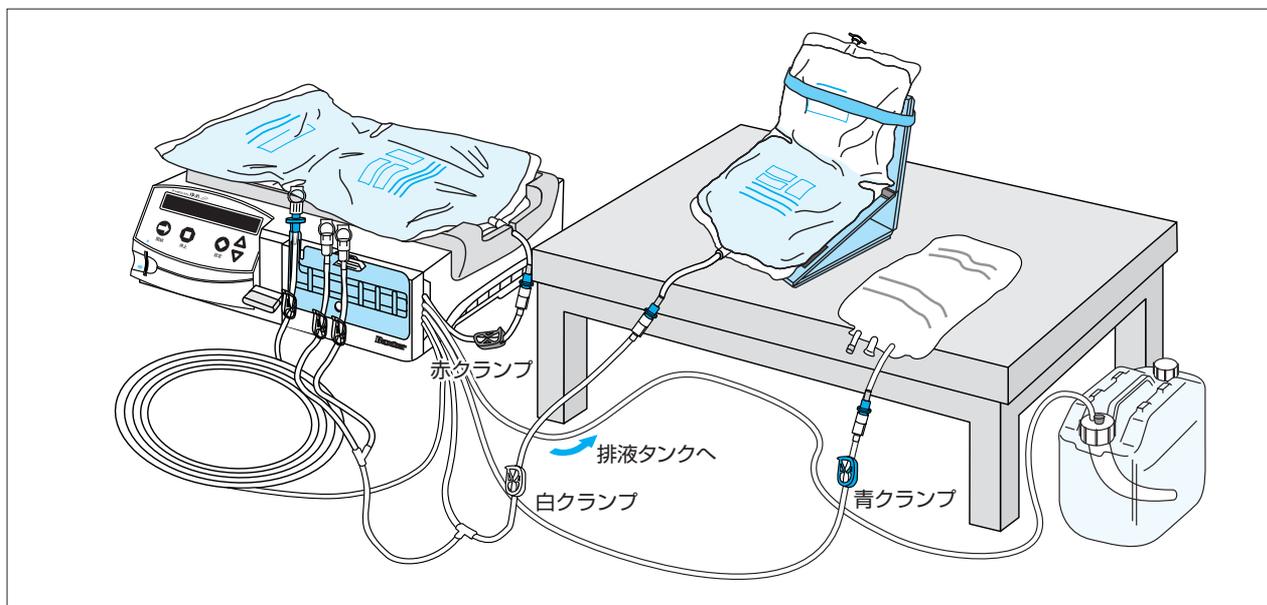
参考

バンドのマジックテープは片方が長く、片方が短くなっています。短い方を固定し、長い方を外すようにすると、しっかりとめることができます。



手順9 回路のプライミング

1. 接続部の確認



ポイント 接続部の確認 ここでゆめシステムの接続の全体像を理解します。下記のことを確認します。

- 赤いクランプの付いたラインが、ヒーターの上の透析液バッグに接続されている。
- ダイアニール-Nの隔壁が全て開通している。
- ヒーターの上の透析液バッグは、ヒーターになじんでいる。
- ヒーターバッグのチューブが、チューブガイドにしっかり入っている。
- 赤クランプ以外のダイアニール-Nが補液用スタンドに確実に乗っている。
- 最終注液濃度を変更する場合、青いクランプの付いたラインが、濃度・種類の違う透析液バッグに接続されている。最終濃度変更のない場合は赤以外どの色のクランプを使用しても大丈夫です。
- 排液ラインのキャップが外されていて、排液タンクにしっかり固定されている。
- 回路の各ラインが折れ曲がらないようにセットされている。
- 排液タンクは倒れないように注意して置いてある。
- 1L、1.5Lダイアニール-Nを使用している場合、隔壁にゆめ用クリップが付いている。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
・自動・スパイク式用

治療の手順
・システムII用

治療の手順
・くりくんフラッシュ用

最終注液前
・排液の手順

ゆめカバー・ゆめ
クリップの使用
方法

処方の確認
・変更方法



警告

最終注液に濃度や種類の違う透析液（エクストラニールなど）を使うときには、青いクランプの付いたラインにつないでください。青いクランプの付いたラインに間違った種類の透析液をつないでしまうと、除水量が多くなったり少なくなったりして、除水や排液関連のトラブルになる可能性があります。



警告

もし間違った透析液を使用したり、最終バッグラインに間違った透析液をつなげていることを発見したら、かかりつけの病院にご連絡ください。



警告

●透析液バッグをつないだ後、コネクターラインのクランプを開け忘れたままにしておくと、コネクターラインに空気が入ったままとなり、1サイクル目の注液でお腹に空気が入る可能性があります。空気がお腹に入ると、肩の痛みやおなかの痛みなど、思わぬ健康被害につながる可能性があります。

「コネクターライン接続後→」と「コネクターライン確認」が交互に出ていて、コネクターラインのクランプがまだ閉じたままであることを発見したら、すぐには接続チューブをつなぐずに、クランプを開けて「再プライミング」を行ってください。再プライミングは222ページを参照願います。

●もし、接続チューブがつながっている状態でクランプが閉じていたことに気づいたら、お腹に液があるか確認してください。

(a) お腹に液がある場合

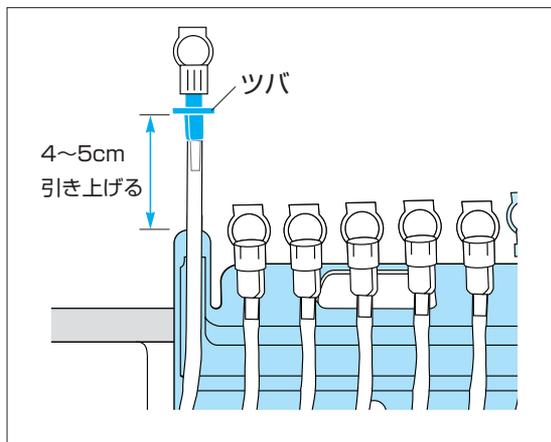
強制排液をしてから治療を開始してください。強制排液の手順は254ページを参照願います。

(b) お腹に液がない場合

新しいゆめセットと透析液バッグで始めからやり直してください。

2.プライミング前の注意（5Lバッグ使用時の注意）

5Lバッグをヒーターにのせて使う場合、コネクターラインのツバ（下図参照）をライン保持盤の上部から約4～5cm上まで引き上げてください。2.5L以下のバッグの場合はその必要はありません。

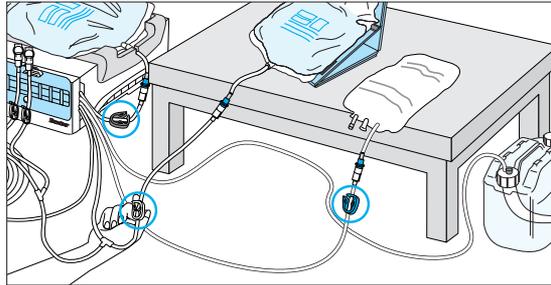


注意

プライミング開始時、回路をゆめシステムにセットするときに、プライミングが確実に行われるように以下のことに注意してください。コネクターラインから液があふれ菌混入の原因となります。

- ① 5Lバッグをヒーターにのせて使う場合、コネクターラインのツバ（上図参照）をライン保持盤の上部より4～5cmくらい高い位置に引き上げてください。2.5L以下のバッグの場合はその必要はありません。
- ② プライミング中はヒーターの上には透析液バッグを1つだけ置くようにしてください。
- ③ プライミング中はヒーター上の透析液バッグに圧力の加わるような行為は行わないでください。
- ④ 液があふれた場合は、新しいものに交換し、始めからやり直してください。

3. クランプを開ける



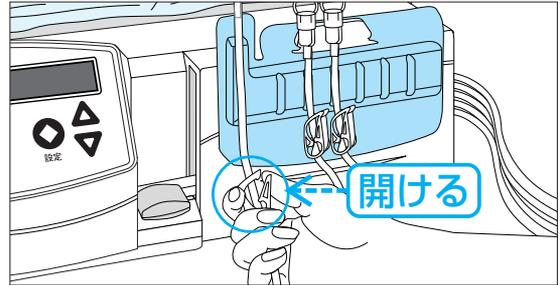
- 透析液バッグを接続したラインのクランプを開けます。
- 透析液バッグをつないでいないラインのクランプは開けないこと。



注意

コネクターラインのクランプが閉まっているとコネクターラインに液が充填されません。再プライミングを行ってください。

4. コネクターラインのクランプを開ける



- コネクターラインがライン保持盤の所定の場所にセットされラインの先端がヒーター上の透析液バッグより高い位置にあることを確かめます。
- コネクターラインのクランプを開けます。



参考

プライミングとは回路内に透析液を満たすことです。また、プライミング中に回路の気密性の確認も行っています。

5. 隔壁を確認する



ゆめの場合

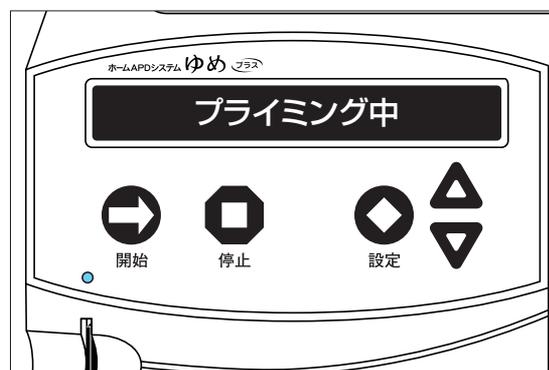
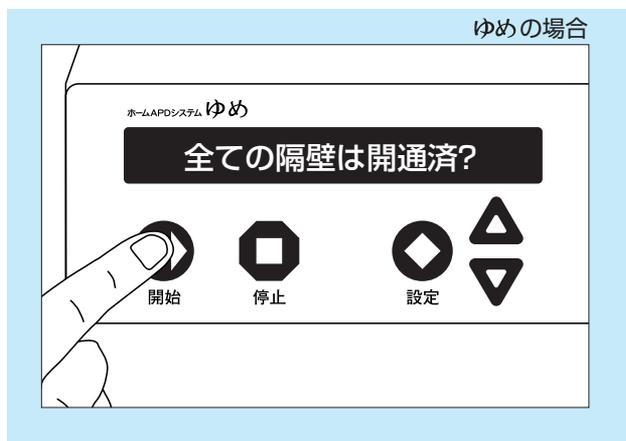


- → 開始ボタンを押します。

ダイアニールをご使用の方は「6.プライミングを開始する」に進んでください。

- ゆめの場合、「全ての隔壁は開通済?」と表示されます。
- ゆめ_{プラス}の場合、「プライミング中」と表示されます。
- 全ての隔壁が開通してあるか、もう一度確認します。

6. プライミングを開始する



- ➡ 開始ボタンを押します。
- 「**プライミング中**」と表示され、プライミングが自動的に始まります。約8分後、「**コネクタライン接続後→**」と「**コネクタライン確認**」が交互に表示されます。



確認

「**コネクタライン接続後→**」と「**コネクタライン確認**」表示が出るまで接続チューブとゆめセットをつながないこと。



プライミング中に停電等で電源が遮断された場合

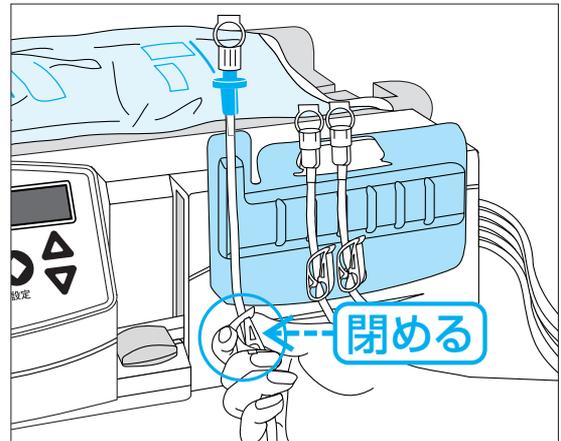
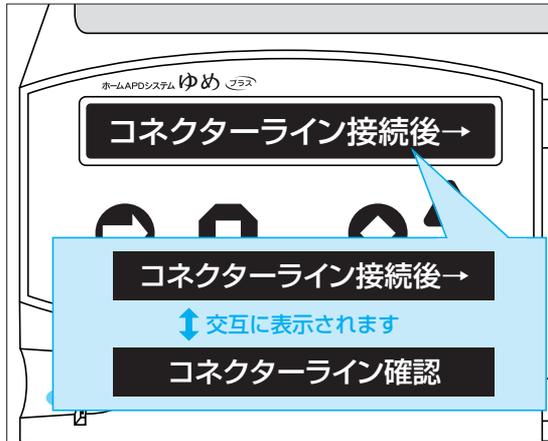
警告 停電から復帰した後で、ゆめセットがゆめシステム内にある場合、全てのクランプを閉じてから ➡ 開始ボタンを押して再開してください。これにより、「回路セット後→」の画面において、透析液バッグ同士や、患者様の接続チューブとの液の流れが制御できなくて、自由に透析液が流れてしまうことを防ぐことができます。制御が行われていない場合、落差による液の流れで過注液となる可能性があります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。過注液が疑われるときには、● 停止ボタンをすぐに押し、▼ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「**10 困ったときの対処方法 (254ページ)**」をご覧ください。ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

プライミング中の電源遮断後に治療を再開する場合

- ① 全てのクランプを閉める
- ② ➡ 開始ボタンを押す
 - ③ 「**回路セット後→**」の表示が出たら、再度 ➡ 開始ボタンを押す
- ④ 「**バッグ接続後クランプ 開け→**」の表示が出たら、つながっているバッグのクランプを開ける
- ⑤ コネクタラインのクランプを開け、➡ 開始ボタンを押す

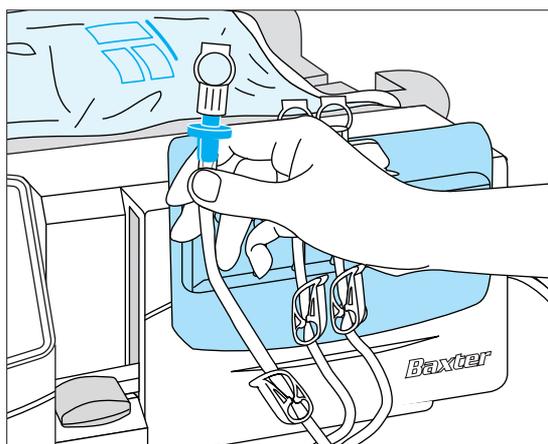
手順10 コネクターラインの接続

1. コネクターラインのクランプを閉める



- 「コネクターライン接続後→」と「コネクターライン確認」が交互に表示されます。
- コネクターラインが透析液で満たされていることを確認します。
- コネクターラインの白いクランプを閉めます。

2. コネクターラインをライン保持盤から外す



- コネクターラインをライン保持盤から外します。



警告

コネクターラインを接続する前に、コネクターラインが透析液で充填されているか確認してください。

プライミング後に、コネクターライン先端近くまで透析液が来ていない場合はおなかのチューブを接続しないでください。空気が残った状態で接続すると、初回排液がない場合、空気が腹腔に入ることになります。空気が腹腔に入ると、肩の痛みやおなかの痛みなど、思わぬ健康被害につながる可能性があります。

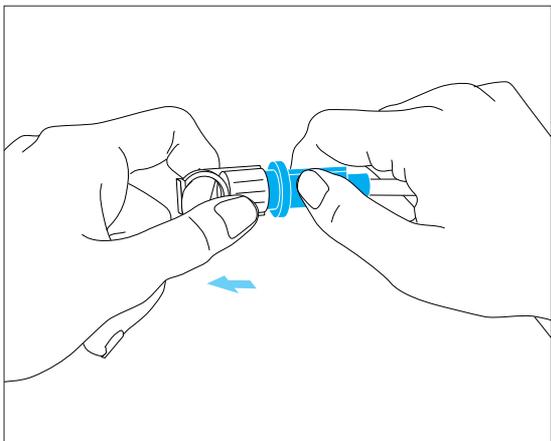
正しくプライミングされたか確認するためには…

- コネクターラインの白いクランプがあいていること
- コネクターラインの先端がライン保持盤に正しく取り付けられていること

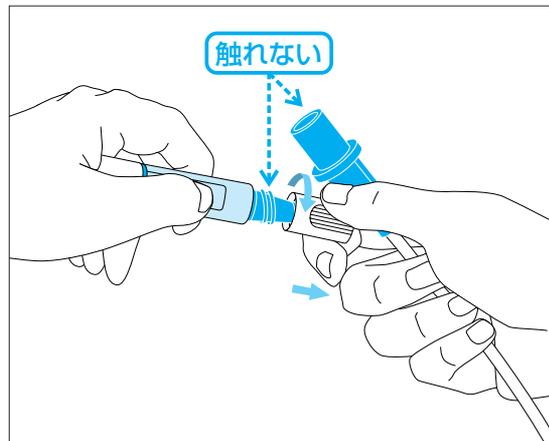
コネクターラインを接続する前に

- ① コネクターラインの先端近くまで透析液が充填されていることを確認します。
- ② もし、コネクターラインの先端近くまで透析液が充填されていない場合、再プライミングを行ってください。再プライミングの手順は本冊子222ページを参照してください。

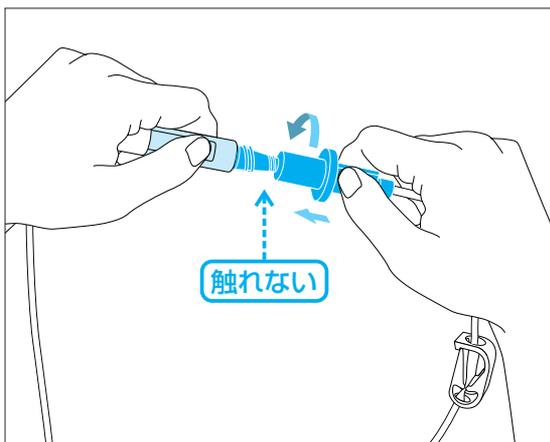
3～5までは連続した手技です。

3. コネクターラインの
キャップを外す

- コネクターラインを持ち、指をキャップの輪にかけ、引っ張り外します。

4. 接続チューブの
ミニキャップを外す

- コネクターラインを持ったまま、接続チューブを持ちます。
- ミニキャップを持ち回転させながら外します。

5. コネクターラインと接
続チューブの接続

- コネクターラインと接続チューブを回転させながらしっかり接続します。



警告

キャップなどを外したコネクターラインの先端や接続チューブの先端に手や物などが触れないように注意してください。腹膜炎の原因になるおそれがあります。接続チューブが汚染された場合には、以下のことをすみやかに行ってください。

- ① ツイストクランプが閉まっていることを確認してください。
- ② キャップをしてください。
- ③ 接続チューブのチューブ部分を縛ってください。
- ④ かかりつけの医療機関へ連絡し指示に従ってください。

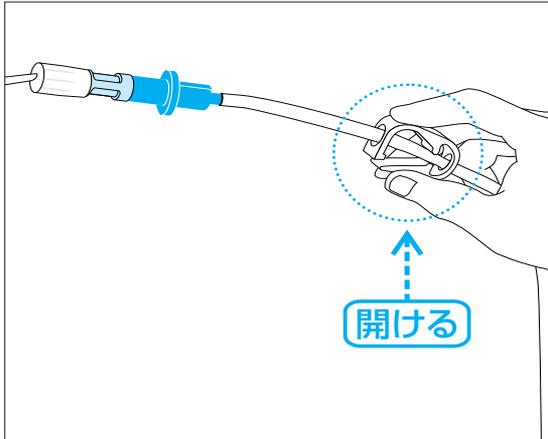
コネクターラインが汚染された場合には、新しいものと交換してください。



警告

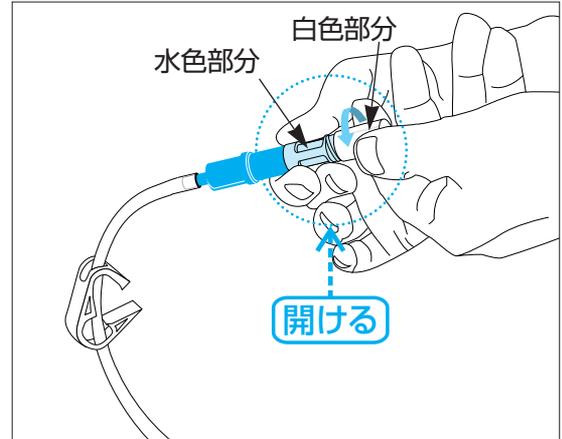
清潔操作にて接続を行ってください。マスクを着用し、手洗いを確実に行ってください。

6. コネクターラインの クランプを開ける



- コネクターラインの白いクランプを開けます。

7. 接続チューブのクランプを 開ける



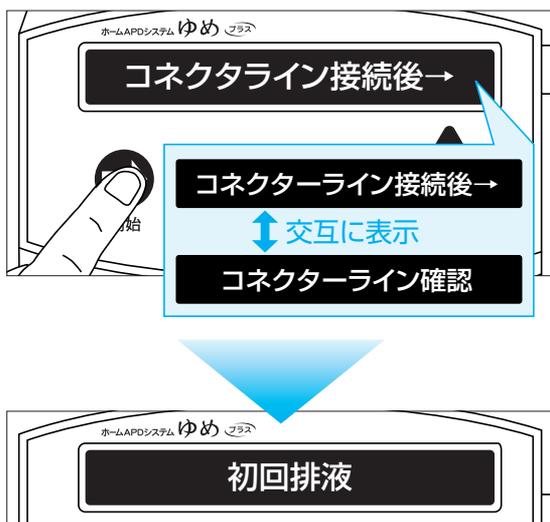
- 接続チューブのツイストクランプを図のように持ち、ツイストクランプをひねって開けます。



注意

ツイストクランプを操作する際には、必ずツイストクランプの水色部分を片手で保持し、もう片方の手で白色部分を回すようにして下さい。

8. 開始ボタンを押す



- ➡ 開始ボタンを押します。
「初回排液」と表示され、治療が開始します。



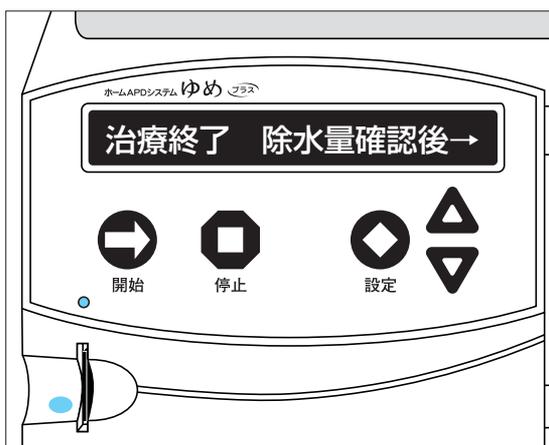
注意

- 「初回排液の限度」がなし、または少ない場合、「初回排液限度」の表示が出ます。設定が正しいときは、➡ 開始ボタンを押して治療を開始します。設定が正しくないときは、本冊子245ページを参照してください。

5 -2 治療の終了

手順1 結果の確認

1. 表示を確認



- 終了時、「治療終了 除水量確認後→」と表示されます。



清潔操作にて切り離しを行ってください。マスクを着用してください。

2. 初回排液量の確認



- ▼ ボタンを押し、初回排液量を確認します。



もし治療が完了できなかつたり、最終注液を行わなかつたり、かかりつけの病院の指示通り治療ができなかつた場合は、その旨かかりつけの病院にお知らせください。何回か治療を行わなかつたり、完了できなかつたりすると、貯留時間や治療時間が短くなり、尿毒症になることがあります。

ポイント▶ 治療終了時の確認事項

原則として除水量の確認は治療終了時「治療終了 除水量確認後→」の表示のときに行います。

治療終了時には、以下を確認しAPD記録ノートに記入します。

- 初回排液量
- 総除水量
各サイクルごとの除水量（各サイクルの除水量を確認することで除水の傾向

を見ることが可能です。）

- 平均貯留時間
各サイクルの貯留時間（各サイクルの貯留時間を確認することで治療内容を知ることが可能です。）
- 貯留時間の短縮・延長（貯留時間が予定よりある程度長かつたり、短かつたりした場合のみ表示されます。）

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スライク用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くりくらんフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

ゆめカバールゆめ
クリップの使用法

処方の確認
変更方法

3. 除水量の確認



- ▼ ボタンを押し、総除水量を確認します。
- 各サイクルの除水量の確認は、◆ 設定ボタンを押して行います。
- 各サイクルごとの除水量を確認したあとは、■ 停止ボタンを押します。

4. 平均貯留時間の確認



- ▼ ボタンを押し、実際の平均貯留時間を確認します。
- 各サイクルの貯留時間の確認は、◆ 設定ボタンを押して行います。
- 各サイクルごとの貯留時間を確認したあとは、■ 停止ボタンを押します。



確認

治療終了時の「総除水量」が少なかったりマイナスだったりした場合、最終サイクルの排水量が不十分でお腹にたくさんの液が残っている可能性があります。「最終注液前 排水」が「アリ」であり、「目標除水量」の設定値が期待される除水量の70%くらいであることを確認ください。期待される除水量の70%を出すのにお困りの場合、「15 -15 タイダール総除水量と、最終注液前排水の目標除水量を決める」をご参照ください。また、最終注液前排水については7章をご参照ください。

ポイント 各サイクルの除水量、各サイクルの貯留時間の確認方法**除水量**

- ▼ 総除水量
- ◆ 2サイクル除水量：○○○ml
- ▼ 1サイクル除水量：○○○ml
- 「治療終了 除水量確認後→」

貯留時間

- ▼ 平均貯留時間
- ◆ 2サイクル貯留時間：○：○○
- ▼ 1サイクル貯留時間：○：○○
- 「治療終了 除水量確認後→」

各サイクルごとの除水量、貯留時間を確認したあとは、○ 停止ボタンを押してください。

「治療終了 除水量確認後→」と表示されます。再度、始めから ▼ ボタンを押して次の表示に進んでください。

※確認の手順は覚えやすい順序で行ってください。

**警告**

最終サイクルの除水量がいつも多い場合、治療中に除水量がお腹にたまりやすいのかもしれませんが。

- CCPD/IPD療法の場合、排液の限度%が低すぎるかもしれません
 - タイダル療法の場合、総除水量の設定が低すぎるのかもしれませんが
- どちらの場合でも過注液の可能性があります。これらの場合に加えて、濃度の高い透析液を使用するような場合、さらに過注液の可能性を高めます
- 過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。
- 過注液が疑われるときには、○ 停止ボタンをすぐに押し、▼ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法（254ページ）」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

**警告**

「病院へ連絡してください」／「排液量過剰 ABC」表示は治療中に過注液が発生した記録があったことを示しています。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

「病院へ連絡してください」／「排液量過剰 ABC」に関する詳細は「10 困ったときの対処方法（268ページ）」をご参照ください。

過注液が疑われるときには、○ 停止ボタンをすぐに押し、▼ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法（254ページ）」をご覧ください。

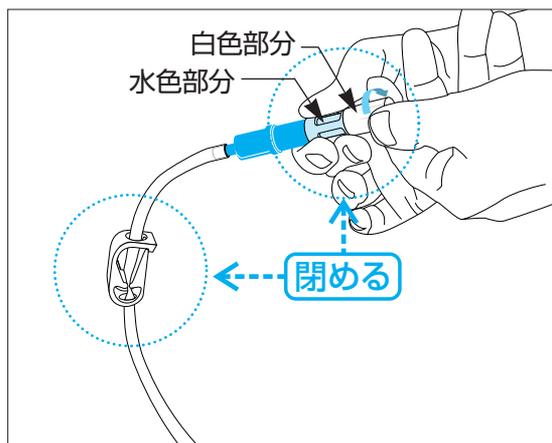
ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

5. 貯留時間短縮・延長の確認



- ▼ ボタンを押し、貯留時間短縮または貯留時間延長の確認をします。

7. コネクターラインと接続チューブのクランプを閉める



- 接続チューブのツイストクランプを図のように持ち回転して閉めます。
- 回路のクランプをすべて閉めます。排液バッグを使用している方は排液バッグのクランプも閉めます。

6. 開始ボタンを押す



- → 開始ボタンを押します。
- 「クランプを閉じた後→」と表示されます。



注意

ツイストクランプを操作する際には、必ずツイストクランプの水色部分を片手で保持し、もう片方の手で白色部分を回すようにして下さい。



全てのクランプを閉める前に、→ 開始ボタンを押さないでください。

警告 これにより、「コネクターラインと回路外した後→」 / 「クランプを閉じた後→」表示の時に、透析液バッグ同士や、患者様の接続チューブとの液の流れが制御できなくて、自由に透析液が流れてしまうことを防ぐことができます。制御が行われていない場合、落差による液の流れで過注液となる可能性があります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、■ 停止ボタンをすぐに押し、▼ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方(意識のない方、乳幼児や小児)に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

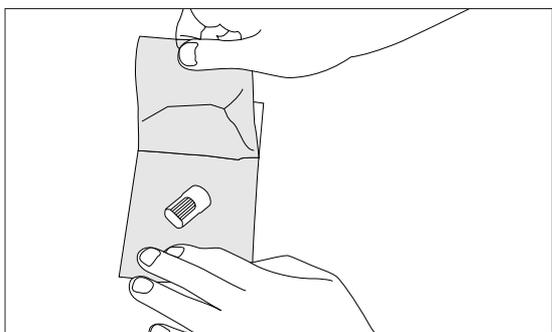
手順2 コネクターラインの切り離し

1. 開始ボタンを押す



- ➡ 開始ボタンを押します。
「コネクターラインと回路外した後→」と「クランプを閉じた後→」が交互に表示されます。

2. 新しいミニキャップを用意する



- 新しいミニキャップの使用期限と包装の破れを確認します。
- 表示面を上にして開封します。
このとき、ミニキャップが転がらないように注意してください。



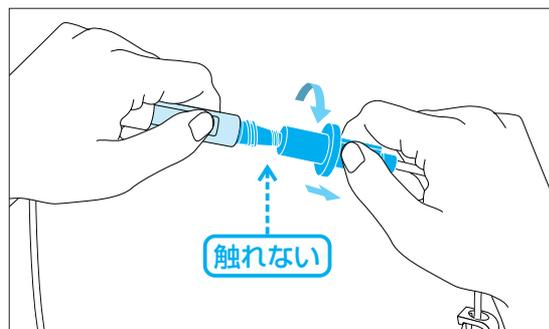
注意

接続チューブの先端が手や机などに絶対触れないように注意してください。

腹膜炎の原因になるおそれがあります。万一接続チューブが汚染された場合には、以下のことをすみやかに行ってください。

- ①ツイストクランプが閉まっていることを確認してください。
- ②キャップをしてください。
- ③接続チューブのチューブ部分を縛ってください。
- ④かかりつけの病院へ連絡し指示に従ってください。

3. コネクターラインを切り離す



- 左手に接続チューブを持ち、右手でコネクターラインを持ちます。
コネクターラインを回転させながら外します。



警告

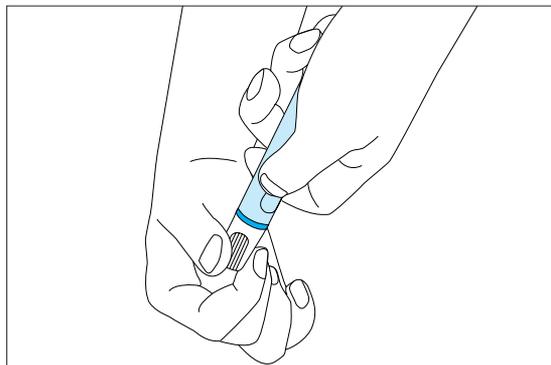
感染を防ぐため、病院で指導を受けたように清潔操作で行ってください。マスクをし、手洗いをし、乾燥（または消毒）してください。



注意

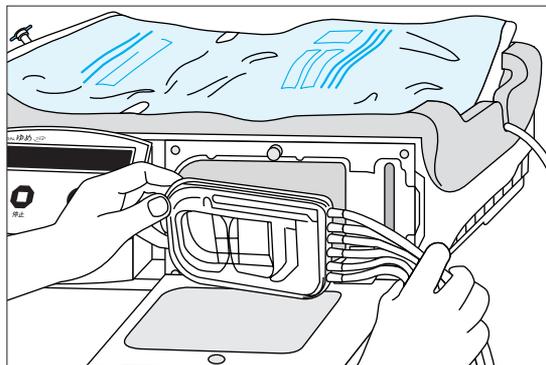
ミニキャップの破損やミニキャップの内側が汚染されたなどの場合には必ず新しいものを使用してください。

4. ミニキャップの装着



- 新しいミニキャップを接続チューブに回転させながら取り付けます。このときゆっくり閉めていき、強い抵抗感を感じたところで止めます。

5. カセットを取り出す

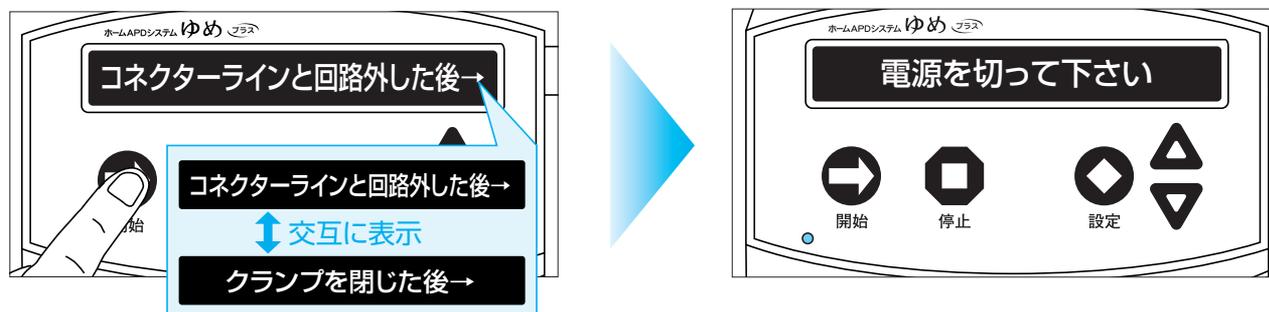


- ハンドルを上げてドアを開け、カセットを取り出します。



すべてのクランプを閉じて切り離す前に、 開始ボタンを押さないでください。透析液バッグ同士や、患者様の接続チューブとの液の流れが制御できず過注液となったり、感染の危険性があります。

6. 電源を切る



- ドアを閉めます。
➡ 開始ボタンを押します。
- 「電源を切って下さい」と表示されます。
確認して電源を切ります。



警告

治療終了後、使用済みのゆめセットや透析液バッグは廃棄してください。もし再利用すると透析液や透析液の流路を汚染する可能性があります。透析液や透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。



警告

全てのクランプを閉じる前にドアを開けないでください。全てのクランプを閉じておくことにより、透析液バッグ同士や、患者様の接続チューブとの液の流れが制御できず、自由に透析液が流れてしまうことを防ぐことができます。液の流れの制御が行われていない場合、落差による液の流れで過注液となる可能性があります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、■ 停止ボタンをすぐに押し、▼ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。



注意

排液タンクは毎回きれいに洗い、乾燥させて使用してください。



注意

排液の性状（混濁の度合、沈殿物、浮遊物、色など）を確認してから排液を捨てます。異常があるときはすみやかにかかりつけの病院に連絡し、指示に従ってください。

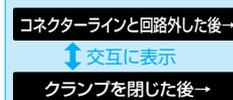


確認

「コネクターラインと回路外した後→」の表示でドアが開かなくなりカセットが取り外せなくなった場合の対応について

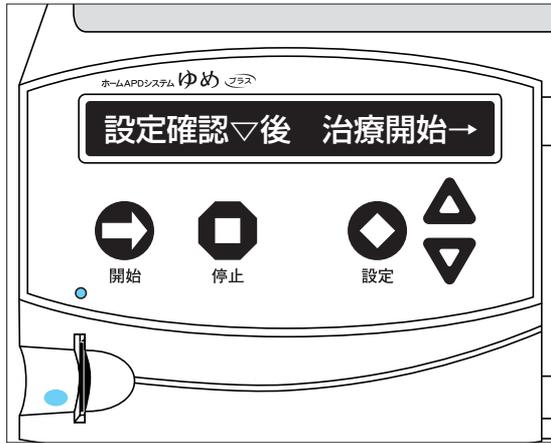
- 手順① コネクターラインと接続チューブが切り離されていることを確認します。
- 手順② 図1の表示で、■ 停止ボタンを押します。
- 手順③ ➡ 開始ボタンを押します。
- 手順④ オクルーダーが開き、カセットが取り外しやすくなります。

図1



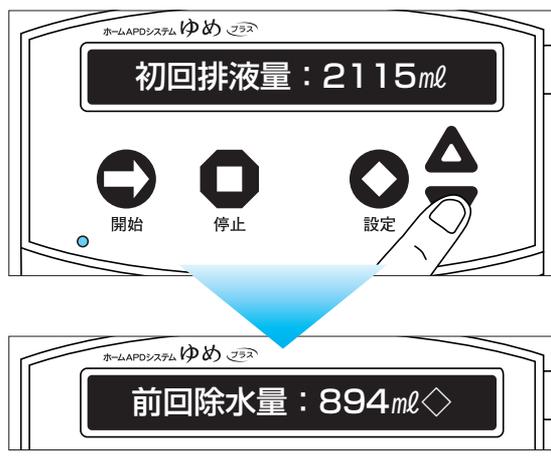
手順3 治療終了時に除水量の確認ができなかった場合

1. 電源を入れる



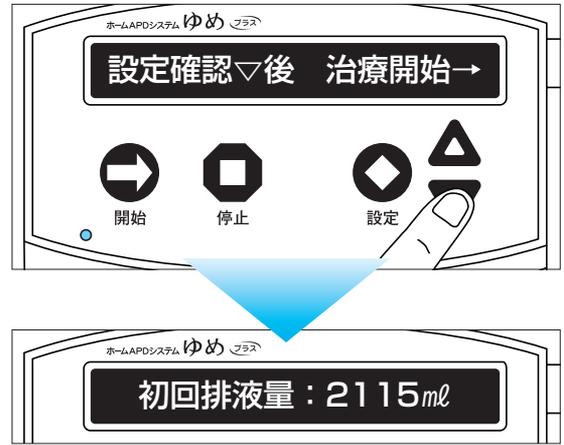
- 電源を入れます。
自己診断後「設定確認▽後 治療開始→」と表示されます。
「体重：○○.○KG」などの追加情報の表示となった場合、**■** 停止ボタンを押し「設定確認▽後 治療開始→」の表示にします。

3. 前回除水量の確認



- **▽** ボタンを押し、前回除水量を確認します。

2. 初回排液量の確認



- **▽** ボタンを3回押します。
「初回排液量」と表示されます。
- 初回排液量の確認をします。



確認

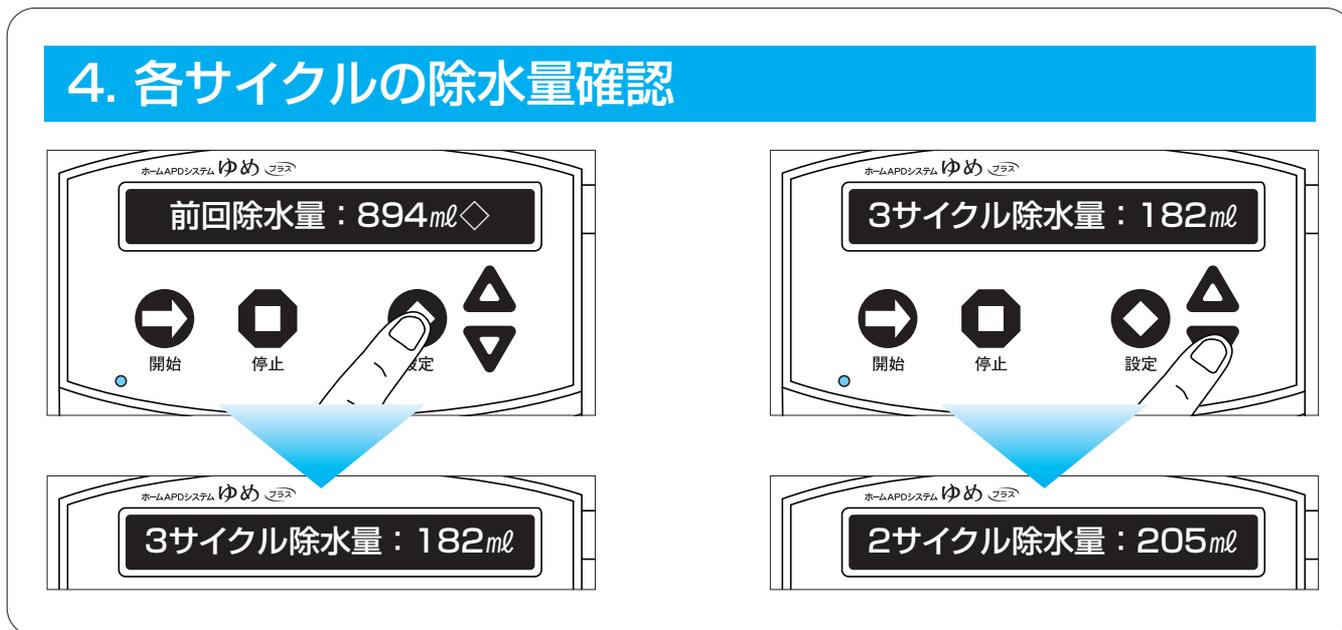
原則として除水量の確認は治療終了時「治療終了 除水量確認後→」の画面のときに行ってください。
前回の治療結果は、あらたな治療が始まるまで記憶されています。



確認

上記1で **▽** ボタンを押せば、「処方の確認/変更◇」、「調整メニュー変更◇」のあと「初回排液量：○○○○ml」と表示されます。
行き過ぎてしまった場合は **▲** ボタンを押すと前の表示に戻ります。
治療終了後に除水量を確認した場合、「総除水量：○○○○ml」は「前回除水量：○○○○ml」と表示されます。

4. 各サイクルの除水量確認



- **◆** 設定ボタンを押します。
各サイクルの除水量表示が**新しいサイクルの除水量から表示**されます。

- **▽** ボタンを押します。
▽ ボタンを押して行くことで、各サイクルの除水量を確認します。

5. 最初の表示に戻す



- **□** 停止ボタンを押します。
「**設定確認▽後 治療開始→**」の表示に戻ります。



確認

各サイクルの表示から、「平均貯留時間：○：○○」、「アラームリスト」などを確認したいときには、**□** 停止ボタンを押し「**設定確認▽後 治療開始→**」の表示に戻し **▽** ボタンを押してください。

6 治療の手順 くり〜んフラッシュ用 [UVフラッシュ 5バッグ用セット / UVフラッシュ 4バッグ用少注液量セット] の場合

6-1 治療の開始

手順1 治療開始の準備

バッグ交換に適した環境作り

●適切な場所の確保

- ・清潔で十分な大きさのテーブルを準備してください。
- ・交換場所全体が明るく照明がゆきわたっていること。
- ・アースが接続できるコンセントがあること。くわしくは7ページを参照してください。

●環境の整備

- ・清掃のゆきとどいた部屋を使用します。
- ・子供やペット(犬・ネコ・小鳥など)のいない部屋を使用します。
- ・窓やドアは風などを防ぐために必ず閉めます。
- ・冷暖房器具の風が交換場所に直接当たらないようにします。
- ・機器類は、明るく清潔で、平らな所に置いてください。また、原則として機器がご使用者と同じ高さになるように設置してください。排液不良の出やすい方はゆめシステムを体より低くしてください。
- ・透析液バッグ接続のためのテーブルを用意してください。
- ・治療中、透析液バッグが落ちたりしないように注意してください。



警告

本機器は接地して使用しなければなりません。電氣的にショートが発生した場合、接地してあることにより電流を逃がすことができるため、感電のリスクを軽減できます。本機器には接地線をつなげられる電源ケーブルを同梱しています。適切に「接地」されていることを確認したコンセントに接続して使用してください。コンセントについてはかかりつけの病院または電気店にご相談ください。



警告

「接地」についてご理解いただけない場合、またはゆめシステムが正しく設置されているか分からない場合、お近くの電気店にご相談ください。不適切な使用は感電の可能性あります。



警告

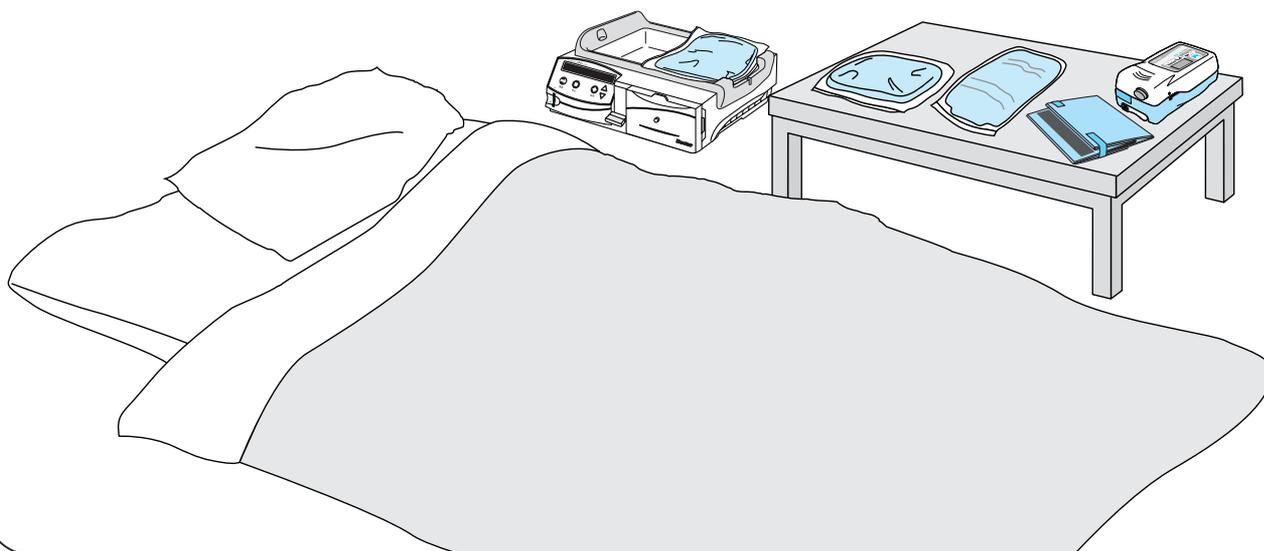
壁のコンセントに電源コードが接続できない場合、プラグを交換したりしないでください。電気店に連絡して、適切に接地できるようにご相談ください。



警告

透析液バッグは平坦な安定したところにおいてください。透析液バッグが落ちないように、透析液バッグを重ねて置いたりしないでください。透析液が落下すると、液漏れが発生することがあります。液漏れは透析液や透析液が通るところを汚染したりします。透析液や透析液が通るところを汚染すると腹膜炎になったり、思わぬ健康被害を受けたり、死に至ることもあります。

機器類を設置する



警告

ペットや動物が透析液バッグや器材をかむと、透析液や透析液の流路が汚染されます。透析液や透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。このようなことをさけるため、ペットや動物がいる部屋では治療を行わないでください。



警告

透析液バッグや使い捨て回路を使用するときには、かかりつけの病院での指示通り、清潔操作で行ってください。マスクをつけ、手洗いを十分に行い手は乾かす（または消毒する）ようにしてください。



注意

機器の使用温度は15℃～36℃です。この範囲になるように環境を整えてください。また、透析液・回路も同様に同じ範囲内で使用してください。



確認

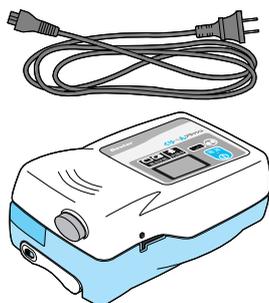
冬期はプライミング中のアラーム発生をさけるためバッグ加温器で温めた透析液バッグと回路をお使いください。

または治療30～60分前に機器の電源スイッチを入れ、ヒーター上に透析液バッグを乗せて温めておき、さらに回路はヒーターバッグの上に乗せておくことをおすすめします。他の透析液バッグも加温器で温めてお使いください。

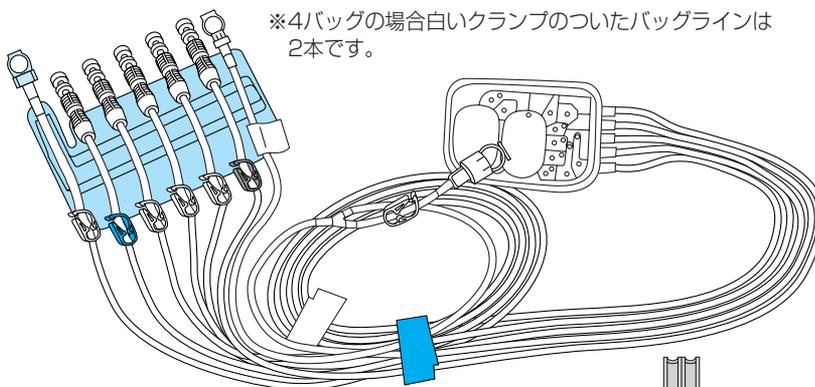
6-1 治療の開始

手順2 物品の準備

治療に必要な物品を用意する



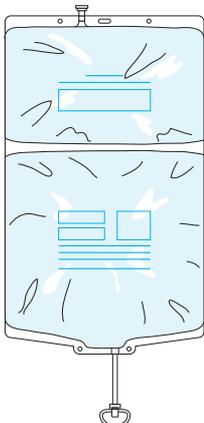
1. くり〜んフラッシュ



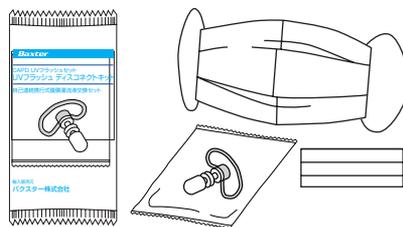
2. 回路

※4バッグの場合白いクランプのついたバッグラインは2本です。

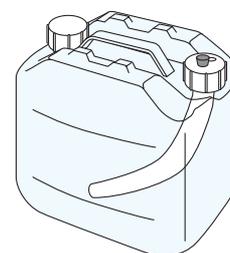
UVフラッシュ
コネクターカバー



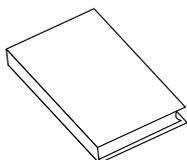
3. 透析液バッグ



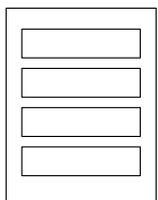
4. UVフラッシュ
ディスコネクトキット



5. 排液タンク



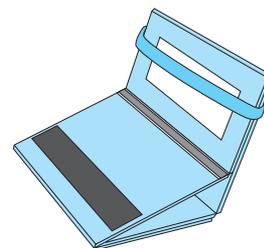
6. APD記録ノート



7. 排液確認用下敷



8. カード
(ゆめプラスのみ)



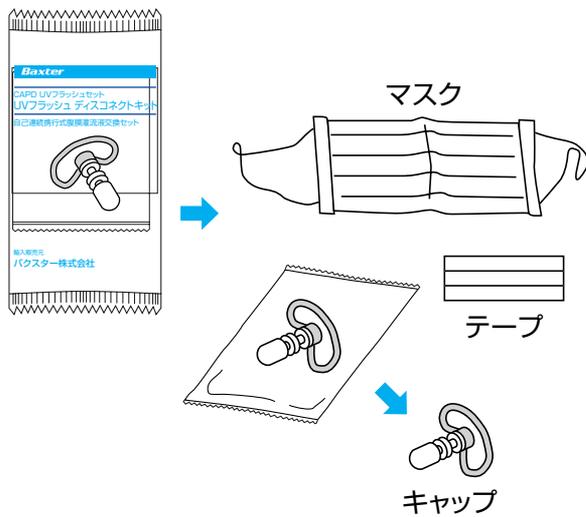
9. 補液用スタンド

治療に必要な物品を用意します。

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1. くり〜んフラッシュ | 5. 排液タンク |
| 2. 回路 | 6. APD記録ノート |
| 3. 透析液バッグ | 7. 排液確認用下敷 |
| 4. UVフラッシュ ディスコネクトキット | 8. カード (ゆめプラスのみ) |
| | 9. 補液用スタンド |

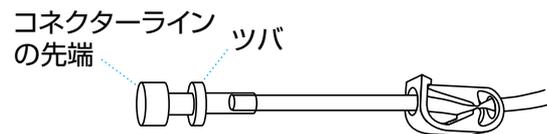
必要な物品および各部の名称

UVフラッシュ ディスコネクトキット



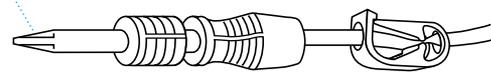
コネクターライン

コネクターラインの先端の形状は4バッグ用と5バッグ用で異なります。

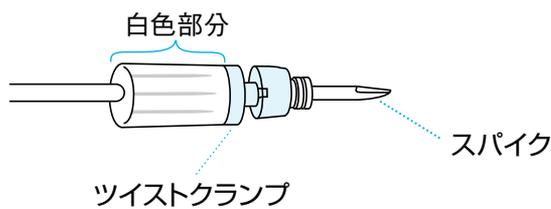


バッグライン

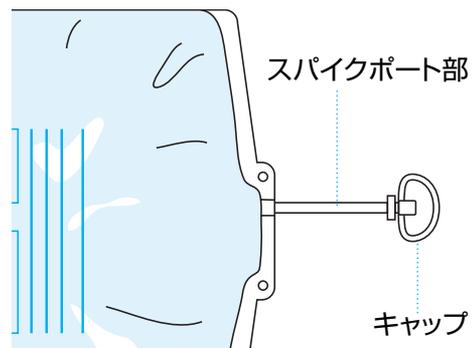
スパイク先端部



UVフラッシュ ディスコネクト接続チューブ

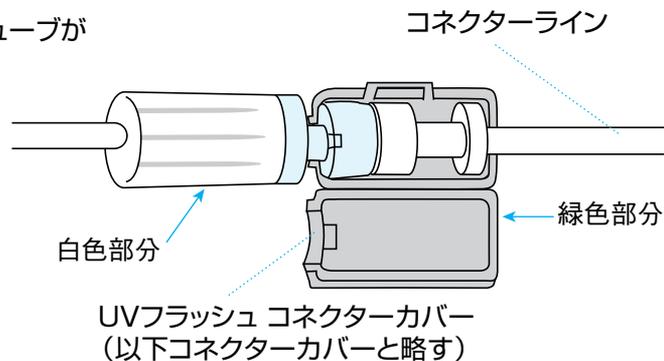


透析液



UVフラッシュ コネクター

(UVフラッシュ ディスコネクト接続チューブがコネクターラインに接続された図)



安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
自動・スパイク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くりんフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

ゆめカバールーム
クリップの使用方法

処方の確認
・変更方法

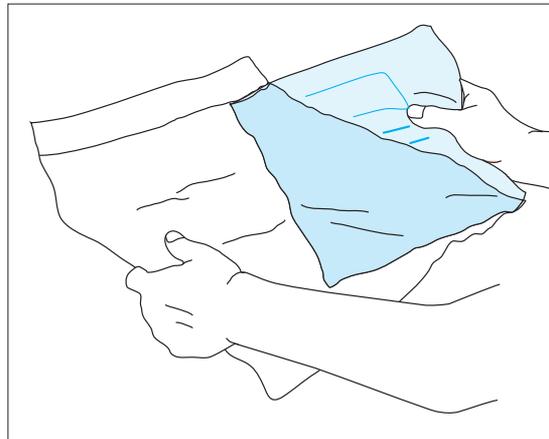
手順3 ゆめシステムのセットアップ

1. 透析液バッグの確認



- 表示を確認する。
- 異常がないか確認する。

2. 外袋の開封



- 外袋を開封し、透析液バッグを取り出します。

ダイアニールをご使用の方は
「6.ヒーターに透析液バッグを乗せる」に進んでください。



注意

外袋内に水滴がみられることがあります。必ず透析液バッグを押し、液もれのないことを確認してください。



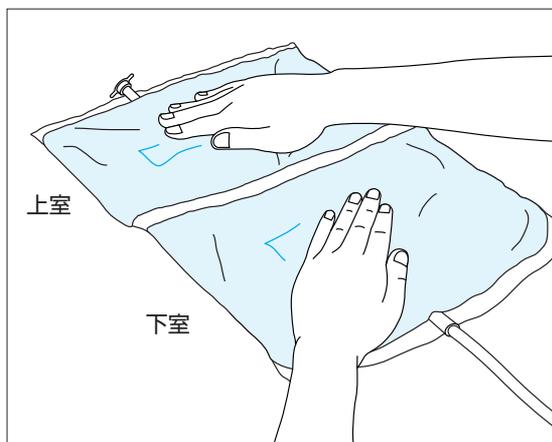
警告

透析液バッグの以下の点についてご確認願います。

- 透析液が無色～微黄色の透明である
- 先生の処方どおりの薬剤である
- 透析液の糖濃度が正しい
- 透析液の容量が正しい
- 使用期限内である
- キャップと薬液注入部が正しく付いている
- 液漏れがない

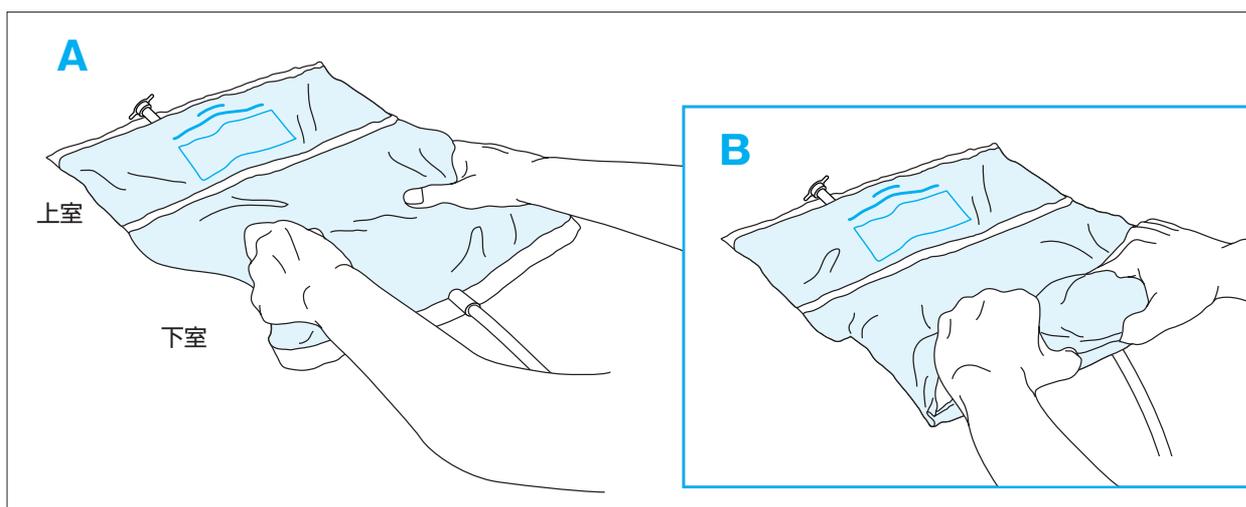
もし何か問題があったら、その透析液バッグは廃棄して新しい透析液バッグを使用してください。間違った透析液を使うと、不十分な透析になったり、問題がある透析液バッグを使った場合汚染された液が注入されたりします。汚染された液が注入されると腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。透析液バッグに何か問題があった場合にはバクスターCAPDコールセンターか、かかりつけの病院までご連絡願います。

3. 隔壁の確認



- 二つ折りになっている透析液バッグを広げ、表示面を上にして机の上に置きます。
- 透析液バッグの上室・下室に左右の手を置き、交互に軽く押して隔壁が開通されていないかを確認します。

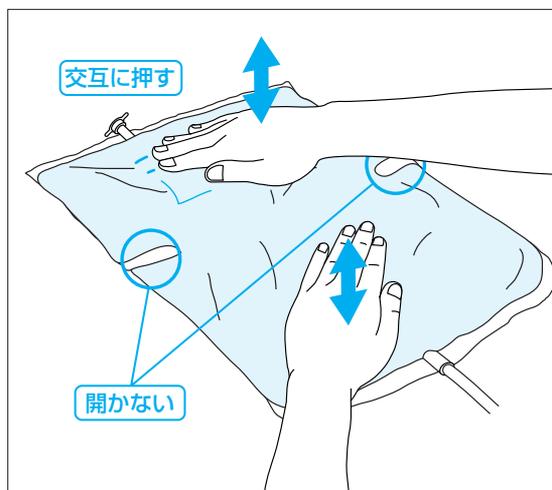
4. 隔壁の開通



- 透析液バッグ下室の中央を左右の手で握り、両脇から強く絞り込みます (A)。これにより隔壁が開通します。

※左記の方法で隔壁が開通できない場合、透析液バッグ下室の手前を握り、上室に向かって巻き込むように強く押します (B)。これにより隔壁が開通します。

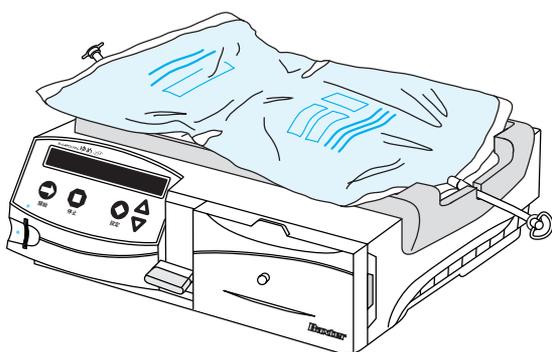
5. 透析液の混合



- 透析液バッグの上室・下室に左右の手を置き、4～5回交互に押して2液を十分に混合します。
(隔壁の両端は開かない部分があります)
- 両手で透析液バッグを押して液もれのないことを確認します。

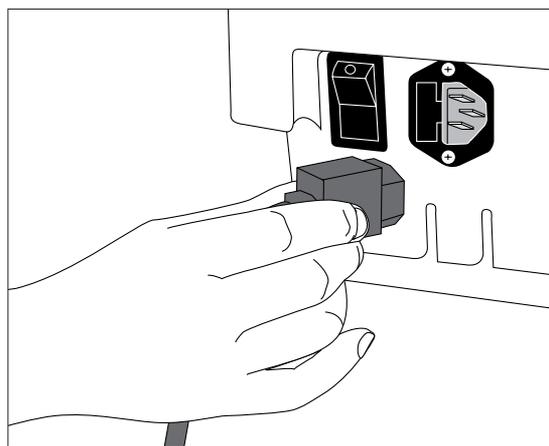
使用する全てのダイアニール-Nを1～5の手順で確認と隔壁開通をします。

6. ヒーターに透析液バッグを乗せる



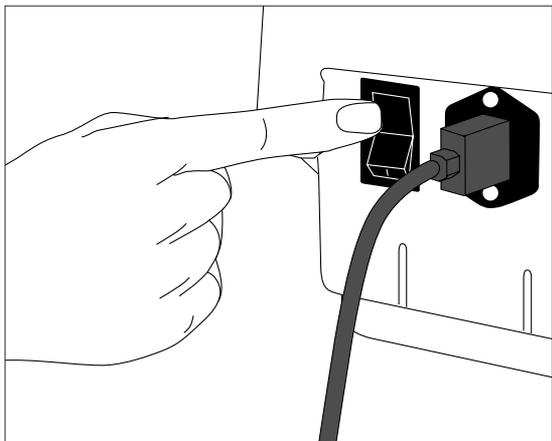
- 透析液バッグは、ヒーター上の温度センサーを確実に覆うように乗せてください。表示面を上にして乗せてください。

7. 電源コードをつなげる



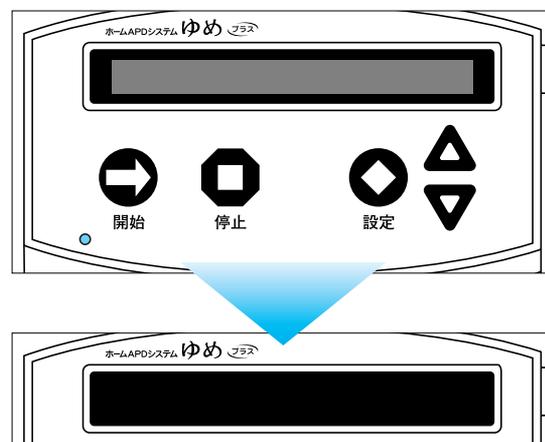
- 電源コードを本体裏面の差し込み口に、もう一方をコンセントに差し込みます。

8. 電源を入れる



- 電源スイッチは機器の裏にあります。“1”で電源が入り、自己診断を開始します。

9. ブザー音と表示確認



- 電源を入れたらブザー音が鳴ることを確認してください。
- 表示の全ピクセルが明るくなった後、全て消えることを確認してください。
(ここでのピクセルとは、表示部で光っている1つずつの点を意味し、文字や数字を構成しているものです)



注意

もし動作がおかしい場合、バクスターCAPDコールセンターまでお電話ください。



警告

「病院へ連絡してください」表示と「排液量過剰」表示の画面が電源投入時に交互に出ている場合、昨日（前回）の治療で過注液があったことを示しています。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

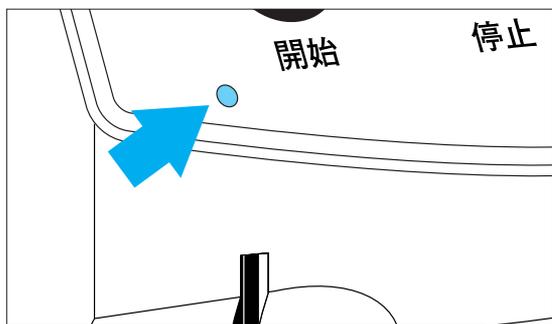
「10 困った時の対処方法（269ページ）」を参照してください。

過注液が疑われるときには、 停止ボタンをすぐに押し、 ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困った時の対処方法（254ページ）」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

ゆめ^{プラス}をお使いの方のみの手順です。(9~10)

9. 表示部の確認 (ゆめ^{プラス}の場合)



- 状態表示ランプが緑色に点灯していることを確認します。

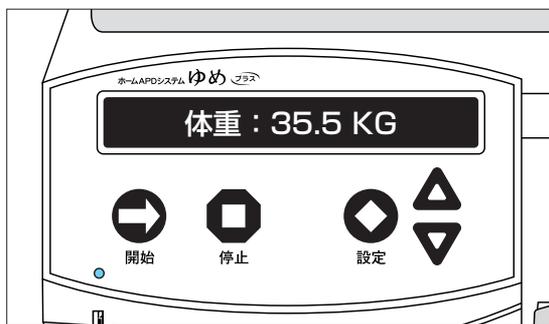


ゆめ^{プラス}では、カードが入っていることを確認します。



この「体重：〇〇.〇KG」表示で入力する体重と、処方入力の「患者体重：〇〇キログラム」表示で入力する体重には関連性はありません。ゆめ^{プラス}の場合、合計で2回体重の入力が必要な場合があります。

10. 追加情報の入力 (ゆめ^{プラス} : オプション)



- かかりつけの病院により入力指示のある項目が表示されます。手順の詳細は本冊子55ページの「3-5 日常の手順」を参照してください。

11. モード表示と「設定確認▽後 治療開始→」表示



- 「設定確認▽後 治療開始→」が表示される前に、動作するモードが表示されます。(標準モードまたは少注液量モード (小児モード))

- ゆめシステムの内部チェックが終わると、「設定確認▽後 治療開始→」と表示されます。

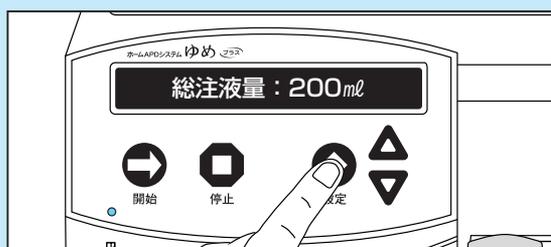
12. 処方の確認



- ▼ ボタンを押すと「処方の確認／変更◇」と表示されます。◇ 設定ボタンを押します。
▼ ボタンを押して処方の確認を行います。
- □ 停止ボタンを押します。サイクル数、貯留時間などが自動的に表示されたあと、「設定確認▽後 治療開始→」の表示に戻ります。

ポイント 処方の変更方法

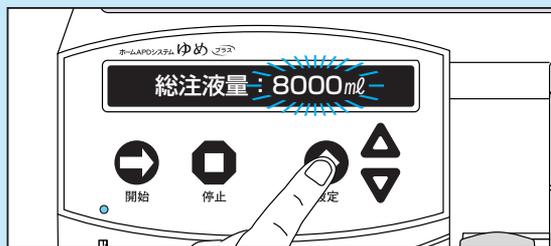
他の処方内容も入力の方法は同じです。



- ① ◇ 設定ボタンを押すと表示の一部が点滅します。



- ② ▼ ▲ ボタンで数値の変更を行います。



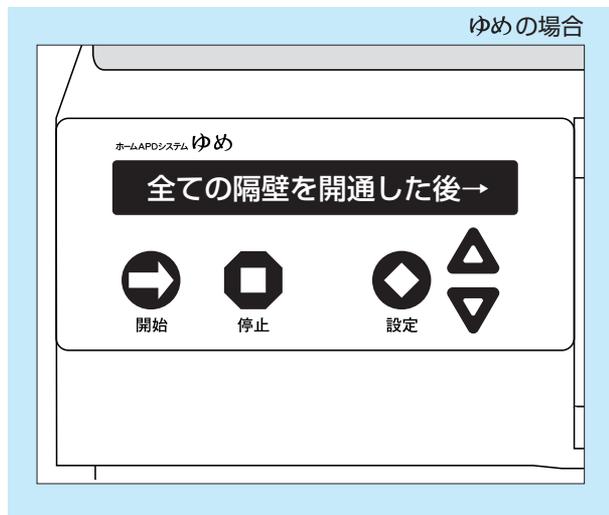
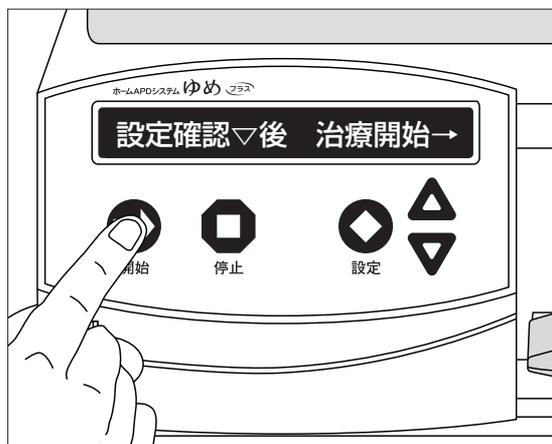
- ③ ◇ 設定ボタンを押して入力数値を確定します。



- ④ 入力終了したら □ 停止ボタンを押すと最初の表示に戻ります。

手順4 隔壁開通の確認

1. 開始ボタンを押す



- ➡ 開始ボタンを押します。
- ゆめの場合、「全ての隔壁を開通した後→」と表示されます。
- ゆめ プラスの場合、「回路セット後→」と表示されます。
- 全ての透析液バッグの隔壁が開通してあることを確認します。

ポイント ➡ 「標準モード」で注液量が1000mL以下の場合、「少液量モードは無効」と表示され少液量モード（小児モード）での動作でないことをお知らせします。➡ 開始ボタンを押して、次に進めてください。

ダイアニールをご使用の方は「手順5.回路の準備」に進んでください。

ポイント ➡ 隔壁開通の確認 (ゆめの場合)

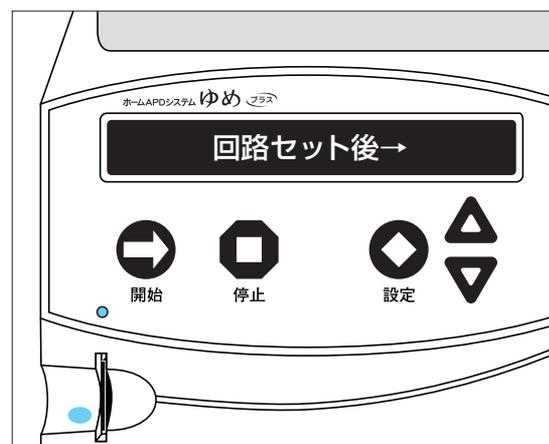
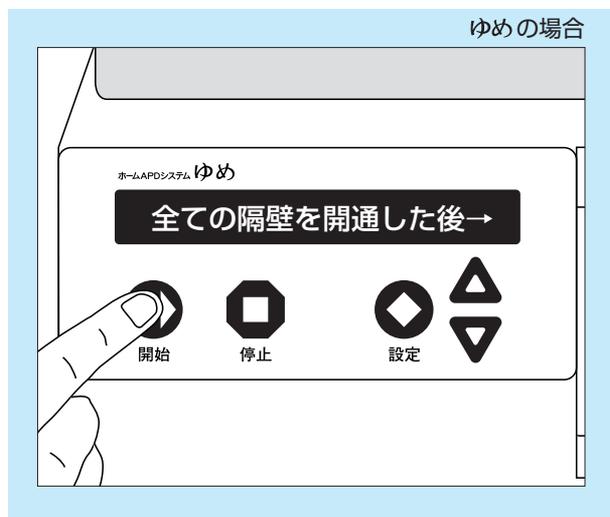
「全ての隔壁を開通した後→」の表示では

- ① 全ての隔壁が開通してあることを確認する。

までを行います。

手順5 回路の準備

1. 開始ボタンを押す



- ➡ 開始ボタンを押します。
「回路セット後→」と表示されます。

ポイント 回路の用意

「回路セット後→」の表示では、

- ①回路の用意
- ②ゆめシステムに回路を装着
- ③排液ラインの装着

までを行います。

排液採取ポートのクランプを閉めるのを忘れがちです。数を数えながらクランプを閉めるようにしてください。



警告

もし回路のキャップが外れている場合は使用しないでください。キャップが外れていたり、しっかり付いていないと、透析液や透析液の流路が汚染される可能性があり、腹膜炎となったり、健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。



警告

ゆめセットを機器に装着する前に、カセットやチューブに損傷がないことを確認してください。損傷があるカセットを使用すると透析液の流路が汚染されます。透析液や透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。

- カセットのやわらかい表面に傷や穴など明らかな損傷がないか確認してください

- ゆめセットのチューブ先端についているキャップが損傷などなく、正しく付いていることを確認してください。

もし損傷などがあれば、新しいゆめセットを使用してください。

ゆめセットのチューブには素材の柔らかさゆえのちょっとした凹みがあります。ちょっとした凹みは外観上のもので製品の機能に影響を与えるものではありません。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スライク式用

治療の手順
システムII用

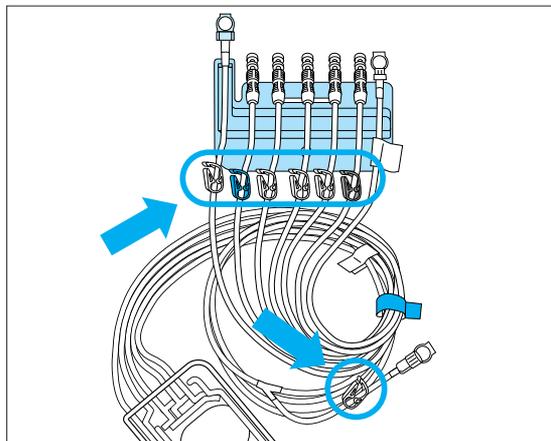
治療の手順
くりんフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

ゆめカバー・ゆめ
クリップの使用
方法

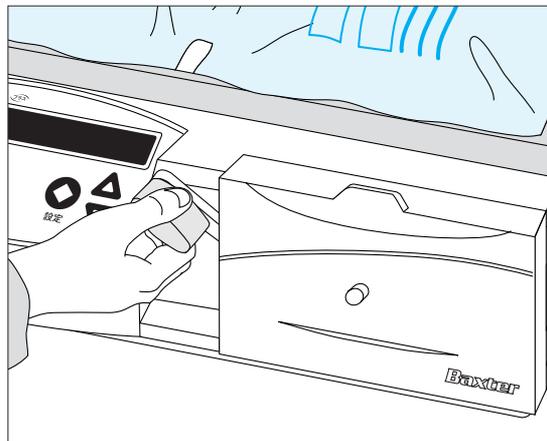
処方の確認
・変更方法

2. 回路の用意



- 回路を袋から取り出し、すべてのクランプを閉めます。
クランプの数は、5バッグ用セットでは7カ所、4バッグ用では6カ所です。

3. ドアを開ける



- ハンドルを上げてドアを開けます。



確認

メンブレン ガasketには、機器とカセットの密着性を高めるために小さな穴が開いています。性能上問題はありません。



警告

- 開始ボタンを押して治療を開始する前に、回路がゆめシステムに装着されている場合は、必ず全てのクランプを閉めてください。
- クランプを閉めておけば、「回路セット後→」の表示で液の流れが発生しません。制御できない液が流れる場合、過注液となる可能性があります。
- 過注液は腹部の不快感をもたらしたり、時には思わぬ重大な事故につながるおそれがあります。
- ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児など）に使用している場合は、特にご注意ください。
- 使用中に過注液が疑われるときには、「強制排液」を行ってください。（本冊子254ページを参照してください）

4. カセットを装着



- 回路のラインを束ねている**青色の紙テープ**をはがします。
- 回路のカセットを所定の場所にしっかりとめ込みます。



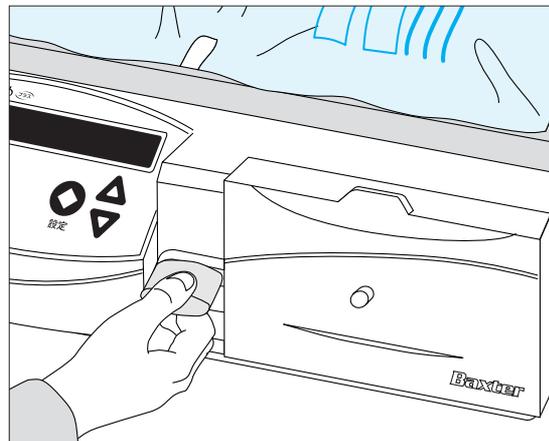
「コネクターライン接続後→」と「コネクターライン確認」が交互に出て警告から、お腹のチューブをつないでください。この画面が出る前にお腹のチューブをつないでしまうと、お腹に空気が入ってしまうことがあります。空気がお腹に入ると、肩の痛みやおなかの痛みなど、思わぬ健康被害につながる可能性があります。また、もしお腹の中に透析液が残っている状態で空気が入ってしまうと、過注液の可能性があります。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、●停止ボタンをすぐに押し、▼ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「⑩ 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

5. ドアを閉める



- ドアを閉めてハンドルを下げます。

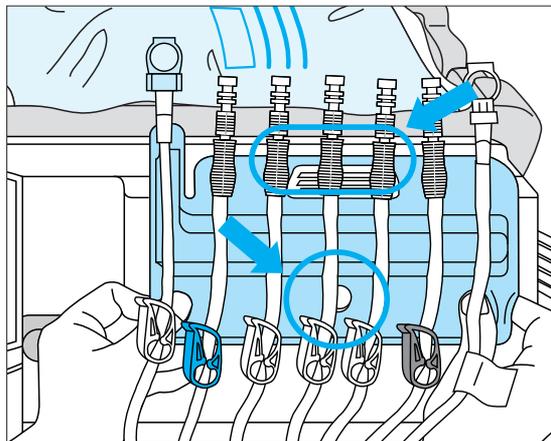
ポイント ▶ ドアを閉める

「回路セット後 →」の表示のときにドアを開けたり、閉めたりを繰り返しますと安全機構が働き、オクルーダーが隆起しドアが閉めにくくなります。

ドアが閉めにくいときには、●停止ボタンを押し、そのあと▶開始ボタンを押します。

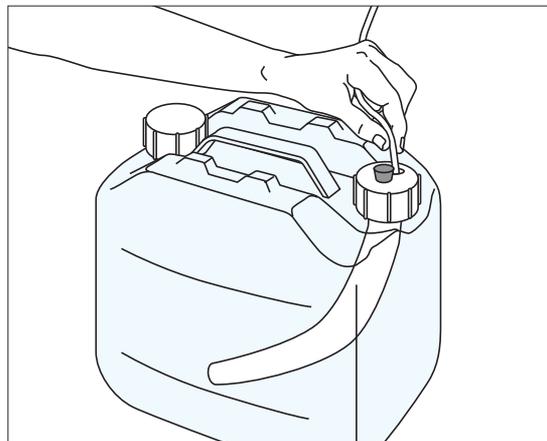
オクルーダーは元の状態に戻ります。オクルーダーが隆起していないことを確認してからカセットを入れ、ドアを閉めてください。

6. ライン保持盤を取り付ける



- ライン保持盤をドア上部、さらにドア中央部のフックに引っかけてから上の方向に引っ張り、安定させます。

7. 排液ラインのセット



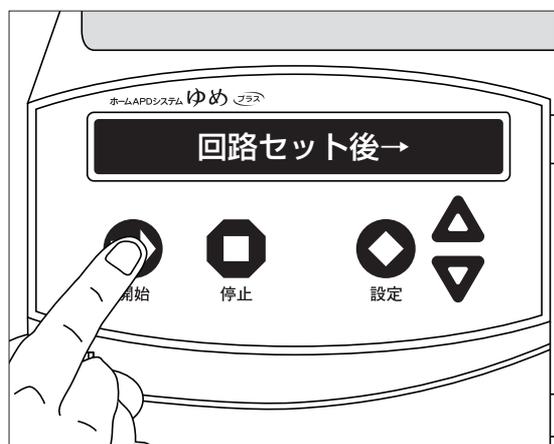
- 右端の排液ラインをライン保持盤から取りキャップを外します。
- 排液タンクへセットします。
- キャップをとりつけます。



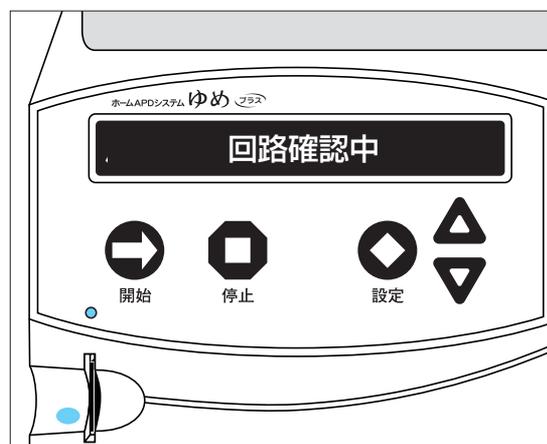
警告

排液ラインの先端と排液タンク内の排液との間には、空気の間隙を作ってください。隙間を作ることにより、間違っ操作した場合に排液が逆流することを防ぎます。一度排液タンクに出た排液は汚染されていると考えられ、操作間違いによって発生する逆流により透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。

8. 開始ボタンを押す



- **→** 開始ボタンを押します。



- 「**回路確認中**」と表示されます。(約2分間)

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スパイク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くりりんフラッシュ用

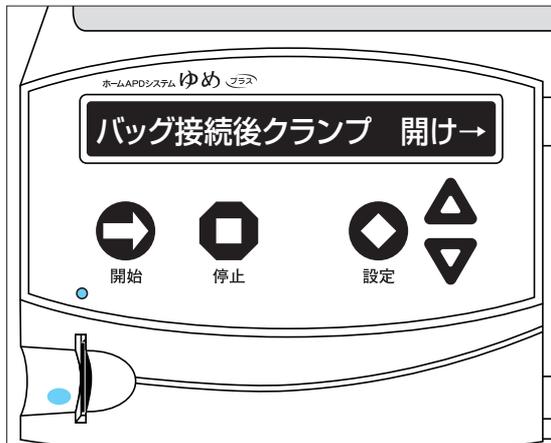
最終注射液前
排液の手順

ゆめカバ！ゆめ
クリップの使用方法

処方の確認
・変更方法

手順6 透析液バッグの接続

1. バッグの接続



- 「バッグ接続後クランプ開け→」と「クランプを開けてください」が交互に表示されます。

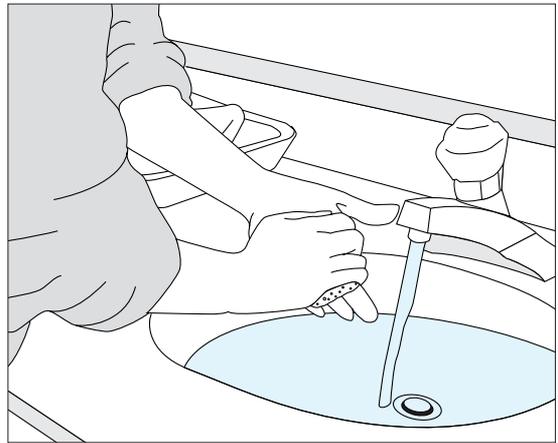
ポイント 「バッグ接続後クランプ開け→」と「クランプを開けてください」表示

「バッグ接続後クランプ 開け→」と「クランプを開けてください」の表示では、

- ①使用するすべての透析液バッグとバッグラインの接続
- ②透析液を接続したラインのクランプを開ける
- ③コネクターラインのクランプを開ける
- ④排液バッグのクランプを開ける（排液バッグ使用時）

のところまでを行います。

2. マスク着用と手洗い



- 接続操作の前に、マスクを着用し、手洗いを確実にします。



警告

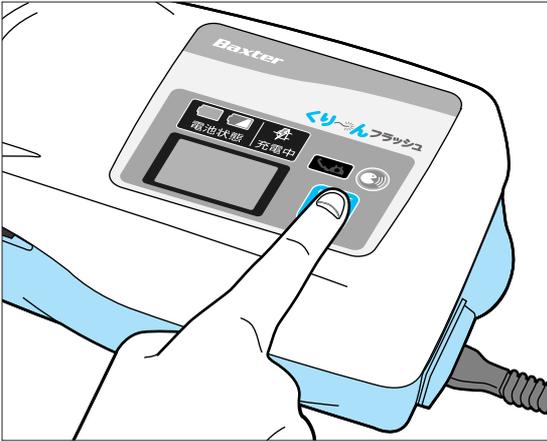
清潔操作にて接続を行ってください。マスクを着用し、手洗いを確実に行ってください。

透析液にヘパリンなどの薬液を注入する場合は、透析液バッグと回路を接続する前に行います。

ポイント マスクの着用・手洗い

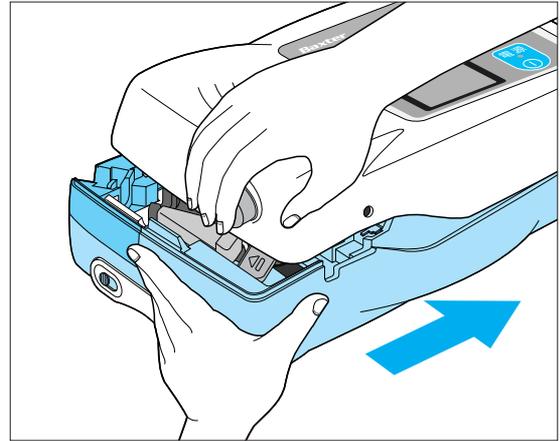
このあとの操作より清潔操作が必要です。これから清潔操作を行うという意識を常に持つようにしてください。

3. 電源を入れる



- **くり〜んフラッシュ** のフタが閉まっていることを確認し、電源スイッチを約1秒間押します。

4. フタを開ける



- フタボタンを押してフタを右へすべらせ、止まるまでゆっくり開けます。



注意

手動操作レバーロックが正しい位置にあることを確認してください。

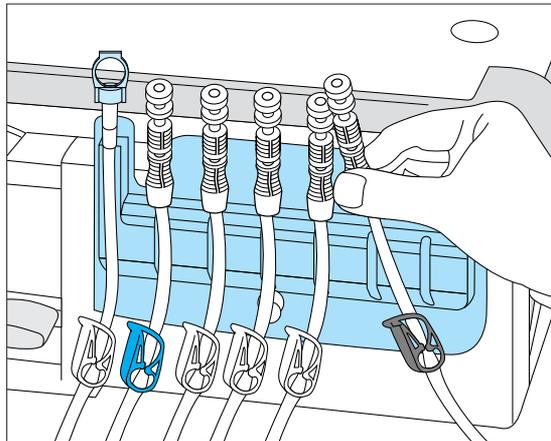


正しい位置



間違った位置

5. ヒーターラインを ライン保持盤から取り外す



- **赤いクランプ**の付いたヒーターラインをライン保持盤から取り外します。



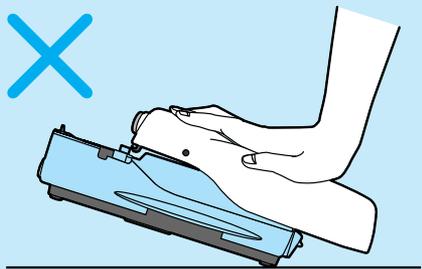
注意

フタの裏側が高温になるため、手を触れないでください。

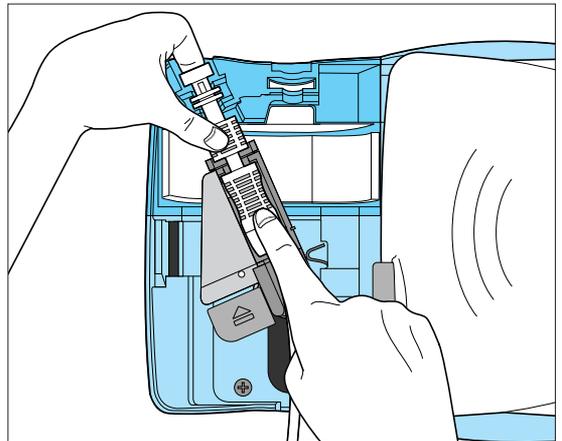


注意

フタが開いている状態で、フタの右端を押さえないでください。



6. ヒーターラインの装着



- ヒーターラインのスパイク部分を接続チューブ固定具に装着し、ヒーターラインを指で上からカチッと音がするまで確実に押します。
- ヒーターラインのチューブをチューブガイドに通します。



注意

内部に異物が入った場合には異物を取り除いてください。
極端に変形している器材は使用しないでください。



注意

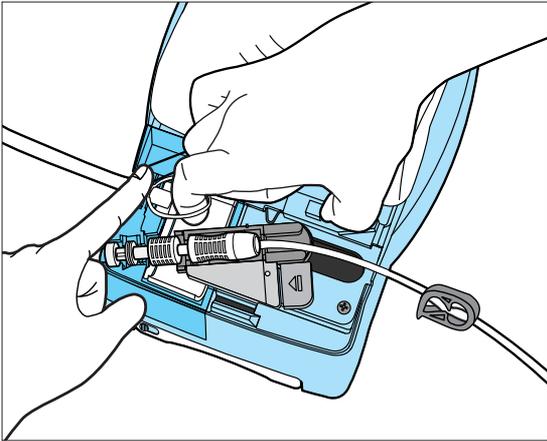
ヒーターラインが浮かないように、しっかり接続チューブ固定具に装着してください。
装着するときは、反射板に手を触れないようにしてください。



注意

透析液バッグのスパイクポート部に手や物が触れないように注意してください。腹膜炎の原因になるおそれがあります。
汚染された場合には新しいものと交換してください。

7. 透析液バッグを装着する



- 右溝に透析液バッグのスパイクポート部を装着します。
- 白色キャップを外します。



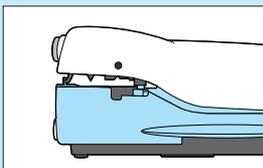
確認

左溝、接続チューブ固定具、チューブガイドの3カ所にヒーターラインが確実に入っていることを確認してください。

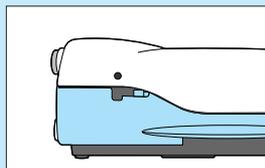


注意

- ・フタがしっかり閉まっていることを確認してください。
- ・器材が正しくセットされていないときには、フタが閉められません。
- ・フタが閉まりにくいときは無理に閉めないでください。右側の器材のキャップが外れていない可能性がありますので、確認してください。

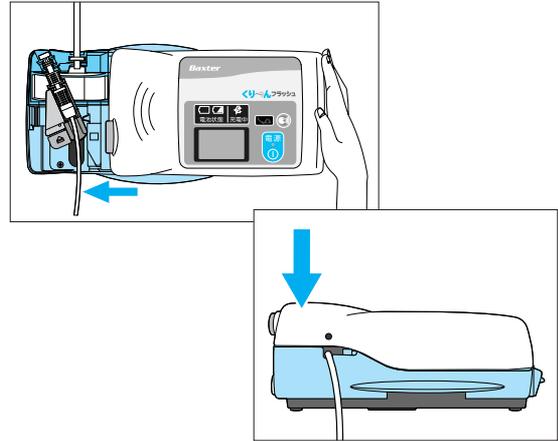


開いている状態



しっかり閉まっている状態

8. フタを閉める



- フタの右側部分に手を置き左へすべらせてから、すべり止め部分に手を置き下に押しながらゆっくり閉める。
- カチッと音がするまで押し続けてください。自動的に切り離し操作、紫外線照射、接続操作を行います。

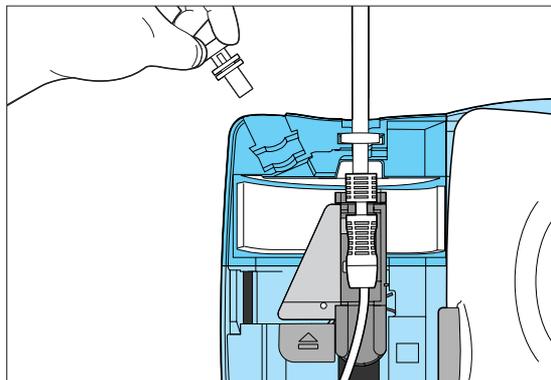
自動接続中の表示



注意

紫外線照射中は、照射部に目を近づけ光を見つめないでください。器材の切り離し、接続時にはチューブが動きます。チューブに触れたり、体を無理に動かしたりしないでください。

9. 保護キャップを取り出す



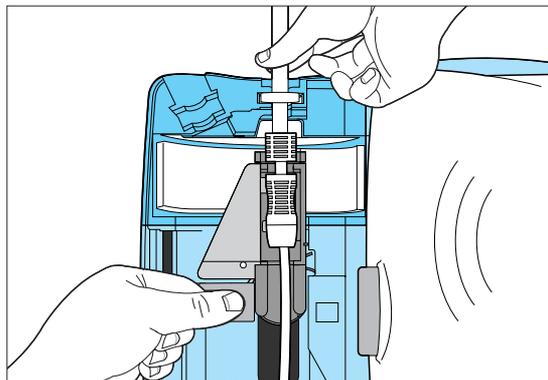
- フタボタンを押してフタをゆっくり開けます。
- 左溝に残っている保護キャップを取り出します。



確認

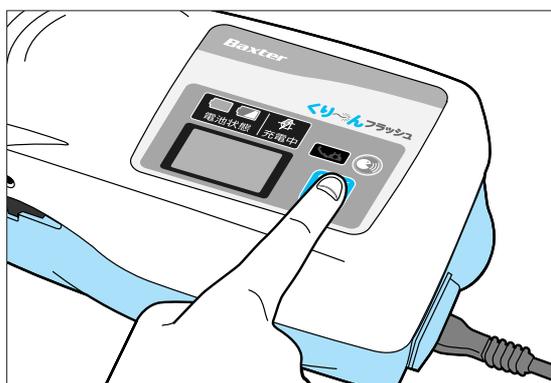
使用するすべての透析液バッグに5~10の操作を繰り返します。

10. ラインを取り出す



- 取り出しボタンを押し、スパイクを接続チューブ固定具から取り出します。

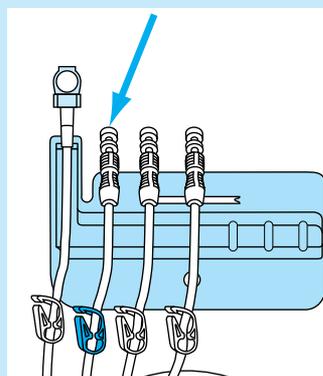
11. 電源を切る



- フタを閉めます。
- 電源スイッチを約1秒間押し続けて電源を切ります。



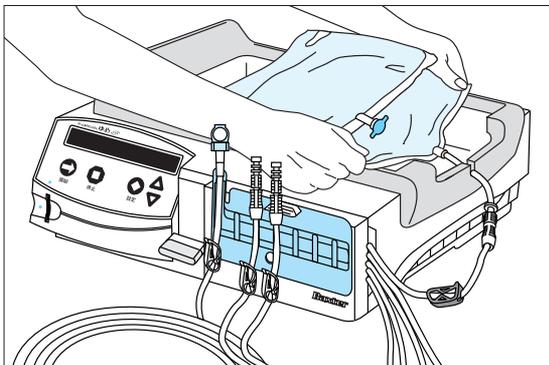
最終注液濃度を変更する場合（特にエクストラニールを使用する場合）、青いクランプの付いたラインに最終注液する透析液バッグを接続します。



手順7 透析液バッグのヒーターへの乗せ方

ダイアニールをご使用の方は「5.チューブをチューブガイドに入れる」に進んでください。

1. 透析液バッグのセット



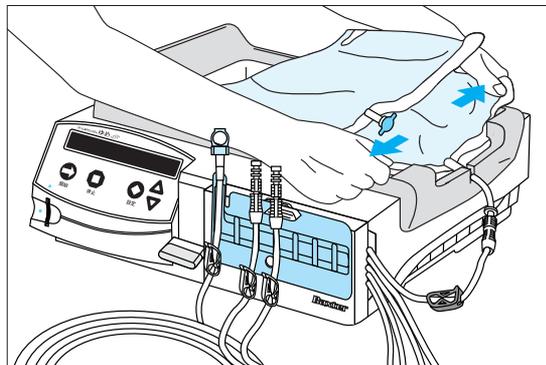
- 赤いクランプのついた透析液バッグの表示面を内側にして二つ折りにしてください。
- チューブが右側になるようにしてヒーターの上に置き、右端まで透析液バッグをずらしてください。



注意

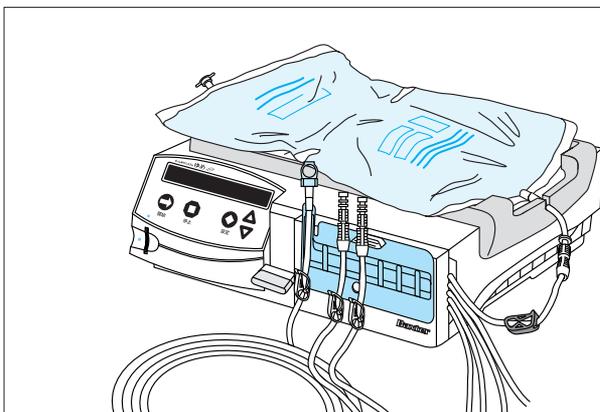
チューブを引っ張らないでください。

2. 透析液バッグ位置の確認



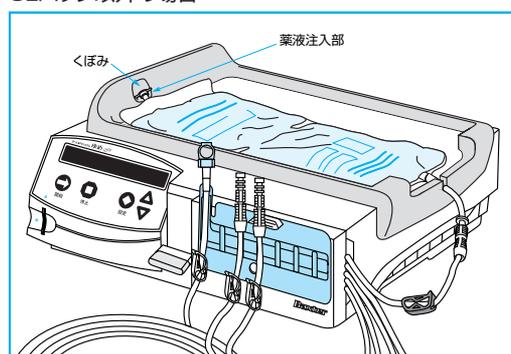
- 透析液バッグのチューブ側の両端を持ち、外側に引っ張り透析液バッグの端をトレイの端にそろえてください。

3. 透析液バッグを広げる



- 二つ折りにしていた透析液バッグをトレイ全体に広げてください。

5Lバッグ以外の場合



- 5Lバッグ以外の場合は透析液バッグをトレイ全体に広げ薬液注入部をくぼみに合わせてください。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
自動・スパイク式用

治療の手順
システムII用

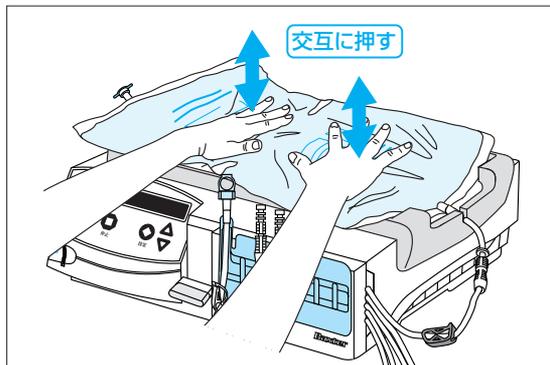
治療の手順
くりんフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

ゆめカバ！ゆめ
クリップの使用
方法

処方の確認
・変更方法

4. ヒーターパネルになじませる



- 透析液バッグの上室・下室を交互に4～5回押し、隔壁が開通していることを再確認し、透析液バッグをヒーターになじませてください。



警告

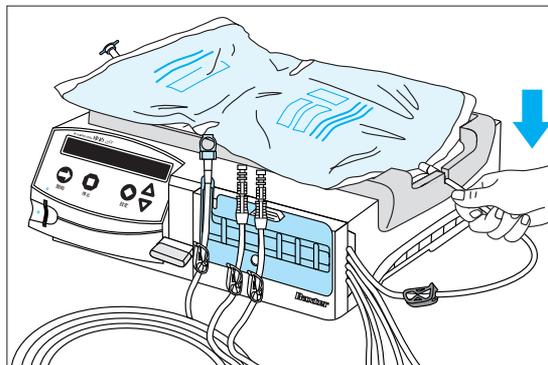
透析液バッグはヒーター上の温度センサーを覆うように正しく置いてください。特に小さいサイズの透析液バッグを乗せるときには注意してください。ただし、透析液バッグを乗せていないと、温度が低すぎる、または高すぎる透析液が注液される可能性があります。



警告

透析液バッグの加温は、必ず本機器のヒーターで行ってください。本機器のヒーター以外のもの（電子レンジ、ストーブ、電気毛布など）で加温を行いますと、過度に加温された透析液がお腹に注液される場合があります。

5. チューブをチューブガイドに入れる



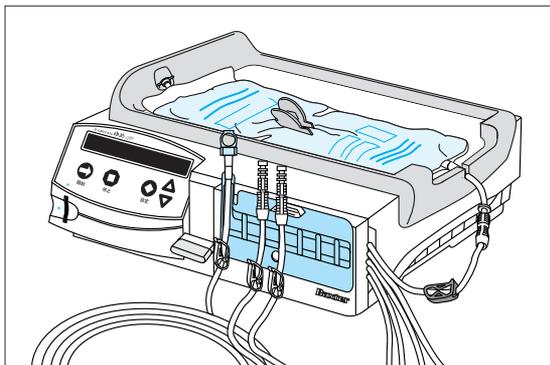
- 透析液バッグのチューブをチューブガイドにしっかりと下まではめ込んでください。



注意

チューブは無理に引っ張らないでください。

○ ゆめ用クリップを付ける
(1L、1.5Lバッグの場合)



- 1L、1.5Lバッグを使用しているときは、隔壁部分にゆめ用クリップを取り付けます。バッグの上面のみ1枚をつまんでください。



参考

2L以上のバッグではゆめ用クリップを使用する必要はありません。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
自動・スバイク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くりりんフラッシュ用

最終注射液前
排液の手順

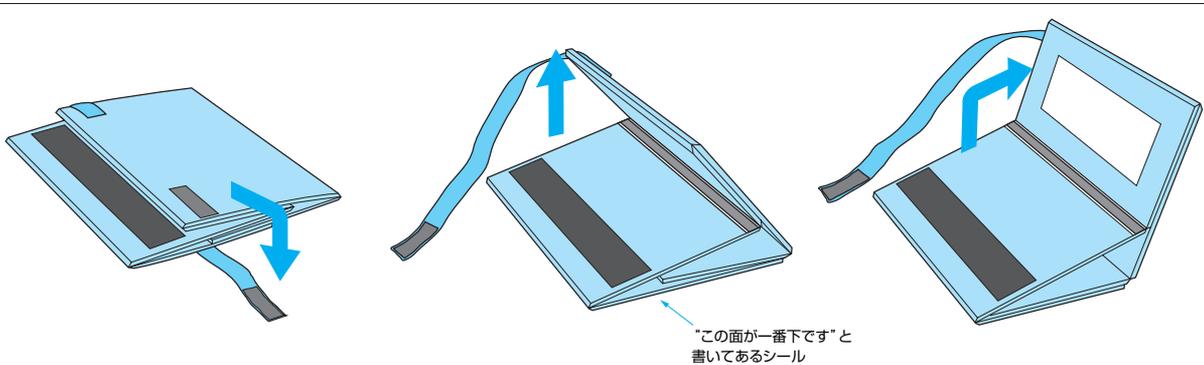
ゆめカバ！ゆめ
クリップの使用方法

処方の確認
・変更方法

手順8 補液用スタンドの使用法

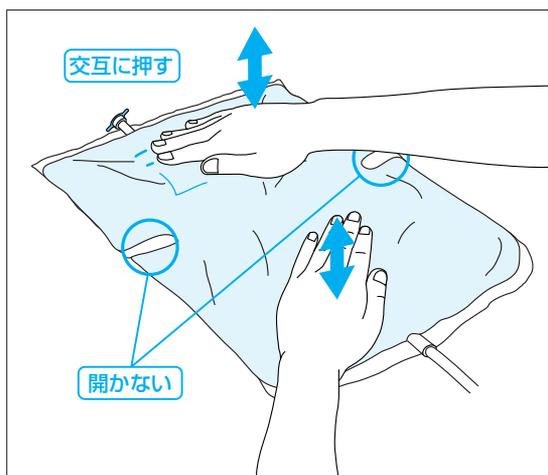
ダイアニールをご使用の方は「手順9.回路のプライミング」に進んでください。

1. スタンドの組み立て



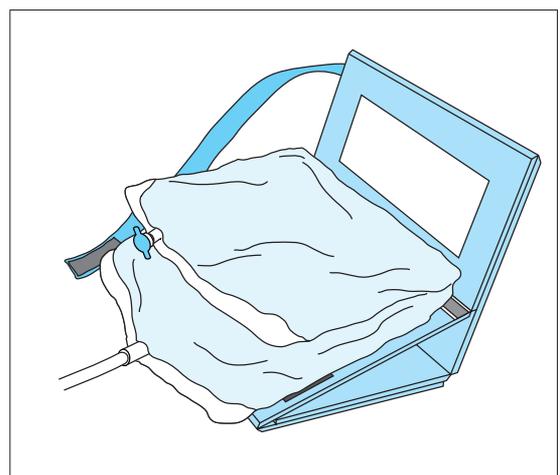
- 1 バンドの片方を外します。
- 2 “この面が一番下です”と書いてあるシールのある面を下にして、スタンドを開きます。
- 3 止まるまでしっかり開きます。

2. 隔壁開通の確認



- 透析液バッグの上室・下室に左右の手を置き、交互に軽く押して隔壁が開通されていることを確認します。(隔壁の両端は開かない部分があります)

3. 透析液バッグのセット



- 透析液バッグのチューブ側の両端を持ち、外側に引っ張り透析液バッグの端をトレイの端にそろえてください。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スパイク式用

治療の手順
システムII用

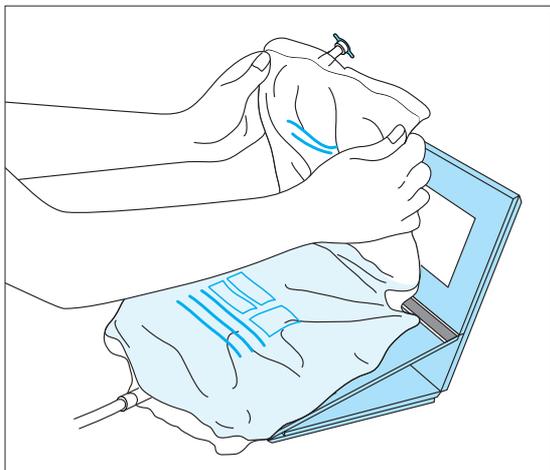
治療の手順
くり〜んフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

ゆめカバー・ゆめ
クリップの使用法

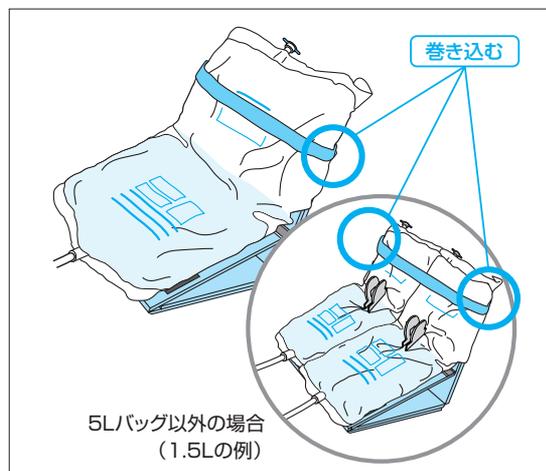
処方の確認
変更方法

4. 透析液バッグを立てかける



- 透析液バッグを開き、上室に透析液が残らないように数秒上室を立ててからスタンドに立てかけます。

5. バンドで止める



5Lバッグ以外の場合
(1.5Lの例)

- 上室が倒れないよう、バンドでしっかりとめます。
このとき、バンドでバッグの端を巻き込んでとめてください。
※バンドでしっかり固定しないと、液が残り少なくなった時にずり落ちてしまいます。

1L、1.5Lバッグの場合、ゆめ用クリップを取り付けます。バッグの上面のみ1枚をつまんでください。



参考

隔壁を開通していないダイアニール-Nは、補液用スタンド上で立たないので、隔壁の開通がなされたかわかるようになっていきます。



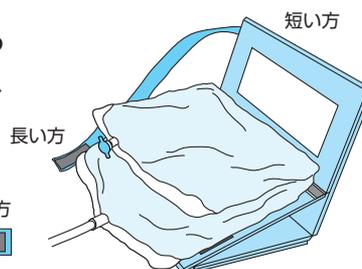
参考

2.5Lバッグ以下のバッグは、補液用スタンドの上に2個乗せて使用できます。



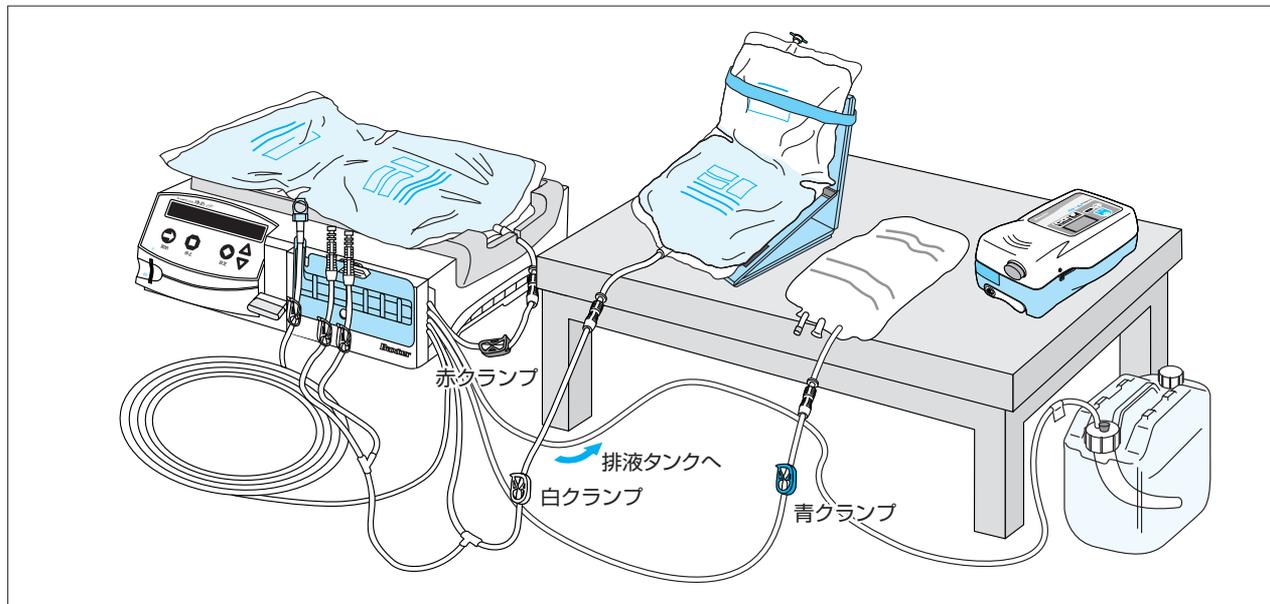
参考

バンドのマジックテープは片方が長く、片方が短くなっています。短い方を固定し、長い方を外すようにすると、しっかりとめることができます。



手順9 回路のプライミング

1. 接続部の確認



ポイント 接続部の確認 ここでゆめシステムの接続の全体像を理解します。下記のことを確認します。

- 赤いクランプの付いたラインが、ヒーターの上の透析液バッグに接続されている。
- ダイアニール-Nの隔壁が全て開通している。
- ヒーターの上の透析液バッグは、ヒーターになじんでいる。
- ヒーターバッグのチューブが、チューブガイドにしっかり入っている。
- 赤クランプ以外のダイアニール-Nが補液用スタンドに確実に乗っている。
- 最終注射液濃度を変更する場合、青いクランプの付いたラインが、濃度・種類の違う透析液バッグに接続されている。
最終濃度変更のない場合は赤以外どの色のクランプを使用しても大丈夫です。
- 排液ラインのキャップが外されていて、排液タンクにしっかり固定されている。
- 回路の各ラインが折れ曲がらないようにセットされている。
- 排液タンクは倒れないように注意して置いてある。
- 1L、1.5Lダイアニール-Nを使用している場合、隔壁にゆめ用クリップが付いている。



警告

最終注液に濃度や種類の違う透析液（エクストラニールなど）を使うときには、青いクランプの付いたラインにつないでください。青いクランプの付いたラインに間違った種類の透析液をつないでしまうと、除水量が多くなったり少なくなったりして、除水や排液関連のアラームがなる可能性があります。



警告

もし間違った透析液を使用したり、最終バッグラインに間違った透析液をつなげていることを発見したら、かかりつけの病院にご連絡ください。



警告

●透析液バッグをつないだ後、コネクターラインのクランプを開け忘れたままにしておくと、コネクターラインに空気が入ったままとなり、1サイクル目の注液でお腹に空気が入る可能性があります。空気がお腹に入ると、肩の痛みやおなかの痛みなど、思わぬ健康被害につながる可能性があります。

「コネクターライン接続後→」と「コネクターライン確認」が交互に出ていて、コネクターラインのクランプがまだ閉じたままであることを発見したら、すぐには接続チューブをつなぐずに、クランプを開けて「再プライミング」を行ってください。再プライミングは222ページを参照願います。

●もし、接続チューブがつながっている状態でクランプが閉じていたことに気づいたら、お腹に液があるか確認してください。

(a) お腹に液がある場合

強制排液をしてから治療を開始してください。強制排液の手順は254ページを参照願います。

(b) お腹に液がない場合

新しいゆめセットと透析液バッグで始めからやり直してください。

安全にご使用
いただくために

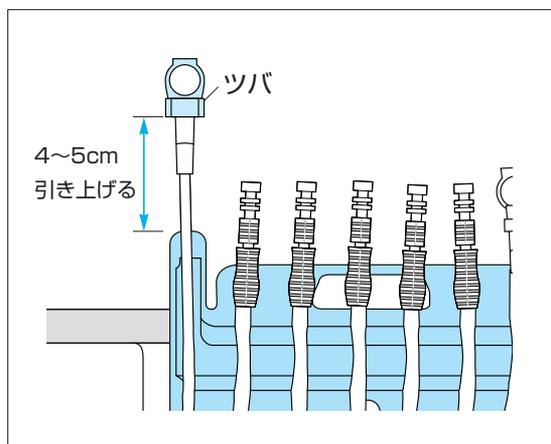
各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スパイク式用治療の手順
システムII用治療の手順
くりこんフラッシュ用最終注液前
排液の手順ゆめカバ！ゆめ
クリップの使用
方法処方の確認
・変更方法

2. プライミング前の注意 (5Lバッグ使用時の注意)

5Lバッグをヒーターにのせて使う場合、コネクターラインのツバ（下図参照）をライン保持盤の上部から約4～5cm上まで引き上げてください。2.5L以下のバッグの場合はその必要はありません。

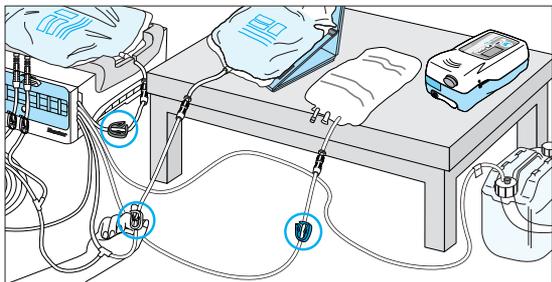


注意

プライミング開始時、回路をゆめシステムにセットするときに、プライミングが確実に行われるように以下のことに注意してください。コネクターラインから液があふれ菌混入の原因となります。

- ① 5Lバッグをヒーターに乗せて使う場合、コネクターラインのツバ（上図参照）をライン保持盤の上部より4～5cmくらい高い位置に引き上げてください。2.5L以下のバッグの場合はその必要はありません。
- ② プライミング中はヒーターの上には透析液バッグを1つだけ置くようにしてください。
- ③ プライミング中はヒーター上の透析液バッグに圧力の加わるような行為は行わないでください。
- ④ 液があふれた場合は、新しいものに交換し、始めからやり直してください。

3. クランプを開ける



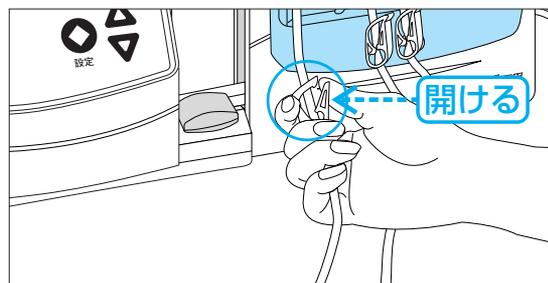
- 透析液バッグを接続したラインのクランプを開けます。
- 透析液バッグをつないでいないラインのクランプは開けないこと。



注意

コネクターラインのクランプが閉まっているとコネクターラインに液が充填されません。再プライミングを行ってください。

4. コネクターラインのクランプを開ける



- コネクターラインがライン保持盤の所定の場所にセットされラインの先端がヒーター上の透析液バッグより**高い位置**にあることを確かめます。
- コネクターラインのクランプを開けます。



参考

プライミングとは回路内に透析液を満たすことです。また、プライミング中に回路の気密性の確認も行っています。

5. 隔壁を確認する



-  開始ボタンを押します。

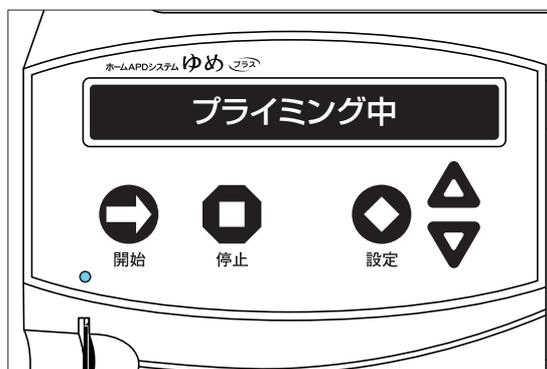
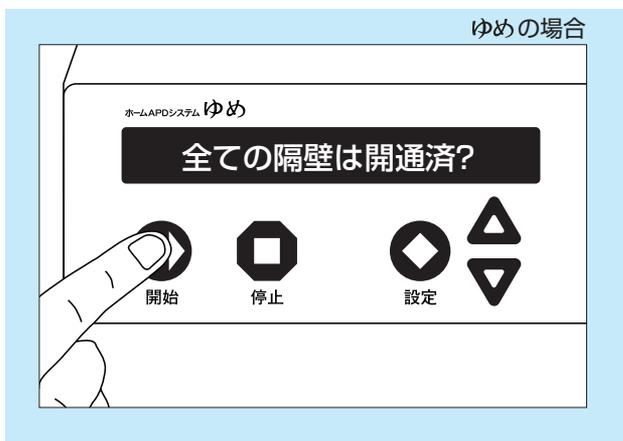
ダイアニールをご使用の方は「6.プライミングを開始する」に進んでください。

ゆめの場合



- ゆめの場合、「**全ての隔壁は開通済?**」と表示されます。
- ゆめ プラス の場合、「**プライミング中**」と表示されます。
- 全ての隔壁が開通してあるか、もう一度確認します。

6. プライミングを開始する



- ➡ 開始ボタンを押します。

- 「**プライミング中**」と表示され、プライミングが自動的に始まります。約8分後、「**コネクターライン接続後→**」と「**コネクターライン確認**」が交互に表示されます。



確認

「**コネクターライン接続後→**」と「**コネクターライン確認**」表示が出るまで接続チューブとゆめセットをつながないこと。



プライミング中に停電等で電源が遮断された場合

警告

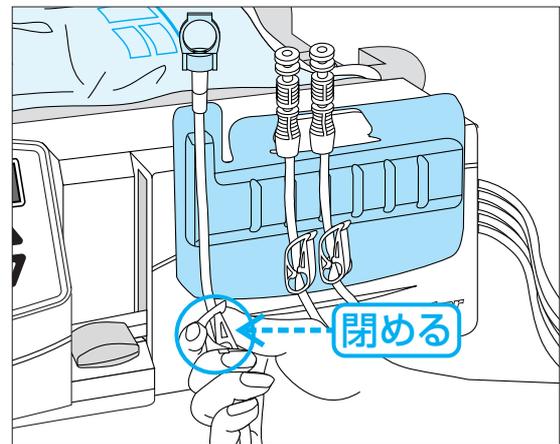
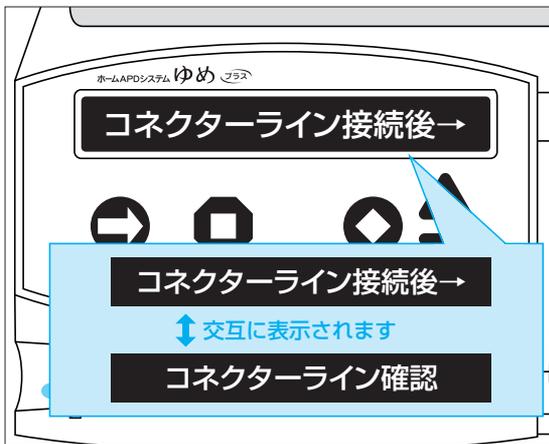
停電から復帰した後で、ゆめセットがゆめシステム内にある場合、全てのクランプを閉じてから ➡ 開始ボタンを押して再開してください。これにより、「回路セット後→」の画面において、透析液バッグ同士や、患者様の接続チューブとの液の流れが制御できなくて、自由に透析液が流れてしまうことを防ぐことができます。制御が行われていない場合、落差による液の流れで過注液となる可能性があります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。過注液が疑われるときには、● 停止ボタンをすぐに押し、▼ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。ご自分で異常を訴えることができない方 (意識のない方、乳幼児や小児) に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

プライミング中の電源遮断後に治療を再開する場合

- ① 全てのクランプを閉める
- ② ➡ 開始ボタンを押す
- ③ 「回路セット後→」の表示が出たら、再度 ➡ 開始ボタンを押す
- ④ 「バッグ接続後クランプ 開け→」の表示が出たら、つながっているバッグのクランプを開ける
- ⑤ コネクターラインのクランプを開け、➡ 開始ボタンを押す

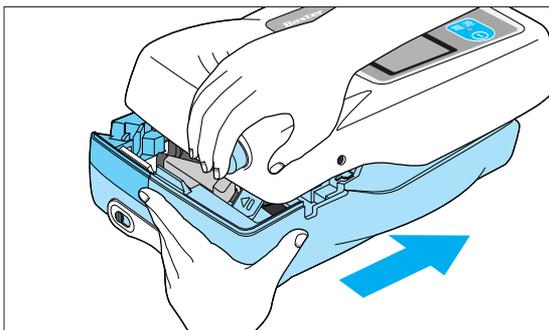
手順10 コネクターラインの接続

1. コネクターラインのクランプを閉める



- 「コネクターライン接続後→」と「コネクターライン確認」が交互に表示されます。
- コネクターラインが透析液で満たされていることを確認します。
- コネクターラインの白いクランプを閉めます。

2. フタを開ける



- **くりんフラッシュ** の電源を入れます。
- フタをゆっくり開けます。



注意

清潔操作にて接続を行ってください。マスクを着用し、手洗いを確実に行ってください。



警告

コネクターラインを接続する前に、コネクターラインが透析液で充填されているか確認してください。

プライミング後に、コネクターライン先端近くまで透析液が来ていない場合はおなかのチューブを接続しないでください。空気が残った状態で接続すると、初回排液がない場合、空気が腹腔に入ることになります。空気が腹腔に入ると、肩の痛みやおなかの痛みなど、思わぬ健康被害につながることがあります。

正しくプライミングされたか確認するためには…

- コネクターラインの白いクランプがあいていること
- コネクターラインの先端がライン保持盤に正しく取り付けられていること

コネクターラインを接続する前に

- ① コネクターラインの先端近くまで透析液が充填されていることを確認します。
- ② もし、コネクターラインの先端近くまで透析液が充填されていない場合、再プライミングを行ってください。再プライミングの手順は本冊子222ページを参照してください。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スパイク式用

治療の手順
システムII用

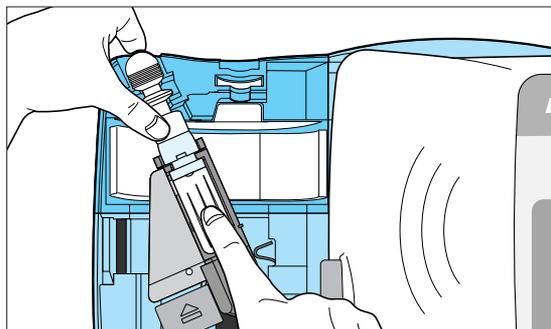
治療の手順
くりんフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

ゆめカバールーム
クリップの使用方法

処方の確認
変更方法

3. 接続チューブの装着



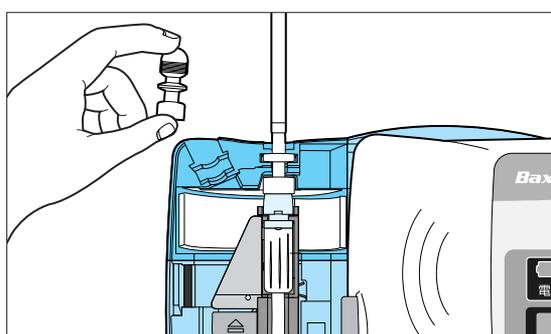
- ツイストクランプが閉まっていることを確認します。
- 接続チューブ固定具に接続チューブを装着し、接続チューブの水色と白色の部分を指で上から、カチッと音がするまで確実に押します。
- 接続チューブのチューブ部分をチューブガイドに通します。



確認

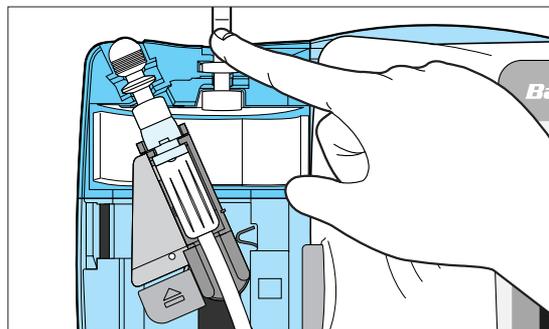
左溝、接続チューブ固定具、チューブガイドの3カ所に接続チューブが確実に入っていることを確認してください。

5. フタを開けキャップを捨てる



- 自動接続後フタをゆっくり開けます。
- 左溝にあるキャップを捨てます。

4. コネクターラインを装着する



- コネクターラインの**白い紙テープ**を外します。
- ライン保持盤よりコネクターラインを外し、先端に触れないようにキャップを外します。
- コネクターラインのツバの部分を右溝にきちんと下まで装着します。
- フタを閉めます。



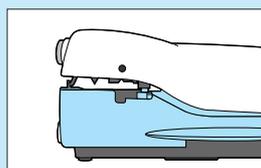
注意

- ・ 機器内部に異物があった場合には異物を取り除いてください。
- ・ コネクターラインの接続部分に指や他の物が触れないように注意してください。万一触れた場合には、新しいものと交換してください。

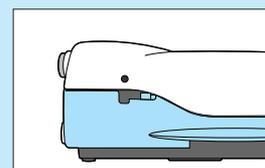


注意

- ・ フタがしっかり閉まっていることを確認してください。
- ・ 器材が正しくセットされていないときには、フタが閉められません。
- ・ フタが閉まりにくいときは無理に閉めないでください。右側の器材のキャップが外れていない可能性がありますので、確認してください。

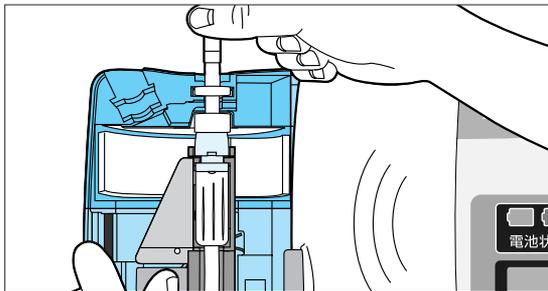


開いている状態



しっかり閉まっている状態

6. 接続チューブを取り出す



- コネクターラインを保持します。
- 取り出しボタンを押し、ラインを接続チューブ固定具より取り外します。
- フタを閉めます。



注意

万一接続チューブが汚染された場合には、以下のことをすみやかに行ってください。

- ① ツイストクランプが閉まっていることを確認。
- ② キャップをずらすか接続チューブのスパイク部を清潔なガーゼで保護してください。
- ③ 接続チューブのチューブ部分を縛ってください。
- ④ かかりつけの病院に連絡し、指示に従う。

7. コネクターカバーの装着



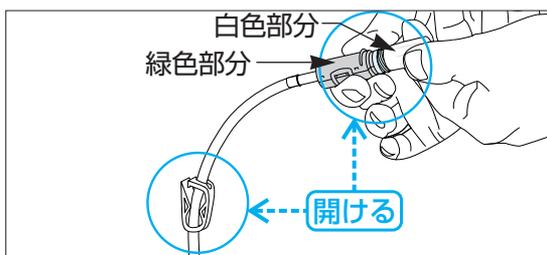
- コネクターカバーをコネクターラインと接続チューブの接続部分に装着します。



注意

ツイストクランプを操作する際には、必ずツイストクランプの緑色部分（コネクターカバー）を片手で保持し、もう片方の手で白色部分を回すようにして下さい。

8. コネクターラインと接続チューブのクランプを開ける



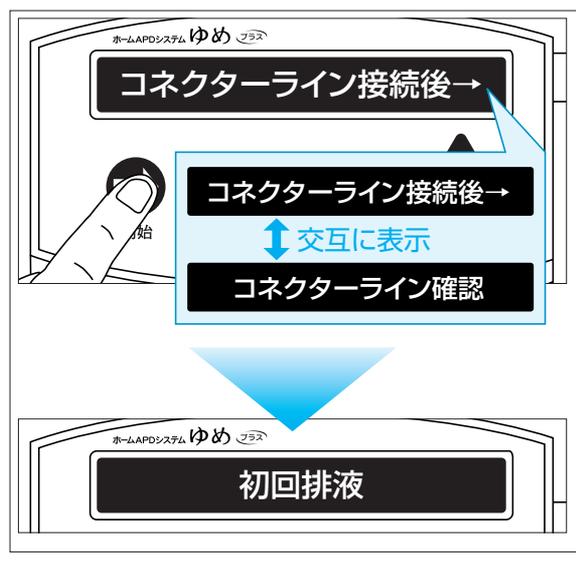
- コネクターラインのクランプと接続チューブのツイストクランプを開けます。



注意

- 「初回排液の限度」がなし、または少ない場合、「初回排液限度」の表示が出ます。設定が正しいときは、➡ 開始ボタンを押して治療を開始します。設定が正しくないときは、本冊子245ページを参照してください。

9. 開始ボタンを押す

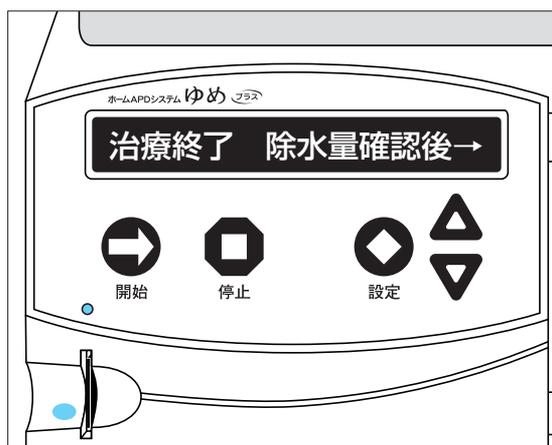


- ➡ 開始ボタンを押します。「初回排液」と表示され、治療が開始します。

6-2 治療の終了

手順1 結果の確認

1. 表示を確認



- 終了時、「治療終了 除水量確認後→」と表示されます。



警告

清潔操作にて切り離しを行ってください。マスクを着用してください。

2. 初回排液量の確認



- ▼ ボタンを押し、初回排液量を確認します。



警告

もし治療が完了できなかつたり、最終注液を行わなかつたり、かかりつけの病院の指示通り治療ができなかつた場合は、その旨かかりつけの病院にお知らせください。何回か治療を行わなかつたり、完了できなかつたりすると、貯留時間や治療時間が短くなり、尿毒症になることがあります。

ポイント 治療終了時の確認事項

原則として除水量の確認は治療終了時「治療終了 除水量確認後→」の表示のときに行います。

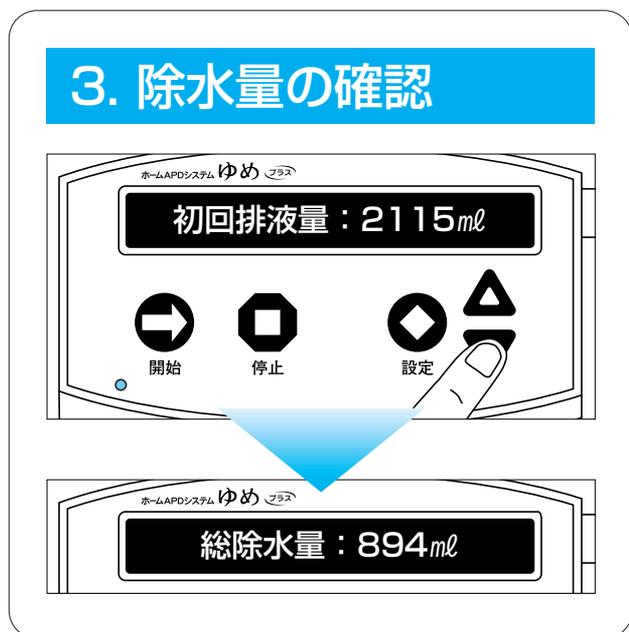
治療終了時には、以下を確認しAPD記録ノートに記入します。

- 初回排液量
- 総除水量
各サイクルごとの除水量（各サイクルの除水量を確認することで除水の傾向

をみる事が可能です。）

- 平均貯留時間
各サイクルの貯留時間（各サイクルの貯留時間を確認することで治療内容を知ることが可能です。）
- 貯留時間の短縮・延長（貯留時間が予定よりある程度長かつたり、短かつたりした場合のみ表示されます。）

3. 除水量の確認



- ▼ ボタンを押し、総除水量を確認します。
- 各サイクルの除水量の確認は、◆ 設定ボタンを押して行います。
- 各サイクルごとの除水量を確認したあとは、■ 停止ボタンを押します。

4. 平均貯留時間の確認



- ▼ ボタンを押し、実際の平均貯留時間を確認します。
- 各サイクルの貯留時間の確認は、◆ 設定ボタンを押して行います。
- 各サイクルごとの貯留時間を確認したあとは、■ 停止ボタンを押します。



確認

治療終了時の「総除水量」が少なかったりマイナスだったりした場合、最終サイクルの排液量が不十分でお腹にたくさんの液が残っている可能性があります。「最終注液前 排液」が「アリ」であり、「目標除水量」の設定値が期待される除水量の70%くらいであることを確認ください。期待される除水量の70%を出すのに困りの場合、「15-15 タイダール総除水量と、最終注液前排液の目標除水量を決める」をご参照ください。また、最終注液前排液については7章をご参照ください。

ポイント 各サイクルの除水量、各サイクルの貯留時間の確認方法

除水量

- ▼ 総除水量
- ◆ 2サイクル除水量：○○○ml
- ▼ 1サイクル除水量：○○○ml
- 「治療終了 除水量確認後→」

貯留時間

- ▼ 平均貯留時間
- ◆ 2サイクル貯留時間：○：○○
- ▼ 1サイクル貯留時間：○：○○
- 「治療終了 除水量確認後→」

各サイクルごとの除水量、貯留時間を確認したあとは、○ 停止ボタンを押してください。
「治療終了 除水量確認後→」と表示されます。再度、始めから ▼ ボタンを押して次の表示に進んでください。

※確認の手順は覚えやすい順序で行ってください。



警告

最終サイクルの除水量がいつも多い場合、治療中に除水量がお腹にたまりやすいのかもしれませんが。

- CCPD/IPD療法の場合、排液の限度%が低すぎるかもしれません
- タイダル療法の場合、総除水量の設定が低すぎるのかもしれませんが

どちらの場合でも過注液の可能性があります。これらの場合に加えて、濃度の高い透析液を使用するような場合、さらに過注液の可能性を高めます

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、○ 停止ボタンをすぐに押し、▼ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。



警告

「病院へ連絡してください」 / 「排液量過剰 ABC」表示は治療中に過注液が発生した記録があったことを示しています。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

「病院へ連絡してください」 / 「排液量過剰 ABC」に関する詳細は「10 困ったときの対処方法 (268ページ)」をご参照ください。

過注液が疑われるときには、○ 停止ボタンをすぐに押し、▼ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

5. 貯留時間短縮・延長の確認



- ▼ ボタンを押し、貯留時間短縮または貯留時間延長の確認をします。

この表示は貯留時間が予定よりある程度長かったり短かったりした場合表示されます。それ以外は表示されません。

7. コネクターラインと接続チューブのクランプを閉める



- 接続チューブのツイストクランプを図のように持ち回転して閉めます。
- 回路のクランプをすべて閉めます。排液バッグを使用している方は排液バッグのクランプも閉めます。
- 接続チューブを切り離す前に ➡ 開始ボタンをもう一度押さないでください

6. 開始ボタンを押す



- ➡ 開始ボタンを押します。
- 「クランプを閉じた後→」と表示されます。



注意

ツイストクランプを操作する際には、必ずツイストクランプの水色部分を片手で保持し、もう片方の手で白色部分を回すようにして下さい。



全てのクランプを閉める前に、➡ 開始ボタンを押さないでください。

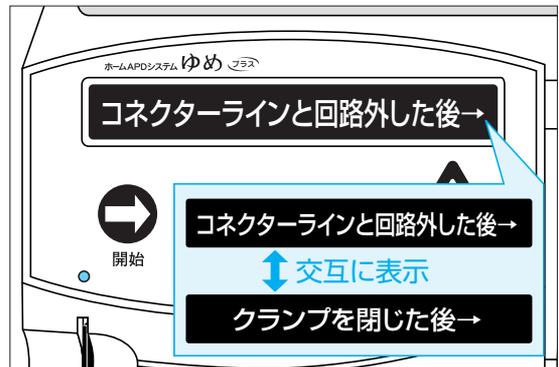
警告 これにより、「コネクターラインと回路外した後→」 / 「クランプを閉じた後→」表示の時に、透析液バッグ同士や、患者様の接続チューブとの液の流れが制御できなくて、自由に透析液が流れてしまうことを防ぐことができます。制御が行われていない場合、落差による液の流れで過注液となる可能性があります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、■ 停止ボタンをすぐに押し、▼ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「⑩ 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方(意識のない方、乳幼児や小児)に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

手順2 コネクターラインの切り離し

1. 開始ボタンを押す



- **→** 開始ボタンを押します。
「コネクターラインと回路外した後→」と「クランプを閉じた後→」が交互に表示されます。

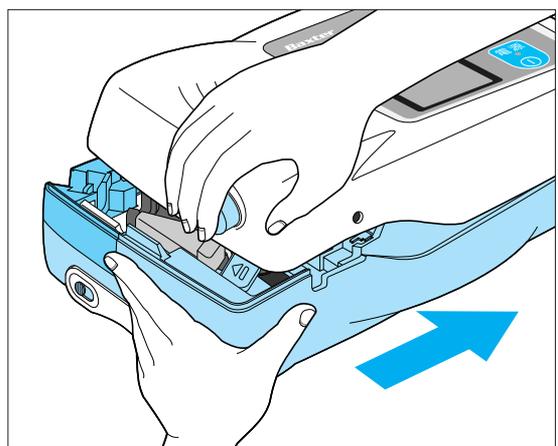
ポイント カセットを取り出す

「コネクターラインと回路外した後→」と「クランプ閉じた後→」が交互に表示されたら

- ①新しいキャップを用意し開封する
 - ②コネクターラインを切り離し、キャップを装着する
 - ③回路を取り出す
- までを行います。

「電源を切って下さい」の表示では、オクルーダーが閉まっているのでハンドルが固く、開けにくくなります。

2. フタを開ける



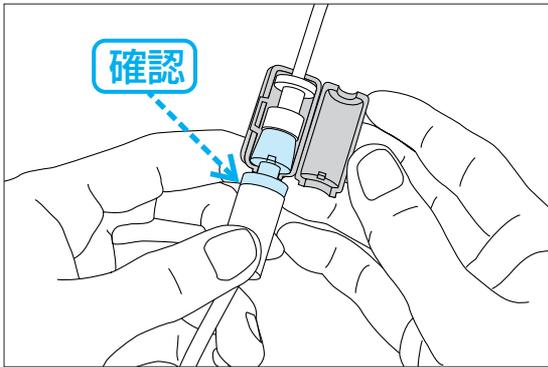
- **くり〜んフラッシュ** の電源を入れます。
- フタをゆっくり開けます。



警告

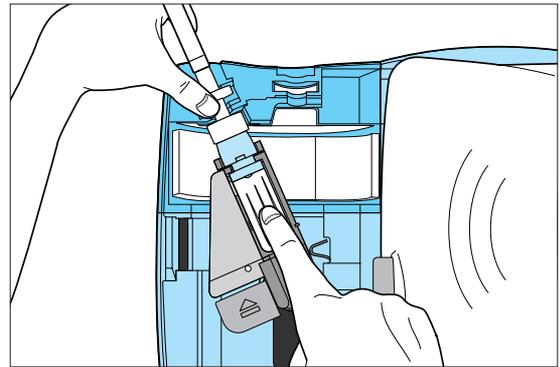
感染を防ぐため、病院で指導を受けたように清潔操作で行ってください。マスクをし、手洗いをし、乾燥（または消毒）してください。

3. コネクターカバーを外す



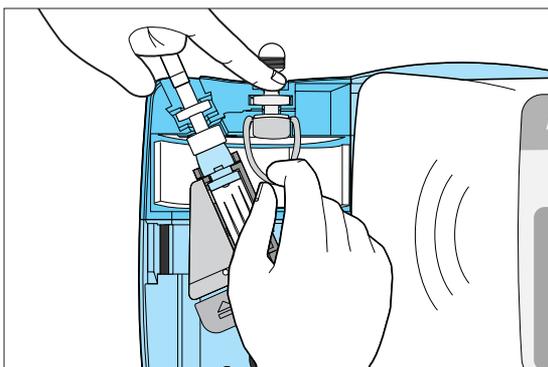
- ツイストクランプがしっかりと閉まっていることを確認します。
- 緑色のコネクターカバーを外します。

4. 接続チューブの装着



- 接続チューブ固定具に接続チューブを装着し、接続チューブの水色と白色の部分を指で上から、カチッと音がするまで確実に押します。
- 接続チューブのチューブ部分をチューブガイドに通します。

5. キャップの装着



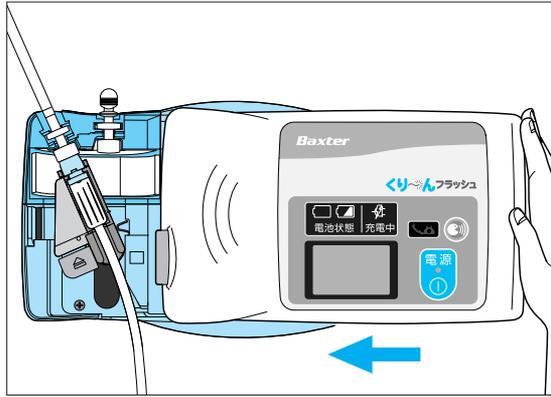
- 右溝にキャップをしっかりと押し込みます。
- 緑色のキャップを外します。



警告

- 機器の内部に異物が入った場合には異物を取り除いてください。
- 緑色のゴムキャップを外したキャップの先端に手や物などが触れないようにしてください。キャップが汚染された場合には新しいものと交換してください。

6. フタを閉める

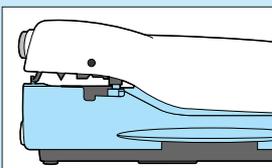


- フタを閉めます。

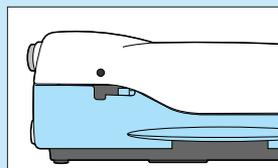


注意

- ・フタがしっかり閉まっていることを確認してください。
- ・器材が正しくセットされていないときには、フタが閉められません。
- ・フタが閉まりにくいときは無理に閉めないでください。右側の器材のキャップが外れていない可能性がありますので、確認してください。



開いている状態



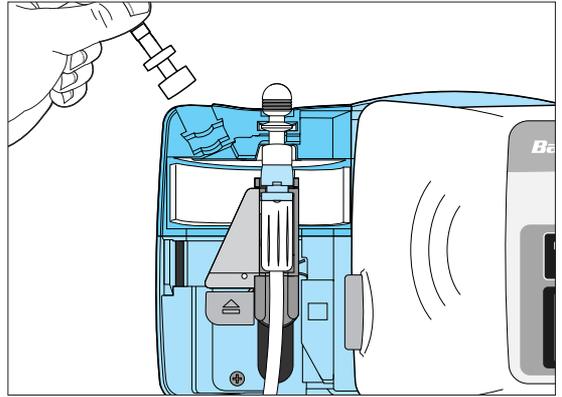
しっかり閉まっている状態



警告

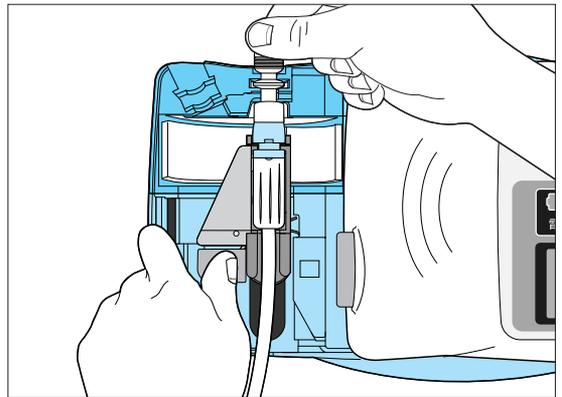
- 万一接続チューブが汚染された場合には、以下のことをすみやかに行ってください。
- ① ツイストクランプが閉まっていることを確認。
 - ② キャップをするか接続チューブのスパイク部を清潔なガーゼで保護してください。
 - ③ 接続チューブのチューブ部分を縛ってください。
 - ④ かかりつけの病院に連絡し、指示に従ってください。

7. 切り離れた回路を取り出す



- 自動切り離し、自動接続終了後にフタをゆっくり開けます。
- 左溝に残っている回路を取り出します。

8. 接続チューブを取り出す



- 接続チューブを取り出します。
- フタをゆっくり閉め、くり〜んフラッシュの電源を切ります。

9. カセットを取り出す



- ハンドルを上げてドアを開け、カセットを取り出します。

10. 開始ボタンを押し電源を切る



- ドアを閉めます。
-  開始ボタンを押します。
「電源を切って下さい」と表示されます。
確認して電源を切ります。



警告

すべてのクランプを閉じて切り離す前に、 開始ボタンを押さないでください。透析液バッグ同士や、患者様の接続チューブとの液の流れが制御できず過注液となったり、感染の危険性があります。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スパイク式用治療の手順
システムII用治療の手順
くりりんフラッシュ用最終注射液前
排液の手順ゆめカバール・ゆめ
クリップの使用方法処方の確認
・変更方法



警告

治療終了後、使用済みのゆめセットや透析液バッグは廃棄してください。もし再利用すると透析液や透析液の流路を汚染する可能性があります。透析液や透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。



警告

全てのクランプを閉じる前にドアを開けないでください。全てのクランプを閉じておくことにより、透析液バッグ同士や、患者様の接続チューブとの液の流れが制御できず、自由に透析液が流れてしまうことを防ぐことができます。液の流れの制御が行われていない場合、落差による液の流れで過注液となる可能性があります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、**■** 停止ボタンをすぐに押し、**▼** ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「**10** 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

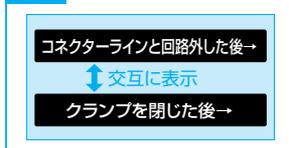


確認

「コネクターラインと回路外した後→」の表示でドアが開かなくなりカセットが取り外せなくなった場合の対応について

- 手順① コネクターラインと接続チューブが切り離されていることを確認します。
- 手順② 図1の表示で **■** 停止ボタンを押します。
- 手順③ **▶** 開始ボタンを押します。
- 手順④ オクルーダーが開き、カセットが取り外しやすくなります。

図1



注意

排液の性状（混濁の度合、沈殿物、浮遊物、色など）を確認してから排液を捨てます。異常があるときはすみやかにかかりつけの病院に連絡し、指示に従ってください。



注意

排液タンクは毎回きれいに洗い、乾燥させて使用してください。

手順3 治療終了時に除水量の確認ができなかった場合

1. 電源を入れる



- 電源を入れます。
自己診断後「設定確認▽後 治療開始→」と表示されます。
「体重：○○.○KG」などの追加情報の表示となった場合、**■** 停止ボタンを押し「設定確認▽後 治療開始→」の表示にします。

3. 前回除水量の確認



- ▽** ボタンを押し、前回除水量を確認します。

2. 初回排液量の確認



- ▽** ボタンを3回押します。
「初回排液量」と表示されます。
- 初回排液量の確認をします。



確認

原則として除水量の確認は治療終了時「治療終了 除水量確認後→」の画面のときに行ってください。
前回の治療結果は、あらたな治療が始まるまで記憶されています。



確認

上記1で **▽** ボタンを押せば、「処方の確認/変更◇」、「調整メニュー変更◇」のあと「初回排液量：○○○○ml」と表示されます。
行き過ぎてしまった場合は **▲** ボタンを押すと前の表示に戻ります。
治療終了後に除水量を確認した場合、「総除水量：○○○○ml」は「前回除水量：○○○○ml」と表示されます。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スパイク式用

治療の手順
システムII用

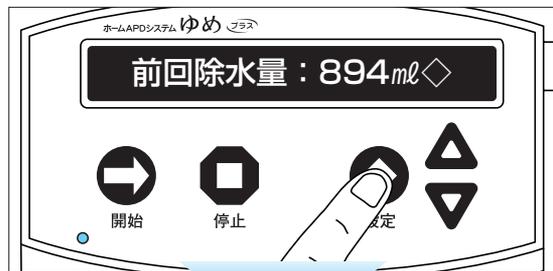
治療の手順
くり〜んフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

ゆめカバ！ゆめ
クリップの使用法

処方の確認
・変更方法

4. 各サイクルの除水量確認



- ◆ 設定ボタンを押します。
各サイクルの除水量表示が**新しいサイクルの除水量から表示**されます。
- ▽ ボタンを押します。
▽ ボタンを押して行くことで、各サイクルの除水量を確認します。

5. 最初の表示に戻す



- 停止ボタンを押します。
「**設定確認▽後 治療開始→**」の表示に戻ります。

確認 各サイクルの表示から、「平均貯留時間：〇：〇〇」、「アラームリスト」などを確認したいときには、● 停止ボタンを押し「**設定確認▽後 治療開始→**」の表示に戻し▽ ボタンを押してください。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スパイク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くり〜んフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

ゆめカバー・ゆめ
クリップの使用
方法

処方の確認
・変更方法

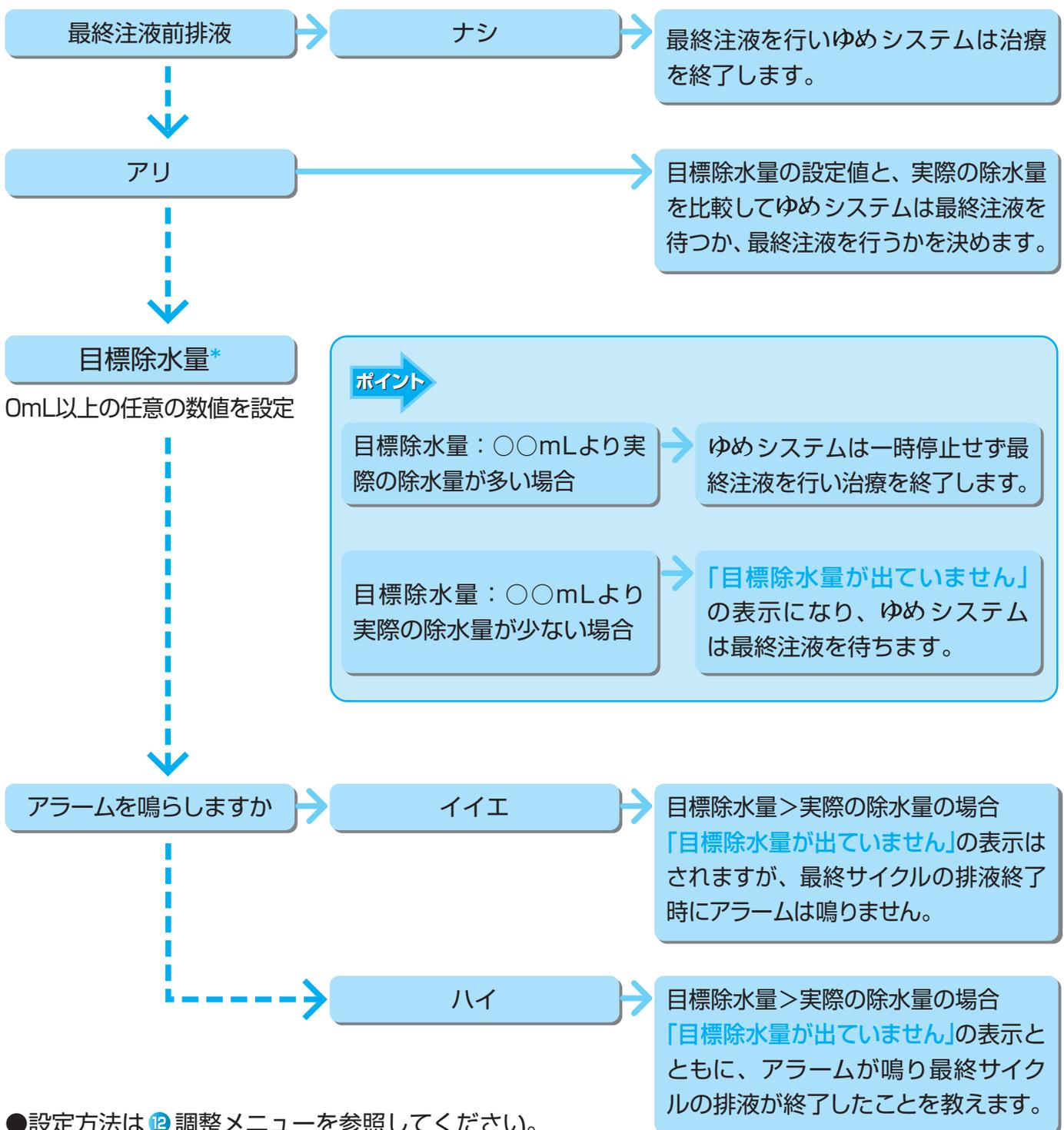
7 最終注液前 排液の手順

7-1 最終注液前 排液の仕組み

最終注液の前に排液を行いたい時に使用します（初期設定はアリです）。

この機能を使用すると目標とする除水量が出ない場合、最終の排液が終了した時点でゆめシステムは最終注液を行うのを待ちます。最終注液量が0mLでもこの機能は動作します。

設定の詳細は「[12 調整メニュー（282ページ）](#)」を参照してください。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スバイク式用治療の手順
システムII用治療の手順
くりくんフラッシュ用最終注液前
排液の手順ゆめカバ！ゆめ
クリップの使用
方法処方の確認
・変更方法

7-2 最終注液前 排液の設定方法

ボタン操作

表示



1. ▼を押す 処方の確認/変更 ◇
2. ▼を押す 調整メニュー変更 ◇
3. ◆を押す 表示部明るさ調整
4. ▼を7回押す 最終注液前 排液：アリ
 「最終注液前 排液：アリ」で良ければ8.まで進んでください。
 「最終注液前 排液」を変更したいときは5.に進んでください。
5. ◆を押す 最終注液前 排液：アリ
 (アリ/ナシが点滅)
6. ▲▼を押して 最終注液前 排液：ナシ
 設定を変える
7. ◆を押して 最終注液前 排液：ナシ
 確定する (点滅が止まる)



ボタン操作

表示

8. 「最終注液前 排液：アリ」の場合
 ▼を押して 目標除水量：0mL
 9.に進む
 または
 「最終注液前 排液：ナシ」の場合
 ◆を押す 設定確認▽後 治療開始→
9. ◆を押す 目標除水量：0mL
 (数字が点滅)
10. ▲▼を押す 目標除水量：1200mL
 設定変更します。
11. ◆を押す 目標除水量：1200mL
 確定します。 (点滅が止まる)
12. ▼を押す アラームを鳴らしますか：イエ
13. ◆を押す アラームを鳴らしますか：イエ
 (イエ/ハイが点滅)
14. ▲▼を押す アラームを鳴らしますか：ハイ
 設定変更します。
15. ◆を押す アラームを鳴らしますか：ハイ
 確定します。 (点滅が止まる)
16. ◆を押す 設定確認▽後 治療開始→



警告

「目標除水量」を初めて設定するときの推奨値は期待される除水量の70%です。期待される除水量の70%を計算するのに「15-15 タイダール総除水量と、最終注液前排液の目標除水量を決める」の表（302～303ページ）を参照してください。
もし最終サイクルの排液が終わるまでの夜間の除水量が「目標除水量」より少なかった場合、治療は停止して「目標除水量が出ていません」アラームが表示されます。



警告

目標除水量の設定が低すぎると、最終サイクルの排液が完全に終了せず、お腹の中に除水量分の透析液がたまってしまいます。その次の注液にそのまま移行すると、過注液となることがあります。
過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。
過注液が疑われるときには、 停止ボタンをすぐに押し、 ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法（254ページ）」をご覧ください。
ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

7-3 「目標除水量が出ていません」の基本操作方法

ボタン操作	表示	備考
		※「アラームを鳴らしますか：ハイ」を設定した時にはアラームが鳴っています。
を押す		交互に表示
を押す		

ポイント

目標除水量に達している時には自動的に最終注液に移ります。
設定した目標除水量に達していない時には、再度「目標除水量が出ていません」の表示になります。
同じ操作を繰り返し行うことができます。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スライク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くりくんフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

ゆめカバール・ゆめ
クリップの使用
方法

処方の確認
・変更方法

7 -4 「目標除水量が出ていません」を回避する方法

お腹に透析液が残っていない時（最終注液を行い終了したい時）

バイパスの操作方法

ボタン操作	表示	備考
<p>■ を押してアラームを止めます</p>	<p>目標除水量が出ていません</p> <p>排液中：○/○</p>	交互に表示
▼ を押す	<p>排液量：○○○○ml</p>	現在までに出た排液量
▼ を押す	<p>排液の限度：○○○○ml</p>	排液の限度（mL）
▼ を押す	<p>現在の除水量：○○○○ml</p>	現在までの除水量
▼ を押す	<p>排液は終了していません</p>	排液が終わっていない表示 バイパスをなるべく回避していただくための注意です。
▼ を押す	<p>バイパス ◇</p>	
◆ を押す	<p>最終注液</p>	最終注液量が0mLの場合、「治療終了 除水量確認後→」の表示となり治療は 終了します

ポイント

目標除水量に達していない時の「バイパス」「治療強制終了」につきましては、担当医師の指示に従ってください。

お腹に透析液が残っている時（最終注液せずに終了したい時）

治療強制終了の操作方法

ボタン操作	表示	備考
<p>▶ を押してアラームを止めます</p>	<p>目標除水量が出ていません</p> <p>排液中：○／○</p>	交互に表示
<p>▽ を押す</p>	<p>排液量：○○○○ml</p>	<p>排液量を確認します</p> <p>ゆめシステムの電源スイッチを切り 再び入れます</p>
	<p>電源が復帰しました</p>	
<p>▶ を押してアラームを止めます</p>	<p>電源が復帰しました</p> <p>排液中：○／○</p>	交互に表示
<p>▽ を押す</p>	<p>排液量：○○○○ml</p>	
<p>▽ を押す</p>	<p>初回排液量：○○○○ml</p>	
<p>▽ を押す</p>	<p>現在の除水量：○○○○ml</p>	
<p>▽ を押す</p>	<p>平均貯留時間：○○：○○◇</p>	
<p>▽ を押す</p>	<p>治療を終了します</p>	
<p>◆ を押して確定します</p>	<p>クランプを閉じた後→</p>	<p>※治療終了操作は、ご使用の回路別の④-2、⑤-2、⑥-2を参照してください。</p>

8 ゆめカバー・ゆめ用クリップの使用法

8-1 ゆめカバーの使用法

(1) 保温カバーとして使うときは…

冬季に室温が使用環境条件（15℃）を下回る場合、治療中に「加温中」アラームが発生することがあります。このようなときにゆめカバーをアラーム発生防止用の保温カバーとしてご使用ください。

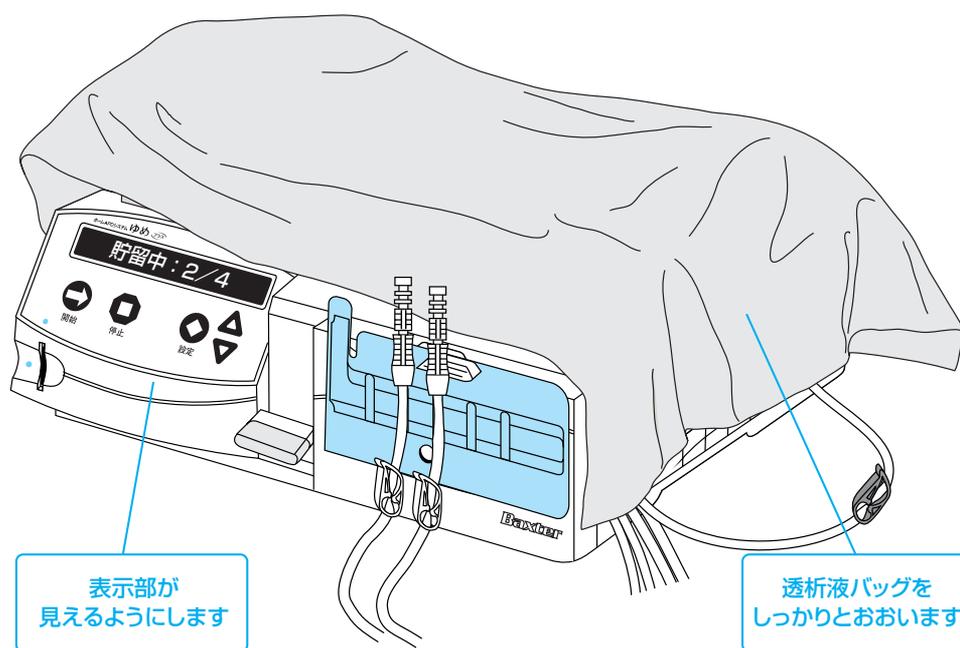
手順 1 通常通りゆめシステムの治療準備を行います。

手順 2 コネクターラインと接続チューブを接続し、クランプを開けます。

手順 3 開始ボタンを押します。
治療が開始され、ゆめシステムの表示が「初回排液」になったことを確認します。

手順 4 「初回排液」の表示を確認したあと、ゆめカバーを図のようにかぶせます。
● 透析液バッグが完全におおわれるようにかぶせてください。
● ゆめカバーがゆめシステムの表示部にかからないようにかぶせてください。

手順 5 治療終了後、コネクターラインからの切り離し操作を行う前にゆめカバーを取り外します。



注意

接続チューブとコネクターラインをつなぐ前にゆめカバーをかぶせないでください。
コネクターライン接続時の清潔操作に影響を及ぼす可能性があります。

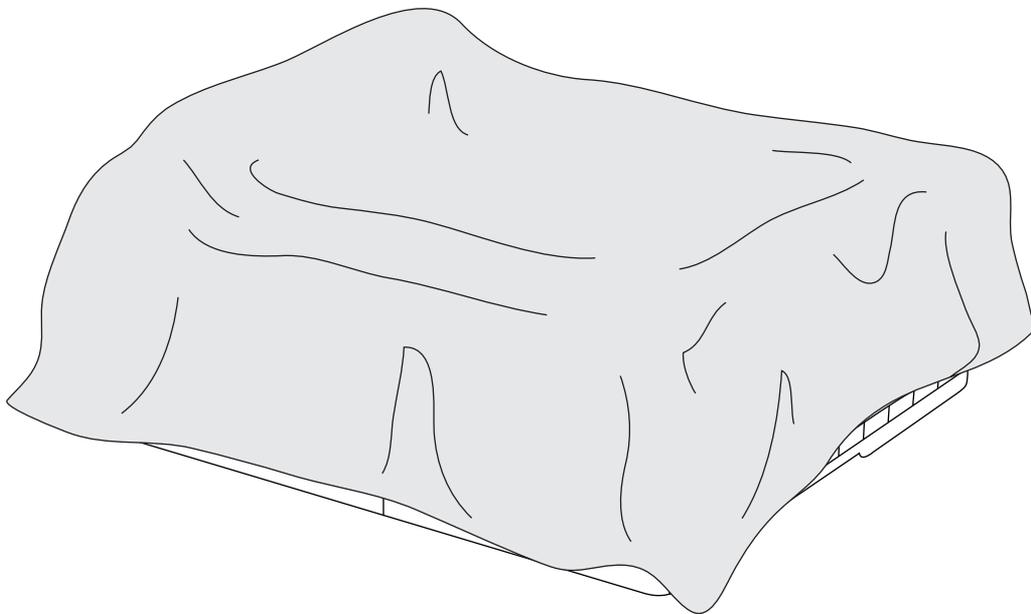
(2) 目隠しカバーとして使うときは…

普段ゆめシステムを使用しない時に、目隠し用のカバーとして使用します。

手順 1 ゆめシステムの治療を通常通り終了し、電源を切ります。

手順 2 ゆめカバーを図のようにかぶせます。

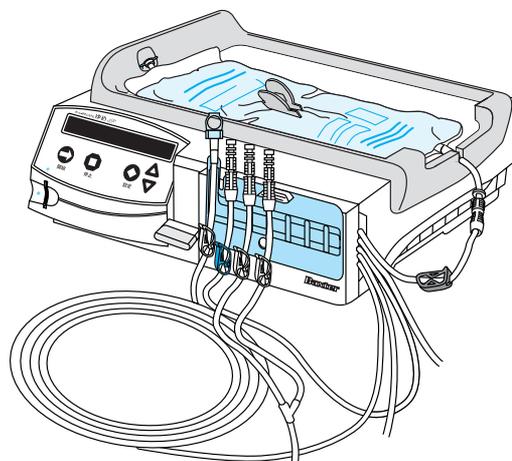
手順 3 ゆめシステムの治療を行うときには取り外します。



8-2 ゆめ用クリップ(1Lおよび1.5Lのダイアニール-N用)の使用方法

(1) ヒーターバッグへの取り付け方

- 手順 1** 通常通りヒーターにバッグを乗せます。
- 手順 2** ダイアニール-Nの上室・下室を交互に4~5回押し、透析液バッグをヒーターになじませます。
- 手順 3** 隔壁部分にゆめ用クリップを取り付けます。バッグの上面のみ1枚をつまんでください。



(2) 補液バッグへの取り付け方

- 手順 1** 通常通りスタンドにバッグを乗せます。
- 手順 2** 隔壁部分にゆめ用クリップを取り付けます。バッグの上面のみ1枚をつまんでください。
- 手順 3** ベルトで固定します。



確認

2L以上のバッグではゆめ用クリップを使用する必要はありません。

9 処方の確認・変更方法

ゆめシステムの処方等の設定について

病院では、患者様の処方と機器の設定値を決めます。ゆめシステムでは、これらの処方内容や機器の設定値を見ることができます。設定値を変える必要がなくても、それらの値を確認する必要が出てくるかもしれません。初期値については「15-16 初期設定値」を参照してください。

処方の内容は、病院で「ゆめシステム治療内容」またはPDリンクの「PD処方レポート」に内容を記載してもらってください。ゆめ^{プラス}の場合、処方に変更されたら新しいカードを受け取ってください。カードの処方の転送方法は本冊子52ページの「3-4 退院後・受診後の手順」を参照してください。

なお、一度処方の入力を行えば、電源を切っても処方内容は記憶されています。

療法の定義

各療法(APD、CCPD、IPD…)については、この取扱説明書巻末の用語集を参照してください。

処方変更の手順と例

この取扱説明書では3つの例をとりあげています。最初の2つの例では、標準モードあるいは少液量モード(小児モード)のCCPD/IPD療法を載せています。三番目の例では、標準モードあるいは少液量モード(小児モード)のタイダール療法を掲載しています。

特に最初の例では、エクストラニールを使用する処方に変更になった時を例にあげています。エクストラニールは通常、昼間の貯留に使用しますので、ゆめシステムでは「最終注液」に該当します。そのため、「処方の確認/変更 ◇」で「最終注液量」に先生に指示された注液量を、また「最終注液濃度変更」を「アリ」に変更する必要があります。

9-1 処方の確認・変更の基本手順

ゆめシステムでは、次のステップに従って非常に簡単に処方の確認・変更を行うことができます。入力値は、**◆** 設定ボタンと **▽** **△** を使って選んでいきます。処方の確認・変更は、治療開始前、治療中（タイダル療法は除く）いずれも可能です。

処方を確認または変更するには、まず「**処方の確認／変更◆**」というメッセージが出ている時に **◆** 設定ボタンを押します。このメッセージは治療準備中または、停止中に表示されます。



警告

この章の手順で使用している値は推奨値ではなく単なる例です。「**処方の確認／変更**」で最初に出てくるものが「療法」で、以下の4つの選択肢があります。

- CCPD／IPD
 - タイダル
 - ハイブリッドCCPD
 - ハイブリッドタイダル
- それぞれの定義は316～321ページ用語解説をご参照ください。



注意

CCPD／IPDからタイダルに設定を変更すると、タイダル量（%）と総除水量が初期値になってしまいます。もしお使いのゆめシステムの設定値が初期値に変わってしまった場合、かかりつけの病院に連絡をして正しい設定値をご確認ください。

手順

ボタン操作

手順 1 **◆** 設定ボタンを押し、変えたい項目を選びます。変えたい値が点滅します。

手順 2 **△** **▽** を使って調節します。

手順 3 **◆** 設定ボタンを押し、値を確定します。点滅は止まります。

手順 4 **▽** を押し、次のパラメーターに進みます。

「**処方の確認／変更◆**」プログラムを終わりたい時には、**■** 停止ボタンを押します。もし最終注液量に変更がなければ、サイクル数と貯留時間などが入力された数値に基づき自動計算され、表示部に表示されます。タイダル療法では、サイクル毎のタイダル量と除水量も計算します。最終注液量に変更があれば、「**初回排液量確認**」アラームが出て **■** 停止ボタンを押せば、「**初回排液の限度**」の画面が出るので、その値に合うように初回排液の限度を調節できます。この時設定された処方は、次回変更するまで記憶されます。

治療中の処方内容の確認は、治療を中断することなしに行うことができます。

注液、排液または貯留中に **▽** を操作して「**処方の確認◆**」というメッセージを表示し、**◆** 設定ボタンを押します。ここでは処方内容の確認は可能ですが、変更はできません。確認が終わったら **■** 停止ボタンを押し、元の表示に戻ります。



確認

処方内容が保護されている場合（この操作はナースメニューで行えます）、「**処方の確認／変更◆**」のメッセージはすべて「**処方の確認◆**」と表示されます。



警告

医療従事者の指示なしで治療の設定を変更しないでください。不適切な設定で使用すると、溢水などの望ましくない兆候や、尿毒症につながる場合があります。不適切な使用は、患者様の健康被害や、死に至ることもあります。



警告

「15-13 注液量の最大値とを決める」の表にあるように、注液量、夜間注液量、最終注液量、昼間注液量は患者様の体重を基準にある一定の値を超えることはできません。もしこの注液量を超える場合、かかりつけの病院と連絡を取り注液量を減らすようお願いしてください。この一定の値を超えて注液量を設定してしまうと、過注液の可能性があります。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、 停止ボタンをすぐに押し、 ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法（254ページ）」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。



警告

総除水量の設定が低すぎると、治療中にお腹の中に除水量がたまってきて、過注液の可能性があります。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、 停止ボタンをすぐに押し、 ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法（254ページ）」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

9-2 CCPD/IPD療法の設定

処方の項目

項目	内容
総注液量	1回(1日)の治療で使用する透析液の総量、最終注液量も含まれます。
治療時間	1回(1日)の治療にかかる時間です。初回排液の時間も含まれます。
注液量	各サイクルごとに注入される透析液の量です。 「患者体重」の設定と関連しています。表15-3を参照してください。
最終注液量	治療終了時にお腹の中に貯留される透析液の量です。
 確認	最終注液量の設定値を変更した場合、「初回排液の限度」の設定値が最終注液量の70%に自動的に変更になります。しかし、「初回排液の限度」があらかじめ最終注液量の70%以上であれば変更はありません。そのため、最終注液量を変更するときには最適な「初回排液の限度」を設定するためかかりつけの医療機関にご相談ください。
最終注液濃度変更	最終注液の透析液の濃度または種類を変えるかどうかを指定します。 最終注液量が0mLの場合、このメッセージは表示されません。最終注液を0mLから変更した場合「ナシ」になっていますので透析液の濃度または種類を変更するときには、「アリ」と入力してください。
体重単位	患者さんの体重の単位です。
患者体重	注液量が体重から計算される最大許容注液量以内であるか確認するために使用します。 この値によって「注液量」の最大値が決まります。表15-3を参照してください。

工場出荷時の設定は、処方が組み込まれないまま誤った設定で治療が行われなように、そのまま治療を開始するとアラームが鳴る設定にしています。

定期点検、故障などで機器の交換が行われた場合には、304ページの初期値に設定された機器がかかりつけの病院またはご使用者のもとに届けられます。

自動計算項目

次の処方項目は、処方内容の入力後  停止ボタンを押すと自動計算され表示されます。

項目	内容
サイクル数	最終注液を除いた全サイクル数です。 注液・貯留・排液モードの1セットが1サイクルになります。
貯留時間	各サイクルで、透析液をお腹の中に貯留しておく時間です。1サイクル終わるごとに、ご使用者の実際の注・排液速度から、時間を計算して貯留時間を決めています。

本機器は、処方内容やアラームの出現によってサイクル数が変わることがあります。



確認

サイクル数の計算方法についての注意事項

本機器は、注液・貯留・排液を1セットとしてその回数を示します。(したがって最終注液はサイクル数に数えません)

$$\text{サイクル数} = \frac{\text{総注液量} - \text{最終注液量}}{\text{注液量}}$$

割り切れなかった場合、最終サイクルの注液量が1回注液量の85%以上あれば1サイクルとして考えます。



注意

注液量についての注意事項

- ①「患者体重」の設定値によっては入力できない値があります。15-13 (300ページ) を参照してください。
- ②各サイクルの注液量は、原則として処方で「注液量」として処方された注液量に従って注液されますが、1サイクル目と最終サイクルおよび最終注液の注液量が変わることがあります。
 1. 1サイクル目の注液は、ヒーターバッグに1回分の液量が残っていない場合、設定値の90%以上の透析液を注入し終わったら貯留に移ります。
 2. 最終注液がないときの最終サイクル、および最終注液は、設定値の75%以上の注液量があれば貯留に移ります。

項目の設定範囲

下の表は、それぞれの項目につき、設定範囲と変更の幅を示しています。

項目	初期値	設定範囲	変更幅	
総注液量：0000mL	標準モード	200mL	200~80,000mL	200~2,000mL 50mLごと 2,000~5,000mL 100mLごと 5,000~80,000mL 500mLごと
	少液量モード	200mL	200~80,000mL	200~2,000mL 50mLごと 2,000~20,000mL 100mLごと 20,000~80,000mL 500mLごと
治療時間：00時間00分	10分	10分~48時間	10分ごと	
注液量：0000mL	標準モード	250mL	100~3,000mL	100~500mL 10mLごと 500~1,000mL 50mLごと 1,000~3,000mL 100mLごと
	少液量モード (小児モード)	250mL	60~1,000mL	60~100mL 1mLごと 100~500mL 10mLごと 500~1,000mL 50mLごと
最終注液量：0000mL	標準モード	100mL	0mLおよび 100~3,000mL	100~500mL 10mLごと 500~1,000mL 50mLごと 1,000~3,000mL 100mLごと
	少液量モード (小児モード)	0mL	0mLおよび 60~1,000mL	60~100mL 1mLごと 100~500mL 10mLごと 500~1,000mL 50mLごと
最終注液濃度変更：	ナシ	アリ／ナシ		
体重単位：	キログラム	キログラム／ポンド		
患者体重：	1キログラム	1~990キログラム	1~200キログラム 1キログラムごと 200~990キログラム 5キログラムごと	

用意する透析液は回路のプライミング量(200~300mL)を考慮し、設定した総注液量より多めにしてください。

※ナースメニューで洗浄を選択している場合には数値が異なります。

CCPD/IPD療法を手で入力する(標準モード：最終注液を追加する場合)

ここでは右ページの「現在設定されている処方」のうち、4つの項目を変更する例を示します。

ボタン操作	表示	説明
電源を入れます		
▽を押す		「処方の確認/変更◇」を表示させます。
◇を押す		
▽を押す		総注液量を表示させます。
◇を押す		数字が点滅します。
△▽を押す		▽△を押して点滅している数字を変更し、処方の数字を入れます。
◇を押す		値を確定します。点滅が止まります。
▽を押す		治療時間を表示させます。
▽を押す		注液量を表示させます。
▽を押す		最終注液量を表示させます。
◇を押す		数字が点滅します。
△▽を押す		△▽を押して点滅している数字を変更し、処方の数字を入れます。
◇を押して確定します		値を確定します。点滅が止まります。

9 処方の確認・変更方法

(例)

処方項目	現在、設定されている処方	変更する内容
療法	CCPD/IPD	
総注液量	8000mL	→ 10000mL
治療時間	8時間00分	
注液量	2000mL	
最終注液量	0mL	→ 1800mL
最終注液濃度変更	ナシ	→ アリ
体重単位	キログラム	
患者体重	1キログラム	→ 60キログラム
初回排液の限度	1400mL	→ 2000mL

ボタン操作	表示	説明
▼を押す	最終注液濃度変更：ナシ	最終注液濃度変更を表示させます。
◆を押す	最終注液濃度変更：ナシ	ナシが点滅します。
▼△を押す	最終注液濃度変更：アリ	▼△を押してアリに変更します。
◆を押す	最終注液濃度変更：アリ	確定します。点滅が止まります。
▼を押す	体重単位：キログラム	体重の単位を表示させます。
▼を押す	患者体重：1キログラム	体重の設定値を表示させます。
◆を押す	患者体重：1キログラム	数字が点滅します。
▼△を押す	患者体重：60キログラム	▼△を押して点滅している数字を変更し、処方の数字を入れます。
◆を押す	患者体重：60キログラム	値を確定します。点滅が止まります。
■を押して	初回排液量確認	最終注液量に変更がある場合、アラームとともに表示されます。 「初回排液の限度」設定方法は本冊子282～285ページを参照ください。
■を押す	初回排液の限度：1400mL	アラーム音が止まり、数字が点滅します。
▼△を押す	初回排液の限度：2000mL	▼△を押して点滅している数字を変更します。
◆を押す	初回排液の限度：2000mL	値を確定します。点滅が止まります。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スパイク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くり〜んフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

ゆめカバール・ゆめ
クリップの使用法

処方の確認
・変更方法

ボタン操作	表示	説明
■ を押す	サイクル数：4	
	貯留時間：1時間28分	
	設定確認▽後 治療開始→	治療を開始するときは➡を押してください。

一度処方を入力を行えば、電源を切っても、処方内容は記憶されています。
次回からは処方の入力不要です。
処方の各項目の変更方法は本冊子199ページを参照してください。

CCPD/IPD療法を手で入力する（少液量モード）

ここでは少液量モードでのCCPD/IPD療法の入力の流れを示します。

ボタン操作	表示
	処方の確認/変更 ◊
◊ を押す	療法：CCPD/IPD
▽ を押す	総注液量：○○○○ml
▽ を押す	治療時間：○時間○○分
▽ を押す	注液量：○○○○ml
▽ を押す	最終注液量：○○○○ml
▽ を押す	最終注液濃度変更：ナシ 最終注液量が0mLの時は表示されません。
▽ を押す	体重単位：キログラム
▽ を押す	患者体重：○○キログラム
□ を押す	①か②のどちらかとなります。

①最終注液量に変更がない場合、(*2)のように表示されます。



確認

「初回排液の限度」および「初回排液時間」に修正が不要で、全設定値がゆめシステムで受け付けられると「設定確認▽後 治療開始→」となります。

「初回排液の限度」および「初回排液時間」に修正が必要なときは次に従ってください。

②最終注液量に変更がある場合、アラームとともに「初回排液量確認」が表示されます。「初回排液の限度」については本冊子284ページを参照してください。

初回排液量確認

ボタン操作	表示
□ を押す	初回排液の限度：○○○○ml アラーム音が止まり、数字が点滅します。
△ ▽ を押す	初回排液の限度：○○○○ml △ ▽ を押して点滅している数字を変更します。
◊ を押す	初回排液の限度：○○○○ml 値を確定します。
▽ を押す	標準モードの場合、次の3つのステップはありません。 初回排液時間：○○：○○ *1
◊ / △ ▽ を押す	初回排液時間：○○：○○ *1 変更するとき ◊ と △ ▽ ボタンで変更します。
◊ を押す	初回排液時間：○○：○○ *1 値を確定します。
□ を押す (*2)	サイクル数 貯留時間：○時間○○分 設定確認▽後 治療開始→

処方の各項目の変更方法は本冊子199ページを参照してください。

注意 *1：「初回排液時間」は少液量モード（小児モード）のみで表示されます。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

治療の手順
手動・スパイク式用

治療の手順
システムII用

治療の手順
くりくんフラッシュ用

最終注液前
排液の手順

ゆめカバー・ゆめ
クリップの使用
方法

処方の確認
・変更方法

9-3 タイダール療法の設定

処方の項目

項目	内容
総注液量	1回(1日)の治療で使用する透析液の総量、最終注液量も含まれます。
治療時間	1回(1日)の治療にかかる時間です。初回排液の時間も含まれます。
注液量	1サイクル目に入る量 「患者体重」の設定と関連しています。表15-3を参照してください。 注液量をもとに各サイクルのタイダールの注液量が計算されます。
タイダール量 (%)	各サイクルで注液される透析液の量で、注液量に対する割合で示されます。



確認

- CCPD/IPDからタイダールに処方の設定を変更すると、タイダール量 (%) が初期値95%になってしまいます。
- タイダール量 (%) ×注液量を95mL以上に設定しないと「タイダール量を確認」アラームが鳴ります。265ページを参照してください。

総除水量

1回(1日)の治療で得たい除水量です。(予測値)
各サイクルごとの除水量は、自動計算されます。
除水量とタイダール量を合わせたものが、各サイクルの排液量となります。



警告

総除水量の設定が低すぎると、治療中にお腹の中に除水量がたまってきて、過注液となることがあります。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、**●** 停止ボタンをすぐに押し、**▼** ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「**10** 困ったときの対処方法(254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方(意識のない方、乳幼児や小児)に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。



確認

- CCPD/IPDからタイダールに処方の設定を変更すると、総除水量が初期値(標準モードで1000mL、少液量モードで400mL)になってしまいます。
- 総除水量をあまり高い値に設定すると「排液量不良」アラームの頻度を高めてしまうことがあります。
- 通常治療で出てくる除水量の70%が最適な除水量を得るための推奨する最初の設定値です。70%から変更したい場合、**15**-15を参照してください。
- 今まで使用していた透析液と違うものをタイダール療法で使用する場合、総除水量の設定値を変更する必要があるかもしれません。そのような場合適切な値はかかりつけの病院にお問い合わせください。
- 総除水量の設定値で0mLは無効の値です。

項目	内容
最終注液量	治療終了時にお腹の中に貯留される透析液の量です。
 確認	最終注液量の設定値を変更した場合、「初回排液の限度」の設定値が最終注液量の70%に自動的に変更になります。しかし、「初回排液の限度」があらかじめ最終注液量の70%以上であれば変更はありません。そのため、最終注液量を変更するときには最適な「初回排液の限度」を設定するためかかりつけの病院にご相談ください。
最終注液濃度変更	最終注液の透析液の濃度または種類を変えるかどうかを指定します。 最終注液量が0mLの場合、このメッセージは表示されません。 最終注液量を0mLから変更した場合「ナシ」になっていますので透析液の濃度または種類を変更するときには、「アリ」と入力してください。
中間排液	治療中の中間排液（全量排液）の頻度を指定します。 この選択はナースメニューの「タイダール中間排液：アリ」を指定した場合に表示されます。
 確認	もしタイダールサイクル数が多い場合、治療中に一回以上中間排液を行うようにしてください。これにより除水量を少なく見積もりすぎて過注液になったり、除水量を多く見積もりすぎてアラームが発生したりすることを防ぎます。
体重単位	患者さんの体重の単位です。
患者体重	注液量が体重から計算される最大許容注液量以内であるか確認するために使用します。 この値によって「注液量」の最大値が決まります。表15-3を参照してください。

工場出荷時の設定は、処方が組み込まれないまま誤った設定で治療が行われなように、そのまま治療を開始するとアラームが鳴る設定にしております。

定期点検、故障などで機器の交換が行われた場合には、304ページの初期値に設定された機器がかかりつけの病院またはご使用者のもとに届けられます。

自動計算項目

次の処方項目は、処方内容の入力後  停止ボタンを押すと自動計算され表示されます。

項目	内容
サイクル数	最終注液を除いた全サイクル数です。 注液・貯留・排液モードの1セットが1サイクルになります。
貯留時間	各サイクルで、透析液をお腹の中に貯留しておく時間です。 1サイクル終わるごとに、ご使用者の実際の注・排液速度から、時間を計算して貯留時間を決めています。
タイダール量	設定したタイダール量 (%) × 初回注液量です。 実際の液量が表示されます。
除水量	入力された総除水量の値 ÷ サイクル数です。

本機器は、処方内容やアラームの出現によってサイクル数が変わることがあります。



注意

注液量についての注意事項

- ①「患者体重」の設定値によっては入力できない値があります。 15-13 (300ページ) を参照してください。
- ②各サイクルの注液量は、原則として処方で「注液量」として処方された注液量に従って注液されますが、1サイクル目と最終サイクルおよび最終注液の注液量が変わることがあります。
 1. 1サイクル目の注液は、ヒーターバッグに1回分の液量が残っていない場合、設定値の90%以上の透析液を注入し終わったら貯留に移ります。
 2. 最終注液がないときの最終サイクルおよび最終注液は、設定値の75%以上の注液量があれば貯留に移ります。

項目の設定範囲

下の表は、それぞれの項目につき、設定範囲と変更の幅を示しています。

項目	初期値	値設定範囲	変更幅
総注液量：0000mL	標準モード	200mL	200~80,000mL 200~2,000mL 50mLごと 2,000~5,000mL 100mLごと 5,000~80,000mL 500mLごと
	少液量モード	200mL	200~80,000mL 200~2,000mL 50mLごと 2,000~20,000mL 100mLごと 20,000~80,000mL 500mLごと
治療時間：00時間00分	10分	10分~48時間	10分ごと
注液量：0000mL	標準モード	250mL	100~3,000mL 100~500mL 10mLごと 500~1,000mL 50mLごと 1,000~3,000mL 100mLごと
	少液量モード (小児モード)	250mL	60~1,000mL 60~100mL 1mLごと 100~500mL 10mLごと 500~1,000mL 50mLごと
タイダール量：%	95%	40~95%	5%ごと
総除水量：000mL	標準モード	1,000mL	10~10,000mL 10~1,000mL 10mLごと
	少液量モード	400mL	1,000~10,000mL 100mLごと
最終注液量：0000mL	標準モード	0mL	0mLおよび 100~3,000mL 100~500mL 10mLごと 500~1,000mL 50mLごと 1,000~3,000mL 100mLごと
	少液量モード (小児モード)	0mL	0mLおよび 60~1,000mL 60~100mL 1mLごと 100~500mL 10mLごと 500~1,000mL 50mLごと
最終注液濃度変更：	ナシ	アリ/ナシ	
中間排液：00サイクルごと	3	1~99	入力したサイクル数ごとに全量排液・注液が行われます。
体重単位：	キログラム	キログラム/ポンド	
患者体重：	1キログラム	1~990キログラム	1~200キログラム 1キログラムごと 200~990キログラム 5キログラムごと



- 1 「タイダール中間排液：アリ」と設定した状態でのタイダール療法の治療中は処方の変更は行うことはできません。
* 用意する透析液は回路のプライミング量 (200~300mL*) を考慮し、設定した総注液量より多めにしてください。* ナースメニューで洗浄を選択している場合は数値が異なります。
- 2 入力可能なタイダール量：注液量×タイダール量 (%) が95mL以上であること。

タイダール療法を手で入力する

ボタン操作	表示
	処方の確認/変更
◆を押す	療法：CCPD/IPD
◆を押す	療法：CCPD/IPD
△を押す	療法：タイダール
◆を押す	療法：タイダール
▽を押す	総注液量：○○○○ml
▽を押す	治療時間：○時間○○分
▽を押す	注液量：○○○○ml
▽を押す	タイダール量：95% <small>初期値</small>
▽を押す	総除水量：1000ml <small>初期値</small>

ボタン操作	表示
▽を押す	最終注液量：○○○○ml
▽を押す	最終注液濃度変更：ナシ 最終注液量が0mLの時は表示されません。
▽を押す	中間排液：3サイクル毎 <small>初期値</small>
▽を押す	体重単位：キログラム
▽を押す	患者体重：○○キログラム
■を押す	サイクル数
	貯留時間：○時間○○分
	タイダール量：○○○○ml
	除水量：○○○ml
	最終注液量に変更がない場合、この様に表示されます。

 CCPD/IPD療法からタイダール療法に処方を変更すると、タイダール量と総除水量がそれぞれ初期値（95%、1000mL）に変わります。処方変更する場合、それらの値を正しく設定するようにしてください。

 **確認** 「初回排液の限度」および「初回排液時間」（小液量モードのみ）に修正が不要で、全設定値がゆめシステムで受け付けられると「設定確認▽後 治療開始→」となります。「初回排液の限度」および「初回排液時間」に修正が必要なときは次に従ってください。

初回排液量確認
最終注液量に変更がある場合、アラームとともに表示されます。「初回排液の限度」については本冊子284ページを参照してください。

安全にご使用
いただくために

各部の説明

ゆめプラスについて

手動・治療の手順
システムII用

システムII用

くりくんフラッシュ用

最終注射液前
の排液の手順

ゆめカバール・ゆめ
クリップの使用
方法

処方の確認
・変更方法

タイダール療法を手で入力する

ボタン操作	表示
■を押す	<p>初回排液の限度：○○○○ml</p> <p>アラーム音が止まり、数字が点滅します。</p>
△ ▼を押す	<p>初回排液の限度：○○○○ml</p> <p>△ ▼を押して点滅している数字を変更します。</p>
◆を押す	<p>初回排液の限度：○○○○ml</p> <p>値を確定します。</p>
▼を押す	<p>標準モードの場合、次の3つのステップはありません。</p> <p>初回排液時間：○○：○○ *1</p>
◆/△ ▼を押す	<p>初回排液時間：○○：○○ *1</p> <p>変更するとき◆と△ ▼ボタンで変更します。</p>
◆を押す	<p>初回排液の限度：○○○○ml *1</p> <p>値を確定します。</p>

ボタン操作	表示
■を押す	サイクル数
	貯留時間：○時間○○分
	タイダール量：○○○○ml
	除水量：○○○ml
	設定確認▼後 治療開始→

処方の各項目の変更方法は本冊子199ページを参照してください。

注意 *1：「初回排液時間」は少液量モード（小児モード）のみで表示されます。

10 困ったときの対処方法

ご使用者からのお問い合わせの多い順番に、アラーム発生時の対応やその他の対応手順についてご説明します。

あ	新しい回路セット後→	239	総除水量を確認	265
	新しいバッグと回路セット後→	239	装置の位置確認	256
	アラームの種類	215	総注液量を確認	265
	液温調整中	253		
か	カードが入っていません	258	た	
	カードの空き容量なし	258	タイダール量を確認	265
	カードの使用中止	260	注意：除水不良	250
	カードの処方使用中止	260	注液は終了していません	266
	カード不良	257	注液量確認	265
	カード読み取りエラー	259	治療時間を確認	265
	カードリーダー使用不可	261	治療強制終了の手順	227
	回路を再セット後→	237	停電時の操作	246～249
	加温中	242	電圧低下	247
	過注液が疑われるとき	269	電源が復帰しました	246
	カセットが入らない／カセットが取り外せない	221	は	
	患者体重確認	265	排液は終了してません	266
	強制排液の手順	254	排液ライン確認	240
	緊急時切り離し	270	排液ライン流速不良	243
	傾斜異常	262	排液量過剰ABC	268
	コネクターライン確認	220	排液量不良	216
	コネクターラインが充填されない	222	バイパスの手順	229～236
	コネクターライン流速不良	243	バッグライン確認	240
さ			バッグライン流速不良	243
	最終バッグライン確認	240	バッテリー電圧不足	267
	最終注液前排液	252	ヒーターライン確認	240
	最終注液量確認	265	ヒーターライン流速不良	243
	再プライミングの手順	222	病院へ連絡してください	268
	システムエラー	223～226	昼間注液量確認	265
	自動回避アラーム	215	補液は終了していません	266
	手動回避アラーム	215	ま	
	少液量モードは無効	263	目標除水量が出ていません	252
	初回排液限度：	245	や	
	初回排液限度：設定なし	244	夜間注液量確認	265
	初回排液量確認	265	ら	
	除水量が上限を超えました	264	ラインとバッグの確認	219
	処方は無効	257		

アラーム発生時の対応

ゆめシステムは治療中、治療が問題なく行われているか、また機器内部のシステムが正しく機能しているかを、常に診断しています。これによって問題が見つかった場合、ゆめシステムは次のことを行います。

- * アラームを鳴らす。
- * 透析液の移動を止める。
- * アラームの種類を表示する。
- * ゆめカードにアラームを記録する。(ゆめ^{プラス}の場合)

アラームの種類

アラームには3種類あります。

1. 自動回避アラーム（鳴り止むアラーム）

アラーム発生の原因が体動などで自動的に解除されたとき、ボタン操作をせずに鳴り止むアラームです。

まず、アラームが3回鳴り、ゆめシステムが自力で問題解決を図ろうとします。回避できない場合はアラームが6回鳴り、それでも回避できないときは手動回避アラームになり手動での回避が必要になります。

2. 手動回避アラーム（鳴り止まないアラーム）

このアラームは連続的に鳴り、ボタン操作で回避する必要があります。

基本的な手順は、まず  でアラームを止め、表示部のアラーム情報を元に問題箇所を直してから  を押して治療に戻ります。

3. システムエラー（鳴り止まないアラーム）

主に、機器内部の問題によって起こされるアラームです。

基本的な手順は、まず  でアラームを止め、表示部のシステムエラーの番号を書き取ります。

次に、バクスターCAPDコールセンターへ連絡し、専任スタッフの指示に従ってください。

機器についてのお問い合わせは

バクスターCAPDコールセンター（24時間通話無料）

0120-506440

コ ー ル し ょ う

【自動回避アラーム】 → 【手動回避アラーム】

表示

排液量不良

原因1

- ・カテーテル内の障害物
- ・カテーテルの位置異常
- ・ゆめシステムの位置が高すぎる

原因2

治療中にこのアラームが継続する場合、または定期的にこのアラームが発生する場合

- ・排液される液量に対して「初回排液の限度」の設定値が高すぎる
- ・お腹が空の状態で治療を開始しているのに「初回排液の限度」の設定値が高すぎる
- ・カテーテルの位置異常やフィブリンによる閉塞

原因1の対処の手順：

手順1

体の向きを変えたりして、排液を出やすくします。

手順2

コネクタラインにつぶれがないか確認します。

手順3

見つけた問題点を修正します。自動回避アラーム状態であれば、ボタンを押す必要はありません。

または

手動回避アラームになってしまったら：

手順1

■ 停止ボタンを押してアラーム音を止めます。

手順2

体の向きを変えたり、ゆめシステムの位置を15cm位低くします（またはご使用者の就寝位置を高くします）。

手順3

➡ 開始ボタンを押して治療を再開します。

原因2の対処の手順：

手順1

以下の手順に従って、排液量と初回排液の限度の設定値を確認します。

手順2

かかりつけの病院と連絡を取り、「初回排液の限度」の値が適切か確認します。フィブリンによる閉塞の場合、フィブリン管理のための投薬について相談してください。バイパスしたいのであればどのような場合安全かご相談ください。どうしても排液量不良をバイパスしたい場合は233ページを参照してください。

排液量を見たいときには…

ボタン操作	表示	備考
	排液量不良	
□ 停止ボタンを押す	排液量不良 ↕ 交互に表示	停止ボタンでアラーム音を消します。
▽ を押す	排液中：2/5	
▽ を押す	排液量：○○○ml	排液量を見ます。
▽ を押す	初回排液量：○○○ml	この画面は初回排液中には表示されません。初回排液量が不十分だと、お腹に透析液が残った状態になります。その場合、実際の除水量が、表示される除水量より少なくなります。
▽ を押す	初回排液の限度：○○ml または 排液の限度：○○○ml または タイダール排液量：○○○ml	このサイクルで出てきてほしい排液量を表示します。
 <p>「注意：除水不良」を発生させないためにはここで表示される液量以上排液する必要があるかもしれません。</p>		
▽ を押す	現在の除水量：○○○ml	現在までの最新の除水量を表示します。
▽ を押す	排液は終了していません または 注意：除水不良	排液関連のアラーム名が表示されます。「排液は終了していません」は現在の排液サイクルで出なければならない排液量が出ていない場合表示されます。バイパスをなるべく回避していただくための注意です。「注意：除水不良」は現在のサイクルまたは蓄積されたサイクルにおいて注液量の一定割合以上お腹に液が残っているときに表示されます。
▽ を押す	バイパス◇	

 **警告**

「排液量不良」をバイパスするとお腹に透析液を残したまま注液となることがあるので、過注液の可能性があります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。過注液が疑われるときには、□ 停止ボタンをすぐに押し、▽ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法(254ページ)」をご覧ください。ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

困ったときの対処方法
表示部の説明
調整メニュー
ナースメニュー
排液の採取方法
仕様
旅行に際して
お手入れ方法
点検手順と注意



注意

透析液を体内に再吸収していないのであれば、排液を再開するか、または強制排液を選択してください。排液を再開することによりアラームが再発するかもしれません。強制排液を複数回行えば、アラーム音の発生を抑えることができます。

次のA、B、Cどれかを選んでください

ボタン操作	表示	備考
A		バイパスしたくない場合、開始ボタンを押して排液に戻ります。 この手順を推奨します。
開始ボタンを押す。		排液に戻ります。
B		強制排液が出るまでボタンを押します。
を押す		強制排液が出たら設定ボタンを押します。
を押す		
C		ここで設定ボタンを押してバイパスすると、次の注液は全量注液となります。 どうしてもバイパスしたいときには、ここで開始ボタンを押していったん排液に戻ってからバイパスを行い、「部分注液」にしてください（「排液中」のバイパス方法は230～231ページを参照してください）。 「排液量不良アラーム」をバイパスし、部分注液する方法は「「排液量不良」アラームのバイパス方法（233ページ）」を参照してください。



注意

除水量がマイナスの場合や、排液量が通常より少ない場合や、お腹が空ではないと思うときにはバイパスしないでください。



警告

バイパスを選ぶと、治療の安全範囲を超えてしまいます。「注意：除水不良」ではない限り、ゆめシステムはお腹が空であると考えて、次の注液に移ってしまいます。またはいったん排液に戻ってからバイパスを行い「部分注液」にしてください。「注意：除水不良」の対応については250ページを、「部分注液」をするバイパス方法は233ページを参照してください。

【手動回避アラーム】

表示

ラインとバッグの確認

原因

- ①1本または複数のラインが閉塞していたり、透析液バッグが空だったり、どここのラインに問題が起こっているのか、特定できないときに発生します。
- ②プライミング中に総注液量が6000mLをこえる設定で、ヒーターライン以外のバッグラインが閉まっているとき、アラームが鳴ります。

対処

次のことを調べます。

1. ラインの折れ曲がり
 2. クランプが確実に開いている
 3. 透析液バッグの接続部（システムⅡの透析液バッグを使用している場合、フランジブルシールの不確実な折れ）
 4. コネクターラインのクランプが確実に開いている
- 問題箇所を直します。

*システムⅡの透析液バッグを使用している場合、フランジブルシールの間（約3mm）を十分に開けるようにしてください。

アラーム対処の手順:

手順1

□ を押し、アラーム音を止めます。

手順2

ラインなどを調べ、問題箇所を直します。

手順3

→ を押して、処方に戻ります。



警告

治療中に、空になった透析液バッグを新しい透析液バッグに交換したり、切り離れた透析液バッグをつないだりしないでください。透析液や透析液の流路を汚染する可能性があります。透析液や透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。

治療中に透析液バッグが外れた場合、「治療強制終了の手順（227ページ）」に従って使用していた回路および透析液バッグを捨ててください。その後かかりつけの医療機関にご相談ください。

【自動回避アラーム】

表示

コネクターライン確認

原因

- ① ラインの折れ曲がりやつぶれ、クランプが閉まっている、透析液バッグが空であるなどの理由で、ラインに透析液が流れません。
- ② プライミング中に「コネクターライン接続後→」と交互に表示されます。コネクターラインに透析液が満たされていることを確認したあと、接続してください。これはアラームではなく注意を促す表示です。

対処

上記①の場合には次のことを調べます。

1. ラインの折れ曲がり、つぶれ（下着のずれなどでカテーテルがつぶれている）がないか
2. ラインがドア上部に挟まっていないか
3. クランプが確実に開いているか
4. フィブリンの詰まりがあるか
5. 透析液バッグの接続部（システムⅡの透析液バッグを使用している場合、フランジブルシールが約3mm以上あいているか）に問題がないか

問題箇所を直し、そのまま待ちます。ボタン操作は必要ありません。

*システムⅡの透析液バッグを使用している場合、フランジブルシールの間（約3mm）を十分に開けるようにしてください。

自動的に治療に復帰できなかった場合のアラーム対処の手順:

手順1

■ を押し、アラーム音を止めます。

手順2

ラインの問題箇所を直します。

手順3

➡ を押して、治療に戻ります。

問題箇所を直しているにもかかわらず、アラームが鳴る場合は、アラーム名を書き取り、当社CAPDコールセンターに連絡してください。



警告

治療中に、空になった透析液バッグを新しい透析液バッグに交換したり、切り離れた透析液バッグをつないだりしないでください。透析液や透析液の流路を汚染する可能性があります。透析液や透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。

治療中に透析液バッグが外れた場合、「治療強制終了の手順（227ページ）」に従って使用していた回路および透析液バッグを捨ててください。その後かかりつけの医療機関にご相談ください。

現象 カセットが入らない／カセットが取り外せない

①治療の準備中

「回路セット後→」の表示でカセットが入りづらくなった。

②治療終了後

「コネクターラインと回路外した後→」と「クランプを閉じた後→」の交互の表示で、ドアが開かなくなりカセットが取り外せなくなった。

原因 ドアを開けて、ある一定時間経過すると、安全のためオクルーダーが閉じるため。

対処方法：(治療の準備中)

手順	ボタン操作	表示	備考
手順1		回路セット後→	「回路セット後→」と表示されているにもかかわらず、カセットが入りにくい場合の操作です。
手順2	□ 停止ボタンを押す		
手順3	➡ を押す	回路セット後→	しばらくすると、オクルーダーが開きます。 カセットを入れます。
手順4	➡ を押す	回路確認中	回路確認を行います。

対処方法：(治療終了後)

手順	ボタン操作	表示	備考
手順1		コネクターラインと回路外した後→ ↕ 交互に表示 クランプを閉じた後→	2つの表示が交互に表示されます。 コネクターラインと接続チューブが切り離されていることを確認します。
手順2	□ 停止ボタンを押す		
手順3	➡ を押す	コネクターラインと回路外した後→ ↕ 交互に表示 クランプを閉じた後→	しばらくすると、オクルーダーが開きます。 カセットを取り出します。
手順4	➡ を押す	電源を切って下さい	電源を切ります。

現象 再プライミングの手順 (コネクターラインが充填されない)

プライミングが終了し「コネクターライン接続後→」の表示になっているにもかかわらず、コネクターラインに透析液が満ちていない。

原因 コネクターラインのクランプが開いていなかった。
コネクターラインに透析液が満ちる前にカセット内のバルブが閉まってしまった。

対処方法:

手順	ボタン操作	表示	備考
		コネクターライン接続後→ コネクターライン確認	交互に表示されます。
手順1	■を押す	停止：準備中	「停止：準備中」にします。
手順2	▽を押す	コネクターラインの再プライミング◇	
手順3	◆を押す	ライン保持盤にコネクターライン有→	ライン保持盤にコネクターラインがあることを確認します。 コネクターラインのクランプが開いていることを確認します。
手順4	→を押す	プライミング中	再プライミングが始まり通常の動作に移ります。 プライミングが終わったら、透析液がコネクターラインの先端近くまで満ちていることを確認してください。 プライミングが正しく終わるまで、手順1～4を繰り返してください。

【手動回避アラーム】

表示

システムエラー：2240

システムエラー：2267

原因

ゆめシステムが回路内に空気を検出し排液ラインに流しました。このシステムエラーは下記の原因が考えられます。

- ・ バッグや回路の液もれ
- ・ バッグの接続忘れ
- ・ 接続部のゆるみ
- ・ 不十分なプライミングにより、十分な透析液がコネクターラインに満たされていない
- ・ 未使用のバッグラインのクランプ閉じ忘れ
- ・ トレーニング時に患者模擬バッグに空気が入った状態で使用

アラーム対処の手順：

手順1

□ を押し、表示されている値を点滅させます。

手順2

治療がどこまで進んでいるかと、システムエラー番号を書き留めます。

手順3

電源スイッチを切り、2～3秒後に入れなおします。システムエラー2367が表示されます。

手順4

もう一度電源スイッチを切り、2～3秒後に入れなおします。「設定確認▽後 治療開始→」の表示になります。

手順5

全てのクランプを閉じます。

手順6

ゆめセットから接続チューブを切り離します。使用していた回路と透析液バッグをゆめシステムから取り外します。

手順7

バクスターCAPDコールセンターか、かかりつけの病院までご連絡ください。



使用済みの回路や透析液バッグは使用しないで下さい。透析液や回路が汚染されている可能性があります。腹膜炎などになる可能性があります。



アラームを直すための操作がわからない場合、24時間通話無料のバクスターCAPDコールセンター（0120-506-440）までご連絡ください。

- *再度、治療を開始する場合は、新しい透析液と新しい回路で準備しなおしてください。
- *システムエラー2240/2267は機械の故障ではありません。



全てのクランプを閉じる前にドアを開けないでください。全てのクランプを閉じておくことにより、透析液バッグ同士や、患者様の接続チューブとの液の流れが制御できず、自由に透析液が流れてしまうことを防ぐことができます。液の流れの制御が行われていない場合、落差による液の流れで過注液となる可能性があります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。過注液が疑われるときには、 停止ボタンをすぐに押し、 ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法（254ページ）」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

【手動回避アラーム】

表示

システムエラー:○○○○

原因1

電源スイッチがあまりにも早く入り切りされました。

原因2

機器内部で現在のサイクルかまたは継続したサイクルでの異常を検出しました。

原因1の対処の手順：

手順1

電源スイッチを切ります。

手順2

10秒後にもう一度電源スイッチを入れます。

原因2の対処の手順：

手順1

□ 停止ボタンを押してアラーム音を止めます。

手順2

治療がどこまで進んでいるかとシステムエラー番号を書き留めます。(例：「注液中：2/4」「システムエラー2240」)

手順3

バクスターCAPDコールセンターか、かかりつけの病院までご連絡ください。

手順4

コールセンタースタッフの指示に従ってください。システムエラーの番号によって行う作業が変わります。

システムエラーの対処方法

システムエラー番号	上記手順の次に行うこと
2042、2044、2046	接続チューブをゆめセットの接続する前であれば、「回路を再セット後→」と同じ手順に従ってください。ゆめセットと接続してしまった後であれば、他のシステムエラーの対応をとってください。
2065～2071、2098、2265	全てのクランプを閉じてください。電源スイッチを切ってからもう一度入れ、治療を中断してください。
2240、2267、2367	システムエラー2240/2267/2367のページを参照してください。
他のシステムエラー	以下のどれかを行ってください。 1. 治療を継続する 2. 治療を中断する 3. その状態をバイパスする 4. 強制排液を行う



確認

システムエラーは、電源の切り入り操作で復帰することが多くあります。機器の交換は回路を交換して行っても同じシステムエラーが再現する場合があります。



注意

電源を切り入りする場合には必ずすべてのクランプを閉めてください。正しくクランプが閉まっていなくて、透析液の流れが制御できない場合があります。



警告

全てのクランプを閉じる前にドアを開けないでください。全てのクランプを閉じておくことにより、透析液バッグ同士や、患者様の接続チューブとの液の流れが制御できず、自由に透析液が流れてしまうことを防ぐことができます。液の流れの制御が行われていない場合、落差による液の流れで過注液となる可能性があります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、 停止ボタンをすぐに押し、 ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

治療強制終了の手順

治療を強制的に途中で終了する方法です。

どんな理由にせよ、治療を強制終了した場合は、お腹には通常より多い透析液が残っている可能性があります。そのような場合、次の治療の「初回排液の限度」の値が低すぎるかもしれません。過注液を防ぐため、次回治療を行うときには以下のどちらかを行ってください。

- ・治療開始して接続チューブをつないだ後に「初回排液限度：○○mL」が表示されたら、 停止ボタンを押してから  ボタンで初回排液限度の設定値を現在お腹の中にあると思われる液量の70%以上まであげてください。
または
- ・「初回排液限度：○○mL」が表示されなかったら、 停止ボタンを押してから  ボタンで「強制排液」を表示してください。 設定ボタンで強制排液を行ってください。強制排液が終了すると、ゆめシステムは「停止：排液中」が表示されます。強制排液は何度でもアラーム音を鳴らさずに実施できます。排液に戻ると、アラーム音が鳴ることがあります。

治療強制終了の手順：

手順	ボタン操作	表示	備考
手順1	電源スイッチを切る 10秒程度お待ちください。		ゆめシステムはライン内の液の流れを止めます。
手順2	電源スイッチを入れる	しばらくお待ちください 電源が復帰しました	アラームが鳴ります。
手順3	 を押す	電源が復帰しました ○○中：○/○	アラーム音を止めます。 2つの表示が交互に表示されます。
手順4	 を押す	注液量：○○○ml または 貯留残り時間：○○：○○ または 排液量：○○○ml	現在の治療状況を記録します。
手順5	 を押す	初回排液量：○○○ml	初回排液量を記録します。
手順6	 を押す	総除水量：○○○ml◇ または 現在の除水量：○○ml	除水量を記録します。「総除水量」が表示されている場合  を押し、各サイクルの除水量を確認できます。

手順7

▼を押す

平均貯留時間：○：○○◇

平均貯留時間を記録します。◆を押し、各サイクルの実際の貯留時間を確認します。

手順8

▼を押す

治療を終了します

手順9

◆を押す

クランプを閉じた後→

※治療終了操作は、ご使用の回路別の④-2、⑤-2、⑥-2を参照してください。

貯留時間が短縮された場合「治療を終了します」のあとに「貯留時間短縮：○時間○○分」が表示される場合もあります。



警告

何回も治療をうまく終えられなかったり治療の一部を飛ばした場合、貯留時間や治療時間が短くなり、尿毒症の原因となることがあります。

バイパスの手順

アラームを回避したり、次の動作に移る場合に行います。安全をよく確認してから行ってください。

ここでは以下の6つの場合について詳しく説明します。それぞれの場合に表示内容が異なります。

- ①初回排液のバイパス
- ②初回排液中の「**排液量不良**」アラームのバイパス
- ③排液中のバイパス
- ④「**排液は終了していません**」のバイパス
- ⑤「**排液量不良**」アラームのバイパス
- ⑥「**注意：除水不良**」アラームのバイパス
- ⑦補液中の「**バグライン確認**」アラームのバイパス

なお、排液中にバイパスを行った場合の注液（全量と部分注液）については297ページを参照してください。

①初回排液のバイパス

過注液にならないようにするため、初回排液中のバイパスは、「**排液量不良**」アラームが出ていない限り、できないようになりました。

初回排液中の「**排液量不良**」アラームのバイパスについては下記を参照してください。

②初回排液中の「**排液量不良**」アラームのバイパス方法：

ここでは初回排液中の「**排液量不良**」アラームのバイパス方法を説明します。

いつなら安全にバイパスできるかについてはかかりつけの病院にご相談ください。



警告

「**排液量不良**」を初回排液中にバイパスするとお腹に透析液を残したまま注液となることがあるので、治療の後半で過注液の可能性があります。体の位置を変えたり立ち上がったたりして排液ができるように工夫してください。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。過注液が疑われるときには、**■** 停止ボタンをすぐに押し、**▼** ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「**10** 困ったときの対処方法（254ページ）」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

手順	ボタン操作	表示	備考
		排液量不良	
手順1	■ 停止ボタンを押す	排液量不良 初回排液	アラーム音を止めます。2つの表示が交互に出ます。
手順2	➡ 開始ボタンを押す または ▼ ボタンを押す	初回排液 排液量：○○ml	体の位置を変えて ➡ 開始ボタンを押して初回排液を再開してください。 または ▼ ボタンを押して排液量を表示します。

手順3 ▼ ボタンを押す **初回排液の限度：○○ml**

「初回排液の限度」の設定値が表示されます。手順2で表示された排液量がどの程度増えれば注液に移るかの基準値です。

手順4 ▼ ボタンを押す **排液は終了していません**

「排液は終了していません」が表示されます。バイパスをなるべく回避していただくための注意です。

手順5 ▼ ボタンを押す **バイパス**

バイパスが表示されます。

手順6 以下A、B、C 3つの手順よりどれかを選択してください。



確認

ここで「バイパス」を選択すると、ゆめシステムはお腹が空であると判断します。そのため、次の注液は全量注液となります。

A

バイパス

▼ ボタンを押す **強制排液**

「強制排液」を表示してください。この手順を推奨します。

◆ 設定ボタン
を押す **排液量：○○ml**

◆ 設定ボタンを押すと強制排液が始まります。



確認

流速が遅かったり、流速がなくなったりすると「排液量不良」と「初回排液」の表示が交互に出ます。

B

バイパス

➡ 開始ボタン
を押す **初回排液**

バイパスしたくない場合は ➡ 開始ボタンを押して「初回排液」に戻ってください。

C

バイパス

◆ 設定ボタン
を押す **注液中：1/○**

◆ 設定ボタンを押してバイパスを行ってください。1サイクル目の注液に移ります。(全量注液)

③排液中のバイパス方法：

ここでは初回排液以外の排液中のバイパス方法を説明します。

いつなら安全にバイパスできるかについてはかかりつけの病院にご相談ください。



警告

排液をバイパスするとお腹に透析液を残したまま注液となることがあるので、過注液の可能性があります。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、◆ 停止ボタンをすぐに押し、▼ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法(254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方(意識のない方、乳幼児や小児)に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

10 困ったときの対処方法

手順	ボタン操作	表示	備考
		排液中：2/5	
手順1	■ 停止ボタン を押す	停止：排液中	
手順2	▼ ボタンを押す	排液量：○○ml	▼ ボタンを押して排液量を表示します。
 確認 「注意：除水不良」アラームを回避するため、この基準値よりも多く排液する必要があるかもしれません。			
手順3	▼ ボタンを押す	排液の限度：○○ml または タイダル排液量：○○ml	排液量がどの程度増えれば注液に移るかの基準値が表示されます。
手順4	▼ ボタンを押す	現在の除水量：○○ml	現在までの除水量が表示されます。
手順5	▼ ボタンを押す	排液は終了していません	現在までの排液量が手順3で示された基準値より出ていない場合、「排液は終了していません」の表示が出ます。バイパスをなるべく回避していただくための注意です。
手順6	▼ ボタンを押す	バイパス	バイパスが表示されます。
手順7	◆ 設定ボタン を押す	バイパス	◆ 設定ボタンを押してバイパスを行ってください。
		注液中：3/5 または	次の注液に移ります。注液量はお腹に残っていた液量に従った部分注液になります。
		排液は終了していません または	もし現在までの排液量が手順3で示された基準値より出ていない場合、「排液は終了していません」の表示が出ます。「排液は終了していません」をバイパスしたい場合は下記④を参照してください。
		注意：除水不良	「注意：除水不良」が出ることがあります。その場合、本章の「注意：除水不良」250ページを参照してください。

④ 「排液は終了していません」のバイパス方法：

ここでは「排液は終了していません」のバイパス方法を説明します。

いつなら安全にバイパスできるかについてはかかりつけの病院にご相談ください。



「**排液は終了していません**」をバイパスするとお腹に透析液を残したまま注液となることがあるので、過注液の可能性があります。
過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。
過注液が疑われるときには、**■** 停止ボタンをすぐに押し、**▼** ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。
ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

手順	ボタン操作	表示	備考
		排液は終了していません	バイパスをしようとしたときに、現在の排液量が排液の限度以上出していないときに、「 排液は終了していません 」の表示が出ます。
手順1	■ 停止ボタンを押す	排液は終了していません 排液中：2/5	■ 停止ボタンでアラーム音を止めます。
手順2	▼ ボタンを押す	排液量：〇〇ml	▼ ボタンを押して現在の排液量を表示します。次のサイクルの注液量は、一回注液量からこの排液量を引いた値で注液されます。初回排液のときにはこの表示は出ません。
手順3	▼ ボタンを押す	初回排液の限度：〇〇ml または 初回排液量：〇〇ml	今実施している治療の「 初回排液の限度 」または「 初回排液量 」が表示されます。
手順4	▼ ボタンを押す	排液の限度：〇〇ml または タイダール排液量：〇〇ml	排液量がどの程度出れば注液に移るかの基準値です。
	E 確認	「 注意：除水不良 」アラームを回避するため、この基準値よりも多く排液する必要があるかもしれません。	
手順5	▼ ボタンを押す	現在の除水量：〇〇ml	現在までの除水量が表示されます。
手順6	▼ ボタンを押す	排液は終了していません	「 排液は終了していません 」の表示が出ます。バイパスをなるべく回避していただくための注意です。
手順7	▼ ボタンを押す	バイパス	バイパスが表示されます。
手順8	◆ 設定ボタンを押す	バイパス 注液中：3/5	◆ 設定ボタンを押して「 排液は終了していません 」をバイパスしてください。次の注液に移ります。注液量はお腹に残っていた液量に従った部分注液になります。



「**排液量不良**」をそのままバイパスすると全量注液となります。

⑤ 「排液量不良」アラームのバイパス方法（次回注液は部分注液となります）:

「排液量不良」アラームは、流速から見てお腹が空であると判断した結果出たのですが、最低限出なければならない排液量が出てきていないというアラームです。ここでは「排液量不良」アラームのバイパス方法を説明します。

いつなら安全にバイパスできるかについてはかかりつけの病院にご相談ください。



「排液量不良」をそのままバイパスするとお腹に透析液を残したまま注液となることがあるので、治療の後半で過注液の可能性があります。「排液量不良」をバイパスする前に、体の位置を変えたり立ち上がったたりして排液ができるように工夫してください。どうしてもバイパスする必要がある場合には以下の手順に従って一度「排液中」に戻ってからバイパスを行ってください。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。過注液が疑われるときには、**■** 停止ボタンをすぐに押し、**▼** ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法（254ページ）」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

手順	ボタン操作	表示	備考
		排液量不良	
手順1	■ を押す	排液量不良 排液中：2/5	アラーム音を止めます。2つの表示が交互に出ます。
手順2	→ を押す	排液中：2/5	「排液中」に戻します。
手順3	■ ボタンを押す	停止：排液中	再度、動作を停止させ、そのあと、バイパスを行います。
手順4	▼ ボタンを押す	排液量：〇〇ml	▼ ボタンを押して排液量を表示します。
手順5	▼ を押す	排液の限度：〇〇ml または タイダール排液量：〇〇ml	排液量がどの程度増えれば注液に移るかの基準値が表示されます。
		 確認	
		「注意：除水不良」アラームを回避するため、この基準値よりも多く排液する必要があるかもしれません。	
手順6	▼ を押す	現在の除水量：〇〇ml	現在までの除水量が表示されます。
手順7	▼ を押す	排液は終了していません	もし現在までの排液量が手順5で示された基準値より出ていない場合、「排液は終了していません」の表示が出ます。バイパスをなるべく回避していただくための注意です。
手順8	▼ を押す	バイパス	「バイパス」が表示されます。

手順9

◆ を押す

バイパス

注液中：3/5

または

排液は終了していません

または

注意：除水不良

◆ 設定ボタンを押してバイパスを行ってください。次の注液に移ります。注液量はお腹に残っていた液量に従った部分注液になります。

もし現在までの排液量が手順5で示された基準値より出ていない場合、「排液は終了していません」の表示が出ます。バイパスをなるべく回避していただくための注意です。「排液は終了していません」をバイパスしたい場合は231ページを参照してください。

「注意：除水不良」が出ることがあります。その場合、本章の「注意：除水不良」アラームのバイパス方法（下記）のページを参照してください。

⑥ 「注意：除水不良」アラームのバイパス方法：



「注意：除水不良」はかかりつけの病院の指示がない限りバイパスしないでください。



「注意：除水不良」は前のサイクルでバイパスされていたらもうバイパスはできません。「注意：除水不良」アラームを安全にバイパスできるときには以下の手順に従ってください。いつなら安全にバイパスできるかについてはかかりつけの病院にご相談ください。



警告

「注意：除水不良」をバイパスするとお腹に透析液を残したまま注液となることがあるので、過注液の可能性があります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、停止ボタンをすぐに押し、▼ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法（254ページ）」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

手順

ボタン操作

表示

備考

注意：除水不良

手順1

■ 停止ボタン
を押す

注意：除水不良

排液中：2/5

アラーム音を止めます。2つの表示が交互に出ます。



確認

「注意：除水不良」の基準の初期値は注液量の50%です。



確認

少液量モードの場合、「注意：除水不良」の基準値は注液量の20～60%で設定できます。

10 困ったときの対処方法

困ったときの
対処方法

表示部の説明

調整メニュー

ナースメニュー

排液の採取方法

仕様

旅行に際して

お手入れ方法

点検手順と注意

手順2

▽ ボタンを押す

排液量：○○ml

▽ ボタンを押して排液量を表示します。



確認

「注意：除水不良」は、一回注液量からこの排液量を引いた液量を、前回のサイクルまでの総除水量から引いた値に対して計算されます。

手順3

▽ ボタンを押す

初回排液量：○○ml

現在の治療の初回排液のときに出てきた排液量が表示されます。

手順4

▽ ボタンを押す

排液の限度：○○ml

または

タイダール排液量：○○ml

排液量がどの程度出れば注液に移るかの基準値が表示されます。



確認

「注意：除水不良」アラームを回避するため、この基準値よりも多く排液する必要があるかもしれません。

手順5

▽ ボタンを押す

現在の除水量：○○ml

現在までの除水量が表示されます。

手順6

▽ ボタンを押す

排液は終了していません

もし排液の限度まで排液されていない場合、「排液は終了していません」が表示されます。バイパスをなるべく回避していただくための注意です。

手順7

▽ ボタンを押す

バイパス

バイパスが表示されます。



確認

排液を出やすくするため、体の位置を変えてください。カテーテル近くで出にくくなっている透析液が出てくることも考えられます。

手順8

以下A、B、C3つの手順よりどれかを選択してください。



確認

ここで「バイパス」を選択すると、ゆめシステムはお腹が空になったと判断します。次の注液はお腹に残っている液を差し引いた部分注液となります。

A

バイパス

➡ 開始ボタン
を押す

排液中：2/5

バイパスしたくない場合は ➡ 開始ボタンを押して排液に戻ってください。

B

バイパス

▽ ボタンを押す

強制排液

▽ ボタンを押して「強制排液」を選択してください。

◆ 設定ボタン
を押す

排液量：○○ml

◆ 設定ボタンを押して強制排液を行ってください。

C

バイパス

◆ 設定ボタン
を押す

注液中：3/5

◆ 設定ボタンを押してバイパスを行ってください。次サイクルの注液に移ります。注液量は部分注液となります。



【注意：除水不良】アラームをバイパスすると一時的に「排液の限度%」の値を無効にして動作します。「排液の限度%」が無効の状態は総除水量が「注意：除水不良」アラームの限度（通常は注液量の50%）を超えるまで続きます。

⑦補液中の「バッグライン確認」アラームのバイパス方法：

治療中に予定外の補液が発生し、さらにバッグラインからの液が不足したときアラームが発生します。このアラームはそのままではバイパスできません。注液に戻る場合この手順に従ってください。

手順	ボタン操作	表示	備考
		バッグライン確認	
手順1	■ 停止ボタンを押す	バッグライン確認 ヒーターバッグを補液中	■ 停止ボタンを押します。2つの表示が交互に出ます。
手順2	➡ 開始ボタンを押す	しばらくお待ちください ヒーターバッグを補液中	➡ 開始ボタンを押してヒーターバッグを補液中に戻します。
手順3	■ 停止ボタンを押す	停止：補液中	
手順4	▽ ボタンを押す	注液量：〇〇mℓ	注液量が表示されます。
手順5	▽ ボタンを押す	バイパス	バイパスが表示されます。
手順6	◆ 設定ボタンを押す	しばらくお待ちください の表示の後 補液は終了していません	◆ 設定ボタンを押してバイパスを行ってください。その後「補液は終了していません」の表示となります。バイパスをなるべく回避していただくための注意です。
手順7	■ 停止ボタンを押す	補液は終了していません ヒーターバッグを補液中	■ 停止ボタンを押すとこの2つの表示が交互に出ます。
手順8	▽ ボタンを押す	注液量：〇〇mℓ	注液量が表示されます。
手順9	▽ ボタンを押す	初回排液量：〇〇mℓ	初回排液量が表示されます。
手順10	▽ ボタンを押す	総除水量：〇〇mℓ	総除水量が表示されます。
手順11	▽ ボタンを押す	バイパス	バイパスが表示されます
手順12	◆ 設定ボタンを押す	注液中：○／○	注液に戻ります。

【手動回避アラーム】

表示

回路を再セット後→○○○

交互
に表示

クランプを閉じた後→

原因

カセットが正しくセットされていないか、システムに何か問題が考えられます。
詳しい原因については次ページの表を参照してください。

アラーム対処の手順：

手順1

■ 停止ボタンを押してアラーム音を止めます。表示されている3桁の番号を書き留めます。

手順2

全てのクランプを閉めます。

手順3

ドアを開けます。

手順4

カセットを取り外します。

手順5

もういちどカセットを入れなおします。



注意

カセットを出し入れするときに、オクルーダーが短時間の間出てきてしまうことがあるかもしれません。その場合、カセットが入れにくくなります。必要に応じて■ 停止ボタンを押してから➡ 開始ボタンを押すことにより、オクルーダーを引っ込めることができます。

手順6

次ページのようにチューブを本体側に曲げながらドアを閉めます。

手順7

➡ 開始ボタンを押します。

これで、表示が「バッグ接続後 クランプ開け➡」と「クランプを開けてください」を交互に表示します。

手順8

必要なクランプを開けます。

手順9

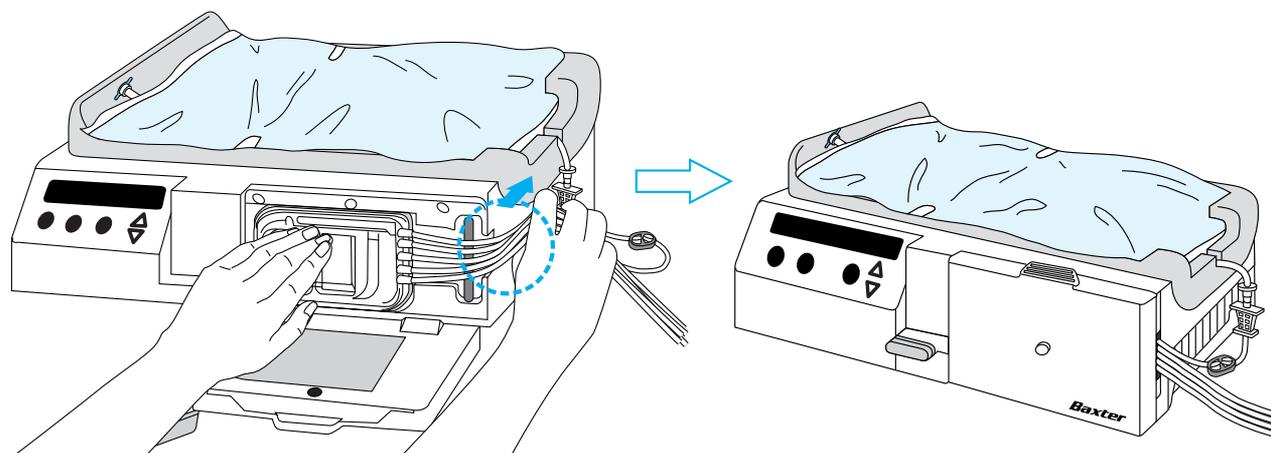
➡ 開始ボタンを押し、再度プライミングが行われます。



警告

全てのクランプを閉じる前にドアを開けないでください。全てのクランプを閉じておくことにより、透析液バッグ同士や、患者様の接続チューブとの液の流れが制御できず、自由に透析液が流れてしまうことを防ぐことができます。液の流れの制御が行われていない場合、落差による液の流れで過注液となる可能性があります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。過注液が疑われるときには、■ 停止ボタンをすぐに押し、▼ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

➡ **「回路を再セット後→ 163」**が繰り返し発生した場合には、以下のことを行います。カセットの四隅を押し、カセットを確実に入れます。カセットが確実に入っていることを確認したあと、ラインを下図のように本体側に折り曲げるようにしながらドアを閉めてください。



回路を再セット後→ アラームの原因

回路を再セット後の番号	考えられる原因
143、163、165-169	<p>以下の理由により、オクルーダーがチューブを閉めることができなかった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低温 ・カセットのチューブが重なり合っていた、またはどこかにぶつかっていた <p>注意 ヒーターバッグとカセットを治療開始前にヒーターの上においておくことこのアラームの発生を抑えることができます。</p>
134-137、156、157	<p>チューブが折れ曲がっていた、またはクランプされていた</p>
201	<ul style="list-style-type: none"> ・カセットがうまく入らなかったことによるカセットとドア内部との間での空気漏れ ・カセット外側のゴミ ・カセットのシートの穴 <p>警告 使用の前には常に、カセットのごみや傷、割れ目、穴がないか確認してください。</p> <p>警告 「回路を再セット後→ 201」が発生しコネクターラインから透析液があふれた場合、お腹に空気が入ることを防ぐため、新しいゆめセットと透析液バッグを使ってもう一度やり直してください。</p>
200、202、203	<ul style="list-style-type: none"> ・カセットがうまく入らなかったことによるカセットとドア内部との間での空気漏れ ・カセット外側のゴミ ・カセットのシートの穴 <p>警告 使用の前には常に、カセットのごみや傷、割れ目、穴がないか確認してください。</p>
その他の番号	<p>カセットがうまくドアに入っていないか、カセットの異常</p>

【手動回避アラーム】

表示

新しい回路セット後→



クランプを閉じた後→

新しいバッグと回路セット後→



クランプを閉じた後→

原因

準備中に発生するアラームです。

「新しい回路セット後→」と「クランプを閉じた後→」の交互表示は回路確認中までの間に出現し、「新しいバッグと回路セット後→」と「クランプを閉じた後→」の交互表示はプライミング終了までに出現するアラームです。

使用中の回路になんらかの問題があると考えられます。

アラーム対処の手順：

手順1

を押し、アラーム音を止めます。

手順2

回路のすべてのクランプを閉めます。(必ず閉めてください)

手順3

電源スイッチを切ります。

手順4

3~5秒後に電源スイッチを入れます。

手順5

(ゆめ^{プラス}では、必要に応じて追加情報を入力した後に)「設定確認▽後 治療開始→」が表示されたら を押します。
「回路セット後→」と表示されます。

手順6

新しい透析液と回路を用意します。
現在の回路を取り外し、新しい回路をセットします。
(このときにこぼれた透析液が付着していれば清潔な布などできれいにふき取ってください)

手順7

を押します。

手順8

「バッグ接続後クランプ開け→」が表示されたら、クランプを開け、 を押します。
再度プライミングが行われます。



すでにコネクターラインに透析液が満たされている場合にドアを開けるときは、コネクターラインのクランプおよび開いているクランプは閉めてください。透析液がこぼれる原因となります。

【自動回避アラーム】

表示

最終バッグライン確認

排液ライン確認

バッグライン確認

ヒーターライン確認



「○○○○ライン確認」アラームが出ているときはバイパスは行えません。

原因1

ラインの折れ曲がりやつぶれ、クランプが閉まっている、透析液バッグが空であるなどの理由で、ラインに透析液が流れません。

対処1

次のことを調べます。

1. ラインの折れ曲がり、つぶれ(下着のずれなどでカテーテルがつぶれている)がないか
 2. ラインがドア上部に挟まっていないか
 3. クランプが確実に開いているか
 4. フィブリンの詰まりがないか
 5. 透析液バッグの接続部(システムⅡの透析液バッグの場合、フランジブルシールが約3mm以上あいているか)に問題がないか
- 問題箇所を直し、そのまま待ちます。ボタン操作は必要ありません。

* 「バッグライン確認」と「ヒーターバッグ補液中」の表示が交互に表示された場合は、使用していないラインに補液バッグを追加し、以下の **手順1** ~ **手順3** に従ってください。

原因2

ヒーターライン確認が1サイクルの注液中に発生する場合

- ・カセットがヒーターラインから液を引っ張ることができなかったか、全く液がなくて排液ラインに液を流すことができなかった
- ・ヒーターラインまたは排液ラインが閉塞していた

対処2

1. ヒーターラインとヒーターバッグのチューブに閉塞がないか確認する
2. 排液ラインと排液タンクに閉塞がないか確認する



「ヒーターライン確認」というアラームであっても、排液ラインが原因であることがあります。

3. もし直らなければ、バクスターCAPDコールセンターに電話ください。

自動的に治療に復帰できなかった場合のアラーム対処の手順:

手順1  を押し、アラーム音を止めます。

手順2 ラインの問題箇所を直します。

手順3  を押して、治療に戻ります。



警告

- ・治療中に空になった透析液バッグを新しいものと交換したり、外した透析液バッグを再度接続したりしないでください。透析液および透析液の流れる経路が汚染し腹膜炎の原因となることがあります。
- ・治療中に透析液バッグが外れた場合、「治療強制終了の手順」(本冊子227ページ参照)に従って、使用していた回路および透析液バッグを捨ててください。

* プライミング中に「最終バッグライン確認」が表示された場合には、処方の「最終注液濃度変更:」を確認してください。医師の処方が「ナシ」であるにもかかわらず「アリ」になっている場合は「ナシ」に直してください。(処方の変更方法につきましては、本冊子198ページを参照してください。)「アリ」であれば青いクランプのついた最終バッグラインに指定された濃度の透析液を接続してください。

* システムⅡの透析液バッグを使用している場合、フランジブルシールの間(約3mm)を十分に開けるようにしてください。

【自動回避アラーム】

表示

加温中

原因

本機器のヒーターの温度センサーが33℃より低い値を検出したためです。この場合、注液はされません。ヒーターバッグを温めるために「加温中」の表示となります。「加温中」が表示されてから45分以内は、33℃に達して5分経過したら自動的に「注液中」に移ります。45分経過しても33℃より低い値を検出した場合、アラーム音が鳴ります。この時点で手動回避アラームとなります。

アラーム音が鳴った場合のアラーム対処の手順:

手順1

□を押し、アラーム音を止めます。

手順2

ヒーター上の透析液バッグが、機器の温度センサーとヒーターをしっかりと覆っていることを確認します。

手順3

→を押して治療に戻ります。再び「加温中」の表示となり透析液を適温に温めます。機器の温度センサーが適温を検知したら、治療再開となります。



注意

「加温中」が長時間続いた場合、治療時間に影響することがあります。ゆめシステムの使用温度は15℃～36℃です。この範囲になるように環境を整えてください。また透析液、回路も同様に同じ範囲内で使用してください。

ポイント

冬期は、治療30～60分前にゆめシステムの電源スイッチを入れヒーター上に透析液バッグを、その上にゆめセットを乗せて温めておきます。他の透析液バッグは加温器で温めたものを使用してください。

【自動回避アラーム】

表示

コネクターライン流速不良

排液ライン流速不良

バッグライン流速不良

ヒーターライン流速不良

原因

流速が著しく遅いため、貯留時間つまり重要な透析時間を短くするおそれがあるので、アラーム音が鳴りました。ラインの折れ曲がりやつぶれ、クランプがきちんと開いていないことが考えられます。



「排液ライン流速不良」はバイパス出来ません。

対処

次のことを調べます。

1. ラインの折れ曲がり、つぶれ（下着のずれなどでカテーテルがつぶれている）がないか
2. クランプが確実に開いているか
3. フィブリンの詰まりがあるか
4. 透析液バッグの接続部（システムⅡの透析液バッグを使用している場合、フランジブルシールが約3mm以上あいているか）に問題がないか

問題箇所を直し、そのまま待ちます。ボタン操作は必要ありません。

*システムⅡの透析液バッグを使用している場合、フランジブルシールの間（約3mm）を十分に開けるようにしてください。

自動的に治療に復帰できなかった場合のアラーム対処の手順:

手順1

□ を押し、アラーム音を止めます。

手順2

ラインの問題箇所を直します。

手順3

➡ を押して、治療に戻ります。

問題箇所を直しているにもかかわらず、アラームが鳴る場合は、アラーム名を書き取り、バクスターCAPDコールセンターに連絡してください。

表示**初回排液限度:設定なし****原因**

治療開始時に初回排液の限度が「設定なし」となっています。

対処の手順:**手順1**

電源スイッチを切り、2~3秒後に入れなおします。

手順2

調整メニュー（本冊子284ページ）で「初回排液の限度」を「設定なし」ではない適切な値に変えてください。

**注意**

調整メニューでこの変更を行えば、それ以降の治療の「初回排液の限度」の設定値が書き換わります。

**警告**

「初回排液の限度」を不用意に下げたり「設定なし」にすると、完全に排液を終了しないで1サイクルの注液に移ってしまうため過注液となることがあります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

「**12** 調整メニュー」の284ページにある「初回排液の限度」を始めて設定するときの推奨値を参考に設定してください。過注液が疑われるときには、**■** 停止ボタンをすぐに押し、**▼** ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「**10** 困ったときの対処方法（254ページ）」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

表示

初回排液限度：○○○ml

原因

治療開始時に「初回排液の限度」が低く設定されています。

対処の手順：

手順1

□ を押し、表示されている値を点滅させます。

手順2

△ または ▽ で「初回排液限度」の値を変えます。

(この書き換えでは今回の治療の設定値が一回だけ書き換わります)

手順2

◆ を押し入力後、➡ で初回排液に戻ってください。



注意

治療開始時に値を変えることにより、今回行う治療の「初回排液の限度」のみ書き換わっています。今後の設定値を変えたい場合は、調整メニュー（本冊子284ページ）で「初回排液の限度」を「設定なし」ではない適切な値に変えてください。



警告

「初回排液の限度」を不用意に下げたり「設定なし」にすると、完全に排液を終了しないで1サイクルの注液に移ってしまうため過注液となることがあります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

「12 調整メニュー」の284ページにある【「初回排液の限度」を始めて設定するときの推奨値】を参考に設定してください。

過注液が疑われるときには、□ 停止ボタンをすぐに押し、▽ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法（254ページ）」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

【手動回避アラーム】

表示

電源が復帰しました

原因

停電が発生し、電源が30分以上2時間以内^{※注1}に復帰した場合および電源が30分以内に復帰した場合でも電圧低下中にボタン操作をした場合は、アラーム音が鳴り「電源が復帰しました」と表示されます。

ただし、電圧低下中にボタン操作をせずに電源が約30分以内に復帰すると、アラーム音は鳴らずに自動的に治療は継続されます。

対処

□を押してアラーム音を止め、➡を押すと治療が継続されます。

アラーム音が鳴り電源が復帰したときのボタン操作：

ボタン操作	表示	備考
	電源が復帰しました	連続したアラーム音が鳴ります。
□を押す	電源が復帰しました 注液中：2/5	2つの表示が交互に表示されます。 治療データを見たいときは▼を押します。
➡を押す	しばらくお待ちください 注液中：2/5	治療が継続されます。

2時間以上経過してから電源が復帰した場合は、治療の続行は不可能になります。2時間以上経過してから電源が復帰すると「治療終了 除水量確認後➡」が表示されますので治療終了操作を行ってください。アラーム音は鳴りません。

※注1 バッテリーの充電状態により“2時間”は短くなる場合があります。



注意

「初回排液」を開始するまでの間に停電が発生した場合には、電源が復帰すると、「設定確認▽後 治療開始➡」が表示されます。停電時に回路が機器にセットされている場合には、すべてのクランプを必ず閉めてください。正しくクランプが閉まっていないと、透析液の流れが制御できない場合があります。

誤って使用者と接続すると重大な事故につながるおそれがあります。過注液が疑われる場合には、本冊子269ページを参照してください。

【手動回避アラーム】

停電時の操作：

表示

電圧低下

原因

停電、またはコンセントや本体から電気コードがはずれた場合に発生します。

対処

電源コードがコンセントまたは、機器本体から外れていないか確認します。
 停電の場合は電気が復帰するのを待つか、強制終了を行います。

1. 電圧低下(停電)が起きた場合の機器の対応

- ・電圧低下が起きたとき、治療は中断し、表示部も消えます。

2. 30分以内に電源が復帰した場合

- ・ゆめシステムはアラームを鳴らさずに治療を再開します。
- ・停電が発生してから30分を経過するまでの間は、どのキーを押しても「電圧低下」が表示され、治療データの確認ができます。もし、治療データを確認した場合は、電源が復帰した場合に「電源が復帰しました」アラームが表示されるので  /  を押して治療に戻ります。

3. 30分以内に電源が復帰しない場合

- ・停電発生後30分を経過すると「電圧低下」アラームが鳴ります。
- ・ でアラームを止めてください。
- ・ で治療データを確認することができます。

4. 約2時間以内に電源が復帰した場合

- ・停電が発生した所から治療を再開できます。電源が復帰した場合、「電源が復帰しました」アラームが鳴ります。
- ・ /  で治療を再開できます。

5. 約2時間以内に電源が復帰しない場合

- ・「治療終了 除水量確認後→」となりますので、治療を終了してください。
- ・かかりつけの病院に連絡を取り、指示を仰いでください。最初から治療をやり直すか、治療を変更して行うかしてください。
- ・もし長時間にわたり停電が継続する場合、ツインバッグで交換する必要があるかもしれません。



警告

停電から復帰した後で、ゆめセットがゆめシステム内にある場合、全てのクランプを閉じてから ➡ 開始ボタンを押して治療を開始してください。これにより、「回路セット後➡」の画面において、透析液バッグ同士や、患者様の接続チューブとの液の流れが制御できず、自由に透析液が流れてしまうことを防ぐことができます。制御が行われていない場合、落差による液の流れで過注液となる可能性があります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。過注液が疑われるときには、⏹ 停止ボタンをすぐに押し、▼ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法(254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

電圧低下時の治療データの確認および対処方法：

ボタン操作	表示	備考
どれかボタンを 押します	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">電圧低下</div> または <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">注液中：3/5</div> または <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">貯留中：3/5</div> または <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">排液中：3/5</div>	「電圧低下」と「○○中：○/○」が交互に表示されます。
▼を押す	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">注液量：50ml</div> または <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">貯留残り時間：0：52</div> または <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">排液量：100ml</div>	現在のサイクルの状態を表示します。
▼を押す	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">初回排液量：1200ml</div>	現在の治療の初回排液量
▼を押す	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">総除水量：450ml◇</div> または <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">現在の除水量：○○○ml</div>	前回排液までの総除水量または現在までの除水量
▼を押す	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">平均貯留時間：1：29◇</div>	現在の実際の平均貯留時間
▼を押す	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">治療を終了します</div>	治療を終了したい場合は、◆を押します。 ◆を押すと「クランプを閉じた後→」と表示されます。



注意 「初回排液」になるまでの間の治療準備中に停電またはコンセントや本体から電気コードが外れたり、電源スイッチが切れたりした場合は、ゆめシステムはオクルーダーを閉め表示が消えます。電源が再度入った場合、ゆめシステムは「設定確認▽後 治療開始→」の表示になります。全てのクランプを閉じてください。



注意

1. 停電中にボタンを操作して「電圧低下」アラームが発生した場合は、停電中ですので→を押しても、治療は再開しません。
2. バッテリーの充電状態により「約2時間以内」の条件は変わります。

【手動回避アラーム】

表示

注意：除水不良

原因

お腹に残っている液量が非常に多いというアラームです。
つまり、あるサイクルの排液が終了した時点で、それまでの総注液量から総排液量を差し引いた値が、1回注液量の50%（標準モード）* 以上お腹の中に残っている時、発生するアラームです。
※少液量モード（小児モード）では20%～60%の間で設定できます。

アラーム対処の手順：

手順1

□を押し、アラーム音を止めます。

手順2

下記の手順に従って「現在の除水量」を確認し、アラームを解除します。

手順3

体の向きなどを変えます。

手順4

→を押して、治療に戻ります。

このアラームが連続して発生したときには、必ずかかりつけの医療機関に連絡してください。医療機関の指示なしにバイパスしないでください。CCPD/IPD療法およびタイダール療法るとき、バイパスは1回のみ行えます。またハイブリッドCCPD療法およびハイブリッドタイダール療法るとき、バイパスは昼間1回、夜間1回のみ行えます。バイパスの手順は本冊子229～236ページを参照してください。



【注意：除水不良】アラームをむやみにバイパスしないでください。

- ・お腹の中に前回までの残液と次の注液量が入り過注液となる恐れがあります。バイパスを行うときは、過注液を避けるために部分注液となる方法でバイパスを行ってください。
- ・部分注液となるバイパス方法につきましては本冊子234ページを参照してください。
- ・過注液が疑われる場合には本冊子269ページを参照してください。

除水量を見たいときには……

ボタン操作	表示	備考
	注意：除水不良	
□を押す	注意：除水不良 排液中：○/○	アラーム音を止めます。 2つの表示が交互に表示されます。
▽を押す	排液量：○○○ml	現在のサイクルの排液量
▽を押す	初回排液量：○○○ml	現在の治療の初回排液量
▽を押す	排液の限度：○○○ml または タイダール排液量：○○○ml	このサイクルで出てきてほしい排液量を表示します。

10 困ったときの対処方法



「注意：除水不良」を発生させないためにはここで表示される液量以上排液する必要があるかもしれません。

▼を押す

現在の除水量：○○○ml

現在までの最新の除水量を表示します。

▼を押す

排液は終了していません

または

注意：除水不良

排液関連のアラーム名が表示されます。「排液は終了していません」は現在の排液サイクルで出なければならない排液量が出ていない場合表示されます。バイパスをなるべく回避していただくための注意です。

「注意：除水不良」は現在のサイクルまたは蓄積されたサイクルにおいて注液量の一定割合以上お腹に液が残っているときに表示されます。



ここでバイパスを選択すると、お腹に残った液を基準に次の注液は部分注液を行います。



警告

「注意：除水不良」をバイパスするとお腹に透析液を残したまま注液となることがあるので、過注液の可能性がります。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。過注液が疑われるときには、■停止ボタンをすぐに押し、▼ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法(254ページ)」をご覧ください。ご自分で異常を訴えることができない方(意識のない方、乳幼児や小児)に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。



注意

透析液を体内に再吸収していないのであれば、排液を再開するか、または強制排液を選択してください。排液を再開することによりアラームが再発するかもしれません。強制排液を複数回行えば、アラーム音の発生を抑えることができます。

次のA、B、Cどれかを選んでください

ボタン操作	表示	備考
A	バイパス◇	バイパスしたくない場合、➡開始ボタンを押して排液に戻ります。この手順を推奨します。
➡開始ボタンを押す	排液中：2/5	排液を始めます。
B	バイパス◇	
▼を押す	強制排液◇	強制排液が出るまで▼ボタンを押します。
◆を押す	排液量：○○○ml	強制排液が出たら◆設定ボタンを押します。
C	バイパス◇	
◆を押す	注意：除水不良	◆設定ボタンを押してアラームをバイパスしてください。
	注液中：3/5	「注意：除水不良」が一瞬出た後、次の注液に移ります。部分注液となります。



注意

「注意：除水不良」は同じ治療中に2回バイパスできません。

【手動回避アラーム】

表示

目標除水量が出ていません

原因

最終注液前排液を「ハイ」に設定した場合で、夜間の除水量が設定した「目標除水量」に達しなかったときに発生します。これは手動回避アラームです。

アラーム対処の手順:

手順1

□を押します。(「アラームを鳴らしますか:ハイ」に設定したときには、アラームが鳴っています。)

手順2

→を押して「排液中」に戻るか▼を押して他の項目を選びます。

手順3

さらに▼を押して、1.「排液量に関する情報」2.「バイパス」3.「強制排液」を選びます。

最終注液前排液について

最終注液を行う前に排液を行う方法です。

あらかじめ調整メニューにて処方を入力しておきます。(動作の仕組み、処方入力につきましては本冊子190ページを参照してください。)

設定した目標除水量に達しているときには、自動的に最終注液に移り、治療を終了します。

設定した目標除水量に達していないときには、再度「目標除水量が出ていません」の表示になります。何度でも同じ操作を行うことができます。

目標除水量に達していないが「最終注液」に移りたいときや、最終注液を行わずに終了したいときには、「バイパス」を行ってください。(本冊子229~236ページを参照してください。)



警告

「目標除水量が出ていません」をバイパスするとお腹に透析液を残したまま注液となるので、過注液の可能性があります。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、□停止ボタンをすぐに押し、▼ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方(意識のない方、乳幼児や小児)に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。



注意

「最終注液前排液」をご使用になるときは、医師の指示に従ってください。

【自動回避アラーム】

表示

液温調整中

原因

ヒーターバッグの液温センサーが40℃（標準モードの場合：少液量では39℃）より高い値を検出したため発生しました。室温と、ゆめシステムが発生する熱とが相まって液温を高くしていると考えられます。安全のため、本機器はこの温度より下がったことを確認後、注液を行います。

アラーム対処の手順：

手順1

電源スイッチを切って、ゆめシステムをさましてください。

ヒーターバッグの温度を下げる方法には下記のような方法があります。

* 扇風機をゆめシステムに向かって廻す。

* ゆめシステムの電源を切り、ヒーター部またはプレートより透析液バッグをおろしてぬれタオル、アイスノンなどで冷やす。（冷やし過ぎないようにご注意ください）

ヒーターバッグの液量が少なければ短い時間でさますことができます。

手順2

電源スイッチを入れます。「電源が復帰しました」が表示されます。

◻を押してから➡を押します。

液温が40℃（標準モードの場合：少液量では39℃）より下がっていれば治療を再開します。

手順3

もし「液温調整中」が出る場合、もう一度電源を切り、手順1から再度行ってください。



確認

液温調整中に時間がかかった場合、治療時間に影響が出る場合があります。ゆめシステムの使用温度は15℃～36℃です。この範囲になるように環境を整えてください。また、透析液・回路も同様に同じ範囲内で使用してください。

強制排液の手順

強制排液は、治療を停止し排液中にする操作です。治療終了後も強制排液を行うことができます。

対処方法:

手順	ボタン操作	表示	備考
手順1	 を押す	停止：注液中	どの状態で停止したのか、表示されます。
手順2	 を押す	注液量：○○○ml	
手順3	 を押す	総除水量：○○○ml	
手順4	 を押す	バイパス◇	
手順5	 を押す	処方の確認／変更◇	
手順6	 を押す	調整メニュー変更◇	
手順7	 を押す	強制排液◇	
手順8	 を押す	強制排液量：○○○ml	排液量を表示します。ゆめシステムが排液を感知しなくなる（流速が12mL／分を下まわり1分間以上経過または3mL／分を下まわり1分間以上経過（少液量モード））と強制排液が終了します。次に、  を押すと治療が再開します。注液中に強制排液を  停止したら、もう一度強制排液を行い強制排液が終了するまでお待ちください。



警告

注液中に強制排液を行っている場合は、停止したりバイパスしたりしないでください。過注液となることがあるためです。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、停止ボタンをすぐに押し、ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は上記をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

- ・治療中、強制排液終了後は「停止：○○中」と表示されます。➡を押して、強制排液前の操作にもどります。

「停止：○○中」表示のまま約30分経過すると機器が停止中であることをアラームが連続して鳴り、知らせます。⬛でアラームを止め➡を押して治療を再開してください。

- ・治療終了後の強制排液では、⬛を押さずに▽を押して強制排液の表示を出します。強制排液が終了すると「治療終了 除水量確認後➡」と表示されます。
- ・強制排液を行ったときには、サイクル数が減ることがあります。
- ・強制排液をするときの圧は通常の圧と同じです。

ポイント➡

強制排液を行ったときの排液量の記録について

1. 治療中に強制排液を行った場合 強制排液を行ったサイクルの排液として計算されます。

2. 治療終了後に強制排液を行った場合

治療終了後に強制排液を行った場合、治療結果リストには「治療後強制排液量」は表示されません。また、強制排液回数にも加算されません。PDリンクでも表示されません。



注意

*最終注液量の設定が0mLより大きいとき

「治療後強制排液量：○○○mL」と表示され、治療終了時および、電源を入れ直した時に表示を確認することができます。

*最終注液量の設定が0mLのとき

治療終了後の強制排液量は最終サイクルの排液量および除水量に含まれます。

過注液が疑われるときには以下に従ってください。

1. ⬛停止ボタンをすぐに押し、▽ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は右記を参照ください。また過注液が疑われる場合「10 困った時の対処方法（269ページ）」を参照してください。
2. 腹腔から完全に排液し終わったら、かかりつけの病院にご連絡をお願いします。
3. その際に、過注液についてだけには限らず、どのような苦情や症状が認められたかについてもご相談願います。
4. この手順を行うにあたってサポートが必要な場合、24時間通話無料のバクスターCAPDコールセンター（0120-506440）までご連絡願います。
5. もし過注液の症状が疑われ、しかもかかりつけの病院やバクスターCAPDコールセンターに連絡がつかない場合、119番に連絡して救急車を依頼するか、緊急対応ができる近くの病院に連絡してください。



警告

強制排液の手順 表示

現在の注液のサイクルが表示されています

1. ⬛を押す
2. ▽を押す
3. ▽を押す
4. ▽を押す
5. ▽を押す
6. ▽を押す
7. ▽を押す
8. ⬛を押す

注液中：3/5
停止：注液中
注液量：○○○mL
総除水量：○○○mL
バイパス
処方の確認/変更◇
調整メニュー変更◇
強制排液◇
強制排液量：○○○mL

排液量を表示します。ゆめシステムが排液を感知しなくなると強制排液が終了します。

9. ➡で注液に戻ります
10. もし注液途中で止まっていたら、再度「強制排液」を行ってください。

停止：注液中
注液中：3/5

【自動回避アラーム】

表示

装置の位置確認

原因

注液時、機器の位置が30cm以上^{※注1}ご使用者より低い位置にあるなど、注液が行われにくいときに発生します。

※注1 高さは患者さんによって、あるいは状態によって変わることがあります。

対処

次のことを調べます。

1. 機器の位置またはご使用者の位置
2. ラインの折れ曲がり
3. フィブリンの詰まり

問題箇所を直し、そのまま待ちます。ボタン操作の必要はありません。

自動的に治療に復帰できなかった場合のアラーム対処の手順:

手順1

■ を押し、アラーム音を止めます。

手順2

機器の位置、ご使用者の位置、ラインなどを調べ、問題箇所を直します。

手順3

➡ を押して、治療に戻ります。



このアラームが発生しているときにクランプを開けると、腹腔内に空気が入ることがあります。空気が腹腔に入ると、肩の痛みやおなかの痛みなど、思わぬ傷害につながる可能性があります。さらに、初回排液を完了する前にお腹に透析液が残っている状態で、空気が腹腔内に入ってしまうと、過注液となることがあるためです。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。過注液が疑われるときには、■ 停止ボタンをすぐに押し、▼ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法(254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

表示

カード不良

(ゆめ_{プラス}のみ)

処方は無効

(ゆめ_{プラス}のみ)

状態表示ランプ:



黄色点灯

原因1

カードに何らかの問題が見つかりました。

・今お使いになろうとしているゆめ_{プラス}には、過注液のリスクを減らす新しい機能が追加され、そのため今ゆめカードに記録されている処方が無効と判断された可能性があります(*)。この場合、ゆめカードの治療内容ではなくゆめ_{プラス}に入っている治療内容でゆめ_{プラス}は動作しようとしています。もし設定が入っていない機械であれば、初期設定が使用されます。

(*) ゆめシステムバージョン10.4では、タイダル量5~35%、総除水量: 10mLを受け付けなくなりました。

原因2

カードの内容が空白のままか、情報が破損しているか、カード自体が破損していることが考えられます。

対処の手順:

手順1

かかりつけの病院に電話して新しいカードを作ってもら

または

手順2

「処方は無効」画面で 設定ボタンを押してください。

手順3

「処方の確認/変更」画面および「調整メニュー」画面にて病院で指示された処方内容が入っているか確認してください。

治療開始前に、病院から指示を受けた設定になっているか必ず確認してください。設定になっていない場合、電話または直接病院と連絡を取り手で入力してください。

このアラームが解決されないと、治療結果が記録できません。

かかりつけの病院に連絡し新しいカードを受け取るまで

開始ボタンを押して「設定確認▽後 治療開始→」表示にします。

カードは使用できないため、手動で処方の確認を行ってください。処方の確認方法は本冊子198ページを参照してください。

処方の内容がわからない場合には、かかりつけの病院に連絡して処方内容を確認してください。このアラームが出た場合、治療の結果が記録されないこともありますので、記録ノートに治療の結果を書き留めてください。

「カード不良」/「処方は無効」を発生させないために…

・カードを抜き差しをするときは、ゆめ_{プラス}本体の電源を切ってから5秒以上経過してからにしてください。

(電源を切った直後で、漢字表示が消えた後でも、カードへのアクセスは数秒間継続しています。その間にカードの抜き差しをされるとデータが消えてしまうことがあります。)

・カードの金色の電極部分には素手でさわらないようにしてください。

・カードには、病院で貼られたシール以外のものを張りつけないでください。

・病院へお持ちになるときは、かならず専用のケースに入れてください。

〈病院の方へ〉

・PDリンク用パソコンから、フラッシュパスアダプターを抜くときは、フロッピードライブの動作中ランプが消えてからにしてください。



確認

表示**カードが入っていません**(ゆめ^{プラス}のみ)**状態表示ランプ:**

黄色点滅

原因

電源を入れたとき、治療が終了するとき又は停電から復帰したときに、カードが差し込まれていないかまたは正しく差し込まれていない場合に表示されます。

対処

電源を切ってください。再度カードを正しく差し込んで電源を入れてください。正しく差し込まれていることが確認できると、状態表示ランプは緑色に変わり表示が消えます。

この状態が回避できない場合は➡開始ボタンを押すと次の操作に進めます。

このとき、治療結果は記録されません。かかりつけの病院に連絡し、指示に従ってください。

表示**カードの空き容量なし**(ゆめ^{プラス}のみ)**状態表示ランプ:**

黄色点滅

原因

治療結果の内容がかかりつけの病院で読まれていないため、カードの書き込み部分が一杯になっています。

対処

カードをかかりつけの病院に持参し、「カードの書き込み部分が一杯になっている」ことを伝えカードの内容を読み取っていただけてください。

かかりつけの病院でカードの記録を読み取るまで

➡開始ボタンを押して次に進めることができます。

次の治療結果は、記録することができますが、新しい治療結果を記録すると上書きされ、古い治療結果は順に消されます。

表示

カード読み取りエラー

(ゆめ^{プラス}のみ)

状態表示ランプ：



黄色点灯

原因

本機器の「カード読み取り器」(カードリーダー)部分でなんらかの問題が見つかりました。

このエラーは、電源スイッチを入れたときに表示され、アラームが一度だけ鳴ります。

対処

バクスターCAPDコールセンターに連絡してください。

■ 停止ボタンを押すと「設定確認▽後 治療開始→」になり、次に進むことができます。

ただし、治療結果はカードに記録されません。

記録ノートに治療の結果を書き留めてください。

表示

カードの使用中止

(ゆめプラスのみ)

状態表示ランプ:



消 灯

原因

新しいゆめプラスに初めてカードを入れて電源を入れた後、「カード内容を確認◇」「氏名」「ID番号」の表示をしている間に、 停止ボタンを押した場合、この表示がでます。

対処

約5秒後に「設定確認▽後 治療開始→」の表示となります。

- ①表示されていた「氏名」がご使用者のものである場合
一度電源を切った後、もう一度電源を入れてください。その後、本冊子52ページの「**③-4 退院後・受診後の手順**」の手順に従ってカードの内容をゆめプラスに転送してください。
- ②表示されていた「氏名」がご使用者のものでない場合
当日の治療は病院の指示に従って、処方を手で入力してから行ってください。また、病院に連絡し、新しいカードを受け取ってください。

表示

カードの処方使用中止

(ゆめプラスのみ)

状態表示ランプ:



消 灯

原因

「処方の変更内容を確認◇」およびその後の各処方内容の表示をしている間に、 停止ボタンを押した場合、この表示がでます。

対処

約5秒後に「設定確認▽後 治療開始→」の表示となります。

- ①表示されていた処方内容が先生の指示と同じ場合
一度電源を切った後、もう一度電源を入れてください。その後、本冊子42ページの「**③-4 退院後・受診後の手順**」の手順に従ってカードの内容をゆめプラスに転送してください。
- ②表示されていた処方内容が先生の指示と違う場合
カードは入れたまま、当日の治療は病院の指示に従って、処方を手で入力してから行ってください。装置にカードが入っていれば、治療終了時に治療結果が記録されます。また、病院に連絡し、新しいカードを受け取ってください。

表示

カードリーダー使用不可

(ゆめ^{プラス}のみ)

状態表示ランプ：



消 灯

原因

かかりつけの病院でカードを使用できない設定にしています。

対処

かかりつけの病院に連絡して「カードが使用できないようにしている」のかを確認してください。

➡開始ボタンを押すと「設定確認▽後 治療開始→」になり、次に進むことができます。治療を開始するときは、処方内容を必ず確認するか処方を入力してください。

記録ノートに治療の結果を書き留めてください。

【手動回避アラーム】

表示

傾斜異常

原因

ゆめシステム本体が傾いています。またはゆめシステム本体の異常も考えられます。

治療開始前、治療終了後は手動回避アラームです。

治療中は自動回避アラームです。

対処

アラーム発生後、機器の設置場所を平らに直すかまたは平らな場所へ移してください。

そのまま待ちます。ボタン操作は必要ありません。

自動的に治療に復帰できなかった場合のアラーム対処の手順:

手順1

□ を押し、アラーム音を止めます。

手順2

機器の設置場所を平らに直すかまたは平らな場所へ移してください。

手順3

➡ を押して、治療に戻ります。

表示**少液量モードは無効****原因**

「標準モード」で作動しているが、注液量が1000mL以下で治療を開始しようとしたため発生しました。「少液量モード」(小児モード)では動作していないという意味です。

これは特殊なお知らせで、 開始ボタンで次に進みます。

対処の手順：**手順1**

 を押して、「回路セット後」へ進みます。

**確認**

「少液量モード」(小児モード)に変更したい場合は、かかりつけの病院にお問い合わせください。

【手動回避アラーム】

表示

除水量が上限を超えました

少液量モード (小児モード) のみ

原因

総排液量から総注液量を差し引いた値が、「除水量 上限 : ○○○ml」の設定値を超えました。

つまり、予想より除水が多かったか、または「除水量 上限」の設定値が予想より低いかのどちらかで発生します。

なお、「除水量 上限 : ○○○ml」の設定範囲は0～5000mLです。

アラーム対処の手順：

手順1

□ を押し、アラーム音を止めます。

手順2

「バイパス」が出るまで、▼ を押します。

手順3

◆ を押して、バイパスします。

これにより、バイパスできて治療が継続します。連続してこのアラームが出る場合は、かかりつけの病院に連絡して、指示をいただいでください。

設定値が適切でないか、または透析液の種類が適切でないかのどちらかが原因と考えられます。

【手動回避アラーム】

表示

総注液量を確認

昼間注液量確認

治療時間を確認

最終注液量確認

初回排液量確認

患者体重確認

注液量確認

総除水量を確認

夜間注液量確認

タイダール量を確認

原因

処方設定で入力した数値が適切ではありません。このアラームは処方設定時に発生します。

アラーム対処の手順:

手順1

□ を押し、アラーム音を止めます。

入力し直さなくてはならない数値が表示部に自動的に点滅します。

手順2

▲ または ▼ を押して、数値を入力し直します。

手順3

◇ を押して、数値を確定します。

手順4

□ を押して、「処方の確認/変更◇」のメニューを終了します。



「治療時間を確認」について

ゆめシステムは貯留時間の間にヒーターバッグに補液 (330mL/分) を行います。補液量に応じた貯留時間が確保できないとき、および必要な注排液時間が確保できないときに「治療時間を確認」のアラームが鳴ります。

【手動回避アラーム】

表示

注液は終了していません

排液は終了していません

補液は終了していません

原因

アラームや各モードの途中でバイパスしようとしたため、再度確認するためにアラームが鳴りました。

アラーム対処の手順：

手順1

■ を押し、アラーム音を止めます。

手順2

バイパスしても安全かどうか、かかりつけの医療機関に確認してください。バイパスしたい場合は、「バイパス」が表示されるまで ▼ を押し続けます。（バイパスを中止する場合は、➡ を押すと元のモードが再開します。）

手順3

◆ を押してバイパスします。
バイパスすると、次のサイクルまたはモードに移ります。

排液中をバイパスしたとき、次回のサイクルの注液量が設定量と異なることがあります。



警告

排液をバイパスするとお腹に透析液を残したまま注液となるので、過注液の可能性があります。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。過注液が疑われるときには、■ 停止ボタンをすぐに押し、▼ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法（254ページ）」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

ポイント

排液をバイパスした場合

排液量が「排液の限度%」以下 ……▶ 次の注液は部分注液となります。

排液量が「排液の限度%」以上 ……▶ 次の注液は全量注液となります。

* 「排液の限度%」の初期設定値は85%です。

表示**バッテリー電圧不足****原因**

機器を長期間使用しなかったために、バッテリーが消耗しているまたはバッテリーに寿命が来ています。
アラーム音は鳴りません。

対処

そのまま使用します。

ゆめシステムの電源スイッチが入っている間(100Vが来ているとき)は充電されています。治療終了後、8時間程度電源を入れた状態にしておくと、充電が完了します。

次回の治療時(日数を空けていない)にも出現するときには、バクスターCAPDコールセンター(0120-506-440)へ電話して指示に従ってください。

表示

病院へ連絡してください

互換
に表示

排液量過剰 ABC

原因

治療中のどこかで、大量の排液量があった場合に表示されます。現在の治療であれば治療の終了時に、また治療を中断した場合は、電源を入れなおした最初に出てきます。

「大量の排液量」とは、標準モードの場合、注液量の最大値（注液量、夜間注液量、昼間注液量、最終注液量のうちどれか大きい方）の200%を超えて排液された場合です。少液量モードの場合、注液量の最大値（注液量、夜間注液量、昼間注液量、最終注液量のうちどれか）の190%を超えて排液された場合です。「排液量過剰」の後に表示される数字は「いつ」排液量が大量だったのかを示しています。

1桁目の数字 (A)	2・3桁目の数字 (BC)
0=昼間交換時の排液	昼間交換のサイクル数
1=夜間交換時の排液	夜間交換のサイクル数
2=強制排液	強制排液の回数 (回目)

例えば、「排液量過剰 105」が出た場合、夜のサイクルの5サイクル目に、注液量の200%以上の排液が観察されたことを意味します。

アラーム対処の手順：

手順1

■ 停止ボタンを押してアラーム音を止めます。

手順2

病院またはバクスターCAPDコールセンターに電話して、どうしたらこのアラームを鳴らさずに済ませるかの可能性について相談してください。

手順3

このアラームが継続するのであれば、かかりつけの病院にご相談ください。場合によっては、過注液の危険性を減らすため、処方内容を変更する必要があります。



警告

「病院へ連絡してください」「排液量過剰 ABC」表示は治療中に過注液が発生した記録があったことを示しています。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。過注液が疑われるときには、■ 停止ボタンをすぐに押し、▼ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順「10 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

現象

過注液が疑われるとき

過注液が発生したり、排液量が十分でない場合、腹腔内に排液が多く残り、過注液といわれる状況になります。過注液は腹膜透析療法に固有のリスクです。症状が現れない方もいらっしゃるいますが、多くの場合以下のような症状をもたらします。

- ・満腹感、膨張感や、過注液感
- ・PDカテーテル出口部からの液漏れ
- ・お腹の痛みや不快感
- ・呼吸困難
- ・お腹の拡張感
- ・腹部の“おかしい感じ”（小児）
- ・嘔吐感、唾液過多
- ・泣く（小児）
- ・食事がしにくい
- ・血圧の上昇
- ・PDカテーテル周りや下腹部、鼠蹊部、
性器の部分的なふくらみ

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。



ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に注意してください。「① 安全にご使用いただくために」の過注液の部分により詳しい注意事項をまとめていますのであわせてご参照ください。

対処

過注液が疑われるときには以下に従ってください。

1. 停止ボタンをすぐに押し、 ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は右記を参照ください。また過注液が疑われる場合「⑩ 困ったときの対処方法（269ページ）」を参照してください。
2. 腹腔から完全に排液し終わったら、かかりつけの病院にご連絡をお願いします。
3. その際に、過注液についてだけには限らず、どのような苦情や症状が認められたかについてもご相談願います。
4. この手順を行うにあたってサポートが必要な場合、24時間通話無料のバクスターCAPDコールセンター（0120-506440）までご連絡願います。
5. もし過注液の症状が疑われ、しかもかかりつけの病院やバクスターCAPDコールセンターに連絡がつかない場合、119番に連絡して救急車を依頼するか、緊急対応ができる近くの病院に連絡してください。

強制排液の手順：

手順	ボタン操作	表示	備考
		注液中：3/5	現在の注液のサイクルが表示されています。
手順1	ボタンを押す	停止：注液中	
手順2	を押す	注液量：○○○ml	
手順3	を押す	総除水量：○○○ml	
手順4	を押す	バイパス	
手順5	を押す	処方の確認/変更◇	
手順6	を押す	調整メニュー変更	
手順7	を押す	強制排液	
手順8	を押す	強制排液量：○○○ml 停止：注液中	排液量を表示します。ゆめシステムが排液を感知なくなると強制排液が終了します。
手順9	を押す	注液中：3/5	注液に戻ります。
手順10			もし注液途中で止まっていたら、再度「強制排液」を行ってください。

緊急時の切り離し方法



警告

この手順では緊急時に短時間切り離す方法についてのみ説明しています。長時間にわたってゆめシステムから離れる場合は貯留時間が長くなってしまいます。もし貯留時間が30分以上続くと、治療終了時に「貯留時間延長」アラームが表示されます。



警告

感染を防ぐため、病院で指導を受けたように清潔操作で行ってください。マスクをし、手洗いをし、乾燥（または消毒）させてください。

ゆめシステムからの切り離し：

手順1

■ 停止ボタンを押します。「停止：○○○中」が表示されます。貯留中に停止になると、貯留時間がゼロになるまでカウントされます。

手順2

コネクターラインと接続チューブのクランプを閉めます。

手順3

清潔操作で切り離しの準備をします。

手順4

新しいミニキャップ、UVフラッシュディスクコネクトキット、APDキット、UV APDキットを用意します。

手順5

接続チューブをゆめセットから切り離し、それぞれのキャップをします。それぞれの接続チューブの切り離し手順にしたがって切り離します。APDキットとUV APDキットの場合、ゆめセットのコネクターライン先端にも該当するキャップを取り付けます。

手順6

切り離しが終了したらそこから離れることができます。



確認

30分経過すると、ゆめシステムはアラームを鳴らします。治療を再開しないのであれば、「治療の強制終了」の手順に従ってください。

ゆめシステムへの再接続：



警告

感染を防ぐため、病院で指導を受けたように清潔操作で行ってください。マスクをし、手洗いをし、乾燥（または消毒）してください。

手順1

マスクをして手を洗います。

手順2

接続チューブとゆめセットを接続します。それぞれの接続チューブの接続手順に従って再接続を行います。

手順3

接続が完了したら、コネクターラインと接続チューブのクランプを開けます。

手順4

➡ 開始ボタンを押して治療を再開します。

手順5

使用済みのキャップは廃棄します。

手順6

治療に戻ります。

11 表示部の説明

ゆめシステムでは準備中、治療中を通じて、いろいろな表示を見ることができます。ゆめシステム表示部の中に、下のような表示のリストが隠れていると考えてください。このリストの一部が、表示部に表示されています。

▽△を操作することにより、リストの一つ上や下の表示を見ることができます。

▽を押し続け、表示が変わらなくなったらリストの一番下まで行きついたということになります。

もう一度その表示を見たいときには、△で戻る必要があります。

表示の最後に◇マークがついているものは、◆を押すことによりさらに詳しい情報を得ることができます。□を押すともとのリストの一番上の表示に戻ります。

[例]

表示のリスト

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">注液量：1800ml</div> <p style="font-size: small;">ゆめシステムの表示部</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">この部分が表示されています</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">注液量：1800ml</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">初回排液量：1200ml</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">総除水量：25ml◇</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">平均貯留時間：1：17◇</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">処方の確認◇</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">午後10：25</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">終了時間：午前6：52</div>
---	--

リスト中の表示

「表示部の説明」目次

- | | |
|---|---|
| <p>⑪-1 治療開始時の表示272</p> <p>⑪-2 治療中の表示
(CCPD/IPD・タイダール療法の場合)</p> <p>(1) 初回排液中274</p> <p>(2) 注液中275</p> <p>(3) 貯留中276</p> <p>(4) 排液中277</p> <p>⑪-3 治療終了時の表示278</p> | <p>⑪-4 治療停止中の表示279</p> <p>(1) 注液中／貯留中279</p> <p>(2) 初回注液中／排液中280</p> <p>⑪-5 アラーム発生時の表示281</p> |
|---|---|

11-1 治療開始時の表示

ボタン操作	表示	備考
機器の電源を入れます。	標準モード ^{※注1} で作動します 設定確認▽後 治療開始→	治療開始の準備をします。 (ゆめ ^{プラス} で追加情報を入力する場合、「 体重： 」等の表示が出ます)
▽を押す	処方の確認/変更◇	◇を押すと現在記憶されている処方を確認または変更できます。 (病院の設定によっては「 処方の確認◇ 」と表示される場合があります)
▽を押す	調整メニュー変更◇	◇を押すと表示部の明るさ、音量、スリープ機能、時刻、年月日、初回排液の限度、注液温度、最終注液前排液を調整できます。
▽を押す	初回排液量：1950ml	前回の治療で得られた初回排液量です。 お腹の中が空の場合マイナスの表示が出ることがあります。
▽を押す	治療後強制排液量：200ml	前回の治療で最終注液を治療終了後強制排液したときにだけ表示されます。最終注液後の強制排液で得られた排液量です。
▽を押す	前回除水量：1350ml◇	前回の治療で得られた総除水量 ◇を押すと各サイクルごとの除水量が表示されます。 もしこの値が通常より少なかったり、マイナスだったら、治療開始時の「 初回排液限度：○○ml 」の表示で一時的に初回排液の限度を上げることにより、初回排液を完全に終了することができます。「 ⑩ 困ったときの対処方法 」の「 初回排液の限度 (245ページ) 」を参照してください。
▽を押す	平均貯留時間：1：34◇	前回治療での実際の貯留時間を1サイクルの平均で出したものです。
▽を押す	アラームリスト◇	◇を押すと、最高20項目まで過去に発生したアラームを見ることができます。アラームが発生していなければ「 リストはありません 」と表示されます。

※注1 少液量モード(小児モード)の場合、「**少液量モード**」と表示します。

- ▼を押す

治療結果リスト◇

◆を押すと治療終了の結果を5～6回分確認することができます。
- ▼を押す

モデム確認◇

ゆめ^{プラス}をご使用時に表示されます。(現在この機能は使用できません)
- ▼を押す

午後9：30

現在時刻が表示されます。
- ▼を押す

バージョン：10.4XX

ソフトウェアバージョンが表示されます。



この取扱説明書はゆめシステムのバージョンが10.4XX (XXは2桁の数字) のものについて適用します。



治療中に、空になった透析液バッグを新しい透析液バッグに交換したり、切り離した透析液バッグをつないだりしないでください。透析液や透析液の流路を汚染する可能性があります。透析液や透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。



治療中に透析液バッグが外れてしまったら、治療の強制終了に従ってください。その後かかりつけの医療機関にご相談ください。
治療終了後、使用済みのゆめセットや透析液バッグは廃棄してください。もし再利用すると透析液や透析液の流路を汚染する可能性があります。透析液や透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や健康被害を負ったり死亡したりする恐れがあります。

11-2 治療中の表示 [CCPD/IPD・タイダール療法の場合]

治療中には次の表示を見ることができます。

(1) 初回排液中

治療を開始すると、 **初回排液**

が表示されます。治療は必ず排液から始まります。機器による第1回目の排液のことを初回排液と呼びます。初回排液に関して詳しい情報を得たい場合は、下の手順に従います。

もし前回の治療が何らかの理由で早く終わっていたり、ゆめシステムを使わない交換を行ったりした場合、通常より多い液量がお腹に残っている場合があります。そのような場合、設定されている「**初回排液の限度**」の設定値が低すぎる場合があります。過注液をさけるため以下のどちらかの手順に従ってください。

・治療開始時に「**初回排液限度：○○ml**」表示が出たら、**停止ボタン**を押し**▽△**ボタンで「初回排液限度」の今回だけの設定値を、予想されるお腹の液量の70%以上に変更してください。

または

・治療開始時に「**初回排液限度：○○ml**」表示が出なければ、**停止ボタン**を押して**▽**ボタンで「**強制排液◇**」を表示してください。そして**設定ボタン**で強制排液を行ってください。

強制排液が終了すると「**停止：排液中**」表示が出ます。アラーム音を鳴らさずにも何度でも強制排液が可能です。通常の「**排液**」に戻すとアラームがなることがあります。

ゆめシステムは、初回排液の終了時点でお腹の中が空になったと判断します。もしご自分で空ではないと思われた場合、お腹の中の液体が過注液につながる場合があります。

初回排液が始まってから治療を中断したい場合、治療強制終了（227ページ）の手順をご参照ください。



初回排液で出てくる排液の混濁を確認してください。排液の混濁がある場合、かかりつけの病院にお電話してください。排液の混濁は腹膜炎の可能性を示しています。



「**排液量不良**」を初回排液中にバイパスするとお腹に透析液を残したまま注液となることがあるので、治療の後半で過注液の可能性があり

ります。体の位置を変えたり立ち上がったたりして排液ができるように工夫してください。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。過注液が疑われるときには、**停止ボタン**をすぐに押し、**▽**ボタンを押して「**強制排液**」を行ってください。「**強制排液**」の手順は「**10 困ったときの対処方法（254ページ）**」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。



・「**排液量不良**」アラームが出ない限り、初回排液はバイパスできません。

・排液が流れていないにもかかわらず、まだお腹に液が残っていると思われるときは、姿勢を変えてください。排液が出にくいところに液が残っているのであれば姿勢を変えることにより出てくる場合があります。

ボタン操作	表示	備考
▽ を押す	排液量：50ml	現在の排液量が表示されます。
▽ を押す	処方の確認◇	◇ を押すと現在の治療の処方内容を確認することができます。
▽ を押す	午後10：25	現在時刻です。
▽ を押す	終了時間：午前6：52	治療が終了する予定の時間です。リストの一番下の画面です。

(2) 注液中

初回排液が終わると注液が始まります。ゆめシステムはヒーターバッグから患者様のお腹に透析液を注入します。

注液中は、

注液中：1/5

が表示されます。これは5サイクル中の1サイクル目の注液中という意味です。注液中に関して詳しい情報を得たい場合は、下の手順に従います。



過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。過注液が疑われるときには、**■** 停止ボタンをすぐに押し、**▼** ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「**⑩** 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

ボタン操作	表示	備考
▼ を押す	注液量：50ml	現在の注液量が表示されます。
▼ を押す	初回排液量：1200ml	現在の治療の初回排液量です。お腹の中が空の場合マイナスの表示が出ることがあります。
▼ を押す	総除水量：252ml◇	治療を始めてから前回排液までの総除水量。 ◆ を押すとサイクルごとの除水量を見ることができます。
▼ を押す	平均貯留時間：1：32◇	その治療の実際の平均貯留時間です。 ◆ を押すとサイクルごとの貯留時間を見ることができます。
▼ を押す	処方の確認◇	◆ を押すと現在の治療の処方内容を確認することができます。
▼ を押す	午後11：25	現在時刻です。
▼ を押す	終了時間：午前6：52	治療が終了する予定の時間です。リストの一番下の画面です。

(3) 貯留中

1サイクル目の注液が終わると貯留中になります。貯留中に腹膜から透析液の中に老廃物と余分な水分が移動していきます。また、ゆめシステムは次の注液のための透析液をヒーターバッグにくみあげ温めます。

貯留中は、

貯留中：1/5

が表示されます。これは5サイクル中の1サイクル目の貯留中という意味です。貯留中に関して詳しい情報を得たい場合は、下の手順に従います。



貯留中に **■** 停止ボタンを押してから **▶** 開始ボタンを押すと、ゆめシステムは透析液の移動を止めるのでノイズが減ります。ところが、それにより液量の測定精度が下がって、特にサイクル数が多くなりがちなタイダール療法を行っている患者様や、注液量が少ない患者様においてお腹の中の液がだんだん増えることにより、過注液となることがあります。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。過注液が疑われるときには、 **■** 停止ボタンをすぐに押し、 **▼** ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「**⑩** 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

ボタン操作	表示	備考
▼ を押す	貯留残り時間：0：52	現在サイクルの貯留時間の残り時間です。
▼ を押す	初回排液量：1200ml	現在の治療の初回排液量です。 お腹の中が空の場合マイナスの表示が出ることがあります。
▼ を押す	総除水量：125ml◇	治療を始めてから前回排液までの総除水量。 ◆ を押すとサイクルごとの除水量を見ることができます。
▼ を押す	平均貯留時間：1：32◇	その治療の実際の平均貯留時間です。 ◆ を押すとサイクルごとの貯留時間を見ることができます。
▼ を押す	処方の確認◇	◆ を押すと現在の治療の処方内容を確認することができます。
▼ を押す	午前1：02	現在時刻です。
▼ を押す	終了時間：午前6：52	治療が終了する予定の時間です。 リストの一番下の画面です。

(4) 排液中

貯留中が終わると排液中になり、1つのサイクルが終了します。

排液中は、

排液中：1/5

が表示されます。これは5サイクル中の1サイクル目の排液中という意味です。排液中に関して詳しい情報を得たい場合は、下の手順に従います。



警告

排液をバイパスするとお腹に透析液を残したまま注液となることがあるので、過注液の可能性がります。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、 停止ボタンをすぐに押し、 ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

ボタン操作	表示	備考
を押す	排液量：100ml	現在サイクルの排液量が表示されます。
を押す	初回排液量：1200ml	現在の治療の初回排液量です。 お腹の中が空の場合マイナスの表示が出る場合があります。
を押す	現在の除水量：125ml	治療を始めてから現在までの総除水量。 を押すとサイクルごとの除水量を見ることができます。
を押す	平均貯留時間：1：32	その治療の実際の平均貯留時間です。 を押すとサイクルごとの貯留時間を見ることができます。
を押す	処方の確認	を押すと現在の治療の処方内容を確認することができます。
を押す	午前1：02	現在時刻です。
を押す	終了時間：午前6：52	治療が終了する予定の時間です。 リストの一番下の画面です。

11-3 治療終了時の表示

最終サイクルまたは最終注液が終わるとゆめシステムは治療終了となります。

治療終了時、 **治療終了 除水量確認後→**

が表示されます。治療を終了する前に、以下の操作を行います。

ボタン操作	表示	備考
▼を押す	初回排液量：1200ml	現在の治療の初回排液量です。お腹の中が空の場合マイナスの表示が出ることがあります。
▼を押す	治療後強制排液量：200ml	最終注液後に強制排液したときにだけ表示されます。強制排液で得られた排液量です。
▼を押す	総除水量：850ml◇	一回の治療の除水量の合計です。◇を押すとサイクルごとの除水量が見られます。
▼を押す	平均貯留時間：1：32◇	治療を通じての実際の平均貯留時間です。◇を押すと、サイクルごとの貯留時間が見られます。
▼を押す	貯留時間短縮：1時間12分 または 貯留時間延長：1時間12分	処方設定により表示される貯留時間より短かった（または長かった）場合の時間を表示します。総貯留時間が短かった（または長かった）場合で確認をしなかったときには、アラームが鳴り自動的に表示されます。
▼を押す	強制排液◇	◇を押すと、強制排液を行うことができます。
▼を押す	アラームリスト◇	◇を押すと、最高20項目まで過去に発生したアラームを見ることができます。リストの一番下の画面です。

治療後、表示を確認せずに電源を切った場合

次の治療が開始される前であれば電源を入れて「**設定確認▼後 治療開始→**」を表示させ、▼を押すことにより前回の初回排液量、治療後強制排液量、前回除水量、平均貯留時間の表示を見ることができます。



以下のようなことがあった場合、かかりつけの医療機関にご相談ください

- ・治療を完了できなかった
- ・最終注液を飛ばした（実行しなかった）
- ・1サイクルまたはそれ以上の排液をバイパスした
- ・かかりつけの病院から指導を受けたことと違う状況になった

何回も治療をうまく終えられなかったり治療の一部を飛ばした場合、貯留時間や治療時間が短くなり、尿毒症の原因となることがあります。

11-4 治療停止中の表示

治療中に  を押すと、「停止」と治療のサイクル名が表示されます。

停止：注液中

停止：貯留中

停止：排液中

このとき、以下のような表示を見ることができます。  を押すと治療が再開します。

(1) 治療停止中の表示（注液中／貯留中）

ボタン操作	表示	備考
 を押す	停止：注液中	
 を押す	注液量：100ml または 貯留残り時間：0：52	 が押される直前の状態を表示します。
 を押す	総除水量：○○○ml◇	治療を始めてから前回排液までの総除水量。  を押すとサイクルごとの除水量を見ることができます。
 を押す	バイパス◇	バイパスをする場合は、  を押します。詳細は、本冊子229～236ページを参照してください。
 を押す	処方の確認/変更◇	処方内容を確認、変更する場合は  を押します。詳細は本冊子198ページの「  処方の確認・変更方法」を参照してください。 ナースメニューで「処方内容保護：ハイ」となっている場合は「処方の確認◇」と表示されます。
 を押す	調整メニュー変更◇	表示部の明るさ、アラーム音の大きさ、スリープ機能、時間、日付、初回排液限度、注液温度を調整する場合は  を押します。詳細は本冊子282ページの「  調整メニュー」を参照してください。
 を押す	強制排液◇	強制排液する場合は、  を押します。詳細は本冊子254ページを参照してください。
 を押す	アラームリスト◇	 を押すと、過去に発生したアラームの内容を最高20項目見ることができます。
 を押す	バージョン：10.4XX	ゆめシステムのソフトウェアバージョンを表示します。 リストの一番下の画面です。



この取扱説明書はゆめシステムのバージョンが10.4XX（XXは2桁の数字）のものについて適用します。

(2) 治療停止中の表示（初回排液中／排液中）

ボタン操作	表示	備考
□を押す	停止：排液中	
▽を押す	排液量：○○ml	□停止ボタンが押される前の状態を表します。
▽を押す	初回排液の限度：○○ml または 排液の限度：○○ml または タイダール排液量：○○ml	このサイクルで期待される排液量を示します。  【注意：除水不良】 アラームを回避するため、この基準値よりも多く排液する必要があるかもしれません。
▽を押す	現在の除水量：○○ml	現在までの除水量が表示されます。
	初回注液中は表示されません。	
▽を押す	排液は終了していません バイパス	もし現在までの排液量が期待される排液量で示された値より出ていない場合、「排液は終了していません」の表示が出ます。バイパスをなるべく回避していただくための注意です。
▽を押す		バイパスが表示されます。バイパスの手順は229～236ページをご参照ください。
	初回排液中には、流速不良状態または流速なし状態でない限り、バイパスは表示されません。	
▽を押す	処方の確認／変更◇ または 処方の確認◇	設定によっては「処方の確認◇」と表示されます。処方の確認または変更をするときには◇設定ボタンを押してください。処方の確認・変更方法は「⑨処方の確認・変更方法」をご参照ください。
▽を押す	調整メニュー変更◇	調整メニューを変更するときに使用します。調整メニューの確認・変更方法は「⑫調整メニュー」の内容をご参照ください。
▽を押す	強制排液◇	強制排液を行うときに使用します。
▽を押す	アラームリスト◇	最近の20個のアラームを確認するときに使用します。
▽を押す	バージョン：10.4	ゆめシステムのソフトウェアバージョンを表示します。リストの一番下の画面です。
	この取扱説明書はゆめシステムのバージョン10.4XXについての説明をしています（XXは2桁の数字）。	



警告

初回排液中や排液中に「排液量不良」をバイパスするとお腹に透析液を残したまま注液となることがあるので、治療の後半で過注液となることがあります。体の位置を変えたり立ち上がったたりして排液ができるように工夫してください。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、□停止ボタンをすぐに押し、▽ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「⑩ 困ったときの対処方法（254ページ）」をご覧ください。ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

11-5 アラーム発生時の表示

アラーム発生時にアラームを止めるために  を押したとき次のように表示されます。

ボタン操作	表示	備考
 を押す	<div style="border: 1px solid black; background-color: #00AEEF; color: white; padding: 5px; text-align: center;">排液量不良</div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #00AEEF; color: white; padding: 5px; text-align: center;">排液中：2/5</div>	アラーム内容と現在行われていた治療内容が交互に表示されます。
 を押す	<div style="border: 1px solid black; background-color: #00AEEF; color: white; padding: 5px; text-align: center;">排液量：1600ml</div>	現在サイクルの状態を表示します。
 を押す	<div style="border: 1px solid black; background-color: #00AEEF; color: white; padding: 5px; text-align: center;">初回排液量：○○○ml</div>	この画面は初回排液中には表示されません。初回排液量が不十分だと、お腹に透析液が残った状態になります。その場合、実際の除水量が、表示される除水量より少なくなります。
 を押す	<div style="border: 1px solid black; background-color: #00AEEF; color: white; padding: 5px; text-align: center;">初回排液の限度：○○ml</div> <p style="text-align: center;">または</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #00AEEF; color: white; padding: 5px; text-align: center;">排液の限度：○○○ml</div> <p style="text-align: center;">または</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #00AEEF; color: white; padding: 5px; text-align: center;">タイダール排液量：○○○ml</div>	このサイクルで出てきてほしい排液量を表示します。
<div style="display: flex; align-items: center;">  <p>「注意：除水不良」を発生させないためにはここで表示される液量以上排液する必要があるかもしれません。</p> </div>		
 を押す	<div style="border: 1px solid black; background-color: #00AEEF; color: white; padding: 5px; text-align: center;">現在の除水量：○○○ml</div>	現在までの最新の除水量を表示します。
 を押す	<div style="border: 1px solid black; background-color: #00AEEF; color: white; padding: 5px; text-align: center;">排液は終了していません</div> <p style="text-align: center;">または</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #00AEEF; color: white; padding: 5px; text-align: center;">注意：除水不良</div>	排液関連のアラーム名が表示されます。 「排液は終了していません」 は現在の排液サイクルで出なければならない排液量が出ていない場合表示されます。バイパスをなるべく回避していただくための注意です。 「注意：除水不良」 は現在のサイクルまたは蓄積されたサイクルにおいて注液量の一定割合以上お腹に液が残っているときに表示されます。
 を押す	<div style="border: 1px solid black; background-color: #00AEEF; color: white; padding: 5px; text-align: center;">バイパス◇</div>	バイパスする場合は  を押します。詳細は本冊子229～236ページを参照してください。アラームの種類により、バイパスが行えないと判断した場合はバイパス表示は出ません。
 を押す	<div style="border: 1px solid black; background-color: #00AEEF; color: white; padding: 5px; text-align: center;">処方の確認／変更◇</div>	処方内容を確認・変更する場合は  を押します。詳細は本冊子198ページの「  処方の確認・変更方法」を参照してください。 ナースメニューで「処方内容保護：ハイ」となっている場合は「処方の確認◇」と表示されます。
 を押す	<div style="border: 1px solid black; background-color: #00AEEF; color: white; padding: 5px; text-align: center;">強制排液◇</div>	強制排液をする場合は  を押します。詳細は本冊子254ページを参照してください。リストの一番下の画面です。

12 調整メニュー

「調整メニュー」では次ページ以降の項目が含まれています。これらの項目は操作パネルから直接か、医療機関から渡されたカードで設定できます。直接変更する場合の基本手順を以下に示します。

12-1 調整メニュー変更の基本手順

手順

ボタン操作

変更を行うには「調整メニュー変更◇」表示のときに  設定ボタンを押してください。

手順 1  設定ボタンを押す。変えたい項目を選びます。変えたい値が点滅します。

手順 2   を使って調節します。

手順 3  設定ボタンを押し、値を確定します。点滅は止まります。

手順 4  を押し、次の項目に進みます。または、 停止ボタンを押して調整メニューを終了します。

12-2 調整メニュー変更内容

調整メニューのうち、とくに重要な項目を以下に示します。変更がある場合、病院でここに記入いただくか、「ゆめシステム治療内容」あるいはPDリンク「PD処方レポート」に内容を記載してもらってください。

調整メニューの変更はありません。

調整メニューは以下の様に設定されています。

初回排液時間： 少液量モード(小児モード)のみ

初回排液の限度： ml

最終注液前 排液：アリ/ナシ (どちらかに○)

目標除水量： ml

アラームを鳴らしますか：ハイ/イイエ (どちらかに○)

12-3 調整メニューの内容

ボタン操作	表示	備考
	調整メニュー変更◇	
◆を押す	表示部明るさ調整	<ul style="list-style-type: none"> 表示部の明るさを調整します。 明るさは4段階に変化します。 表示画面は変わりません。
▽を押す	音量調整	<ul style="list-style-type: none"> 音量を調整します。 音の大きさは4段階に変化します。 表示画面は変わりません。
▽を押す	スリープ機能： イイエ	<ul style="list-style-type: none"> 治療中の表示部および操作ボタンの明かりを自動的に暗くします。 5分間ボタン操作を行わずにいると表示部とボタンの証明が消え、  の表示になります。 再び点灯するとき： <ol style="list-style-type: none"> アラームが発生したとき いずれかのボタンに触れたとき (例外：表示部に現在時刻、治療終了時刻が表示されている場合) 初期設定： イイエ
▽を押す	時刻調整： 午後7:10	<ul style="list-style-type: none"> 現在時刻の設定をします。午前/午後で表示します。 治療中は、時刻の変更はできません。
▽を押す	2002年 1月1日	<ul style="list-style-type: none"> 日付の変更を行います。出荷時に調整しております。 治療中は、日付の変更はできません。



ボタン操作	表示	備考
▼を押す	初回排液時間： 00:00 少液量モード (小児モード) のみ	<ul style="list-style-type: none"> 初回排液の時間を設定します。 「初回排液時間」は、初回排液中に排液を継続する時間で、お腹が空であることを検出後、注液に移るまでの時間です。「初回排液時間」および「初回排液の限度」の両方の条件を満たすことにより、初回排液から注液に移ります。 初期設定=0 「少液量モード (小児モード)」の場合必ず入力してください。



「最終注液量」を変更した場合、または昼間にツインバッグでのバッグ交換を行った場合には「初回排液時間」の設定を見直してください。

「初回排液時間」を入力する時

◆を押す	初回排液時間： 00:00	値が点滅します。
▲ ▼を押して 値を変更する	初回排液時間： 00:15	目的の数字に変更します。
◆を押す	初回排液時間： 00:15	点滅が止まり、値が確定されます。

▼を押す	初回排液の限度 : 1400ml	<ul style="list-style-type: none"> 初回排液の限度は、初回排液中に最低限期待される排液量を設定するために使われます。 設定の範囲：設定なし、0~3500mL (標準モード)、0~1500mL (少液量モード) 初期設定：1400mLまたは最終注液量×70%のどちらか多いほう (標準モード) — mLまたは最終注液量×70% (少液量モード)
------	------------------	---

「初回排液の限度」を入力する時

◆を押す

初回排液の限度 : 1400ml

値が点滅します。

▲ ▼を押して
値を変更する

初回排液の限度 : 1800ml

目的の数字に変更します。

◆を押す

初回排液の限度 : 1800ml

点滅が止まり、値が確定されます。

「初回排液の限度」が高すぎる場合、「排液量不良」アラームを頻発させます。

もし排液量が期待される量より少なかった場合、「排液量不良」アラームが発生します。初回排液中に流速がなくなったり遅くなったりした場合、初回排液量が「初回排液の限度」を超えていない場合にアラームを鳴らし、超えている場合1サイクルの注液に進みます。

もし最終注液量を変更したり、昼間にツインバッグの交換を行ったりしている場合、「初回排液の限度」の値を見直してください。「最終注液量」の値を変えたときにはいつでも、「初回排液の限度」は最終注液量の70%の値か現在の値の大きいほうに変更されます。最終注液量を変更するときには最適な「初回排液の限度」についてかかりつけの病院にお問い合わせください。

以下に「初回排液の限度」の推奨値を示します。

表12-1 初めて「初回排液の限度」を設定するときの推奨値

最終注液する透析液の種類	ゆめシステムとつなぐ前の貯留時間	「初回排液の限度」の推奨値
ダイアニール-N	8時間	最終注液量の70%
ダイアニール-N	4時間	最終注液量の85%
エクストラニール	8~12時間	最終注液量の95%

「15-14 初回排液の限度を決める (300ページ)」に、この%をもとに算出した初回排液の限度を提示してありますのでご参照ください。



確認

「初回排液の限度」が設定なしの場合、ゆめシステムは「流速なし」を検出すると注液に移ってしまいます。この設定では最低限出てくる液量を確認せずに注液に移ってしまいますのでこの設定をお勧めしません。もし10分間流速が50mL/分以下に下がった場合、「排液量不良」のアラームが発生します。さらにその状況が続くと5分ごとに同じアラームが発生します。
少液量モードでは「初回排液の限度：設定なし」は選択できません。



確認

NPD (昼間お腹が空) の患者様の場合、「初回排液の限度」は0mLか非常に小さい値にしてください。適切な値についてはかかりつけの病院にお問い合わせください。「初回排液の限度：設定なし」にしておくと、流速が遅かったり、空気と透析液が混じった状態があると「排液量不良」アラームが発生します。



「初回排液の限度」を不用意に下げたり「設定なし」にすると、完全に排液を終了しないで1サイクルの注液に移ってしまいます。そのため過注液となることがあります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。最適な「初回排液の限度」設定値を定めるため、表12-1を参照してください。

過注液が疑われるときには、 停止ボタンをすぐに押し、 ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。



注液量が1000mL未満の患者様は一般的に排液のスピードが遅い傾向にあります。これらの患者様は一般的に体重が20kgより少ないです。「排液量不良」アラームや「注意：除水量不良」アラームを出さないようにするため、少液量モードを使用することをお勧めします。「排液の限度」や「除水量不良の限度」を調整してこれらのアラームの発生を抑えることができます。しかし「除水量不良の限度」を不用意に50%より上げたり、また「排液の限度」も不用意に85%（初期値）より下げないでください。過注液の可能性を高めてしまいます。

初回排液中に、腹腔内に液が残っているにもかかわらずこれらアラームをバイパスすると、治療の後半で過注液となる可能性があります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。少液量モードでは少注液量セットのご使用をお勧めします。

過注液が疑われるときには、 停止ボタンをすぐに押し、 ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

ボタン操作	表示	備考
 を押す	注液温度 : 36	<ul style="list-style-type: none"> 注液時の温度を35℃～37℃で設定できます。 初期設定値：36℃
 を押す	最終注液前 排液 : アリ	<ul style="list-style-type: none"> 最終注液を行う前に、完全に排液を行うために最終注液に移行せずに待つ機能です。 初期設定：アリ 最終注液量が0mLでも使用可能です。

カテーテルの先端が、場合によって最適な位置からずれている場合があります。そのような場合、仰臥位で寝ていると不完全な排液になる場合があります。最終注液前排液の機能はこのような場合に姿勢を変えられるようにきっかけを与える機能です。



「最終注液前 排液」をアリに設定すると、目標除水量と「アラームを鳴らしますか」を設定する必要があります。「 -15 タイダル総除水量と、最終注液前排液の目標除水量を決める」の表を参照してください。

ボタン操作	表示	備考
▼ を押す	目標除水量 : 0ml	<ul style="list-style-type: none"> ・「最終注液前 排液：アリ」に設定したときのみ出てくる表示です。 ・「目標除水量」は一回の夜間治療で得たい除水量の予測値です。「目標除水量」が得られた場合は、「流速なし状態」を検出したら最終注液に移ります。 ・初期設定値：0mL ・設定範囲：50mL～3000mL ・設定単位：50mL
<p>「目標除水量」を初めて設定するときの推奨値は期待される除水量の70%です。期待される除水量の70%を計算するのに「15-15 タイダール総除水量と、最終注液前排液の目標除水量を決める」の表を参照してください。</p> <p>もし最終サイクルの排液が終わるまでの夜間の除水量が「目標除水量」より少なかった場合、治療は停止して「目標除水量が出ていません」アラームが表示されます。</p>		
▼ を押す	アラームを鳴らしますか：イイエ	<ul style="list-style-type: none"> ・「アラームを鳴らしますか：ハイ」の場合で、総除水量が「目標除水量」を超えていない場合、アラーム音が継続して鳴ります。姿勢を変えて排液ができます。● 停止ボタンを押してから➡ 開始ボタンを押してもう一度排液に戻ります。 ・「アラームを鳴らしますか：イイエ」の場合で、総除水量が「目標除水量」を超えていない場合、アラーム音は鳴らずに「目標除水量が出ていません」表示が出たまま治療を停止します。姿勢を変えて排液ができます。● 停止ボタンを押してから➡ 開始ボタンを押してもう一度排液に戻ります。



警告

目標除水量の設定が低すぎると、最終サイクルの排液が完全に終了せず、お腹の中に除水量分の透析液がたまってしまいます。その次の注液にそのまま移行すると、過注液の可能性がります。

過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。

過注液が疑われるときには、● 停止ボタンをすぐに押し、▼ ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「10 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

13 ナースメニュー

ナースメニューは、医師や看護師の方が使う特別なメニューで、患者様の個々の状況に合わせて調整できるメニューです。

特に、患者様毎に注液量や排液の時間は異なるため、ゆめシステムでは「標準モード」か「少液量モード」(小児モード)を用意しています。

「標準モード」では、変更可能な「排液の限度」と、あらかじめ設定された排液の流速と除水不良の限度を使用します。

「少液量モード」(小児モード)でも上記の設定値は使用していますが、それに加えて、変更可能な「排液時間」と「除水不良の限度」「除水量上限」を使用します。適切なモードと設定値の選択を行うことにより、確実な排液量を確保しながらアラームの発生頻度を最小化できます。

少液量モードでは、回路(少注液量セット)をお使いください。

設定に変更がある場合、病院でここに記入いただくか、「ゆめシステム治療内容」あるいはPDリンク「PD処方レポート」に内容を記載してもらってください。

ナースメニューの変更はありません。

ナースメニューは以下の様に設定されています。

モード：標準 / 少液量 (標準か少液量(小児)どちらかに○)

2液混合バッグ：ハイ/イエ (どちらかに○)

排液の限度： % 次ページの警告を参照ください。

排液時間： : 少液量モード(小児モード)のみ

「少液量モード(小児モード)」では必ず入力してください。

排液時間を適切に設定しないと、「少液量モード(小児モード)」は有効になりません。

除水不良の限度： % 少液量モード(小児モード)のみ

除水量上限： ml 少液量モード(小児モード)のみ

注意：排液中で流速不良や流速がなくなったとき、ゆめシステムがアラームを鳴らすか次の注液に移るか決める基準は、「排液限度」(注液量のパーセントで示される)を使用します。

貯留時間自動調整：ハイ/イエ (どちらかに○)

空バッグ使用：ハイ/イエ (どちらかに○)

タイダール中間排液：アリ/ナシ (どちらかに○)

タイダール中間排液の初期値は標準モードでも少液量モードでも3です。

メッセージ表示：日本語

洗浄：ハイ/イイエ (どちらかに○)

体重の初期化：ハイ/イイエ 通常イイエ

処方内容保護：ハイ/イイエ (どちらかに○)

治療結果リスト ◇

アラームリスト ◇



警告

排液の限度： %

もし「排液の限度」が低すぎると、排液が十分にされないことが考えられます。

これは、過注液につながる可能性があります。過注液は腹部の不快感をもたらしたり、ときにはおもわぬ重大な事故につながる恐れがあります。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方・乳幼児など）に使用しているときには、特にご注意ください。

使用中に過注液が疑われるときには、 停止ボタンを押して、 を押して「強制排液」を行ってください。詳細は本冊子の254ページをご参照ください。

もし「排液の限度」が高すぎると、「排液量不良」アラームの頻度を増し、貯留時間が減ってしまいます。工場出荷時の85%はご使用者の最適な値をきめるにあたっての初期値とお考えください。



少注量の警告

注液量が1000mL未満の患者様は一般的に排液のスピードが遅い傾向にあります。これらの患者様は一般的に体重が20kgより少ないです。「排液量不良」アラームや「注意：除水不良」アラームを出さないようにするため、少液量モードを使用することをお勧めします。「排液の限度」や「除水不良の限度」を調整してこれらのアラームの発生を抑えることができます。しかし「除水不良の限度」を不用意に50%より上げたり、また「排液の限度」も不用意に85%（初期値）より下げないでください。過注液の可能性を高めてしまいます。

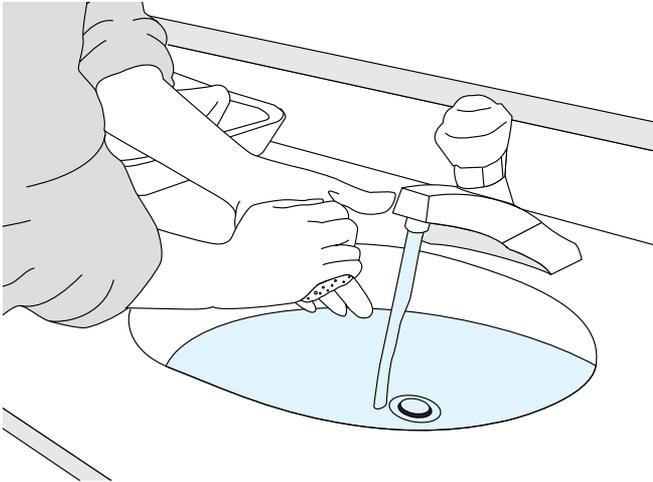
初回排液中に、腹腔内に液が残っているにもかかわらずこれらアラームをバイパスすると、過注液となる可能性があります。過注液は腹腔内の違和感や、深刻な健康被害、または死に至る恐れがあります。少液量モードでは少注液量セットのご使用をお勧めします。

過注液が疑われるときには、 停止ボタンをすぐに押し、 ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は⑩ 困ったときの対処方法（254ページ）をご覧ください。

ご自分で異常を訴えることができない方（意識のない方、乳幼児や小児）に使用するときには、過注液の有無に特に注意してください。

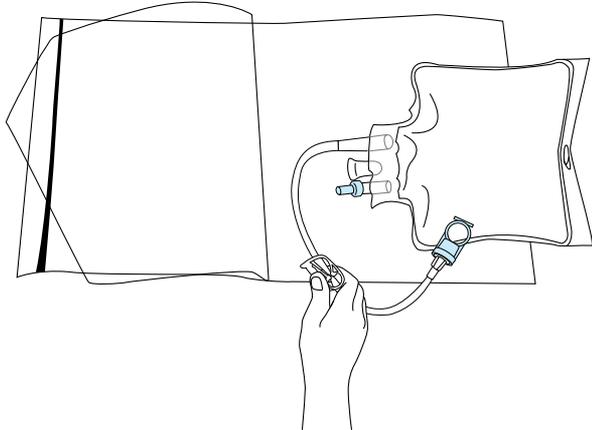
14 排液の採取方法

1. マスクの着用・手洗い



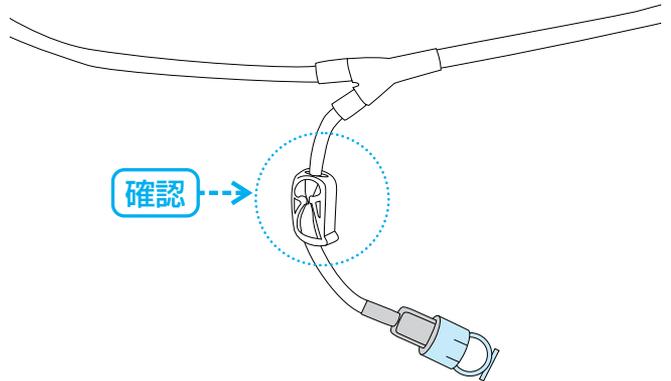
- マスクを着用し、手洗いをします。

2. 排液採取用セットの準備



- 外袋から排液採取用セットを取り出し、クランプを閉めます。

3. 排液採取ラインのクランプを確認



- 回路の排液採取ラインのクランプが閉まっていることを確認します。



警告

清潔操作にて接続を行ってください。
不潔にした場合、正確な検体が得られないことがあります。



注意

外袋が破れていないこと、排液採取用
セットのキャップが付いていることを
確認してください。



警告

感染を防ぐため、病院で指導を受けたように清潔操作で行ってください。マスクをし、手洗いをし、乾燥（または消毒）してください。

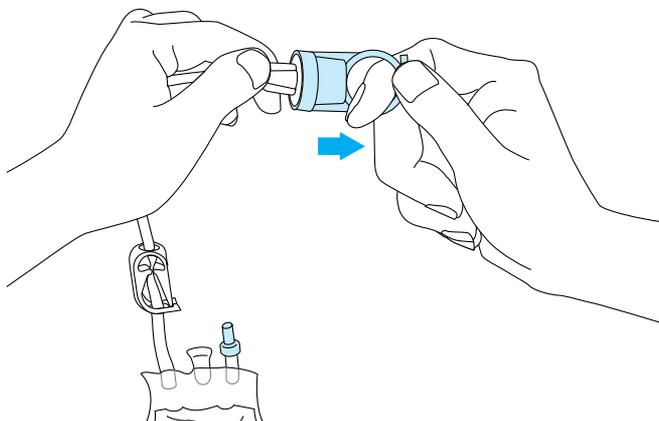


注意

接続部に手指や他のものが触れた場合、検査結果が正しく出ない可能性があります。
触れた場合には病院に連絡して指示に従ってください。

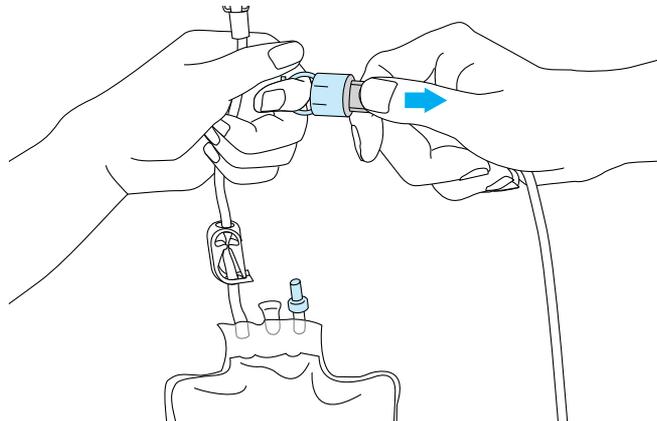
外したキャップは捨てないでください。

4. 排泄採取用セットのキャップを外す



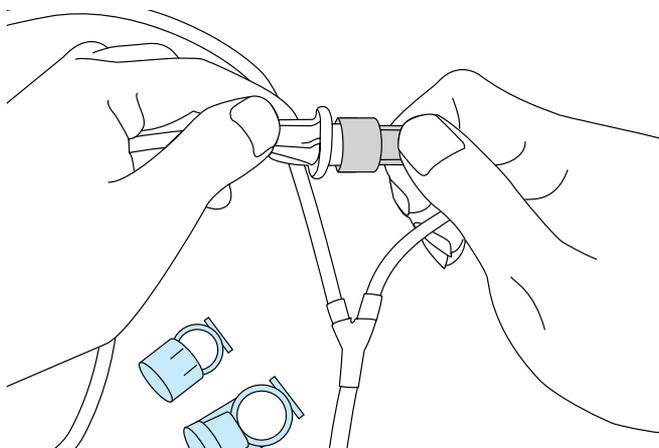
- 排泄採取用セットのコネクターからキャップを取り外します。

5. 排泄採取ポートのキャップを外す



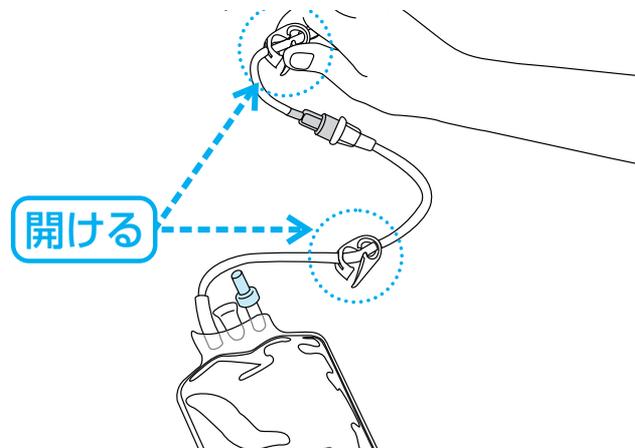
- 排泄採取用セットを保持しながら排泄採取ポートのキャップを取り外します。

6. 排泄採取用セットを接続する



- 排泄採取用セットと排泄採取ポートを接続します。
- 排泄採取用セットが排泄採取ラインのY管部より下になるように置いてください。

7. クランプを開ける



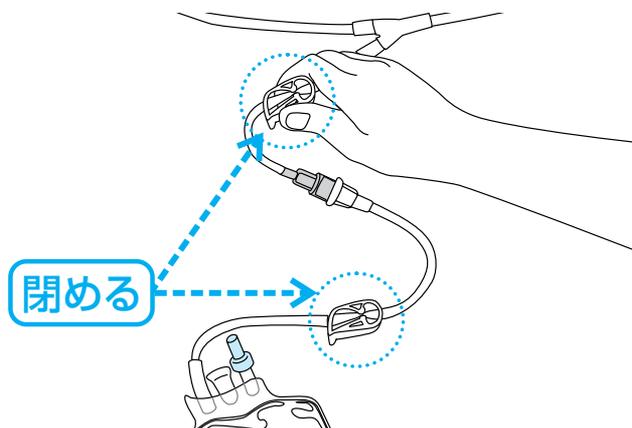
- 2～3分排泄した後、排泄採取ラインと排泄採取用セットのクランプを開けます。



注意

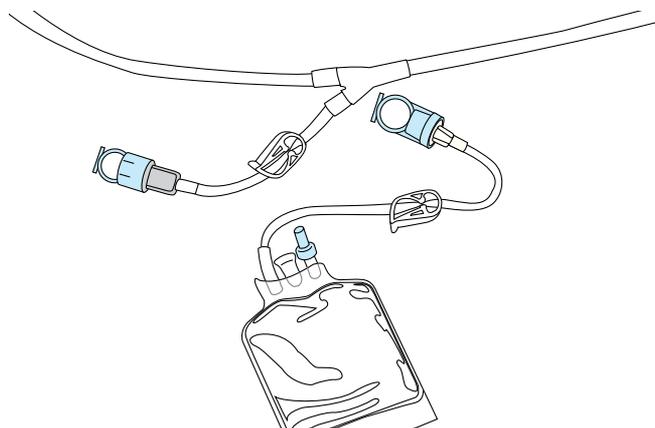
最初はプライミングした透析液で回路が満たされています。正しい検査結果を得るために回路内の透析液が十分流れ出てから、排泄採取を行ってください。

8. クランプを閉める



- 排液採取が終わったら直ちに排液採取ラインと排液採取用セットのクランプを閉めます。

9. 排液採取用セットを切り離す



- 排液採取用セットを切り離します。
- 排液採取用セットと排液採取ポートにキャップを装着します。

検査用の容器への移し替えはかかりつけの医療機関にて行います。

困ったときの
対処方法

表示部の説明

調整メニュー

ナースメニュー

排液の採取方法

仕様

旅行に際して

お手入れ方法

点検手順と注意

15 仕様

15-1 機器の仕様

寸法	高さ17.8cm×幅47.2cm×奥行37.3cm (ゆめ)
	高さ17.8cm×幅49.5cm×奥行39.9cm (ゆめ ^{プラス})
重量	12.3Kg
電源	AC100V(±10%) 50/60Hz
消費電力	最大消費電力 600VA/AC (600W)
	通常消費電力 100VA/AC (100W)
電撃保護形式	クラス I
電撃保護程度	タイプB 
防水条件	IEC60601-2-39 (44.3)

*電源継続使用可能

15-2 機器の使用環境条件

使用条件	周囲温度： 15℃～36℃ 結露がないこと
保管条件	周囲温度： -32℃～54℃ 結露がないこと
使用大気圧範囲	10.2psia～15.3psia、70kPa～106kPa
保管大気圧範囲	7.3psia～15.3psia、50kPa～106kPa
雰囲気	燃焼および爆発の危険のある雰囲気ではないこと エアロゾールを使用していないこと 高酸素濃度でないこと 可燃性の麻酔用の空気や酸素、一酸化二窒素が混在しているところで使用しないこと

15-3 機器の性能

容積の精度	注液/排液の 目標値の精度	標準モード：+5/-20mL
	表示値の精度	少液量モード (小児モード)：+5/-10mL ±1%または±10mLの誤差の大きい方の値
容積表示の精度		1 mL単位
注液温度の制御範囲		33℃～40℃
温度測定範囲		5℃～50℃
温度の精度		±2℃
注液温度の設定		35℃ 36℃ 37℃

15 -4 バッテリーバックアップ

停電時、ゆめシステムは加温と液の移動を止め、表示も消します。ただし、停電発生後約2時間以内であれば、どれかボタンを押した後1～2分は表示をします。停電発生後約2時間以内に電源が復帰した場合治療を継続できます。詳細は本冊子の247ページをご参照ください。停電時にお腹に液が残っていれば、腹膜透析の治療は継続しているとお考えください。

15 -5 液温保護システム

本機器では、マイクロプロセッサ・温度センサーおよび独立の遮断スイッチにより構成されている「液温保護システム」によって、患者様に高温の透析液が注液されないようになっています。検出温度は $\pm 2^{\circ}\text{C}$ です。本機器では高温状態検出後、5秒以内にアラームを鳴らします。

15 -6 アラーム音が鳴らない期間

アラーム発生時にご使用者が 停止ボタンを押してアラームを止めて、なおかつ、アラームを回避する手段をとらない場合、ゆめシステムは30分以内にアラームを鳴らします。

15 -7 音圧レベルの範囲

ゆめシステムのアラーム音は1メートルの距離で75dBA \pm 10dBAの範囲になるように設定されています。システムエラーはいつでも最大音量になるようになっています。

15 -8 透析液の移動を行う際の最大の圧

患者様との間で透析液の移動を行う際の最大の圧は、 $\pm 10.3\text{kPa}$ ($\pm 77.6\text{mmHg}$ 、 $\pm 1.5\text{psig}$) です。液の移動がない状態でのお腹への最大圧は $\pm 15.2\text{kPa}$ ($\pm 113.8\text{mmHg}$) を10秒間以上超えません。ゆめシステムは、通常の単一故障状態であっても、 $\pm 24.1\text{kPa}$ ($\pm 181.0\text{mmHg}$ 、 $\pm 3.5\text{psig}$) を超えません。

15 -9 気泡注入の保護システム

ゆめシステムは垂直に配置されたカセット内の空気を検出することができます。約3cc以上の気泡を検出した場合、カセット内の上部にある出口から排液ラインに排出します。3ccより少ない気泡は、カセット内下部にある出口から注液ラインに物理的に押し出すことはできません。この方法を取ることで、カセットに損傷がなく、コネクターラインに正しくプライミングされていれば、患者様に気泡が入ることはありません。



注意

回路を使用する前にカセットシートに損傷がないかご確認ください。
もし損傷があれば、新しいものと変えてください。

回路のコネクターラインは、ヒーターバッグの透析液の重さをつかって重力でプライミングします。コネクターラインは、ヒーターバッグ内の液面とコネクターライン先端のコネクターの高さが同じ時に正しくプライミングされます。ゆめシステムはコネクターラインが正しくプライミングされたか検出することができません。正しいプライミングに関しては本書の「治療の開始」の部分をご参照ください。

15 -10 過注液の保護システム

ゆめシステムは過注液を防止するだけでなく、過注液が発生した場合の警報も備えています。

- ・2つの独立した、注液量と排液量を測定する「液量測定システム」を用いています。これら2つのシステムの測定誤差は0.1%以内です。
- ・自己診断機能が備えられており、機能が正しく動作しているか継続して確認しています。もし問題が見つかったら、ゆめシステムは治療を中断し、安全な状態にした後で、ご使用者に知らせます。
- ・ゆめセットのカセットが正しくセットされ動作していることを確認する自己診断機能が備えられています。
- ・停電が検出されると、ゆめシステムは間違っても透析液が患者様に注液されないようにオクルーダーを閉めて治療を止めます。
- ・ゆめシステムは排液をむやみにバイパスしないように知らせたり、警告したりします。
- ・ゆめシステムはお腹が空の状態と、チューブの閉塞状態を識別します。
- ・実際の排液量を、排液量の期待値と比較し、過注液が疑われる場合はそれを知らせます。
- ・ゆめシステムは透析液の流速が不十分である場合それを知らせます。
- ・ゆめシステムは各国の安全基準に基づいて設計されています。
- ・取り扱いの説明と安全上の注意・警告を本冊子および指導者マニュアルにてお知らせします。

患者様や介助者が、過注液を疑うときには、**■** 停止ボタンをすぐに押し、**▼** ボタンを押して「強制排液」を行ってください。「強制排液」の手順は「**10** 困ったときの対処方法 (254ページ)」をご覧ください。過注液については269ページをご参照ください。

15 -11 排液論理について

ゆめシステムには「標準モード」と「少液量モード」（小児モード）の2種類があり、それぞれで排液論理が違います。

(1) 標準モードの排液論理

ゆめシステムは、ある一定以上の時間お腹のチューブからの流速が遅くなったり、2チェンバー分液量が流れなくなるまで排液を継続します。

ある一定時間、「流速不良状態」が続いた場合、ゆめシステムは次に何を行うべきかを実際の排液量と「排液の限度」の液量と比較して決定します。

- 「排液の限度」に達していないと判断したとき、3回アラーム音が鳴り「**排液量不良**」アラーム表示が出ます。この状態が継続すると、6回アラーム音が鳴ります。さらにこの状態が継続すると連続したアラーム音となり、手動回避が必要です。
- 「排液の限度」に達したと判断したとき、ゆめシステムは患者さんの液量を0mLに設定しなおし、次の注液に移ります。

排液中に「流速なし状態」が発生したら、ゆめシステムは注液方向にも「流速なし状態」があるか確認します。（「プッシュバック」と呼びます。）

- 「流速なし状態」が排液方向だけでなく注液方向にまで発生していたら「**コネクターライン確認**」アラームをアラーム音とともに鳴らします。
- プッシュバックができれば、お腹のチューブは閉塞していないと考えて、ゆめシステムは次に何を行うべきかを実際の排液量と「排液の限度」の液量と比較して決定します。
 - ・「排液の限度」に達していないと判断したとき、3回アラーム音が鳴り「**排液量不良**」アラーム表示が出ます。この状態が継続すると、6回アラーム音が鳴ります。さらにこの状態が継続すると連続したアラーム音となり、手動回避が必要です。
 - ・「排液の限度」に達したと判断したとき、ゆめシステムは患者さんの液量を0mLに設定しなおし、次の注液に移ります。

「初回排液の限度：00mL」の設定は「調整メニュー」で行います。「排液の限度%」の設定は「ナースメニュー」で行います。「排液の限度%」は一回あたりの注液量にかけて基準値となる排液の限度の液量に直して使用されます。

(2) 少液量モードの排液論理

少液量モードの排液論理は標準モードの排液論理と似ています。少液量モードを使用する患者様は一般的に流速が遅いため、「流速不良状態」と「流速なし状態」の基準値が標準モードより下がっています。また、少液量モードには「初回排液時間」の設定が調整メニューで、「排液時間」の設定が「ナースメニュー」で可能になっています。

少液量モードの場合、以下の条件で次の注液に移ります。

- 「流速不良状態」または「流速なし状態」が発生しており、しかも「排液の限度」を超えて排液しており、「排液時間」も過ぎている
または
- 「流速なし状態」で、注液した液量の100%以上が排液されている

「排液時間」が経過していない状態だと、「流速不良状態」や「流速なし状態」となった場合、「排液量不良」アラームは発生しないことがあります。

(3) 排液中にバイパスを行った場合の注液について（全量注液と部分注液）

ゆめシステムは、排液の状態や排液量に応じてバイパスを行った場合の注液量を全量注液にするか、部分注液^(※1)にするかを決定します。詳細を表15-1に示します。

(※1)「部分注液」とは、設定した注液量を注液せずにお腹の中の残液を考慮して注液を行うことをいいます。

例えば、注液量2000mLで排液量1500mLの場合、次回の注液は1500mLとなります。

ゆめシステムには標準モードと少液量モード（小児モード）の2種類の排液の論理があります。

標準モードと少液量モード（小児モード）のそれぞれのモードごとに、どの程度の排液がなされたか「流速不良状態」または「流速なし状態」かによってゆめシステムの動作が決まります（表15-1参照）。

表15-1 排液論理

	流速の状態	左の流速の状態になったときまでに排液された液量	
標準モード	標準モード	「排液の限度」に達していないとき	「排液の限度」に達したとき
	「流速不良状態」= 50mL/分未満 （「流速なし状態」 （*）= 12mL/分 未満を含む）	「排液量不良」アラームが発生します。もしバイパスしたら次の注液は全量注液になります。 「排液量不良」アラームをバイパスした時に、お腹の中に注液量の50%以上（除水不良の限度の設定値）の透析液が残っていたら、注液には移らずに「注意：除水不良」アラームが発生します。 もし「注意：除水不良」アラームをバイパスしたら、次の注液は部分注液となります。	自動的に次の注液に移ります。次の注液は全量注液です。 もし治療中に、お腹の中に注液量の50%以上（除水不良の限度の設定値）の透析液が残っていたら、注液には移らずに「注意：除水不良」アラームが発生します。 もし「注意：除水不良」アラームをバイパスしたら、次の注液は部分注液となります。
	通常の流速	アラームは発生せずに排液を継続します。もし排液を停止してバイパスしたら、次の注液は部分注液となります。	
少液量モード	少液量モード（小児モード）	「排液の限度」に達していないとき	「排液の限度」に達したとき
	「流速不良状態」= 15mL/分未満	「排液時間」が過ぎていないなら、アラームは鳴らずに排液を継続します。 「排液時間」が過ぎていたら、「排液量不良」アラーム発生。もしバイパスしたら次の注液は全量注液になる。 「排液量不良」アラームをバイパスした時に、お腹の中に注液量の50%以上（除水不良の限度の設定値）の透析液が残っていたら、注液には移らずに「注意：除水不良」アラームが発生します。 もし「注意：除水不良」アラームをバイパスしたら、次の注液は部分注液となります。	「排液時間」が過ぎていないなら、アラームは鳴らずに排液を継続します。 「排液時間」が過ぎていたら、次の注液に移ります。次の注液は全量注液です。 もし治療中に、お腹の中に注液量の50%以上（除水不良の限度の設定値）の透析液が残っていたら、注液には移らずに「注意：除水不良」アラームが発生します。 もし「注意：除水不良」アラームをバイパスしたら、次の注液は部分注液となります。
	「流速なし状態」 （*）= 3mL/分未満	排液時間にかかわらず、「排液量不良」アラームが発生します。もしバイパスしたら次の注液は全量注液になります。 「排液量不良」アラームをバイパスした時に、お腹の中に注液量の50%以上（除水不良の限度の設定値）の透析液が残っていたら、注液には移らずに「注意：除水不良」アラームが発生します。 もし「注意：除水不良」アラームをバイパスしたら、次の注液は部分注液となります。	「排液時間」が過ぎていなければ、注液量の100%以上が排液されるまでアラームは鳴らずに排液を継続します。 「排液時間」が過ぎるか、注液量の100%以上排液されたら次の注液に移ります。次の注液は全量注液です。 もし治療中に、お腹の中に注液量の50%以上（除水不良の限度の設定値）の透析液が残っていたら、注液には移らずに「注意：除水不良」アラームが発生します。もし「注意：除水不良」アラームをバイパスしたら、次の注液は部分注液となります。
	通常の流速	アラームは発生せずに排液を継続します。もし排液を停止してバイパスしたら、次の注液は部分注液となります。	

（*）流速がなくなって排液が終了したとゆめシステムが判断したら、お腹が空になったか確認するため、非常に少ない液を患者様に押し戻します（＝ブッシュバック）。次の注液はその注液量から始まります。

「少液量モード」（小児モード）では「標準モード」の基準の流速以下に下がるまでアラームを鳴らせずに排液を継続します。そして、注液に移る前には、「排液の限度」を超えるだけでなく「排液時間」も過ぎる必要があります。しかし、「少液量モード」では、排液時間が経過しなくても、「流速不良状態」または「流速なし状態」があれば、①排液の限度の液量が出ているか、②注液の100%以上の排液のどちらか多い量が出ている場合、注液に移ります。

なお、「少液量モード」の注液量の範囲は60～1000mLです。このモードは通常排液のスピードが遅い、注液量が少ない患者さんに適しています。なお、注液量が少ないときは「ホームAPDシステムゆめセット 少注液量セット」をお使いください。

「標準モード」は注液量が100～3000mLの範囲の方に使用できます。少液量モードより流速の下限が高くなっています。

困ったときの
対処方法

表示部の説明

調整メニュー

ナースメニュー

排液の採取方法

仕様

旅行に際して

お手入れ方法

点検手順と注意

15-12 補液の論理

(1) 通常の補液

ゆめシステムは貯留の初めで、バッグラインからヒーターバッグに補液します。これにより、次のサイクルの注液に備えます。これを「通常の補液」と呼びます。通常の補液では液の流れが遅くなったりとまったりしてもアラームは鳴らしません。

「最終注液濃度変更 アリ」になっていて、バッグライン（白いクランプのライン）が空と判断した場合、補液をとめます。補液が終わらない前に貯留をバイパスしようとする、**「補液は終了していません」**というアラームが鳴ります。

「最終注液濃度変更 ナシ」になっていて、バッグライン（白いクランプのライン）が空と判断した場合、最終注液ライン（青いクランプのライン）から透析液を引っ張ろうとします。ゆめシステムは、バッグラインと最終注液ラインを同時に引っ張ることはしません。

(2) 予定外の補液

注液が終わる前にヒーターバッグが空になったら、ゆめシステムは通常、注液を終了するためにバッグラインからヒーターバッグに透析液を引っ張ってきます。この状態では、ヒーターバッグが予定外に空になってしまったので「予定外の補液」と呼びます。

「予定外の補液」はヒーターバッグが空になったときに以下の表で示した注液量が終わっていない場合に行われます。注液された液量がこの基準を満たしている場合貯留に移行します（貯留移行基準）。

表15-2 予定外の補液論理

注 液	予定外の補液を行う基準	貯留移行基準
(夜間)サイクル1注液	注液量<90%	注液量≥90%
(夜間)サイクル2～(最終-1)サイクルの注液(※1)	注液量<100%	注液量≥100%
最終サイクルの注液(※2)	注液量<75%	注液量≥75%
最終注液	注液量<75%	注液量≥75%

※1 夜間のサイクル数が4サイクルの場合、2～3サイクル目の注液のこと。

※2 夜間のサイクル数が4サイクルの場合、4サイクル目の注液のこと。



注意

1：上記の「予定外の補液」を行うための液量が不足した場合、アラームが鳴ります。このアラームはバイパスできません。注液に戻るには「⑥ 補液中の「バッグライン確認」アラームのバイパス方法（236ページ）」を参照してください。

2：上記「貯留移行」基準を満たしたらアラームは鳴らさずに次の貯留に移ります。

15-13 注液量の最大値を決める

以下の表に、患者様の目標体重に基づいた最大注液量を示します。この表を見ることにより、患者様の体重に比べて注液量が多すぎたりしないように確認できます。実際は、多くの患者様でこの表に示される値より少ない注液量で十分だと考えられます。

この表を使うには、患者様の体重の行に示されている注液量の最大値をご確認ください。

・例：もし患者様の体重が47kgなら、注液量の最大値は2000mLです。

もし患者様の体重が2つの行の間の値であれば、低い方の値をご使用ください。

・例：もし患者様の体重が52kgなら、注液量の最大値は2200mLです。

もし体重が70kgより多い方であれば注液量の最大値は3000mLをお使いください

表15-3 注液量の最大値の目安

目標体重 (kg)	注液量の最大値 (mL)	目標体重 (kg)	注液量の最大値 (mL)
2	100	32	1400
3	150	35	1600
4	200	38	1700
6	300	41	1800
8	400	44	1900
10	500	47	2000
12	600	50	2200
14	700	53	2300
16	800	56	2400
18	900	59	2500
20	1000	62	2600
23	1100	65	2800
26	1200	68	2900
29	1300	70以上	3000



確認

上記の値は注液量の最大値であり、推奨値ではありません。

15-14 「初回排液の限度」を決める

下記の表は、初回排液の限度を決めるに当たり最終注液量に対するいくつかの割合をかけた数値をお示ししています。

この表を使うには、患者様の最終注液量に該当する行をみて、適切な割合（%）が示す数値を見てください。使用する透析液の種類と、貯留時間から推奨される、最終注液量に対する割合を「[12](#) 調整メニュー」の表12-1（284ページ）に示しますのでご参照ください。

- ・例：もし最終注液量が2000mLで、希望する割合がその85%なら、初回排液の限度の設定値は1700mLとなります。
もし最終注液量が2つの行の間の値であれば、低い方の値をご使用ください。
- ・例：もし最終注液量が550mLで、希望する割合がその85%なら、初回排液の限度の設定値は430mLとなります。

表15-4 最終注液量の割合(%)から算出される「初回排液の限度(mL)」

最終注液量(mL)	70%	75%	80%	85%	90%	95%	最終注液量(mL)	70%	75%	80%	85%	90%	95%
60	40	50	50	50	50	60	800	550	600	650	700	700	750
80	60	60	60	70	70	80	900	650	700	700	750	800	850
100	70	80	80	90	90	100	1000	700	750	800	850	900	950
120	80	90	100	100	110	110	1100	750	850	900	950	1000	1000
140	100	110	110	120	130	130	1200	850	900	950	1000	1100	1100
160	110	120	130	140	140	150	1300	900	1000	1000	1100	1200	1200
180	130	140	140	150	160	170	1400	1000	1100	1100	1200	1300	1300
200	140	150	160	170	180	190	1500	1100	1100	1200	1300	1400	1400
220	150	170	180	190	200	210	1600	1100	1200	1300	1400	1400	1500
240	170	180	190	200	220	230	1700	1200	1300	1400	1400	1500	1600
260	180	200	210	220	230	250	1800	1300	1400	1400	1500	1600	1700
280	200	210	220	240	250	270	1900	1300	1400	1500	1600	1700	1800
300	210	230	240	260	270	290	2000	1400	1500	1600	1700	1800	1900
320	220	240	260	270	290	300	2100	1500	1600	1700	1800	1900	2000
340	240	260	270	290	310	320	2200	1500	1700	1800	1900	2000	2100
360	250	270	290	310	320	340	2300	1600	1700	1800	2000	2100	2200
380	270	290	300	320	340	360	2400	1700	1800	1900	2000	2200	2300
400	280	300	320	340	360	380	2500	1800	1900	2000	2100	2300	2400
420	290	320	340	360	380	400	2600	1800	2000	2100	2200	2300	2500
440	310	330	350	370	400	420	2700	1900	2000	2200	2300	2400	2600
460	320	350	370	390	410	440	2800	2000	2100	2200	2400	2500	2700
480	340	360	380	410	430	460	2900	2000	2200	2300	2500	2600	2800
500	350	380	400	430	450	480	3000	2100	2300	2400	2600	2700	2900
600	420	450	480	500	550	550							
700	490	550	550	600	650	650							

15-15 タイダールの「総除水量」と、「最終注液前排出液」の「目標除水量」を決める

以下の表を用いることにより、

- ・タイダル療法での「総除水量」
- ・「最終注液前排出液」機能での「目標除水量」

を決めることができます。

この表を使うには、一回の治療から期待される除水量が記載されている行に注目したうえで、

- ・タイダル治療から期待する割合（70～95%）が示す数値
- ・最終注液前 排出液機能から期待する除水量の割合（70～95%）が示す数値

を使用してください。

- ・例：もし一回の治療から期待する除水量が1300mLで、タイダル療法から70%の除水を得たいとするなら、総除水量の設定は910mLを使ってください。

もし期待する除水量が2つの行の間の値であれば、低い方の値をご使用ください。

- ・例：もし一回の治療から期待する除水量が1350mLで、最終注液前排出液から70%の除水を得たいとするなら、目標除水量の設定は900mLを使ってください。

表15-5 タイダールの「総除水量」と、「最終注液前排出液」の「目標除水量」（1）

期待する 除水 (mL)	タイダル療法の「総除水量」の設定値 (mL)						最終注液前 排出液の「目標除水量」の設定値 (mL)					
	70%	75%	80%	85%	90%	95%	70%	75%	80%	85%	90%	95%
20	10	20	20	20	20	20	0	0	0	0	0	0
40	30	30	30	30	40	40	50	50	50	50	50	50
60	40	50	50	50	50	60	50	50	50	50	50	50
80	60	60	60	70	70	80	50	50	50	50	50	100
100	70	80	80	90	90	100	50	100	100	100	100	100
120	80	90	100	100	110	110	100	100	100	100	100	100
140	100	110	110	120	130	130	100	100	100	100	150	150
160	110	120	130	140	140	150	100	100	150	150	150	150
180	130	140	140	150	160	170	150	150	150	150	150	150
200	140	150	160	170	180	190	150	150	150	150	200	200
220	150	170	180	190	200	210	150	150	200	200	200	200
240	170	180	190	200	220	230	150	200	200	200	200	250
260	180	200	210	220	230	250	200	200	200	200	250	250
280	200	210	220	240	250	270	200	200	200	250	250	250
300	210	230	240	260	270	290	200	250	250	250	250	300
320	220	240	260	270	290	300	200	250	250	250	300	300
340	240	260	270	290	310	320	250	250	250	300	300	300
360	250	270	290	310	320	340	250	250	300	300	300	350

表15-5 タイダールの「総除水量」と、「最終注液前排液」の「目標除水量」(2)

期待する 除水 (mL)	タイダール療法の「総除水量」の設定値 (mL)						最終注液前 排液の「目標除水量」の設定値 (mL)					
	70%	75%	80%	85%	90%	95%	70%	75%	80%	85%	90%	95%
380	270	290	300	320	340	360	250	300	300	300	350	350
400	280	300	320	340	360	380	300	300	300	350	350	400
420	290	320	340	360	380	400	300	300	350	350	400	400
440	310	330	350	370	400	420	300	350	350	350	400	400
460	320	350	370	390	410	440	300	350	350	400	400	450
480	340	360	380	410	430	460	350	350	400	400	450	450
500	350	380	400	430	450	480	350	400	400	450	450	500
600	420	450	480	510	540	570	400	450	500	500	550	550
700	490	530	560	600	630	670	500	550	550	600	650	650
800	560	600	640	680	720	760	550	600	650	700	700	750
900	630	680	720	770	810	860	650	700	700	750	800	850
1000	700	750	800	850	900	950	700	750	800	850	900	950
1100	770	830	880	940	990	1000	750	850	900	950	1000	1050
1200	840	900	960	1000	1100	1100	850	900	950	1000	1100	1150
1300	910	980	1000	1100	1200	1200	900	1000	1050	1100	1150	1250
1400	980	1100	1100	1200	1300	1300	1000	1050	1100	1200	1250	1350
1500	1100	1100	1200	1300	1400	1400	1050	1150	1200	1300	1350	1450
1600	1100	1200	1300	1400	1400	1500	1100	1200	1300	1350	1450	1500
1700	1200	1300	1400	1400	1500	1600	1200	1300	1350	1450	1550	1600
1800	1300	1400	1400	1500	1600	1700	1250	1350	1450	1550	1600	1700
1900	1300	1400	1500	1600	1700	1800	1350	1450	1500	1600	1700	1800
2000	1400	1500	1600	1700	1800	1900	1400	1500	1600	1700	1800	1900
2100	1500	1600	1700	1800	1900	2000	1450	1600	1700	1800	1900	2000
2200	1500	1700	1800	1900	2000	2100	1550	1650	1750	1850	2000	2100
2300	1600	1700	1800	2000	2100	2200	1600	1750	1850	1950	2050	2200
2400	1700	1800	1900	2000	2200	2300	1700	1800	1900	2050	2150	2300
2500	1800	1900	2000	2100	2300	2400	1750	1900	2000	2150	2250	2400
2600	1800	2000	2100	2200	2300	2500	1800	1950	2100	2200	2350	2450
2700	1900	2000	2200	2300	2400	2600	1900	2050	2150	2300	2450	2550
2800	2000	2100	2200	2400	2500	2700	1950	2100	2250	2400	2500	2650
2900	2000	2200	2300	2500	2600	2800	2050	2200	2300	2450	2600	2750
3000	2100	2300	2400	2600	2700	2900	2100	2250	2400	2550	2700	2850

15-16 初期設定値

以下の表では、

- ・処方メニュー
- ・調整メニュー

の初期値および変更可能幅を示しています。標準モードおよび少液量モードでの違いについても記載しています。

表15-6 処方メニューの初期値一覧

処方メニュー	初期値	設定範囲	備考
治療	CCPD/IPD	CCPD/IPD、タイダル、ハイブリッドCCPD、ハイブリッドタイダル	用語解説
総注液量	200mL	200-80000mL	⑨-2 CCPD/IPD療法の設定 ⑨-3 タイダル療法の設定
昼間交換回数	0	1-9	用語解説
昼間注液量	100mL	標準モード 100-3000mL 少液量モード 60-1000mL	
治療時間/夜間治療時間	10分	10分~48時間	⑨-2 CCPD/IPD療法の設定 ⑨-3 タイダル療法の設定
注液量/夜間注液量	250mL	標準モード 100-3000mL 少液量モード 60-1000mL	
タイダル量 % 夜間タイダル量 %	95%	40-95%	⑨-3 タイダル療法の設定
総除水量/夜間総除水量	標準モード 1000mL 少液量モード 400mL	10-10000mL	
最終注液量	100mL	標準モード 100-3000mL 少液量モード 60-1000mL	⑨-2 CCPD/IPD療法の設定 ⑨-3 タイダル療法の設定
最終注液濃度変更	ナシ	アリ/ナシ	
中間排液	3	1-99	⑨-3 タイダル療法の設定
体重単位	キログラム	キログラム、ポンド	⑨-2 CCPD/IPD療法の設定 ⑨-3 タイダル療法の設定
患者体重	1キログラム	1-990キログラム 2-990ポンド	

表15-7 調整メニューの初期値一覧

調整メニュー	初期値	設定範囲	備考
表示部明るさ調整	—	4段階	⑩-3 調整メニューの内容
音量調整	—	4段階	
スリープ機能	イイエ	ハイ/イイエ	
時刻調整	—	午前/午後	
年月日	—	—	
初回排液時間	少液量モード：0分	少液量モードのみ：1-30分	
初回排液の限度	標準モード 1400mLまたは最終注液量の70%の大きいほう 少液量モード -mLまたは最終注液量の70%の大きいほう	標準モード 設定なし 0-3500mL 少液量モード 0-1500mL	
注液温度	36℃	35-37℃	
最終注液前 排液	アリ	アリ/ナシ	
目標除水量	0mL	0-3000mL	
アラームを鳴らしますか	イイエ	ハイ/イイエ	



網掛け部分は、処方の設定にしたがって表示部分に見えたり見えなかったりします。

確認

16 旅行に際して

困ったときの
対処方法

表示部の説明

調整メニュー

ナースメニュー

排液の採取方法

仕様

旅行に際して

お手入れ方法

点検手順と注意

ゆめシステムは小型軽量で旅行が可能です。旅行に出た場合でも治療が継続して行えるように、かかりつけの病院に以下のことをご相談ください。

- ご自分で医療用の機材をお持ちにならない場合、透析液と関連する機材が配送されるようにかかりつけの病院と事前に（国内：少なくとも3週間前、海外：少なくとも7週間前）ご相談ください。
- 旅行が遠方の場合、緊急の連絡先（病院）をかかりつけの病院にご確認ください。
- 万が一移動中の機械の故障や紛失した時にも治療が継続できるように、最低でも1日分の手動での交換用の機材の準備もしてください。
- 海外に旅行する場合、いくつか確認する事項がございます。なるべく早く、少なくとも7週間前までにかかりつけの病院にお問い合わせください。
 - バッグの接続方法が違っている場合があります。
 - 電圧・コンセントの形状
 - アースが適切でない場所に旅行する場合、絶縁トランス（600W）を使用することでも安全に使用できます。

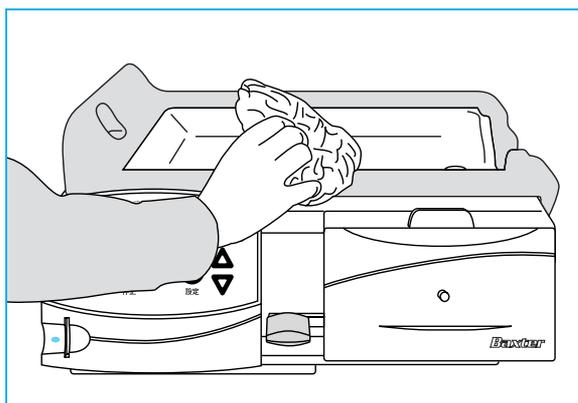
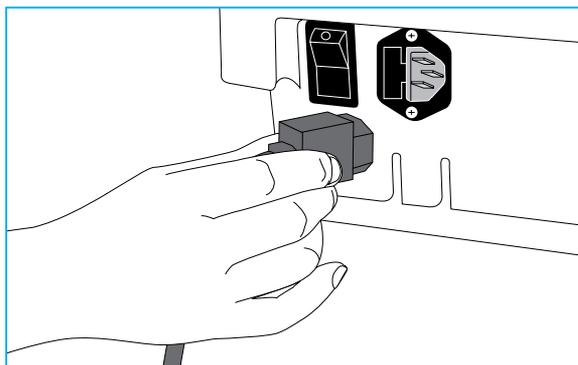


警告 旅行でゆめシステムを絶縁トランスなしで使用する場合、感電を防止するため電源コンセントの接地が確実であることをご確認ください。

17 ゆめシステムのお手入れ方法と交換について

17-1 本体のお手入れ方法

- 手順 1** 電源スイッチを切ります。
- 手順 2** 電源コードをコンセントから外します。
- 手順 3** 電源コードを本体から抜きます。
- 手順 4** 中性洗剤を薄く溶かした水を布に含ませ、よくしぼります。
- 手順 5** 本体に付着した透析液をきれいにふき取ります。
- 手順 6** 本体の表面をふき、そのあと乾いた布で軽くふいて仕上げます。



ぬれた手で、電源コードの差し込みプラグを抜き差ししないでください。
 ・感電する危険があります。
 必ず電源コードを本体から抜いて機器の清掃を行ってください。
 ・感電の原因になることがあります。



清掃を行うときには、化学薬品やエアロゾル、シンナー・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
 ・機器の表面やプラスチック部が変質したり、塗装がはげることがあります。



警告

本体を開けたりしないでください。内部の電気回路を触ると感電する恐れがあります。



警告

ゆめセットおよび、ゆめシステムのドア内部のカセットに接する面にはアルコールや過酸化水素水およびアルコールを含んだ消毒剤を使用しないでください。ゆめセットにそれら溶液を使用するとひび割れの原因となります。ひび割れができたカセットを使用すると透析液や透析液の流路を汚染する可能性があります。透析液や透析液の流路が汚染されると、腹膜炎や障害を負ったり死亡したりする恐れがあります。

本機器を使用しなくなった場合にはバクスターに本機器を返却してください。

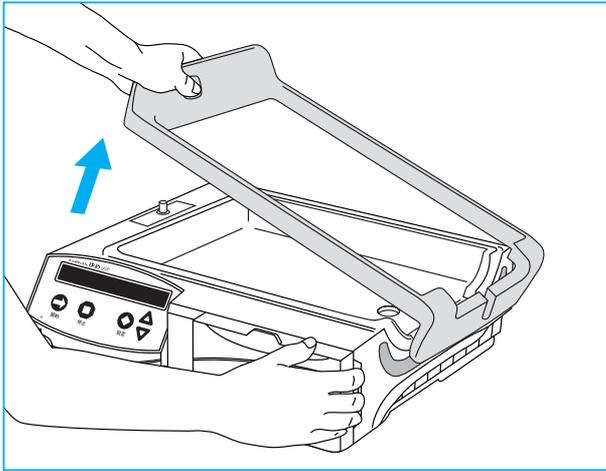
返却されるときには、以下の手順に従って清掃を行ってください。

- ① 電源コードを本体より抜きます。
- ② 約1Lの水に64mLの家庭用漂白剤を入れます。
- ③ ゴム手袋とエプロンをしてスポンジなどでふきます。
- ④ 水をしみ込ませないようにふき終わりましたら、乾いた布もしくはペーパータオルなどで余分な水分をふき取ります。

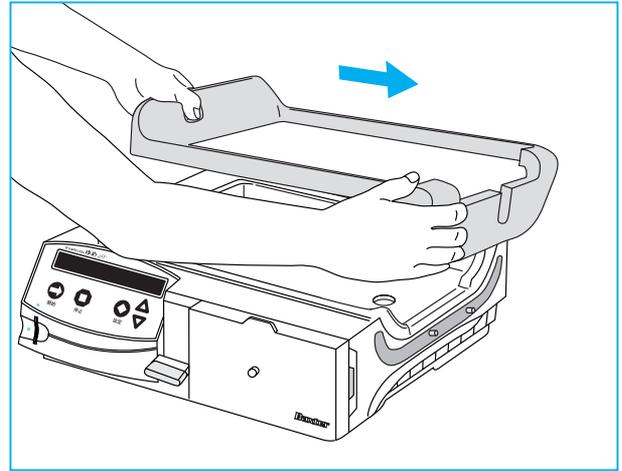
ご不明な点がありましたらバクスターCAPDコールセンターまでお問い合わせください。

17-2 トレイのお手入れ方法

(1) トレイの外し方

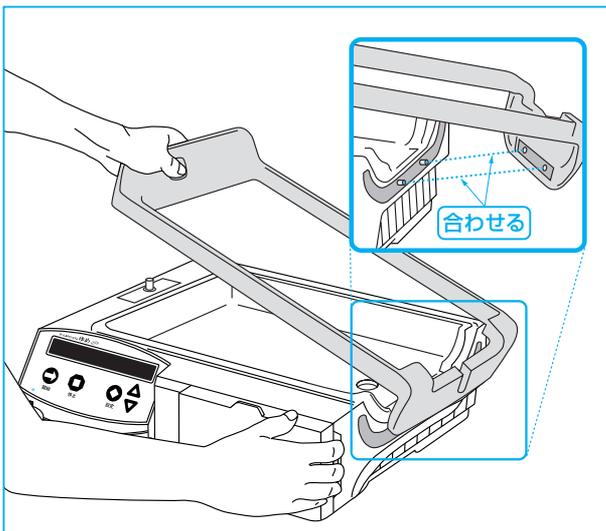


- 左側のくぼみをつかんで上に引っ張ります。

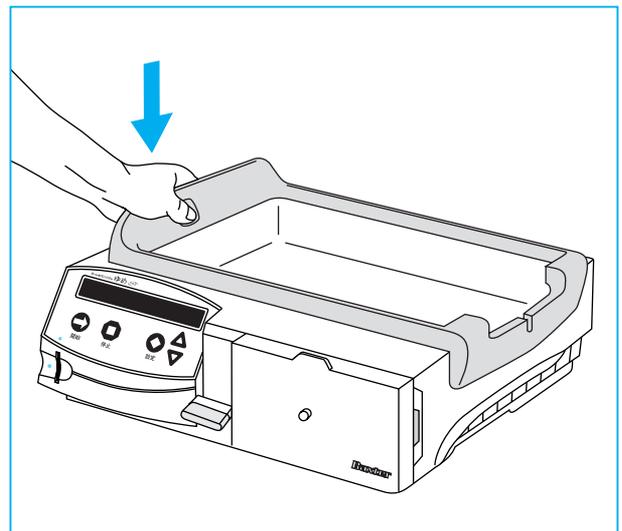


- 右にずらしてトレイを取り外します。

(2) トレイの取り付け方



- 本体のヒーターの右にある右取り付け金具にトレイ内面の2つの穴を合わせてはめまします。



- トレイの左側のくぼみ部分を上から押し付けて取り付けます。

(3) トレイのお手入れ方法

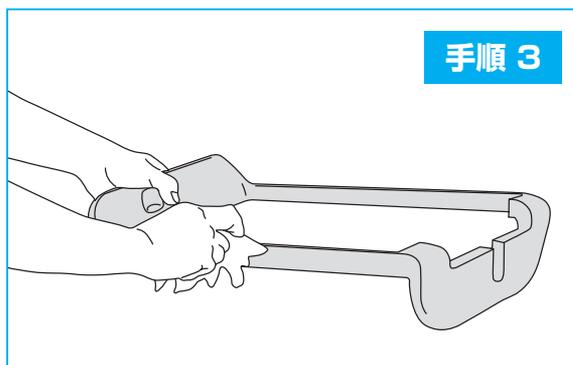
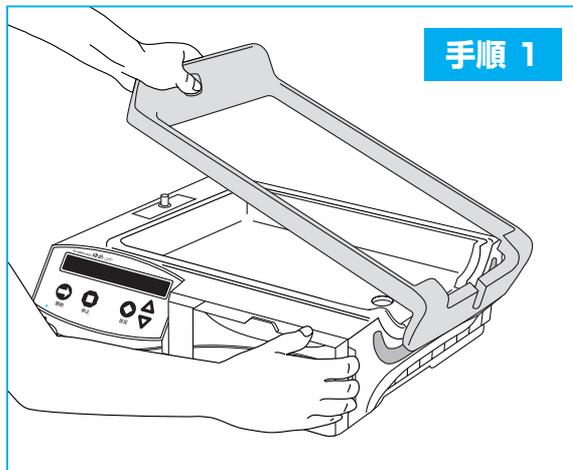
手順 1 トレイを前のページに従って取り外します。

手順 2 中性洗剤を薄く溶かした水を布に含ませ、よくしぼります。

手順 3 本体およびトレイに付着した汚れをきれいにふき取ります。

手順 4 乾いた布で軽くふいて仕上げます。

手順 5 トレイを前のページに従って取り付けます。

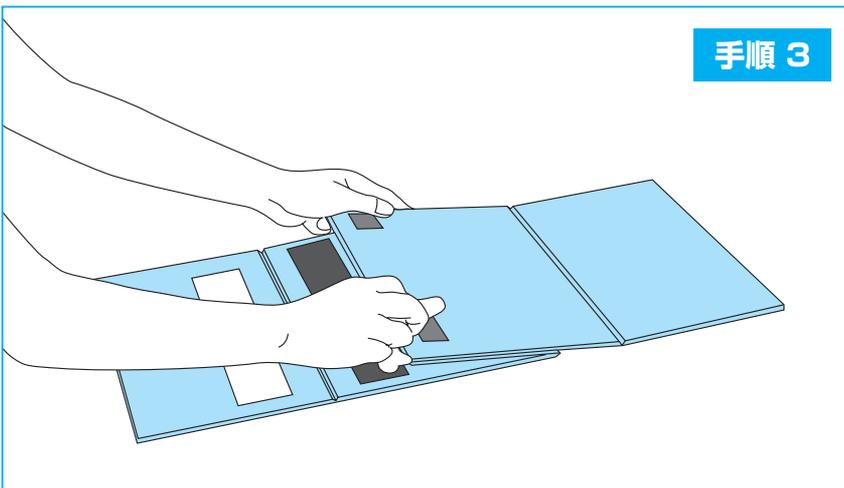


17-3 補液用スタンドのお手入れ方法

手順 1 ベルトを外し補液用スタンドを広げます。

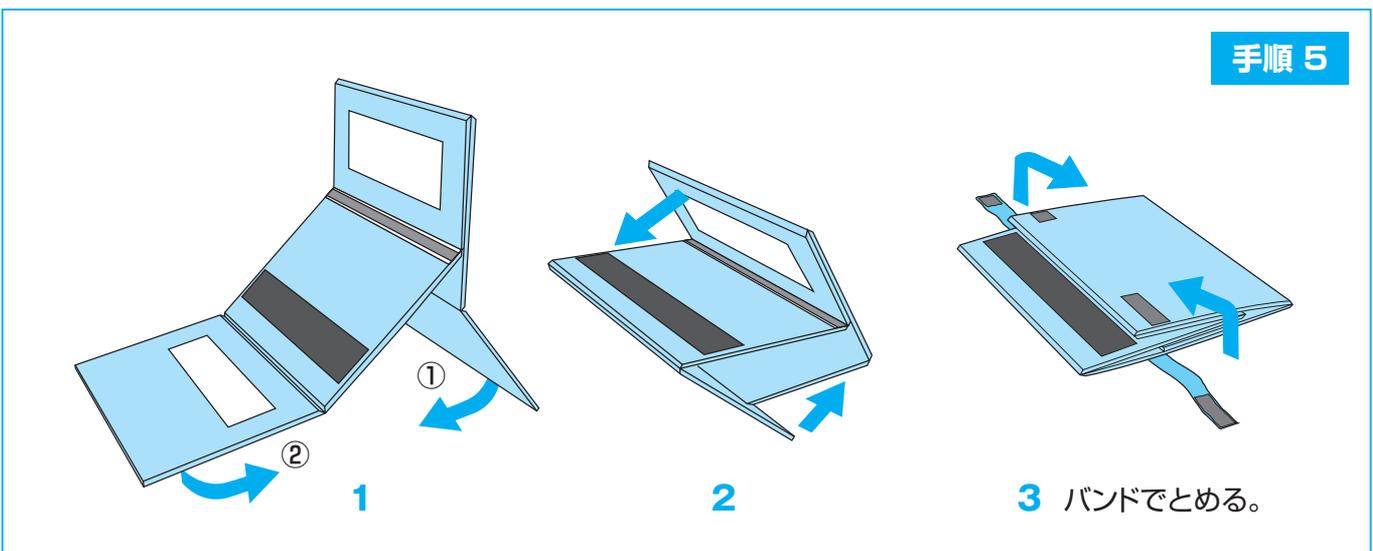
手順 2 中性洗剤を薄く溶かした水を布に含ませ、よくしぼります。

手順 3 付着した汚れをきれいにふき取ります。



手順 4 乾いた布で軽くふいて仕上げます。

手順 5 乾いたら下図のように組み立てます。



17-4 ゆめカバーのお手入れ方法

ゆめカバーは水洗いが可能ですが、ご家庭でのお洗濯時は下記の取り扱い表示に従ってください。

【ゆめカバーの取り扱い方】

分類	記号	意味と注意
ドライ クリーニング		パークレン・石油系溶剤でのドライクリーニングができますが、色落ちしやすいものとの同浴処理を避け、清浄な液で処理してください。 (クリーニング処理基準D6735)
水洗い		水洗いの際は軽く手洗いをお願いします。
塩素漂白		塩素系漂白剤による漂白はできません。
絞り方		手絞りの場合は短く、遠心脱水の場合は、短時間で行ってください。
干し方		形をととのえ日陰でつり干しにしてください。
アイロンの 掛け方		裏から又はアテ布をして低温(120℃以下)のスチームアイロンで浮かせ気味にかけてください。アテ布及びアイロン台は共布か、布目のないものをご使用ください。

17-5 ゆめシステムの交換が必要なとき

(1) ゆめ・ゆめプラスをお使いの方（共通事項）

修理や点検のためゆめシステムを交換する前に、かかりつけの病院に連絡を取り最新の治療内容（処方内容）を入手してください。その後にバクスターCAPDコールセンターにお電話ください。



警告

かかりつけの病院から指導を受けた治療内容をゆめシステムに入力して実施できることをご確認ください。

もしゆめシステムで治療を実行できないとしたら、かかりつけの病院で指導を受けたように、ツインバッグで治療を行ってください。

何回も治療をうまく終えられなかったり治療の一部を飛ばした場合、貯留時間や治療時間が短くなり、尿毒症の原因となることがあります。

交換したゆめシステムには初期設定値が入力されています。入力方法でご不明な点は、バクスターCAPDコールセンターまでお電話ください。

(2) ゆめプラスをお使いの方

ゆめプラスをお使いの方が機器を交換するときにはゆめカードを古い機器から抜いて置いてください。新しいゆめプラスが届いたら、ゆめカードを入れてから電源を入れてください。

表示に「カード内容を確認◇」が出たら、③-4の手順に従ってください。

この手順が終了するとゆめプラスには古いゆめプラスの処方設定（手で変更した分も含まれています）がコピーされます。



注意

ゆめカードの処方内容が受け付けられなかった場合、「処方の設定終了」のかわりに「カードの処方使用中止」または「処方は無効」の表示が出ます。ゆめプラスバージョン10.4には、過注液の発生を未然に防ぐような機能が新たに加えられ、今まで許可されていた処方の設定値でも受け付けられなくなることがあります。このような場合、かかりつけの病院に連絡を取り、手で処方設定を入力し治療結果がゆめカードに記載されるようにしてください。

18 点検の手順と注意

治療を開始するときに以下の確認を行います。

- ① 機器の清掃をするとともに、カセット取り付け部にごみやほこりが付いていないことを確認します。
- ② 電源コードがコンセントにしっかりと接続されていることを確認します。
- ③ ゆめ^{フラス}の場合、カードが本体にきちんと差し込まれていることを確認します。
- ④ 電源スイッチを入れます。ゆめ^{フラス}の場合、本体の状態表示ランプが緑色に点灯されることを確認します。
- ⑤ モード表示（「標準モード」か「少液量モード」か）の後に「設定確認▽後 治療開始→」が表示されることを確認します。

* ゆめ^{フラス}の場合、医師の処方により入力表示画面（例：体重：○○KG／血圧：○○○／○○○）が表示されることがあります。表示された場合には適切な値を入力します。
 ● 停止ボタンを押すと、モード表示（「標準モード」か「少液量モード」か）の後に「設定確認▽後 治療開始→」が表示されます。

- ⑥ ゆめの場合、● 開始ボタンを押すと、「全ての隔壁を開通した後 →」が表示されることを確認します。
- ⑦ ● 開始ボタンを押すと、「回路セット後 →」が表示されることを確認します。
- ⑧ 回路装着したあと● 開始ボタンを押すと、「回路確認中」が表示されることを確認します。
- ⑨ 自動確認が終了したあと、「バッグ接続後クランプ 開け→」と「クランプを開けてください」が交互に表示されることを確認します。
- ⑩ 透析液バッグを接続したあとクランプを開け、● 開始ボタンを押すと、ゆめの場合、「全ての隔壁は開通済?」が表示されることを確認します。
- ⑪ 全ての隔壁開通を確認したあと● 開始ボタンを押すと、「プライミング中」が表示されることを確認します。
- ⑫ プライミング終了後、「コネクターライン接続後→」と「コネクターライン確認」が交互に表示されることを確認します。



注意

透析液などをこぼしたときは、柔らかいタオルや布ですぐにふき取ってください。また、汚れがこびり付いてしまったときは、中性洗剤を薄く溶かした水を含ませたあと、よくしぼったスポンジやタオルなどで機器の外側をふいてください。



警告

日常の点検で異常が見つかり、各種取扱説明書に記載された操作を繰り返しても解決しないときには、すみやかにかかりつけの病院もしくは、バクスターCAPDコールセンターまでご連絡してください。

機器についてのお問い合わせは

バクスターCAPDコールセンター

（24時間通話無料）

0120-506440

コ ー ル し ょ う

点検記録表

※このページはコピーしてお使いください。

治療を開始する前に以下の確認を行います。

____年__月

実施日		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
1. 機器の清浄																	
2. 電源コードの接続																	
ゆめ の 場 合	3. ゆめカードの挿入																
	4. 状態表示ランプが緑色に点灯している																
	5. 処方に従って入力表示画面が表示される																
6. 「設定確認▽後 治療開始→」が表示される																	
ゆめ の 場 合	7. 「全ての隔壁を開通した後→」が表示される																
8. 「回路セット後→」が表示される																	
9. 「回路確認中」が表示される																	
10. 「バッグ接続後クランプ開け→」と「クランプを開けてください」が交互に表示される																	
ゆめ の 場 合	11. 「全ての隔壁は開通済？」が表示される																
12. 「プライミング中」が表示される																	
13. 「コネクターライン接続後→」と「コネクターライン確認」が交互に表示される																	

実施日		17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1. 機器の清浄																
2. 電源コードの接続																
ゆめ の 場 合	3. ゆめカードの挿入															
	4. 状態表示ランプが緑色に点灯している															
	5. 処方に従って入力表示画面が表示される															
6. 「設定確認▽後 治療開始→」が表示される																
ゆめ の 場 合	7. 「全ての隔壁を開通した後→」が表示される															
8. 「回路セット後→」が表示される																
9. 「回路確認中」が表示される																
10. 「バッグ接続後クランプ開け→」と「クランプを開けてください」が交互に表示される																
ゆめ の 場 合	11. 「全ての隔壁は開通済？」が表示される															
12. 「プライミング中」が表示される																
13. 「コネクターライン接続後→」と「コネクターライン確認」が交互に表示される																

※このページはコピーしてお使いください。

治療を開始する前に以下の確認を行います。

____年__月

実施日		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
1. 機器の清浄																	
2. 電源コードの接続																	
ゆめ の 場 合	3. ゆめカードの挿入																
	4. 状態表示ランプが緑色に点灯している																
	5. 処方に従って入力表示画面が表示される																
6. 「設定確認▽後 治療開始→」が表示される																	
ゆめ の 場 合	7. 「全ての隔壁を開通した後→」が表示される																
8. 「回路セット後→」が表示される																	
9. 「回路確認中」が表示される																	
10. 「バッグ接続後クランプ開け→」と「クランプを開けてください」が交互に表示される																	
ゆめ の 場 合	11. 「全ての隔壁は開通済？」が表示される																
12. 「プライミング中」が表示される																	
13. 「コネクターライン接続後→」と「コネクターライン確認」が交互に表示される																	

実施日		17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1. 機器の清浄																
2. 電源コードの接続																
ゆめ の 場 合	3. ゆめカードの挿入															
	4. 状態表示ランプが緑色に点灯している															
	5. 処方に従って入力表示画面が表示される															
6. 「設定確認▽後 治療開始→」が表示される																
ゆめ の 場 合	7. 「全ての隔壁を開通した後→」が表示される															
8. 「回路セット後→」が表示される																
9. 「回路確認中」が表示される																
10. 「バッグ接続後クランプ開け→」と「クランプを開けてください」が交互に表示される																
ゆめ の 場 合	11. 「全ての隔壁は開通済？」が表示される															
12. 「プライミング中」が表示される																
13. 「コネクターライン接続後→」と「コネクターライン確認」が交互に表示される																

用語解説 (あいうえお順)

【A～】

APD

(自動腹膜灌流)

APDは腹膜透析の一種で、機械を使用して実施する療法です。注液する液量や貯留時間等の処方設定値が機械にあらかじめ入力できます。患者様は機械に専用のチューブセットと透析液バッグをつないで使用します。就寝前に、接続チューブを専用のチューブセットにつなぎます。機械はその後、排液・注液・貯留を自動的に繰り返します。

CCPD

CCPDはAPDの一種です。CCPDは継続して行う療法で、夜間就寝中に機械が自動的に治療を行います。

IPD

IPDはAPDの一種で、透析治療が週あたり2～4回、1治療12～20時間行われる療法です。治療の終了で透析液をお腹から完全に排液し次の治療までお腹が空になります。

PD (腹膜透析)

この透析では、専用の透析液を使って腹膜を濾過膜として使って老廃物を濾しだします。

カテーテルと呼ばれる管を外科的にお腹に埋め込み、このカテーテルを經由して透析液を腹腔内に入れます。血液から老廃物と過剰な水分を取り出します。これらは、腹膜を經由して透析液に濾しだされます。その後、この透析液は腹腔内から排出（排液）されます。

腹膜透析は、機械を使ったり（APD）使わなかったり（CAPD）して実施できます。

PDリンク

病院で使用するカードの内容を調べることのできる専用のソフトウェアです。を使用している場合、処方の内容はこのソフトウェアから印刷ができます。

【あ～】

オクローダー

機械の電源が入っていない場合や、停電が発生しているときに、カセットのチューブを閉じる機構です。

汚染

バクテリア等の異物により、清潔な物質が不潔になることです。これにより患者様に害を及ぼす可能性があります。

【か～】

カード

小さい電子カードで、患者様の処方内容や治療結果を記録します。ゆめ^{ユメ}で使用します。一般名はスマートメディア。

用語解説

回路	チューブ類とカセットからなる、ゆめシステムに装着し治療中に透析液を注排液するものです。再利用できません。
カセット	長方形の透明なプラスチックの部品で、ゆめシステムのドアにセットします。
過注液	269ページを参照してください。
カテーテル	透析液を腹腔内に注入・排出するためにお腹に埋め込んでおく管です。
患者体重	患者さんの体重を「 処方の確認／変更 」から入力します。この値から注液量の最大値が制限されます。
空気混入	おなかへの空気の混入は肩の痛みや腹痛の原因となることがあり、また時に深刻な症状を引き起こします。
クランプ	透析液があふれないように使用するものです。
 クリへんフラッシュ	接続チューブとセット、バッグ類を接続するときに紫外線で殺菌しながら自動的に接続する機械です。専用の接続チューブが必要です。
現在の除水量	排液中に表示されるメッセージです。これは、治療開始からその時点までの除水量を示し、排液中更新され続けます。この数値がマイナスの場合には、この時点までの治療における注液量が排液量を上回っているということです。
交換（またはバッグ交換）	腹腔から貯留後の透析液を排液し、また新しい透析液を注液することです。
【さ～】	
サイクラー	腹膜透析液を一定のサイクルで交換するための医療機器。ゆめ・ゆめ <small>（JES）</small> のことを示します。
サイクル	腹膜透析は、注液・貯留・排液からなりこの一連の流れをサイクルといいます。APD療法では夜間、複数回のサイクルが行われます。
最終注液濃度変更	治療終了前の注液（最終注液）時に使用する透析液の濃度を変更するときに使用します。最終注液時に注液された透析液は、翌日の日中、医師が処方した時間まで腹腔内に入れておきます。

最終注液前排水	<p>調整メニューの「最終注液前排水」を設定することによって、除水量が目標値を達成していない場合の排水が促されます。</p> <p>「最終注液前排水：ハイ」に設定した場合、「目標除水量」(mL)と「アラームを鳴らしますか」(ハイ/イエ)の設定も必要となります。「最終注液前排水：ハイ」に設定すると、最終注液を行う前に、除水量が「目標除水量」分出ていない場合、ゆめシステムは動作を止めて「目標除水量が出ていません」アラームを表示するようになります。</p> <p>「アラーム鳴らしますか」を「イエ」に設定すると、アラーム表示だけで音は出ず、「ハイ」だとアラーム音が鳴ります。</p>
最終注液量	治療終了前に最後にお腹に注液される液の量です。
手動交換	ゆめシステム(サイクラー)を使用せずにツインバッグを使って透析液の交換を行うことです。
少液量モード (=小児モード)	このモードは注液量が60~1000mLの方にのみ使用できます。流速なしや流速不良のアラーム発生の基準値が低く、さらに、排水時間を入力して使用するモードです。除水不良の限度と、除水量の上限を設定できるようになっています。
少注液量セット	約2.1mの長さで、内径が小さいコネクタラインをもつ小児用の回路です。1回注液量の範囲が60~1000mLの方に使用します。
初回排水	毎回の治療の一番最初にシステムで行う排水のことです。
初回排水時間	初回排水に設定する時間で、少液量モードで設定ができます。
初回排水の限度	初回排水の時に出てきてほしい排水量を設定するものです。
初回排水量	プッシュバック発生までの間に排水できた初回排水量です。
初回排水量回復	初回排水中に排水できなかった液量で、1サイクルの注液中に強制排水を実行したときに出てきた値を示します。そして、この値は一日の総除水量に含まれます。
除水	除水とは、透析治療により体から除去された水分をさします。

用語解説

除水量	除水量は、透析によって患者様の体から出た余分な水分量です。全ての排液量から全ての注液量をひいた値です。除水量はプラスの場合もマイナスの場合もあります。本冊子250・264ページを参照ください。
清潔操作	腹膜透析治療の際の準備、接続、切り離し時に清潔に操作を行うことです。例えば、よく手を洗い乾かすのもそのひとつです。
接続チューブ	ゆめセット、もしくはツインバッグのコネクター部分とカテーテルをつなぐお腹のチューブ部分です。
総除水量	この用語には以下の2通りの意味があります。 ●タイダールの設定もしくは治療結果の確認をしている際にこのメッセージが表示された場合には、夜間の治療時に最低限達成したい除水量を示します。この値は医師が決定し、各サイクルの除水量を計算するのに用いられます。 ●治療の終了時にこのメッセージが表示された場合には、治療中、サイクルが終了するごとに更新される除水量を合計した、全サイクル通しての除水量の値を示します。
総注液量	システムの全治療で使用する総液量で、最終注液量と夜間の注液量を足したものです。ハイブリッドでは昼間の注液量を含みます。
【た〜】 体重	患者様の現在の体重をポンド（LB）もしくはキログラム（kg）で示したものです。治療の設定が適切に行われているか確認するために使用します。ゆめ ^{プラス} を使用し、ゆめカードで治療記録を取っている場合には、この値は医師と共有されます。
タイダール%	タイダール%は、タイダール療法の各タイダールサイクルで注液される液量を示し、一回注液量のパーセントで設定します。
タイダール排液量	タイダール排液量は、タイダールの各サイクルで排液する液量です。この値はタイダール量（%）×注液量にサイクルごとの除水量を加えたものです。
タイダール療法	タイダール療法はAPD療法のひとつで、腹腔内の透析液のうち一部のみを排液・注液する療法です。
注液量	各サイクルで腹腔内に注入される液の量です。患者様の身長と体重等から適切な注液量が決まります。

貯留と貯留時間	各サイクルで、透析液がお腹の中にとどまっている時間のことを示します。貯留時間あるいは貯留は治療のサイクルの一部です。これは医師がシステムに設定したり、カードから設定したりするものです。
治療時間	夜間の治療時間。初回排液が始まるとすぐに治療時間の計算が始まります。
ツインバッグ	落差を利用したCAPDによるバッグ交換を行うための、透析液バッグと排液用バッグがつながった透析液バッグのことを示します。 ツインバッグは停電時などゆめシステムが使用できない時に腹膜透析を継続するためにも使用されます。
ディスコネクトキット	紫外線照射による殺菌方法を使用する接続チューブの先端に取り付けるキャップです。
透析	特別な機器・用具を使用することにより、血液から人工的に老廃物と水分を取り除くことです。
透析液	血液から老廃物を取り除くのに使用する薬剤です。血液透析と腹膜透析では異なる種類の透析液を使用します。血液透析用、腹膜透析用とも、体内に存在している化合物を使用しています。
透析液バッグ	透析液が入っているバッグです。使用する前に、正しい種類で正しい容量であることを確認する必要があります。
【な～】 尿毒症	腎機能が低下し、尿素のような老廃物が血中に蓄積されている状態をさします。
【は～】 排液／ タイダール中間排液	腹腔内から透析液を排出すること。時刻と療法の種類により、排液する量が全てであったり部分的であったりします（タイダール療法）。
排液の限度（mL）	日中もしくは夜間の排液時に、最低限排液したい液量を示すために使用される計算値です。この値は「 排液の限度（％） 」×「 注液量 」で求められます。
排液の限度：％	注液量のうち最低限排出したい割合を定める値で、ナースメニューで変更可能な入力値です。初期設定は85％です。
排液バッグ	排液を入れるバッグです。

用語解説

排液量	プッシュバック発生までの間に排液できた量です。
排液量過剰	排液が大量に出た際に表示されるメッセージです。このメッセージが出た場合には、前回の治療中に過注液が発生していた可能性があります。「 10 困った時には (268ページ)」を参照してください。
バイパス	腹膜透析の治療中に、バイパスを選択することで次のサイクルへ移ることができます。バイパスを選択することができるのは停止ボタンを押したときのみです。バイパスを行ってもよいのはどのような状態のときか、かかりつけの病院に確認しておきましょう。一部の療法およびアラームの際にはバイパスができないことがあります。
ハイブリッドCCPD/ ハイブリッド タイダール	夜間行うCCPDあるいはタイダール療法に加えて、昼間にも交換を行う療法です。「ハイブリッド」療法の目的はAPD療法の自由度と使い勝手のよさを組み合わせ、24時間の治療を可能にすることです。
標準モード	排液終了の判定が排液時間は使わずに、排液された液量と排液の流速を使うモードです。
腹部、お腹	人体の中心部で、胃腸、肝臓といった臓器がある部分。
腹部膨満感	お腹がいっぱいになったような気分で、大量の食事、便秘、などが原因ですが、腹膜透析の患者様では過注液によっても起こります。
プッシュバック	ゆめシステムが排液の終わりに、液の流れが検出できなくなったとき、お腹が空になっているのか、それともチューブが閉塞しているのか判断するために若干の透析液を流し込みますが、その操作のことをプッシュバックと呼びます。この際使用される透析液はごく少量ですが、次の注液量に含まれます。
プライミング	ゆめシステムが回路の必要なチューブを透析液で満たす作業を言います。
【ま〜】 マスク	鼻と口を覆うマスクです。マスクをすることで雑菌がゆめセット、透析液バッグ、接続チューブの先端といった清潔が必要な部分につかないようにします。
ミニキャップキット	殺菌のためポビドンヨードが入ったキャップで、接続チューブの先端に取り付けるものです。

目標除水量

「**最終注液前排液**」の機能の設定値の一つです。「**目標除水量**」で入力した除水量が出てこなかった場合、最終サイクルの排液が終了した時点でゆめシステムが最終注液に進まずにとまります。「**⑦ 最終注液前排液の手順**」の章をご参照ください。

【5~】

ライン保持盤

青いプラスチックの部品で使い捨て回路のチューブ類を固定しています。ライン保持盤はドアのフックに取り付けて使用します。